

音明寺第1遺跡

Onmyoji 1 Site

東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10

2005

宮崎県埋蔵文化財センター



音明寺第1遺跡 遠景（南から尾鈴山系を望む）



音明寺第1遺跡 俯瞰（北から）

・手前の A 区から南に向かって道路状遺構が並びている。

卷頭写真



音明寺第1遺跡 調査区全景 (K-Ah 除去後)

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した音明寺第1遺跡は、平成12・13年度に発掘調査を行い、後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺構・遺物、中世のころと思われる道路状遺構を確認することができました。

特に後期旧石器時代の資料では角錐状石器やナイフ形石器を中心に、縄文時代早期の資料では100点を超える石鏃をはじめ多数の石器が出土しました。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料となるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びにご指導・ご助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 宮園淳一

例　　言

- 1 本書は、平成12～13年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団から委託を受けた宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測・写真撮影等の記録は、戸高幸作・渡部誠一郎・外山宏幸・高橋浩子・工藤基志・安楽哲史・金丸史絵が行い、遺物写真は今塙屋毅行が撮影した。
- 4 測量・空中写真・理化学的分析は、次の機関に委託した。
 - 地形測量・グリッド杭設定：㈲黒木測量設計コンサルタント、㈲タイユー測量設計
 - 空中写真：㈱シンワ
 - テフラ分析・植物珪酸体・年代測定：㈱古環境研究所
- 5 石器実測及びトレースは、約7割を㈱九州文化財研究所に委託し、他は埋蔵文化財センターで整理作業員の補助を得て、渡部が行った。
- 6 土器実測及びトレースは、埋蔵文化財センターで整理作業員の補助を得て、戸高・渡部が行った。
- 7 土層断面及び土器の色調については、農林省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帳」に掲った。
- 8 石材同定は、本センターの松田清孝・赤崎広志・藤木聰の協力を得て、渡部が行った。
- 9 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図をもとに、また、遺跡周辺地形図等は、日本道路公団宮崎工事事務所提供的1000分の1図をもとに作成した。
- 10 整理作業は、埋蔵文化財センターで行った。図面の作成、遺物実測、トレースは整理作業員の協力を得て、渡部・戸高が行った。
- 11 本書に使用した記号は以下の通りである
S C 土坑 S I 碑群・集石遺構 S G 道路状遺構
- 12 本書に使用した方位は、主として方眼北（平面直角座標第II系）を使用している。その他「M.N」と標記されているものは磁北（磁針方位は西偏約5.5°）を使用している。レベルは、海拔絶対高である。
- 13 本書の執筆並びに編集は、渡部誠一郎が担当し、製本に向けての最終編集並びに推敲は谷口武範、永田和久、金丸琴路が担当した。
- 14 出土遺物、その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

凡　　例

調査の記録の項目立てについて

本報告書では、調査の記録をA～C区とE・F区とに分けて記載した。理由は次のとおりである。

- ① 両区間には尾根があり、遺構・遺物ともに連続性に乏しい。遺物の接合も試みたが、1点の接合も見いだせなかった。
- ② 発掘調査及びその後の整理作業は、担当者が別であった。(報告書作成の途中から同じ調査員が担当するようになった。)

土器実測図

- 1 土器実測図の縮尺率は、1/3を基本にしている。これは実物大で作成した原図を33.3%縮小したものである。
- 2 土器実測図の径の推定は、原則として1/6以上残存している場合に行つたが、歪みの大きい個体もあり状況に応じて判断している。
- 3 径の復元に至らなかつた土器個体については、基本的に左から外面、内面の順に拓影によって文様・調整を表現している。
- 4 土器の傾きの確定しないもの、疑問が残る場合については口縁部線を破線で表現した。ただし、その他の個体でも、特に小破片、胴部のみの破片に関しては、必ずしも確定した傾きでないことを明記しておきたい。

土器観察表

- 1 胎土については、混入物の中で特徴的な物質の色調、大きさを記している。
- 2 調整・文様の中で、「丁寧なナデ」は器面に擦過痕の残らないような場合である。

石器実測図

- 1 石器実測図の縮尺率は、基本的に2/3にしているが、敲石類・礫器や台石などは1/3または1/4である。
- 2 欠損部をもつ石器は、表面に復元線を入れた。
- 3 剥離のうち、明らかに新しい剥離(欠損)については、稜線のみ図化し、リングを抜いた。
- 4 磨石の磨面の範囲は、破線で表した。
- 5 石器の節理面は、一点鎖線で表した。なお、節理面にリングが観察できる場合は、リングも入れてある。

石器観察表

- 1 角錐状石器及び石鏃については、それぞれの分析視点に応じた項目を設定した。それ以外は、左から、図番号、注記番号、出土位置を示す区・グリッド・層、器種名、石材名、石材分類、同一母岩、接合、計測(長・幅・厚・重量)、出土位置(国土座標)、備考の順になっている。
- 2 0.1g以下または1cm以下のチップとし、それ以上を剥片とした。
- 3 石材名は、あくまでも肉眼観察によるもので、自然科学分析等は行っていない。

4 石材分類は、頁岩類と黒曜石・チャート類に分け、下表内の略号で示した。

頁岩類（頁岩・ホルンフェルス・流紋岩・珪質頁岩など）は見た目や質感で、黒曜石は産地別、チャートは色で細分した。ただし、産地についても、あくまでも目安（その産地の黒曜石に特徴が似ているという程度）である。なお、接合していない場合、接合資料と酷似している、出土位置が近いなどの条件を満たしていれば、積極的に同一母岩とした。また、黒曜石の産地別分類の標準とした石器は、計測表（図化資料以外）備考欄に標準（黒 a）などと記した。

石材分類（頁岩類・・・頁岩、ホルンフェルス、流紋岩、珪質頁岩、尾鈴山酸性凝灰岩類）

略号	特徴	石材	同一母岩番号					
			A - C 区			E - F 区		
			旧石器 I	旧石器 II	縄文早期	旧石器 I	旧石器 II	縄文早期
a	ほとんど風化していない	頁岩	5、9、(10)	13、20、22				
		ホルンフェルス	1、3、16、19	41				
		流紋岩						
b	斑模様がある	頁岩	[31] 32、43	21、[23] 24、[31] [32]				[23]
		ホルンフェルス	2、4	14、(35)				
		流紋岩						
c	流れたような模様がある	頁岩						
		ホルンフェルス	25	29				
		流紋岩	28	27				
d	風化している（黄褐色）	頁岩						
		ホルンフェルス	(11)	17				
		流紋岩	(7) 42	6				
e	風化している（オリーブ色や灰色）	頁岩						
		ホルンフェルス	34	18、39				
		流紋岩						
f	風化している（鷲模様がある）	頁岩						
		ホルンフェルス		26、(37)				
		流紋岩						

* 8 及び 12 は欠番である。

* [番号] は 2 つ以上の文化層に分かれる。（番号）は風化していない。

* A - C 区と E - F 区間での接合例はない。

* 30・31・32 は、文化層が違うが酷似しているため、同一母岩のままにしてある。

石材分類（黒曜石・チャートなど）

石材	略号	特徴	産地		
黒曜石	黒 a	黒っぽくなめらかなガラス質。薄片では、やや光を透過し、微小黒色粒がある。波状構造模様が見られることがある。	護岳	佐賀	北西九州
	黒 b	暗灰色から濃褐色の、なめらかなガラス質。透過光でチョコレート色に見える。	桑ノ木津留、上青木	鹿児島	南九州 A
	黒 c	青暗色から暗灰色。なめらかなガラス質。	針尾、淀姫	長崎	北西九州
	黒 d	灰白色から暗灰色。粒々した感じで透明ではない。	姫島	大分	北東九州
	黒 e	真っ黒で透明感がない。多孔質で不純物（砂のよう）が多数入っている。	日東、五女木	鹿児島	南九州 A
	黒 f	真っ黒でなめらかなガラス質。薄片でも光を透過しない。風化が進むと全体が灰色・暗灰色で凝灰岩的模様を示す。	上牛鼻	鹿児島	南九州 B
	黒 g	真っ黒で透明感がない。小片は、サイコロ状を呈していることが多い。	えびの周辺	宮崎	南九州 A
	黒 h	-	その他（不明）	-	-
チャート		乳白色で、他の色はほとんど入っていない。	不明	-	-
	チャ	濃緑色。	不明	-	-
		淡緑色。	不明	-	-
		灰青色から淡青色。	不明	-	-
	チャ黒	暗灰色から黒色。	不明	-	-
	チャ赤	白っぽい赤褐色をしている。	えびの周辺？	宮崎	南九州 A
	チャ白	白色。	えびの周辺？	宮崎	南九州 A
ハリ質安山岩	安	灰綠色で不透明。ガラス質安山岩。	姫島	大分	北東九州

* 黒 a と黒 b は、チップでは判別不能なので、黒 a・b としてまとめる。ただし、ほとんどが黒 b と思われる。

* 安山岩（姫島）と黒曜石 d（姫島）の区別は、チップでは困難。そこで、チップでは「姫」でひとまとめにした。

5 石器へは、「オン1（区）（層）- 注記番号」(例: オン1 C V-1420)を注記している。表中の注記番号は、最後の番号のみで、この番号は同じものが複数存在する。石器の特定をする際には、区および層と注記番号をみる必要がある。

6 同一母岩および接合資料の番号は、整理作業時に付記したものをそのまま使っている。そのため、順序がばらばらになっていたり、欠番が生じている。

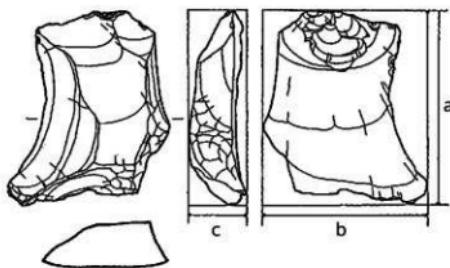
7 石器観察表の計測は、下記の方法による。法量の単位はcm(最大長・最大幅・最大厚)とg(重量)である。

石器計測方法

a = 長さ

b = 幅

c = 厚さ



本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯 1

第2節 調査の組織 1

第Ⅱ章 遺跡の環境 2

第Ⅲ章 調査の方法と経過

第1節 確認調査の概要 4

第2節 発掘調査の方法 6

第3節 整理作業及び報告書作成 7

第Ⅳ章 調査の記録

第1節 調査の概要 8

第2節 基本層序 10

第3節 A～C 区

1. 後期旧石器時代第Ⅰ文化層

(1) 概要 16

(2) 遺構・遺物とその分布

① 碓群・土坑・ピット状遺構 18

② 出土遺物 23

(3) 小結 26

2. 後期旧石器時代第Ⅱ文化層

(1) 概要 58

(2) 遺構・遺物とその分布

① 散疎・土坑・ピット状遺構

・陥し穴 58

② 出土遺物 66

(3) 小結 70

3. 繩文時代早期

(1) 概要 114

(2) 遺構・遺物とその分布

① 集石遺構・散疎 114

② 炉穴 114

③ 土坑 114

④ 出土遺物(土器) 126

⑤ 出土遺物(石器) 134

(3) 小結 139

4. 中世以降の遺構

(1) 道路状遺構 166

(2) 畝状遺構 169

(3) 小結 169

第4節 E・F 区

1. 後期旧石器時代第Ⅰ文化層

(1) 概要 174

(2) 遺構・遺物とその分布

① 散疎 174

② 出土遺物 174

(3) 小結 174

2. 後期旧石器時代第Ⅱ文化層

(1) 概要 179

(2) 遺構・遺物とその分布

① 散疎 179

② 土坑 179

③ 出土遺物 180

(3) 小結 181

3. 繩文時代早期

(1) 概要 199

(2) 遺物とその分布

○ 出土遺物 199

(3) 小結 200

4. その他の遺構と遺物

(1) 畝状遺構 207

第5節 弥生時代・古墳時代 207

1. 弥生土器・土師器

第Ⅴ章 自然科学分析調査の結果 209

第VI章 まとめ 216

表 目 次

第1表 基本層序	11	第18表 縄文時代早期 石器組成表	134
第2表 旧石器時代第Ⅰ文化層	16	第19-1表 縄文時代早期 石鏽觀察表(1)	137
礫群觀察一覧表		第19-2表 縄文時代早期 石鏽觀察表(2)	138
第3表 旧石器時代第Ⅰ文化層	23	第20表 縄文時代早期	148
石器組成表		同一母岩36・スクレイバー・	
第4表 旧石器時代第Ⅰ文化層	23	二次加工剥片計測表	
角錐状石器觀察表		第21表 縄文時代早期	156
第5表 旧石器時代第Ⅰ文化層	35	石核・同一母岩45・敲石・台石・	
ナイフ形・尖頭器・台形・石錐計測表		磨石・斧状石器・剥片計測表	
第6表 旧石器時代第Ⅰ文化層	39	第22表 旧石器時代第Ⅰ文化層(E・F区)	174
スクレイバー・二次加工剥片・敲石・		石器組成表	
亞石器計測表		第23表 旧石器時代第Ⅰ文化層(E・F区)	174
第7表 旧石器時代第Ⅰ文化層	40	石器計測表	
接合資料・剥片計測表		第24表 旧石器時代第Ⅱ文化層(E・F区)	179
第8表 旧石器時代第Ⅰ文化層	46	石器組成表	
石核・剥片計測表		第25表 旧石器時代第Ⅱ文化層(E・F区)	179
第9表 旧石器時代第Ⅱ文化層	66	角錐状石器觀察表	
石器組成表		第26表 旧石器時代第Ⅱ文化層(E・F区)	186
第10表 旧石器時代第Ⅱ文化層	66	石器計測表	
角錐状石器觀察表		第27表 縄文時代早期(E・F区)	199
第11表 旧石器時代第Ⅱ文化層	79	石器組成表	
ナイフ形・尖頭器・石錐計測表		第28表 縄文時代早期(E・F区)	199
第12表 旧石器時代第Ⅱ文化層	99	石鏽觀察表	
スクレイバー・二次加工剥片・		第29表 縄文時代早期(E・F区)	199
接合資料・石核計測表		石器計測表	
第13表 旧石器時代第Ⅱ文化層	100	第30表 縄文時代早期(E・F区)	203
細石核・細石刃・接合資料・敲石・		土器觀察表	
礫器計測表		第31表 放射性炭素年代測定の結果	209
第14表 旧石器時代第Ⅱ文化層	113	第32表 歯状遺構埋土の植物珪酸体分析の	
接合資料・剥片計測表		結果	210
第15表 縄文時代早期	115	第33表 B区陥し穴状遺構1における	
集石遺構一覧表		植物珪酸体分析結果(1)	212
第16表 縄文時代早期 土器出土量	126	第34表 C区南北ベルトにおける	
第17表 縄文時代早期 土器觀察表	127	植物珪酸体分析結果(1)	214

(基本土層記録位置の e - f)	
第35表 旧石器時代第 I 文化層 217	第53表 縄文時代早期 235 國化資料以外の石器計測表(8)
國化資料以外の石器計測表(1)	第54表 縄文時代早期 236 國化資料以外の石器計測表(9)
第36表 旧石器時代第 I 文化層 218	第55表 縄文時代早期 237 國化資料以外の石器計測表(10)
國化資料以外の石器計測表(2)	第56表 縄文時代早期 238 國化資料以外の石器計測表(11)
第37表 旧石器時代第 I 文化層 219	第57表 縄文時代早期 239 國化資料以外の石器計測表(12)
國化資料以外の石器計測表(3)	第58表 縄文時代早期 240 國化資料以外の石器計測表(13)
第38表 旧石器時代第 I 文化層 220	第59表 縄文時代早期 241 國化資料以外の石器計測表(14)
國化資料以外の石器計測表(4)	第60表 縄文時代早期 242 國化資料以外の石器計測表(15)
第39表 旧石器時代第 I 文化層 221	第61表 縄文時代早期 243 國化資料以外の石器計測表(16)
國化資料以外の石器計測表(5)	第62表 縄文時代早期 244 國化資料以外の石器計測表(17)
第40表 旧石器時代第 II 文化層 222	第63表 縄文時代早期 245 國化資料以外の石器計測表(18)
國化資料以外の石器計測表(1)	第64表 縄文時代早期 246 國化資料以外の石器計測表(19)
第41表 旧石器時代第 II 文化層 223	第65表 縄文時代早期 247 國化資料以外の石器計測表(20)
國化資料以外の石器計測表(2)	第66表 旧石器時代第 I 文化層 (E・F 区) 248 國化資料以外の石器計測表
第42表 旧石器時代第 II 文化層 224	第67表 旧石器時代第 II 文化層 (E・F 区) 248 國化資料以外の石器計測表(1)
國化資料以外の石器計測表(3)	第68表 旧石器時代第 II 文化層 (E・F 区) 249 國化資料以外の石器計測表(2)
第43表 旧石器時代第 II 文化層 225	第69表 旧石器時代第 II 文化層 (E・F 区) 250 國化資料以外の石器計測表(3)
國化資料以外の石器計測表(4)	第70表 縄文時代早期 (E・F 区) 250 國化資料以外の石器計測表
第44表 旧石器時代第 II 文化層 226	
國化資料以外の石器計測表(5)	
第45表 旧石器時代第 II 文化層 227	
國化資料以外の石器計測表(6)	
第46表 縄文時代早期 228	
國化資料以外の石器計測表(1)	
第47表 縄文時代早期 229	
國化資料以外の石器計測表(2)	
第48表 縄文時代早期 230	
國化資料以外の石器計測表(3)	
第49表 縄文時代早期 231	
國化資料以外の石器計測表(4)	
第50表 縄文時代早期 232	
國化資料以外の石器計測表(5)	
第51表 縄文時代早期 233	
國化資料以外の石器計測表(6)	
第52表 縄文時代早期 234	
國化資料以外の石器計測表(7)	

挿図目次

第1図 音明寺第1遺跡位置と周辺遺跡図	3
第2図 確認調査トレーンチ配置図	4
第3図 周辺地形図及び調査区	5
第4図 確認調査出土遺物実測図	6
第5図 グリッド配置図と土層記録位置	12
第6図 A区北西壁土層断面図	13
第7図 A～C間の壁土層断面図	13
第8図 C区南北ベルト①土層断面図	14
第9図 C区南北ベルト②土層断面図	14
第10図 E区南西壁土層断面図	15
第11図 F区南西壁土層断面図	15
第12図 旧石器時代第I文化層 遺構・石器分布図	17
第13図 旧石器時代第I文化層 礫群・散礫検出状況図(1)	19
第14図 旧石器時代第I文化層 礫群・散礫検出状況図(2)	20
第15図 旧石器時代第I文化層 遺構実測図(1)：礫群	21
第16図 旧石器時代第I文化層 遺構実測図(2)：礫群・ピット状・土坑	22
第17図 旧石器時代第I文化層 角錐状・ナイフ形・尖頭器・台形・ 石錐分布図	27
第18図 旧石器時代第I文化層 スクレイバー・二次加工剥片・ 剥片分布図	28
第19図 旧石器時代第I文化層 石核・敲石・亜石器分布図	29
第20図 旧石器時代第I文化層 遺物分布図	30
第21図 旧石器時代第I文化層 C区接合関係図	31
第22図 旧石器時代第I文化層 石材別分布図(1)	32
第23図 旧石器時代第I文化層 石材別分布図(2)	33
第24図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(1)：角錐状・ナイフ形	34
第25図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(2)	35
第26図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(3)：スクレイバー	36
第27図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(4)：スクレイバー	37
第28図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(5)	38
第29図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(6)：敲石・亜石器	39
第30図 旧石器時代第I文化層 同一母岩3分布図	41
第31図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(7)：同一母岩3 / 接合資料	41
第32図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(8)：石核	43
第33図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(9)：石核	44
第34図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(10)：石核	45
第35図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(11)：石核	46
第36図 旧石器時代第I文化層 同一母岩2分布図	47
第37図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(12)：同一母岩2 / 接合資料	47
第38図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(13)：接合資料	49
第39図 旧石器時代第I文化層 石器実測図(14)：接合資料	50

第 40 図	旧石器時代第 I 文化層 51 同一母岩1分布図	第 59 図	旧石器時代第 II 文化層 73 遺物分布図：剥片
第 41 図	旧石器時代第 I 文化層 51 石器実測図⑮：同一母岩1	第 60 図	旧石器時代第 II 文化層 74 同一母岩20分布図
第 42 図	旧石器時代第 I 文化層 52 石器実測図⑯：剥片	第 61 図	旧石器時代第 II 文化層 74 同一母岩22分布図
第 43 図	旧石器時代第 I 文化層 53 石器実測図⑰：剥片	第 62 図	旧石器時代第 II 文化層 75 國化資料以外の接合関係図
第 44 図	旧石器時代第 I 文化層 54 同一母岩25分布図	第 63 図	旧石器時代第 II 文化層 76 石材別分布図(1)
第 45 図	旧石器時代第 I 文化層 54 石器実測図⑲：同一母岩25	第 64 図	旧石器時代第 II 文化層 77 石材別分布図(2)
第 46 図	旧石器時代第 I 文化層 55 同一母岩42分布図	第 65 図	旧石器時代第 II 文化層 78 石器実測図(1)：角錐状・ナイフ形
第 47 図	旧石器時代第 I 文化層 55 石器実測図⑲：同一母岩42	第 66 図	旧石器時代第 II 文化層 79 石器実測図(2)：ナイフ形・尖頭器・石錐
第 48 図	旧石器時代第 I 文化層 56 石器実測図⑳：剥片	第 67 図	旧石器時代第 II 文化層 80 石器実測図(3)：スクレイパー
第 49 図	旧石器時代第 I 文化層 57 石器実測図㉑：剥片	第 68 図	旧石器時代第 II 文化層 81 石器実測図(4)：スクレイパー・ 二次加工剥片
第 50 図	旧石器時代第 II 文化層 60 遺構・石器分布図	第 69 図	旧石器時代第 II 文化層 82 石器実測図(5)：二次加工剥片
第 51 図	旧石器時代第 II 文化層(1) 61 散碟①・②・③	第 70 図	旧石器時代第 II 文化層 83 同一母岩21 / 接合資料分布図
第 52 図	旧石器時代第 II 文化層(2) 62 散碟④・⑤	第 71 図	旧石器時代第 II 文化層 83 石器実測図(6)：同一母岩21 / 接合資料
第 53 図	旧石器時代第 II 文化層(3) 63 散碟⑥	第 72 図	旧石器時代第 II 文化層 85 同一母岩18 / 接合資料分布図
第 54 図	旧石器時代第 II 文化層 64 遺構（ピット状遺構）検出状況図	第 73 図	旧石器時代第 II 文化層 85 石器実測図(7)：同一母岩18 / 接合資料
第 55 図	旧石器時代第 II 文化層 64 遺構実測図(1)：土坑	第 74 図	旧石器時代第 II 文化層 87 接合資料分布図
第 56 図	旧石器時代第 II 文化層 65 遺構実測図(2)：陥し穴	第 75 図	旧石器時代第 II 文化層 87 石器実測図(8)：接合資料
第 57 図	旧石器時代第 II 文化層 71 石器分布図	第 76 図	旧石器時代第 II 文化層 89 同一母岩17分布図
第 58 図	旧石器時代第 II 文化層 72 石器分布図	第 77 図	旧石器時代第 II 文化層 89 石器実測図(9)：同一母岩17

第78図	旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩39分布図	91
第79図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(1)：同一母岩39	91
第80図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(11)：石核	93
第81図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(12)：石核	94
第82図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(13)：石核	95
第83図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(14)：石核	96
第84図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(15)：石核	97
第85図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(16)：石核	98
第86図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(17)：細石核・細石刃	101
第87図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(18)：接合資料 剥片	102
第88図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(19)：接合資料 剥片	103
第89図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(20)：敲石・磨石・礫器	104
第90図	旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩13分布図	105
第91図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(21)：同一母岩13	105
第92図	旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩14分布図	106
第93図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(22)：同一母岩14	106
第94図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(23)：剥片	107
第95図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(24)：剥片	108
第96図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(25)：剥片	109
第97図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(26)：剥片	110
第98図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(27)：剥片	111
第99図	旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(28)：剥片	112
第100図	縄文時代早期 遺構・土器分布図	116
第101図	縄文時代早期 遺構・土器分布図	117
第102図	縄文時代早期 集石遺構・散碟検出状況図(1)	118
第103図	縄文時代早期 集石遺構・散碟検出状況図(2)	119
第104図	縄文時代早期 集石遺構・散碟検出状況図(3)	120
第105図	縄文時代早期 集石遺構・散碟検出状況図(4)	121
第106図	縄文時代早期 集石遺構・散碟検出状況図(5)	122
第107図	縄文時代早期 遺構実測図(1)：集石遺構	123
第108図	縄文時代早期 遺構実測図(2)：集石遺構	124
第109図	縄文時代早期 遺構実測図(3)：土坑・炉穴	125
第110図	縄文時代早期 A区 土器(手向山)分布図	128
第111図	縄文時代早期 A区 土器(押型文・貝殻条痕文)分布図	128
第112図	縄文時代早期 C区 土器(貝殻条痕文・燃糸文)分布図	128
第113図	縄文時代早期 土器(無文土器の図化資料)分布図	129
第114図	縄文時代早期 土器(無文土器の図化資料以外)分布図	130
第115図	縄文時代早期土器実測図(1).....	131
第116図	縄文時代早期土器実測図(2).....	132
第117図	縄文時代早期土器実測図(3).....	133

第118図	石錐形態模式図	135	第137図	縄文時代早期	161
第119図	石錐の石材・特性分析図	136		同一母岩45分布図	
第120図	縄文時代早期	141	第138図	縄文時代早期	161
	石錐分布図(石材別)			石器実測図(9)：同一母岩45	
第121図	縄文時代早期	142	第139図	縄文時代早期	163
	スクレイバー・二次加工剥片・石核・ 台石・敲石・磨石・斧状石器分布図			石器実測図(10)：敲石・磨石・台石・ 斧状石器	
第122図	縄文時代早期	143	第140図	縄文時代早期	164
	遺物分布図			石器実測図(11)：剥片	
第123図	縄文時代早期	144	第141図	縄文時代早期	165
	図化資料以外の接合関係図			石器実測図(12)：剥片	
第124図	縄文時代早期	145	第142図	道路状遺構実測図	166
	黒曜石(剥片・チップ)の産地別分布図		第143図	A区道路状遺構実測図：SG1	168
第125図	縄文時代早期	146	第144図	A区道路状遺構実測図	170
	チャート・姫島系安山岩・サヌカイト・ 流紋岩・頁岩(剥片・チップ)分布図			SG2、SG6、SG8	
第126図	縄文時代早期	147	第145図	A区道路状遺構実測図	171
	石材別分布図(1)			SG3、SG4、SG9	
第127図	縄文時代早期	148	第146図	表土除去後の遺構分布図	172
	石材別分布図(2)			(A～C区)	
第128図	縄文時代早期	149	第147図	搅乱層出土の石器実測図：剥片	173
	石器実測図(1)：石錐		第148図	K-Ah 残存状況図	173
第129図	縄文時代早期	150	第149図	旧石器時代第I文化層(E・F区)遺構分布図：散礫	175
	石器実測図(2)：石錐		第150図	旧石器時代第I文化層(E・F区)石器分布図	176
第130図	縄文時代早期	151	第151図	旧石器時代第I文化層(E・F区)石材別分布図	177
	石器実測図(3)：石錐		第152図	旧石器時代第I文化層(E・F区)石器実測図：尖頭器・石核・剥片	178
第131図	縄文時代早期	152	第153図	旧石器時代第II文化層(E・F区)遺構(土坑)・石器分布図	182
	同一母岩36分布図		第154図	旧石器時代第II文化層(E・F区)散礫	183
第132図	縄文時代早期	153	第155図	旧石器時代第II文化層(E・F区)遺構実測図：土坑	184
	石器実測図(4)：同一母岩36		第156図	旧石器時代第II文化層(E・F区)石材別分布図	185
第133図	縄文時代早期	155			
	石器実測図(5)：スクレイバー・ 二次加工剥片				
第134図	縄文時代早期	157			
	石器実測図(6)：石核				
第135図	縄文時代早期	159			
	石器実測図(7)：石核				
第136図	縄文時代早期	160			
	石器実測図(8)：石核・接合資料				

第157図 旧石器時代第Ⅱ文化層 E・F 区) ... 187	放射性炭素年代測定
石器実測図(1): 角錐状・ナイフ形・ スクレイパー	炭化物採取地点 209
第158図 旧石器時代第Ⅱ文化層 E・F 区) ... 188	第177図 植物珪酸体分析
石器実測図(2): 二次加工剥片	試料の採取地点 210
第159図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 189	第178図 B 区西壁
石器実測図(3): 二次加工剥片・石核	植物珪酸体分析結果 211
第160図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) ... 191	第179図 E 区畝状遺構
石器実測図(4): 石核・剥片	植物珪酸体分析結果 211
第161図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 192	第180図 B 区陥し穴状遺構1
石器実測図(5): 石核・細石核・細石刃	植物珪酸体分析結果(2) 213
第162図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) ... 193	第181図 C 区南北ベルト 215
石器実測図(6): 敲石・磨石・台石	植物珪酸体分析結果(2) (基本土層記録位置の e ~ f)
第163図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 194	
石器実測図(7): 接合資料・剥片	
第164図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 195	
石器実測図(8): 剥片	
第165図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 196	
石器実測図(9): 剥片	
第166図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 197	
石器実測図(10): 剥片	
第167図 旧石器時代第Ⅱ文化層 (E・F 区) 198	
石器実測図(11): 剥片	
第168図 绳文時代早期 (E・F 区) 201	
土器分布図	
第169図 绳文時代早期 (E・F 区) 202	
土器実測図(1)	
第170図 绳文時代早期 (E・F 区) 203	
土器実測図(2)	
第171図 绳文時代早期 (E・F 区) 204	
石器分布図	
第172図 绳文時代早期 (E・F 区) 205	
石材別分布図	
第173図 绳文時代早期 (E・F 区) 206	
石器実測図	
第174図 弥生土器・土師器実測図 207	
第175図 表土除去後の遺構分布図 (E・F 区) ... 208	

図版目次

巻頭写真	
遺跡遠景（南から尾鈴山系を望む）	散縞と SI 18検出状況（東から）
遺跡俯瞰（北から）	SI 18検出状況（東から）
調査区全景（K-Ah 除去後）	SI 19検出状況（南から）
SI 20検出状況（北から）	
図版1.....	251
A ~ C 区Ⅷ層面全景（北から）	SI 23検出状況（南東から）
A ~ C 区Ⅷ層面全景（南西から）	SI 24検出状況（南東から）
C 区ベルト・M-16付近（東から）	SC4、SC5、SC6完掘状況（北東から）
C 区ベルト・M-16 ~ M-18（南東から）	SC7完掘状況（東から）
SI 1検出状況（西から）	SC8完掘状況（西から）
SI 5検出状況（南から）	炉穴埋土土層断面（東から）
C 区北側の疊群検出状況（北から）	炉穴内の焼土堆積状況（東から）
C 区北側の疊群検出状況（東から）	炉穴完掘状況（北から）
図版2.....	252
SI 6検出状況（西から）	
SI 7検出状況（南から）	縄文時代早期遺物出土状況（A区、南東から）
SI 8検出状況（東から）	縄文時代早期遺物出土状況（C区、南から）
SI 9検出状況（北から）	道路状遺構完掘状況（北から）
SI 10検出状況（北から）	作業風景（SG1、南から）
SI 14検出状況（南から）	SG1土層断面（a - b、南から）
SI 15検出状況（南から）	SG1土層断面（c - d、北から）
SC1完掘状況（北東から）	SG1硬化面 A 検出状況（北から）
図版3.....	253
P1完掘状況（東から）	SG1完掘状況（北から）
SC2完掘状況（東から）	
陥し穴状遺構1土層断面（東から）	図版7.....
陥し穴状遺構1ケイ痕断面①（東から）	257
陥し穴状遺構1ケイ痕断面②（南東から）	SG2土層断面（c - d、北から）
陥し穴状遺構2四分割状況（南西から）	SG2硬化面 A 縦断面①
陥し穴状遺構2土層断面（南から）	SG2硬化面 A 縦断面②
第II文化層遺物出土状況（C区 N-16付近、南から）	SG2、SG8完掘状況（北から）
図版4.....	254
第II文化層遺物出土状況（C区 N-16付近、東から）	SG6硬化面 A 検出状況（北から）
第II文化層遺物出土状況（C区 N-18付近、東から）	SG6硬化面 A 縦断面
SI 16検出状況（北東から）	SG6硬化面 A 下のピット検出状況
SI 17検出状況（南から）	SG6完掘状況（北から）
図版8.....	258
SG2、SG6、SG8完掘状況（南から）	
SG3、SG9完掘状況（南から）	
SG3、SG9、土坑完掘状況（北から）	
SG10完掘状況（南から）	

畝状遺構完掘状況（B区、北から）	・同一母岩17・同一母岩39・石核・接合資料
第II文化層散疎検出状況（E区F8付近、東から）	図版19 269
第II文化層散疎検出状況（E区G8付近、南東から）	旧石器時代第II文化層
SC9完掘状況（南東から）	・細石核・細石刃・敲石・磨石・疎器・剥片・同一母岩13・同一母岩14
図版9 259	図版20 270
SC10完掘状況（南から）	旧石器時代第II文化層
SC11完掘状況（南から）	・剥片
SC12完掘状況（南東から）	図版21 271
畝状遺構完掘状況（E区、南から）	縄文時代早期
図版10 260	・石鎌
旧石器時代第I文化層	図版22 272
・角錐状石器・ナイフ形石器	縄文時代早期
図版11 261	・石鎌・同一母岩36
旧石器時代第I文化層	図版23 273
・尖頭器・台形・石錐・スクレイバー・接合資料3・二次加工剥片	縄文時代早期
図版12 262	・スクレイバー・石核・接合資料・敲石・台石・斧状石斧・磨石・剥片
旧石器時代第I文化層	図版24 274
・敲石・亜石器・石核・接合資料・同一母岩3	縄文時代早期
図版13 263	・同一母岩45
旧石器時代第I文化層	図版25 275
・同一母岩3・同一母岩1・剥片	縄文時代早期
図版14 264	・同一母岩45・接合資料・剥片・尖頭器・石核
旧石器時代第I文化層	・剥片・角錐状石器・ナイフ形石器・スクレイバー
・剥片・角錐状石器	E・F区旧石器時代第II文化層
旧石器時代第II文化層	・二次加工剥片・石核・敲石・磨石・台石
・ナイフ形石器・尖頭器・石錐・スクレイバー	図版26 276
・二次加工剥片	E・F区旧石器時代第II文化層
図版15 265	・細石核・細石刃・接合資料・剥片
旧石器時代第II文化層	図版27 277
・同一母岩21	E・F区縄文時代早期
図版16 266	・石鎌・石核・敲石・疎器・剥片・土器
旧石器時代第II文化層	縄文時代早期
・同一母岩18	・土器
図版17 267	図版28 278
旧石器時代第II文化層	・同一母岩・黒曜石分類の基準石器
・接合資料50	
図版18 268	
旧石器時代第II文化層	

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道の都農～西都間は、平成元年2月に基本計画が決定し、平成9年3月には整備計画路線となった。さらに平成9年12月に建設大臣から日本道路公団へ施行命令が出され、公団では翌年の2月から事業に着手した。その間、県教育委員会では、平成6年度に延岡～西都間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響が出る部分については工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は平成11年度から日本道路公団の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターで行った。

新富町大字新田字音明寺周辺の工事区は、新富町による遺跡詳細分布図に記載されている音明寺遺跡の縁辺部にあたり、平成6年度の分布調査で推定範囲に入れられた。そして、遺跡名を「音明寺第1遺跡」とし発掘調査を行うこととした。

本調査に先立っての確認調査は2回に分けて行った。第一次確認調査は、平成12年4月13日～4月18日(うち4日間)、面積約2,500m²を対象として実施した。第二次確認調査は平成12年6月5日～6月14日(うち7日間)に、面積約8,500m²を対象として実施した。

2回の確認調査の結果をもとに、調査対象面積を5,500m²として、平成12年9月4日～平成13年8月7日に本調査を実施した。

本調査終了後、埋蔵文化財センターにおいて整理作業を始めた。

第2節 調査の組織

音明寺第1遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 矢野剛(平成12～13年度)

米良弘康(平成14～15年度)

宮園淳一(平成16年度)

副所長兼総務課長

菊地茂仁(平成12～13年度)

大園和博(平成14～16年度)

副所長兼調査第二課長

岩永哲夫(平成12～16年度)

総務係長 亀井雄子(平成12～13年度)

野邊文博(平成14年度)

主幹兼総務係長

石川恵史(平成15～16年度)

調査第一課長

面高哲郎(平成12～13年度)

児玉章則(平成14～15年度)

高山富雄(平成16年度)

調査第一係長

面高哲郎(平成12年度兼務)

谷口武範(平成13～16年度)

主幹兼調査第二係長

長津宗重(平成12～16年度)

主査(調査・報告書担当)

戸高幸作(平成12～14年度)

渡部誠一郎(平成12～15年度)

外山宏幸(平成12～15年度)

調査員(嘱託)

工藤基志(平成12年度)

安楽哲史(平成13年度)

金丸史絵(平成13年度)

調査指導長岡信治(長崎大学)

小畠弘己(熊本大学)

泉拓良(京都大学)

本田道輝(鹿児島大学)

田崎博之(愛媛大学)

柳沢一男(宮崎大学)

広瀬和雄(国立歴史民俗博物館)

成尾英仁(鹿児島県立博物館)

加藤真二(文化庁)

第Ⅱ章 遺跡の環境

本遺跡の所在する新富町は、宮崎平野の北部一角を占める兒湯郡に属し、九州山地を源とする一つ瀬川が南流から東流へと大きく湾曲する流域左岸の沖積平野と、標高70～90mの台地面にかけて町域を有する。町域の大きな割合を占める洪積台地は、宮崎平野に広がる平坦地の顕著な段丘地形となっており、地形区分でいう茶臼原面（海拔約120m）、三財原面（海拔約90m）、新田原面（海拔約70m）の3つに分けられる。沖積平野部は、この洪積台地を大きく東西に開析して、ほぼ東流する鬼付女川によって形成された急峻な谷の底部と、一つ瀬川流域沿いの低位段丘面、海岸部の4～5の砂丘面に区分でき、それぞれ有効な土地利用を可能としている。また、本町は、北に高鍋町、西に一つ瀬川を界し西都市、南に同じく一つ瀬川を界して佐土原町と接しており、東に日向灘を望む位置にある。

本書で報告する音明寺第1遺跡は、標高約100mで、茶臼原面と三財原面の境界の斜面下部に位置する。近くには湯風呂川が流れしており、水の便には恵まれている。今回の調査においては後期旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺構・遺物、古代から中世にかけての遺構と推測される道路状遺構が確認されたことから、周辺の遺跡分布状況については、同時期と推察されるものについて概観したい。

旧石器時代については、大野寅男氏などによる表探活動により、その存在が数多く指摘されてきた。中でも畦原地区を中心に表探・分類された「畦原型細石核」は代表的な標準資料となっている。発掘調査された遺跡は少なく、溜水第2遺跡でAT上位の石器が数点出土している。なお、平成12年度から実施している東九州自動車道建設（都農～西都間）に伴う発掘調査では、三財原台地上における旧石器時代の遺構・遺物が次々に確認されている。

縄文時代早期の遺跡としては、瀬戸口遺跡をあげることができる。土器は、押型文土器と貝殻条痕文土器を中心に出土している。石器は、石鏃・石斧・磨石等が多数出土している。旧石器時代と同じく、東九州自動車道建設に伴う発

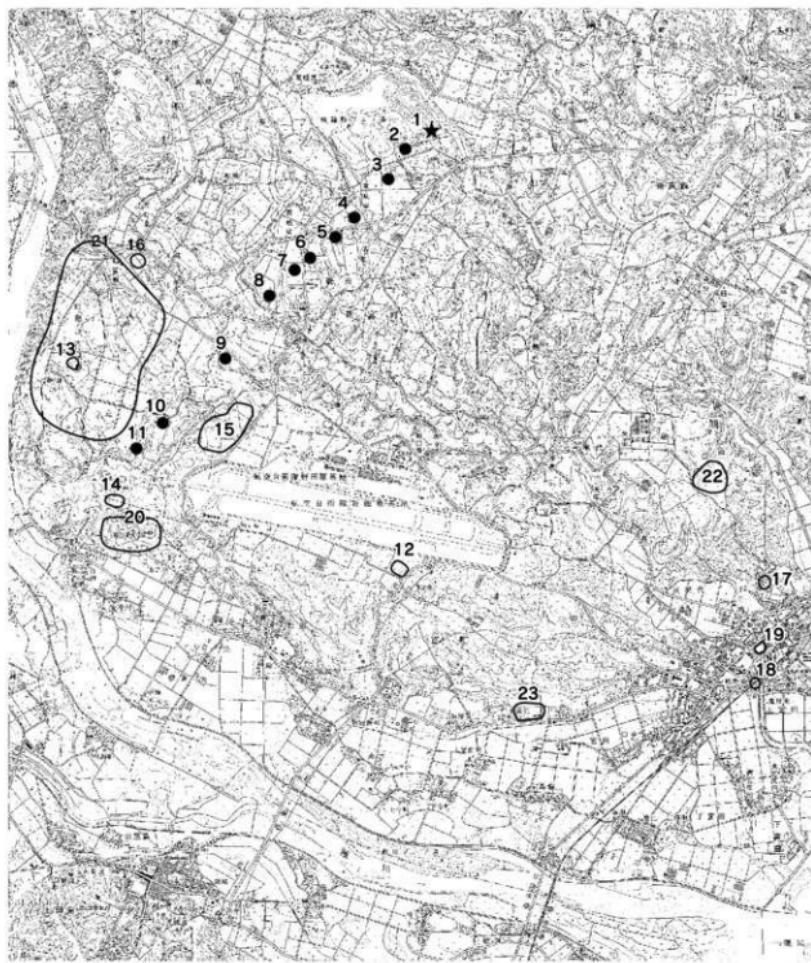
掘調査で、三財原台地上における縄文時代早期の遺構・遺物が次々に確認されている。

弥生時代から古墳時代になると遺跡の数が増え、八幡上遺跡や新田原遺跡では花弁状住居が検出された。また、川床遺跡、鐘遺跡、鬼付女川遺跡、園田遺跡、新田原古墳群、祇園原古墳群などがあげられる。

古代から中世の集落については資料が少なく、わずかに上園遺跡、北田遺跡を数えるのみである。上園遺跡では、14世紀頃まで営まれた集落が検出されており、北田遺跡では、古墳時代後期から中世の住居が検出されている。

参考文献

- 宮崎県「宮崎県史 資料編 考古1」1989
- 宮崎県「宮崎県史 通史編 原始・古代1」1997
- 新富町教育委員会「新富町文化財調査報告書 第18集中園遺跡F地区・溜水第2遺跡」1995
- 新富町教育委員会「新富町文化財調査報告書 第27集町内遺跡15」1999



第1図 音明寺第1遺跡位置と周辺遺跡図 (S = 1/50,000)

0 1,000m

東九州自動車道 都農 - 西都間 関連遺跡 新富町のみ)

新富町内の遺跡

1 音明寺第1遺跡	2 音明寺第2遺跡
3 東畦原第1遺跡	4 東畦原第2遺跡
5 東畦原第3遺跡	6 西畦原第1遺跡
7 西畦原第2遺跡	8 上新開遺跡
9 勘大寺遺跡	10 尾小原遺跡
11 向原第1遺跡	

12 濱水第2遺跡	13 潟戸口遺跡
14 八幡上遺跡	15 新田原遺跡
16 川床遺跡	17 鎧遺跡
18 鬼付女西遺跡	19 圓田遺跡
20 新田原古墳群	21 祇園原古墳群
22 上園遺跡	23 北田遺跡

第三章 調査の方法と経過

第1節 確認調査の概要

1 第一次確認調査

平成12年4月13日～4月18日(うち4日間)に、面積約2,500m²を対象とし8つのトレンチを設定した。その結果、

- ① K-Ahは全体として良好な残存状況を示した。しかし、K-Ah上面での遺構や遺物は確認されなかった。
- ② トレンチ2で、V層中から集石遺構と縄文土器・チャート製の剥片が出土した。
- ③ トレンチ5では、AT下層の暗褐色ローム(IX層)まで確認したが、遺物・遺構は確認できていない。ただし、耕作土中から剥片が出土した。

2 第二次確認調査

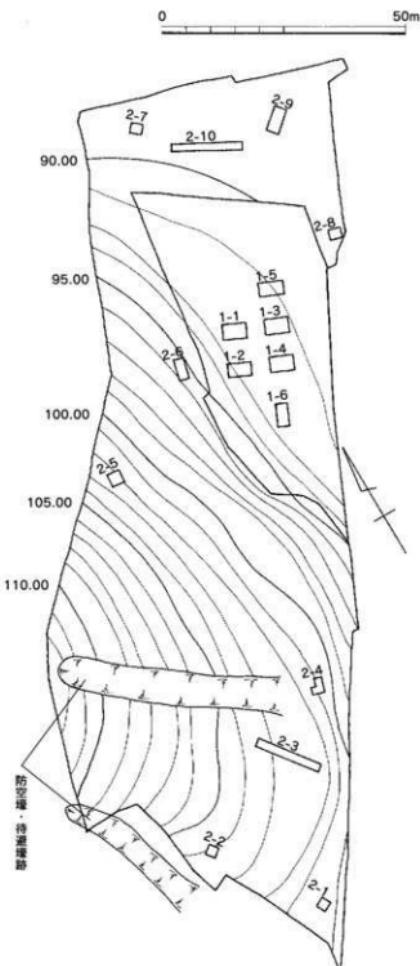
平成12年6月5日～6月14日(うち7日間)に、面積約8,500m²を対象とし10のトレンチを設定した。その結果、

- ① トレンチ1のV層上面から土器片(縄文時代早期)・AT二次堆積層から二次加工剥片(第4図実測図)が出土した。
- ② トレンチ3のAT直上から赤化碟が1点出土した。
- ③ トレンチ6のV層上面から赤化碟を含む碟が数点出土した。
- ④ トレンチ9のAT直上から赤化碟が数点出土した。
- ⑤ トレンチ10東側で溝状遺構を検出した。
- ⑥ 西側の急斜面上では、遺物・遺構は確認できなかった。また、陥没する危険性もあるため、調査対象外とした。

3 調査範囲の決定

第一次確認調査の結果、北側部約1,000m²を調査対象外とし、集石遺構が検出され、土器片が出土した約1,500m²の本調査が決定した。

また、第二次確認調査の結果、V層上面から縄文時代早期と思われる土器片・AT二次堆積層からは二次加工剥片が出土した。その他、V層上面とAT上位層から焼碟が出土し、溝状遺構も検出さ



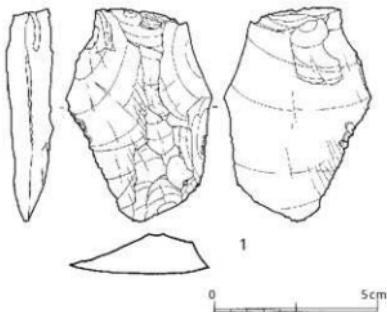
第2図 確認調査トレンチ配置図 (S = 1/1,000)

* 上図中、「1-番号」は第一次確認調査のトレンチ番号を、「2-番号」は第二次確認調査のトレンチ番号を意味する。



第3図 周辺地形図及び調査区 ($S = 1/2,000$)

れたため、約4,000m²の調査が決定し、全調査対象面積は5,500m²となった。想定される包含層は縄文早期面であるV層上面とAT(Ⅷ層)直上である。



第4図 確認調査出土遺物実測図

第2節 発掘調査の方法

1 調査区の設定

当初、調査区は5つに設定した。調査区北側の平坦面をA区、その南側の一段高い平坦面をC区とした。C区西側の斜面をB区、南側の斜面をD区とした。さらに、尾根を挟んで南端をE区として本調査を始めた。その後、E区南端をF区とし、計6つの区画を設定した。

本遺跡は、山林及び荒れ地であったために、作業可能な状態にするのにかなりの日数を必要とした。伐採後の雑木や杉等が折り重なっており、重機が入れなかっただけで、人力でこれらを取り除いた。表土の除去には重機を用いたが、起伏があり包含層との区別がつきにくいために厚めに表土を残して、手グワを用いて掘り下げた部分がかなりあった。A～C区間及びB～C区間には、段差だけではなく杉やセンダンの木の切り株が1～2列で残されていた。いずれも50～100cm下まで影響を受けており、手グワ等を用いて丁寧に除去した。また、当初は区間にベルトを設定していたが、縄文早期面の調査終了後、それぞれの区間のベルトを掘り下げて1つにまとめた。

2 調査の方針と手順

4人の調査員で調査を始め、A～D区のK-Ah上面精査・実測までは合同で実施した。その後、2人ずつA～C区とE・F区に分かれた。

年度が替わり、平成13年度4月からは、再び4人でA～C区の調査を中心に行い、必要に応じて1人の調査員がE・F区の調査を担当した。

遺物の位置記録は、縄文早期面まで図面に記録した。その後、トータルステーションを導入したが、データの保存が不可能だったので、座標データを野帳に記録した。

包含層の掘り下げは、C区縄文早期面までは全面精査した。その後の旧石器面からは、10m四方のグリッドの25%を千鳥状に掘り下げていく、いわゆる「25%掘り」を実施した。層が変わると、遺物・遺構が確認されるまで手グワを用いて掘り下げ、遺物・遺構が確認されれば、ネジリ鎌による精査に切り替えた。また、遺物・遺構が確認されれば、その周囲に掘り下げを広げていくという方法で、AT(Ⅷ層)までは、ほぼ全面精査を実施した。IX層(ブラックバンド)以下については、25%掘りを行った結果、どこからも遺物・遺構が確認されず、調査を終了した。



作業風景（C区、南から）



作業風景（C区、北東から）

3 日誌抄

平成12年

- 9月 4日 現場事務所等設置
 9月 5日 作業員初日、作業開始
 9月 13日 重機による表土剥ぎ(A ~ D 区)
 ~ 26日 A・C 区で道路状遺構検出
 9月 20日 F 区設定、溝状遺構検出
 10月 25日 重機による表土剥ぎ(E 区)
 ~ 26日 B 区畝状遺構検出
 11月 16日 D 区調査終了
 11月 29日 E 区畝状遺構検出
 12月 8日 グリッド杭設置(A ~ C 区)
 12月 19日 グリッド杭設置 E・F 区)
- 平成13年
- 1月 22日 C区縄文時代早期の集石遺構検出
 1月 24日 空中写真撮影 K-Ah 除去後)
 2月 6日 地形測量(V 層上面)
 2月 20日 E 区VI層で散疊検出
 3月 13日 調査指導委員来跡
 4月 6日 5m 単位グリッドの設定
 4月 11日 トータルステーションによる座標測定開始
 4月 20日 C 区VI層から 25% 挖り下げ開始
 5月 7日 C 区VI層で散疊検出
 5月 23日 A ~ C 間のベルト除去
 6月 8日 C 区VII層で疊群検出
 6月 21日 降水・湧水のため、3か所で水がたまる
 7月 2日 重機にて湧水部を埋め戻す
 ~ 4日
 7月 5日 A ~ C 間で炉穴検出
 7月 6日 C 区VIII層で疊群検出
 7月 16日 成尾英仁氏 来跡
 7月 17日 地形測量(IX 層上面)
 7月 19日 B 区陥し穴状遺構2基検出
 8月 3日 発掘作業最終日
 8月 6日 現場事務所等撤収・埋め戻し
 ~ 7日

第3節 整理作業及び報告書作成

- 発掘調査終了後、平成13年9月から、埋蔵文化財センターにて整理作業を開始した。
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 平成13年 | 平成13年 |
| 9月 遺物水洗 | 9月 遺物水洗 |
| 10 ~ 11月 遺物注記 | 10 ~ 11月 遺物注記 |
| 12月 座標データ入力 | 12月 座標データ入力 |
| 平成14年 | |
| 1月 図面からのデータ算出 | 1月 図面からのデータ算出 |
| 2 ~ 3月 土器接合 | 2 ~ 3月 土器接合 |
| 4 ~ 5月 土器実測・拓本(44点) | 4 ~ 5月 土器実測・拓本(44点) |
| 6 ~ 9月 石器接合・チップ分類 | 6 ~ 9月 石器接合・チップ分類 |
| 10 ~ 11月 石器実測(一部) | 10 ~ 11月 石器実測(一部) |
| 平成15年 | |
| 7 ~ 11月 石器実測委託(435点) | 7 ~ 11月 石器実測委託(435点) |
| 10 ~ 12月 石器実測 | 10 ~ 12月 石器実測 |
| 平成16年 | |
| 1 ~ 3月 土器・石器トレース | 1 ~ 3月 土器・石器トレース |

第IV章 調査の記録

第1節 調査の概要

1. 第二次世界大戦中の遺構

本遺跡の調査区内には、等高線とほぼ直交する溝状の窪地が2か所みられた。地元住民の話では、第二次世界大戦中、この山中に縦横にトンネルが掘り込まれ、防空壕や待避壕として使われていたそうである。調査区外西側の山頂付近にも、数か所の陥没地がみられた。『新富町史』には、「一ツ瀬川流域は特に米軍の有力な上陸地点とされ、多くの機関銃座や砲座、待避壕、蛸壺濠などが設営され、さらに背後の山中には陣地が作られていた。」の記述がみられる。

山の中腹（標高約100m）には、等高線に沿つて山砂利が敷き詰められていた。この山砂利は、トンネル（壕）を掘ったときのもので、砲座を作ったといわれている。E区南側には、砲座と思われる出っ張りがわずかに残存していた。

また、C区やE区周辺では、軍隊が野営地を設営していたようである。



防空壕跡と思われる陥没地

2. 文化層の設定

本遺跡では、中世以降の道路状遺構・畠状遺構を除き、以下のとおり、3つの文化層を設定した。

旧石器時代第I文化層

第VIII b層～第VII a層。AT降灰後である。A～C区では、礫群15基と土坑1基およびピット状遺

構1基が検出された。また、角錐状石器・ナイフ形石器・スクレイバー・石核を中心に、多数の剥片・チップが出土した。

E・F区では遺物の出土のみで、遺構の検出はなかった。

旧石器時代第II文化層

第VI b層～第V b層。第VI層は小林軽石を含む層である。A～C区では、細石刃・細石核・角錐状石器・ナイフ形石器・スクレイバーを中心に、多数の石器、剥片・チップが出土。遺構は、散礫と土坑およびピット状遺構が検出された。

E・F区でも同様の遺物と散礫・土坑が検出された。出土遺物から、さらに細分できるものと考えられる。

B区の第V b層～第VI a層から陥し穴状遺構2基が検出された。前述の遺物・遺構より年代は新しいと思われる。

縄文時代早期の文化層

第IV層～第V a層。A～C区では、集石遺構9基と土坑5基および炉穴1基が検出された。また、100点あまりの石器と少量の土器を中心に敲石、石核、多数の剥片・チップが出土した。土器は、手向山式・押型文・貝殻条痕文・撚糸文である。

E・F区では、石器・敲石数点と剥片・チップ、前平式土器が出土したが、遺構は検出されなかった。

以上のように文化層を設定したが、次の理由から、文化層間を明確に分けることは困難であり、また、同一文化層内でも複数時期の石器が混在している可能性がある。

- ① 第IV～VII層まで、無遺物層を挟んでいない。
- ② 遺跡全域が南西から北東にかけて傾斜しているとともに、小規模な起伏が連続する地形である。
- ③ 異文化層間の接合状況をみると、第I文化層と第II文化層間に8例、第II文化層と縄文時代早期間に7例、さらに第I文化層と縄文時代早期間に2例がある。

3. 各区の概要

A 区

東側は削平のため K-Ah の残存はみられなかったが、表土を剥いだ段階で道路状遺構を検出した。西側は K-Ah 除去後、IV ~ V 層より縄文時代早期の押型文、貝殻条痕文、手向山式土器等が出土し、集石遺構が 1 基検出された。さらに掘り下げたところ、VI ~ VIII 層からナイフ形石器や石核等の石器が出土し、礫群が 6 基検出された。

B 区

長さ約 35m、幅約 5 ~ 9m の急傾斜地である。K-Ah 上面で畝状遺構を検出したが、時期等については不明である。K-Ah 除去後、石鎌や石核、剥片等が出土した。土器の出土はなかった。さらに掘り下げたところ、VI 層面で陥し穴状遺構を 2 基検出した。1 基はクイ痕跡が確認された。旧石器時代末期から縄文時代早期までの間に、狩猟場であった時期があったと思われる。

C 区

西側中央部を除いて K-Ah が残存しており、南東部には黒色土層(II 層)も残されていた。K-Ah 上面では東側の 1 条の道路状遺構を検出した。その他、いくつかの土坑等を検出したが、戦時中など近代のものと思われる。K-Ah 下の黒褐色土層(IV 層)から暗褐色土層(V 層)にかけて、縄文時代早期の捺糸文、無文土器や石鎌、剥片等が出土した。集石遺構も 8 基検出している。C 区東側では、黒曜石やチャートのチップが集中して出土した区域があり、石器(主に石鎌) の製作場所であったと思われる。さらに掘り下げたところ、VI ~ VII 層(小林軽石を含む層から AT 直上にかけて) から角錐状石器やナイフ形石器・石核・細石核・剥片等、多数の石器が出土した。

D 区

長さ約 21m、幅約 3 ~ 4m の緩斜面である。K-Ah 上面で精査したが、遺構・遺物は確認できなかった。K-Ah 除去後、2m 四方のトレーナーを 2 か所設定して霧島アワオコシ層まで掘り下げたが、遺構・遺物とともに確認できなかったので、その時点で D 区の調査を終了した。

E 区

K-Ah 面で精査したところ、畝状遺構を検出し

た。時期等については特定できなかった。K-Ah 除去後、縄文時代早期の前平式土器(1 個体と思われる) や石鎌、敲石、剥片等が出土したが、遺構は検出できなかった。VI 層では散疎と土坑が検出され、多数の石器が出土した。

F 区

K-Ah 上面で精査したところ、溝状遺構を検出したが、近代のものと思われる。縄文時代早期の石器の出土は 18 点で石鎌 1 点と剥片・チップであった。土器の出土はなかった。VI 層からはナイフ形石器やスクレイバー、細石核、剥片等の石器が多数出土した。VII ~ VIII 層からは黒曜石やチャートの剥片・チップが 14 点出土した。いずれも遺構は検出されなかった。

第2節 基本層序

音明寺第1遺跡の基本層序は次のとおりである
(第1表)

第I層：表土。

第II層：黒色腐食土。下位にアカホヤ(K-Ah)ブロックを含む。C区東側では厚く堆積(最大105cm)し、霧島高原スコリア(Kr-Th)に対比されるものが帶状に検出されている。また、その上位には、桜島3テフラ(Sz-3)に由来する可能性の高い白色軽石がわずかに含まれている。

第III層[第5層、K-Ah]：アカホヤ(K-Ah)良好な一次堆積であり、上位に二次堆積を伴う。下位に豆石を含む。

第IV層[第6層、MB0]：黒褐色ローム。固く緻密で、粘性がある。白色及び黄色の細粒を含む。表面にクラックが見られ、横に削ると小ブロック状に割れるが、縦にはサクサク削れる。アカホヤの豆石及び火山ガラスを少量含む。第IV層から第V a層にかけてが縄文時代早期の文化層である。集石遺構とともに100点あまりの石器と少量の土器出土した。土器は、前平式・手向山式・押型文・貝殻条痕文・燃糸文である。

第V a層[第7層、ML1]：暗褐色ローム。固く綿まり、やや粘性がある。表面にクラックが見られ、横に削ると小ブロック状に割れる。白色及び黄色の細粒、スコリア、火山ガラス小片、橙色の粒(直径1~2mm)を含む。灰白色の粒(直径1~5mm)、多孔質で乾くと粉になるが少々見られる。

第V b層[第7層、ML1]：暗褐色ローム。第V a層の土質とほぼ同じだが、わずかに明るい。場所によっては、蜂の巣状の黒いシミが見える。小林軽石を含むブロックが少々見られる。第V b層から第VI b層にかけて旧石器時代第II文化層が設定される。

第VI a層[第10層、Kr-kb]：褐色土。褐色土中に小林軽石(暗褐色のブロック中に直径2~10mmの灰白色及び黄色の粒)を多数含む。暗褐色部は固く綿まり、粘性はない。褐色部は柔らかく粘性があり、削るとサラサラしている。小林軽石のブロックは、場所により密度に大きな差がある。E区の傾斜地上方ではまばらで、下方では密になっていく。特にF区では密度が極めて高い。

第VI b層[第10層、Kr-kb]：褐色土。柔らかく粘性があり、削るとサラサラしている。E区北西部の斜面では粘性が強い。第VI a層の褐色土と同じだが、小林軽石のブロックを含まない。

第VII a層[第12層、ML2]：褐色ローム(ソフト)。柔らかい褐色土中に暗褐色のブロックを少々含む。暗褐色部は固くしまって粘性があり、白色及び黄色の粒を少し含む。第VII a層から第VIII b層にかけて、旧石器時代第I文化層が設定される。

第VIII b層[第12層、ML2]：褐色ローム(ハード)。固くしまった褐色土の層で、縦状に割れやすい。白色及び黄色の粒、灰白色で多孔質の粒(直径5mm前後)をわずかに含む。

第VIII a層[第13層、AT]：柔らかい褐色土。ATを多量に含む。

第VIII b層[第13層、AT]：周囲が黒褐色で、中が黄褐色の円形状のシミ(直径2~3cm)が見られる。

第VIII c層[第13層、AT]：ATの一次堆積。3層に分かれ、上位は白色及び黄色の細粒、橙色の粒(直径1~3mm)、火山ガラス小片を含み、乳白色(半透明)の粒(直径1~3mm)が多く見られる。中位は白色の細粒及び灰白色で多孔質の粒(直径3mm)が帶状に密集している。下位には、濃い黄色の層(シルト質で柔らかい)が見られる。

第IX a層[第14層、MB2]：暗褐色ローム。固く綿まり、垂直方向に節理が走る。白色の粒(直径1~3mm)及び火山ガラス小片を多数含む。灰白色で多孔質の粒(直径5mm前後)をわずかに含む。

第IX b層[第14層、MB2]：暗褐色ローム。固く綿まり、垂直方向に節理が走る。第IX a層より明るく、白色の粒及び灰白色で多孔質の粒はほとんど見られない。層中に含まれるテフラは、姶良大塙(A-Ot)に対比される。C区西側及びE区北側では、直径2~10mmの小礫を多く含む。

第X層[第20層、Kr-Aw]：霧島アワオコシ。固くざらざらしており、スコリア、橙色の粒(直径5~10mm)を多数含む。

第XI層[第21層、ML4]：明褐色ローム。やや柔らかく、ざらざらしている。

第XII層[第22層、Kr-Iw]：霧島イワオコシ。固く綿まり、第X層より粗いスコリア、白色の粒と赤褐色のバニス(直径1cm前後)を含む。

第XIII層：褐色土。粘土層で、綿まっている。

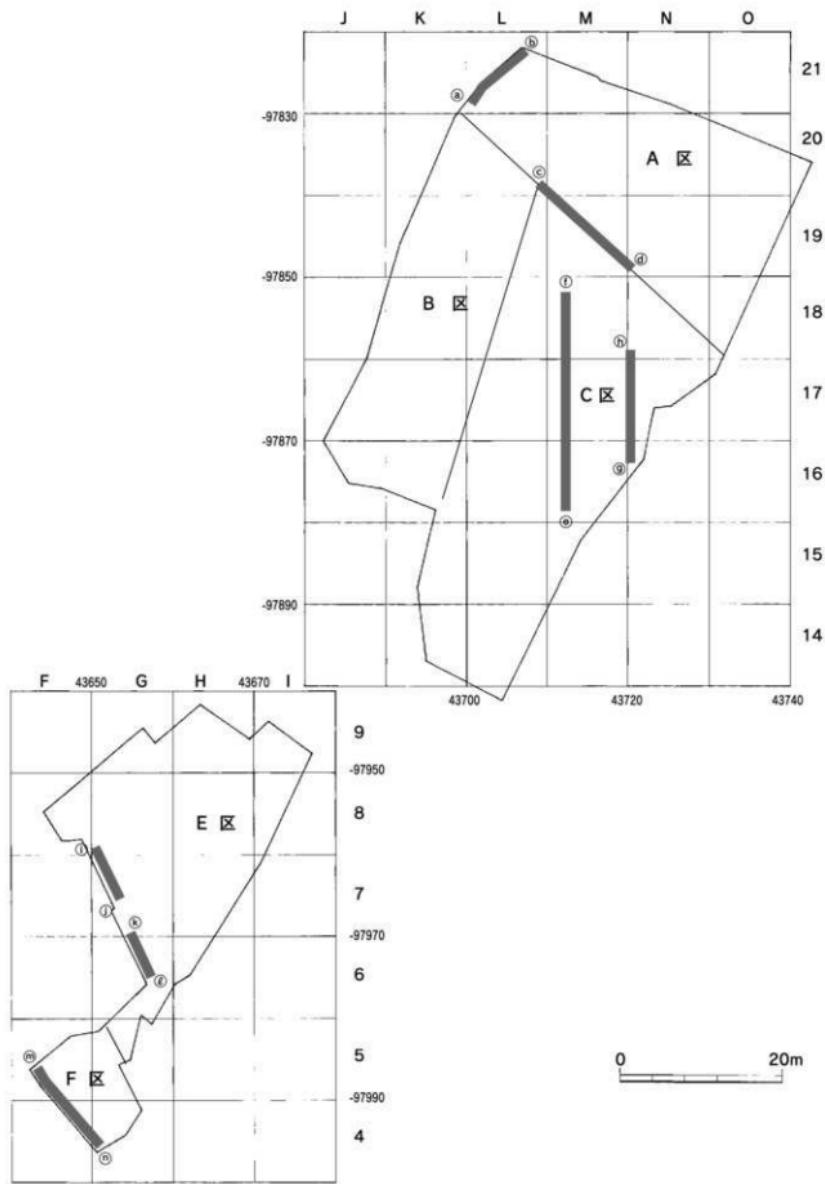
第XII層 [第23層、ML5] : 明黄褐色ローム。粘性があり、締まっている。シルト質で、中にやや粗い粒が含まれてざらざらしている。

* 文中のテフラ同定については、古環境研究所の分析結果による(第V章参照)。

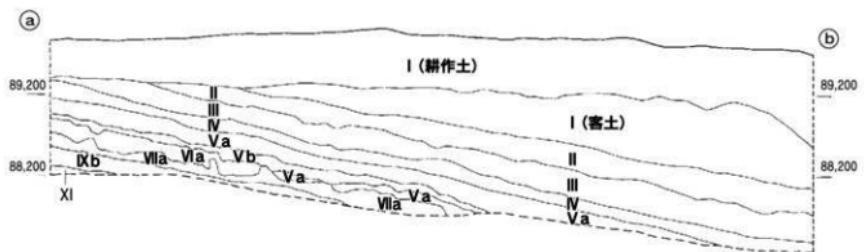
音明寺第1遺跡			東九州自動車道(都農~西都間)			
No	厚さ(cm)	文化層	No	略称	層名	年代
I		20 ~ 105	1		表土	
II			2	クロボウ	黒色土	
			3	kr-Th	高原スコリア	AD1235
III	5 ~ 30		4	クロボウ		
IV	0 ~ 25	縄文時代早期	5	K-Ah	鬼界アカホヤ	6.5ka
V a	0 ~ 20		6	MB0	黒褐色ローム	
V b	0 ~ 15		7	ML1	暗褐色ローム	
-			8		桜島薩摩(Sz-S)	11ka
-		旧石器時代 II	9		褐色ローム	
VI a	15 ~ 40		10	Kr-kb		15ka
VI b	0 ~ 25		11	MB1	暗褐色ローム	
-	-		12	ML2	褐色ローム	
VII a		旧石器時代 I	13	AT	姶良 Tn	24.5ka
VII b	10 ~ 25					
VII a			14	MB2	暗褐色ローム	
VII b	10 ~ 20		15	A-Fm	姶良深港	26.5ka
VII c	5 ~ 15		16	A-Ot	姶良大塚	30ka
IX a	20 ~ 35		17	MB3	暗褐色ローム	
IX b	20 ~ 35		18	ML3	褐色ローム	
-	-		19		赤褐色ローム	
-	-		20	Kr-Aw	アワオコシ	41ka
X			21	ML4	明褐色ローム	
X I			22	Kr-Iw	イワオコシ	50ka
X II						
X III						
X IV			23		明黄褐色ローム	
			24		キンキラローム	
			25	A-Iw	姶良岩戸	60ka
			26	Aso-4	阿蘇4	86-90ka

* 年代は、奥野充・福島大輔・小林哲夫(「南九州のテフラクロノロジー」『人類史研究』12 2000)による。

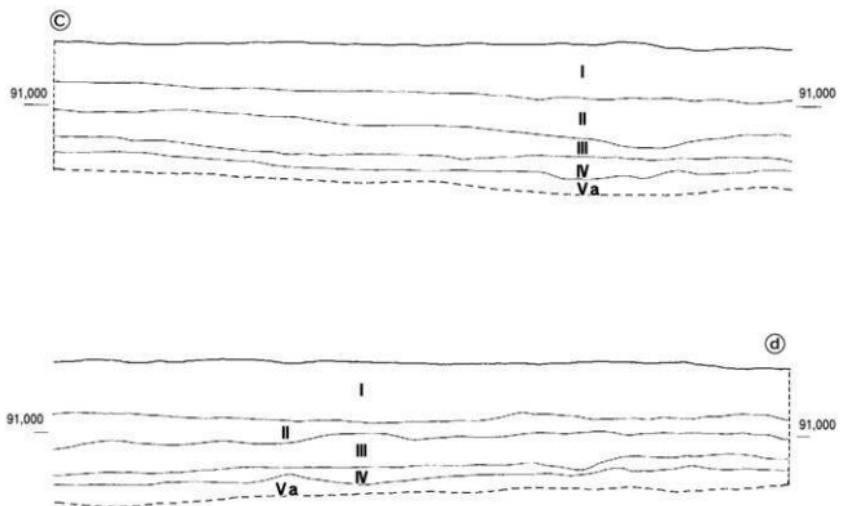
第1表 基本層序



第5図 グリッド配置図と土層記録位置 (S = 1/600)

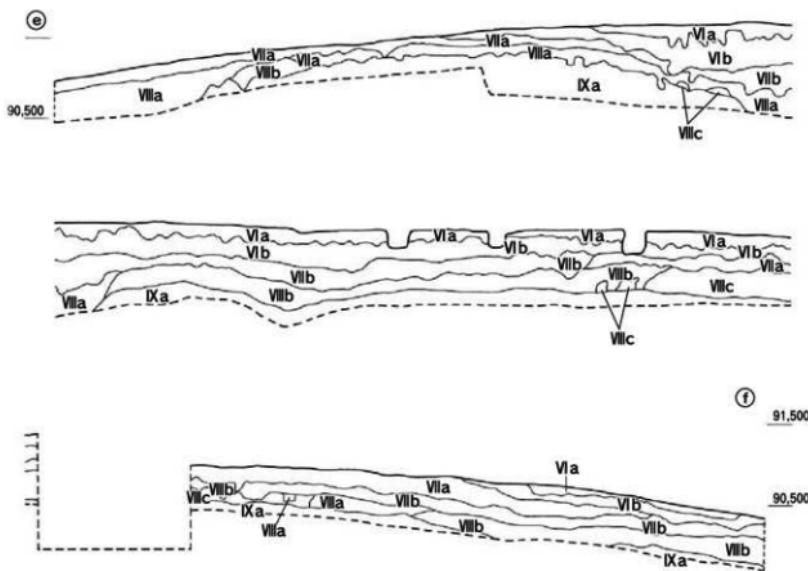


第6図 A区 北西壁土層断面図 ($S = 1/60$)

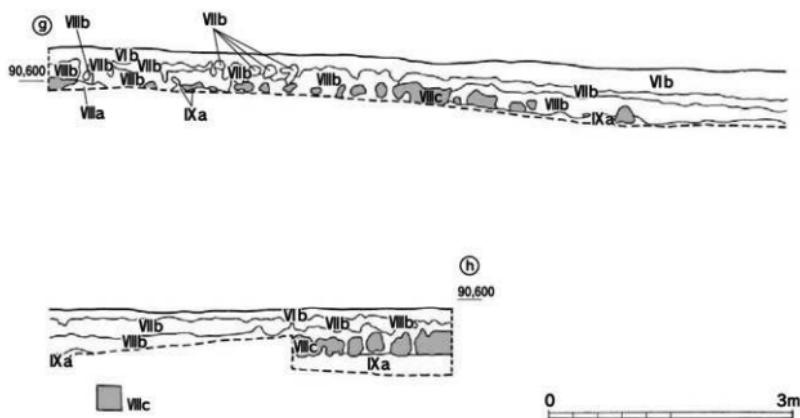


第7図 A-C間の壁 土層断面図 ($S = 1/60$)

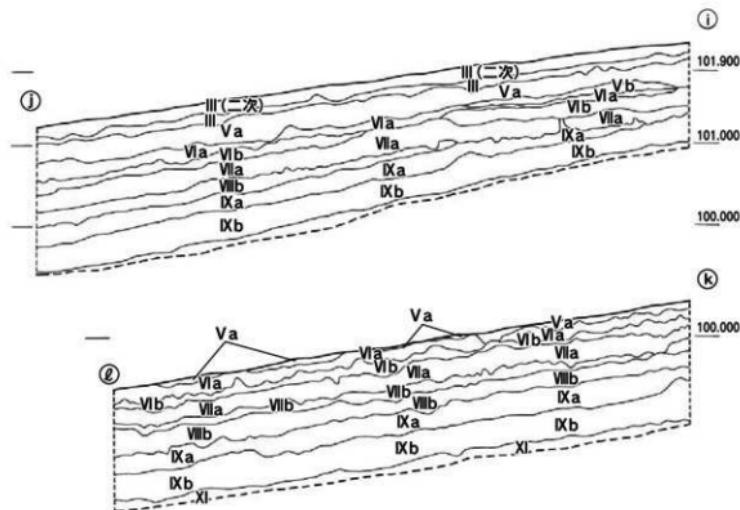




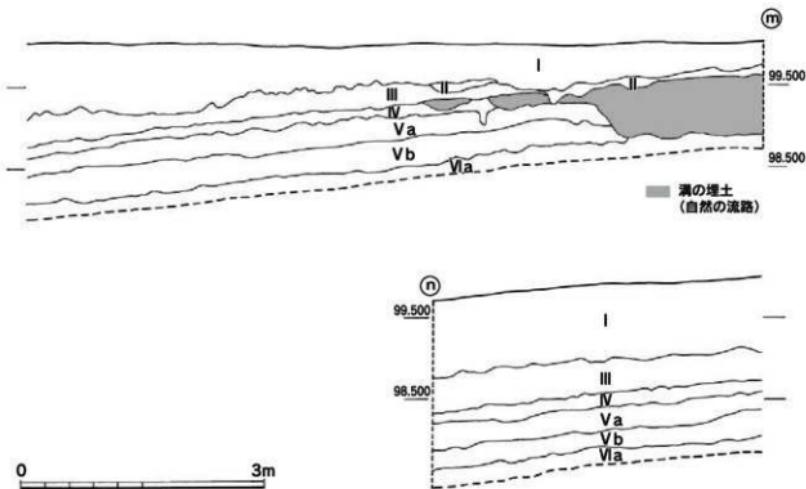
第8図 C区北ベルト① 土層断面図 ($S = 1/60$)



第9図 C区南北ベルト② 土層断面図 ($S = 1/60$)



第10図 E区南西壁 土層断面図 ($S = 1/60$)



第11図 F区南西壁 土層断面図 ($S = 1/60$)

第3節 A～C区

1 後期旧石器時代第I文化層

(1) 概要

① 当時の環境

本遺跡A区からC区にかけての姶良Tn火山灰(AT)降灰前は、ヨシ属が生育する湿地的な環境であったと考えられる。

AT降灰後の、第I文化層当時は、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)を主体とした草原植生に覆われ、湿地はほとんど見られなくなっている。クマザサ属は寒冷の指標とされており、特にミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している(室井、1960)。また、約2万年前は最後の亜氷期とされ、当時の年平均気温は現在より7℃前後も低かったと考えられている。

なお、古環境(植物珪酸体)分析の結果は、第V章に掲載した。

*引用文献

- 古環境研究所 2002『自然科学分析調査報告書』
杉山真二 1997『人類をとりまく植生と環境』(宮崎県史 通史編 原始・古代 I a 宮崎県)

② 調査の概要

第I文化層の遺物・遺構は、A・C区のみでB区の急傾斜地からは確認されなかった(第12図)。A・

C区は西側から北東にかけて傾斜する斜面上に位置するが、段状に上下する地形であったと思われる。また、C区西側からA区の北西部にかけては、低湿地であったらしくATが脱色しているような色調を呈し、遺物も出土していない。

A区は、道路状遺構がAT下まで掘り込まれているため、遺構・遺物が削平されている可能性が高い。SI 1からSI 5にかけて1つのまとまりだったと考えられる。SI 3～5の周辺には散疊もみられたが、南西から北東に向かって滑り落ちたような状況を示していた。

C区北側には疊群5基と石器の密集地がみられる。疊群はいずれも小さめで疊数も少ない。

C区中央部には疊群6基と土坑1基、石器の密集地がみられる。石器密集地のすぐ西側には自然の裂け目と思われる窪地があり、基本土層第VII層が厚く堆積していた。しかし、石器が密集している場所は窪地から急激に上がったところである。

C区南端は低湿地の様相を呈し、25%掘りの結果、遺構・遺物は検出されなかった。

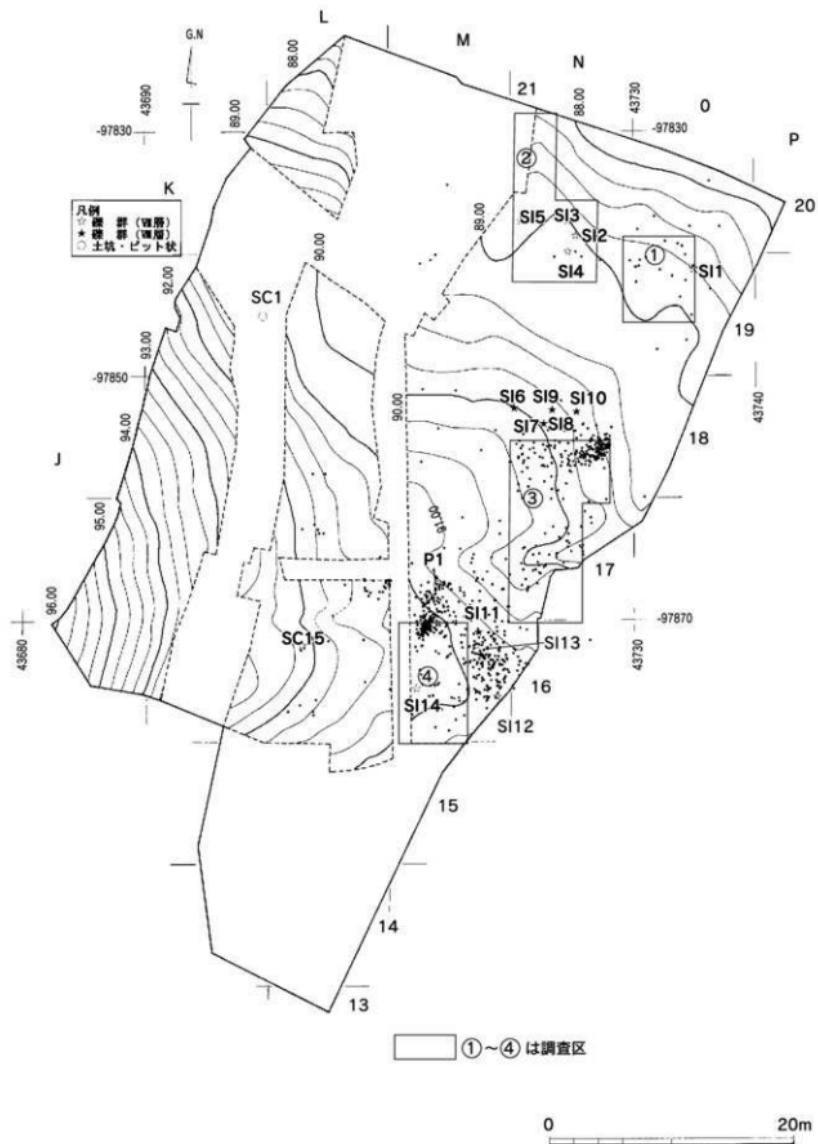
A区とC区北側およびC区中央部間における遺物の接合例はないが、類似の形態をもつナイフ形石器の20と21が、A区とC区中央部から出土している。何らかの関連があったかもしれない。

遺構番号	区	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	掘込	疊数	疊形状	石材	疊被熱率	煤付被熱率	散布	炭化物	焼土	遺物	備考
SI 1	A	O19	VII層	155	120	無	96	円疊 10%	砂岩、凝灰岩中心	24%	-	密	無	無	無	
SI 2	A	N20	VII層	55	35	無	25	円疊 10%	砂岩、凝灰岩中心	76%	-	疊	無	無	無	
SI 3	A	N20	VII層	105	70	無	47	円疊 10%	砂岩、凝灰岩中心	49%	-	疊	無	無	無	
SI 4	A	N20	VII層	70	60	無	44	円疊 10%	砂岩、凝灰岩中心	50%	-	疊	無	無	有	
SI 5	A	N20	VII層	175	165	無	162	円疊 11%	砂岩、凝灰岩中心	54%	-	疊	無	有	無	
SI 6	C	N18	VII層	110	95	無	36	円疊 20%	砂岩、凝灰岩中心	61%	-	疊	無	無	-	
SI 7	C	N18	VII層	105	85	無	39	円疊 23%	砂岩、凝灰岩中心	87%	-	疊	無	無	-	
SI 8	C	N18	VII層	75	48	無	32	円疊 18%	砂岩、凝灰岩中心	78%	-	密	無	無	-	
SI 9	C	N18	VII層	75	50	無	19	円疊 32%	砂岩、凝灰岩中心	84%	-	疊	無	無	-	
SI 10	C	N18	VII層	75	65	無	32	円疊 28%	砂岩、凝灰岩中心	66%	-	密	無	無	-	
SI 11	C	M16	VII層	38	30	無	14	円疊 20%	砂岩、凝灰岩中心	82%	-	密	無	無	無	
SI 12	C	M16	VII層	130	130	無	61	円疊 20%	砂岩、凝灰岩中心	42%	-	疊	無	無	無	
SI 13	C	M16	VII層	210	130	無	87	円疊 20%	砂岩、凝灰岩中心	58%	-	疊	有	無	有	
SI 14	C	M16	VII層	270	145	無	86	円疊 20%	砂岩、凝灰岩中心	33%	-	疊	無	無	有	長径30cmの砂岩円疊を含む。
SI 15	C	L16	VII層	210	132	無	88	円疊 10%	砂岩、凝灰岩中心	55%	-	疊	無	無	有	遺物密集地からはずれる。

*「疊形状」は、円疊の割合のみを大まかに示す。

*「疊被熱は、被熱している疊の割合のみを示す。

第2表 旧石器時代第I文化層 疊群観察一覧表



第12図 旧石器時代第1文化層 遺構・石器分布図 (S = 1/400)

(2) 遺構・遺物とその分布

① 碓群・土坑・ピット状遺構

碓群は、A 区で 5 基、C 区で 10 基検出された。いずれも掘り込みではなく、規模は小さめである。その周辺では碓の散らばり(散碓) がみられた。B 区と C 区の間に、ぽつんと離れて土坑が 1 基検出された。周囲に遺物の出土もみられなかった。C 区中央部の遺物密集地でピット状遺構が 1 基検出された。

SI 1(第 15 図)

A 区の SG1 のすぐ側で検出された。SI 1 の 2m 北方で、焼土(直径約 40cm の範囲) が検出された。周囲の石器の出土はまばらである。

SI 2(第 15 図)

直径 50cm ぐらいの範囲に密集していた。SI 2 ~ SI 5 は、直径 5m ぐらいの範囲に固まっており、周囲には碓の散らばりがみられた。

SI 3(第 15 図)

5 ~ 18cm の角碓が大部分を占める。ほとんどが赤化し、割れている。掘り込みではなく、石器や炭化物等は確認していない。

SI 4(第 15 図)

3 ~ 12cm の角碓と 4 ~ 10cm の円碓から成る。ほとんどが赤化し、割れている。掘り込みではなく、炭化物は確認していない。黒曜石の小片が 1 点、剥片 2 点を含む。約 70cm 西方向に、焼土がみられる。

SI 5(第 15 図)

175cm × 165cm の範囲に広がるが、密集しているのは直径約 70cm の範囲である。わずかに焼土が検出された。

SI 6 ~ SI10(第 15 図)

いずれも AT を含む VIII a 層面で検出した。直径約 7m の範囲にまとまって検出された。SI 8 ~ 10 は直径約 75cm 程度と小さめである。これらの碓群から 2 ~ 6m 離れた南東に石器ブロックがある。

SI11(第 15 図)

14 個(うち安山岩 2 、砂岩 12) から成り、もろく割れている。いずれも赤化が著しい。掘り込みではなく、周囲に焼土や炭化物等は確認していない。

SI12(第 16 図)

調査区東端の壁際で検出された。赤化した碓は半数以下で炭化物や焼土も確認されなかった。

SI13(第 16 図)

5 ~ 13cm ほどの角碓(砂岩) 、 13 ~ 15cm ほどの円碓(貝岩) から成る。碓は赤化し、割れているもの

がほとんどである。碓下部に掘り込みではなく、焼土もみられない。炭化物粒が若干点在している。

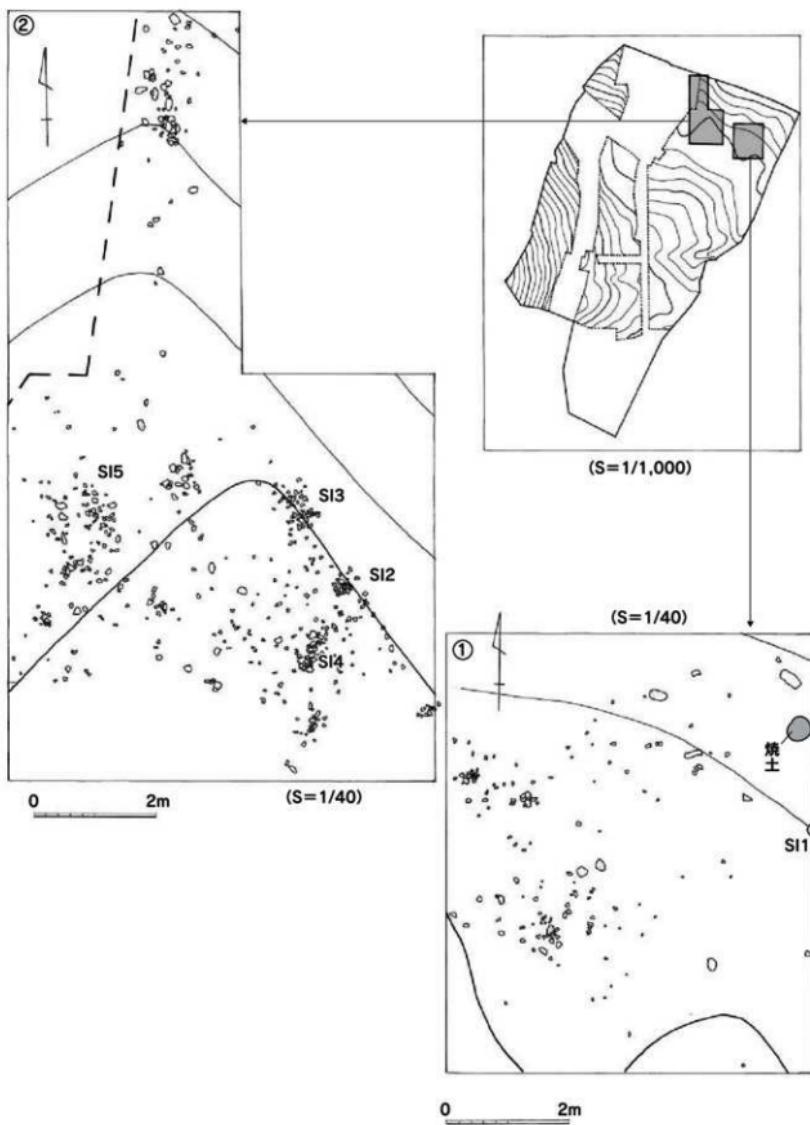
SI14(第 16 図)

5 ~ 15cm ほどの円碓(尾鈴酸性凝灰岩) が 3 個(赤化している) 、角碓が 18 個(赤化して、割れている) 、 10 ~ 15cm ほどの赤色の角碓(砂岩) が 4 個、他は泥岩と砂岩の角碓から成る。平べったい砂岩の円碓 1 個、長径 30cm の砂岩の円碓 1 個を含む。SC1(第 16 図)

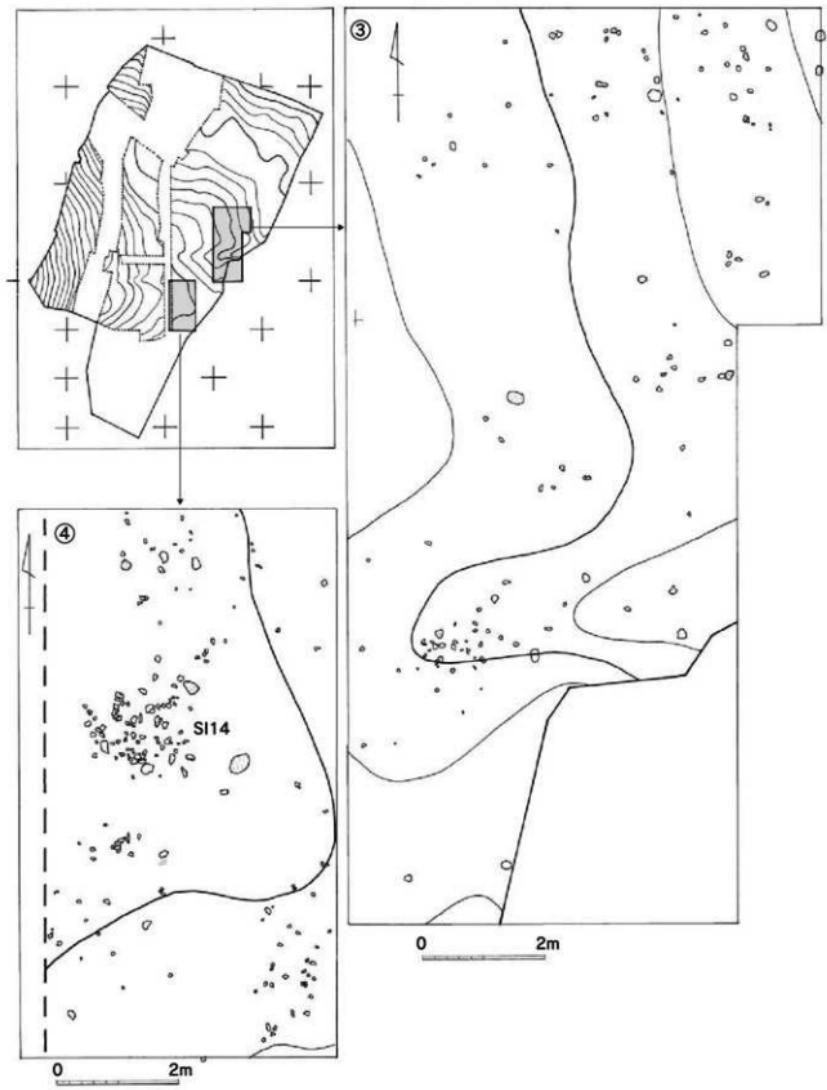
直徑約 80cm で、二段掘りになっている。VII 層を掘り下げている途中で気付き、北東部を一部掘り下げてしまっていたが、楕円形と思われる。埋土中に炭化物粒や Kr-kb 粒をわずかに含む。VIII a 層面での検出である。

PI(第 16 図)

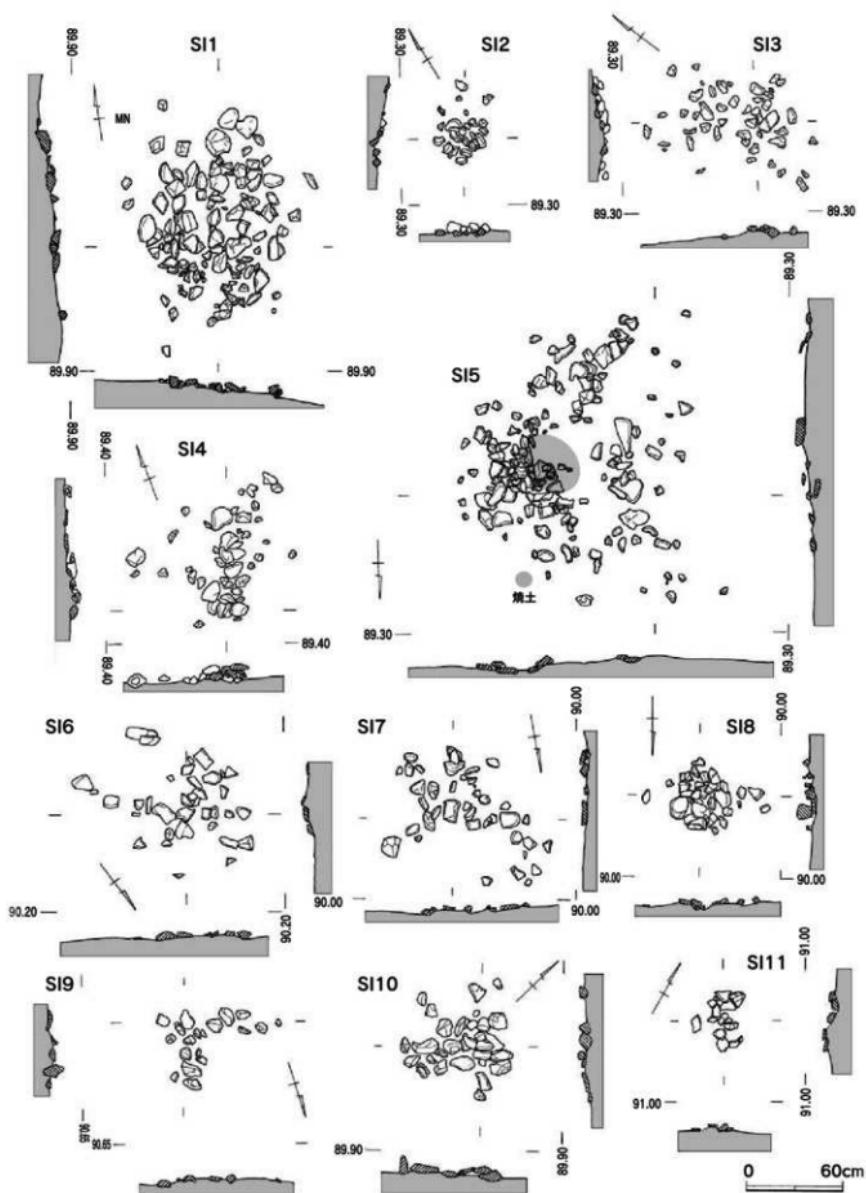
直徑約 25cm で、二段掘りになっている。検出面からの深さは約 25cm であった。埋土中に碓 1 点と石核(第 32 図 59) が出土した。炭化物粒と AT 粒をわずかに含む。



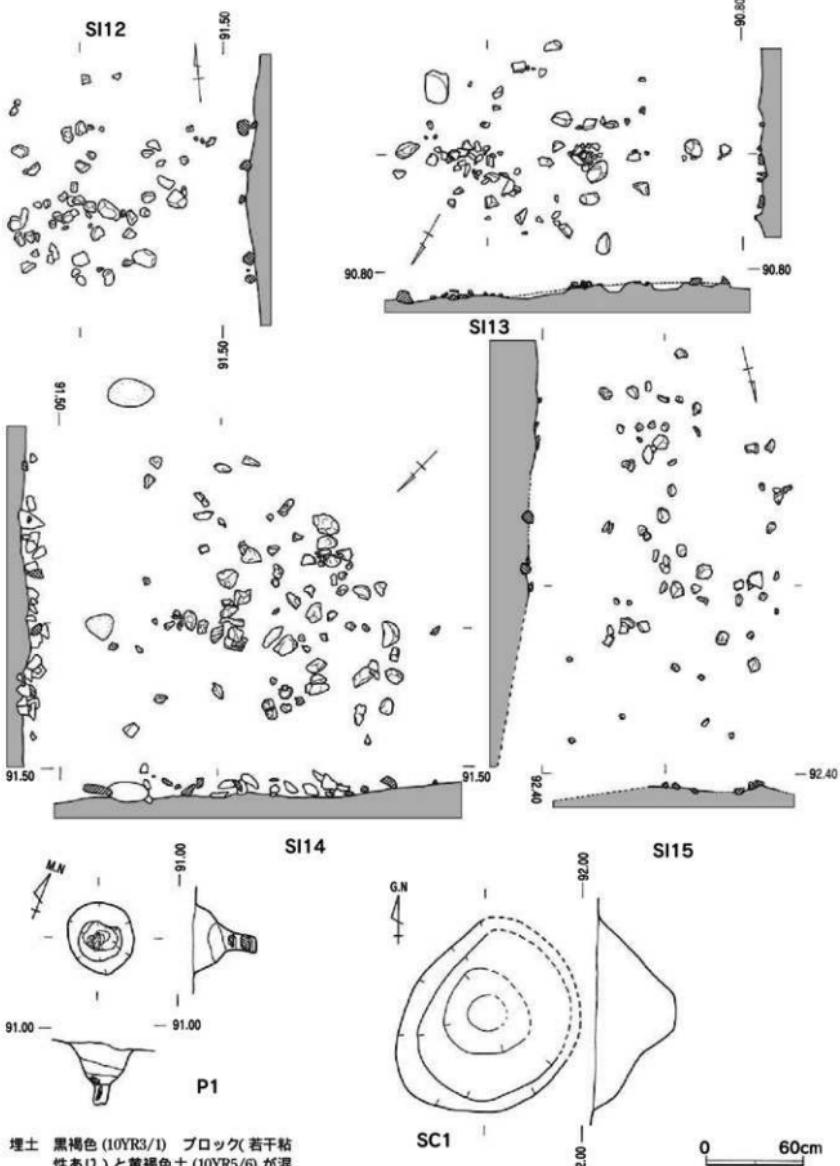
第13図 旧石器時代第Ⅰ文化層 碪群・散礫検出状況図(1)(S = 1/80)



第14図 旧石器時代第Ⅰ文化層 砥群・散砾検出状況図(2) (S = 1/80)



第15図 旧石器時代第Ⅰ文化層 遺構実測図(1)【砾群】(S=1/30)



埋土 黒褐色(10YR3/1) ブロック(若干粘性あり)と黄褐色土(10YR5/6)が混在する。やや締まりあり。炭化物粒を少し含む。ATを少し含む。

埋土 黒褐色土(若干粘性あり)と暗褐色土(軟質)締まりあり。炭化物粒とKr-kb粒をわずかに含む。

第16図 旧石器時代第Ⅰ文化層 遺構実測図(2)【礫群・ピット状・土坑】(S = 1/30)

② 出土遺物

旧石器時代第Ⅰ文化層からは、第3表のとおり、合計826点の石器が出土した。器種ごとにみると、角錐状やナイフ形といった定型的な器種は10種56点で、全体の6.8%となる。石材ごとにみると、10種類に分類でき、最も多かったのが黒曜石で全体の

60%を超える。次にホルンフェルスの15%、頁岩の12%と続く。黒曜石は桑ノ木津留系が58%、日東系が20%、腰岳系とえびの周辺がともに7%である。いずれも剥片・チップの割合が高いことからみても、黒曜石・頁岩・ホルンフェルスの3石材が本遺跡の搬入・消費の中心になっていたものと考える。

区	石材	頁岩	ホルンフェルス	流紋岩	珪質頁岩	細粒砂岩	砂岩	尾鈴酸性岩	黒曜石	チャート	サヌカイト	その他	計
A	角錐状石器	1	1	2					3	1			8
	ナイフ形石器	7	4			1							12
	尖頭器		1										1
	台形石器								1				1
B	石錐								1				1
	スクレイパー	3	4										7
	二次加工剥片	1	4										5
C	石核	6	7						1				14
	敲石					3	1						4
	亜石器					3							3
計	剥片	80	104	10	1	16	2	1	201	12	1		428
	チップ	1	3			6	1		292	6	21	12	342
	計	99	128	12	1	23	9	2	499	19	22	12	826

第3表 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器組成表

角錐状石器（第24図2～9）

角錐状石器は、旧石器時代第Ⅰ文化層から第Ⅱ文化層にかけて、総数23点が出土し、すべて図示した。うち、8点が旧石器時代Ⅰ文化層出土である。特に分類はしなかったが、特性として7項目を設け、それぞれ記号で示した。

特性

加工面数 : 1 二面(裏面の加工なし)
2 三面

断面 : ① 三角形、② 台形、③菱形

素材の厚さ

: a 分厚い、

i 薄い(正面後に素材剥離面が残る)

縁辺加工

: A あり、イ なし

基部加工

: I あり(厚みを減じている)、

II なし

稜上調整

: A あり、B なし

破損

: a 完形、b 先端部欠損、

c 基部欠損、d 半折品、

e 先端部のみ、f 基部のみ

番号	注記番号	区	グリッド	層	石材	石材分類	同一母岩	接合資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	国土X座標	国土Y座標	レベル	備考	特性				
																	加面数	素材の厚さ	縁辺加工	基部加工	稜上調整
2	129-1	C	N17	VII	頁岩	a	5	3.40	1.80	1.10	4.9	97863.901	43721.745	90.374	據辺加工は大柄な加工のみ。	1 ①	あ	イ-	A	c	
3	275	C	M16	VII	ホルンフェルス	e	34	2.80	2.00	1.35	4.7	97871.556	43718.078	90.934	據辺加工は大柄な加工のみ。	1 ①	あ	ア-	A	c	
4	235	C	N17	VII	黒曜石	黒	g	2.25	0.90	0.60	1.0	97861.087	43725.738	89.963	小孔(?)が、大柄な加工と細かな加工が事に施されている。	1 ①	あ	ア	I	a	
5	236	C	N17	VII	黒曜石	黒	g	2.80	1.25	0.85	2.3	97862.341	43725.436	90.024	素材に不純物が多いが、最後まで丁寧に作られている。	1 ②	あ	ア	II	a	
6	23	C	M16	VII	流紋岩	c	28	1.95	1.55	0.65	1.7	97866.618	43717.755	90.967	薄い削片を使用し、主要剥離面からかの加工のみ、失敗品か?	1 ①	いい	ア-	A	c	
7	174	C	M16	VII	流紋岩	c	28	3.95	2.55	2.40	18.3	97875.849	43717.038	90.979	大きな形を作る途中で破損したのが想われる。	2 ①	あ	ア-	B	b,c	
8	169	C	N18	VII	チャート	チャート		3.80	1.75	1.55	9.5	97855.573	43727.877	89.832	全面に細かな加工が施されている。やや彫曲している。	2 ①	あ	ア-	A	b,c	
9	354	C	M16	VII	黒曜石	黒	b	2.50	1.30	0.75	1.6	97873.703	43718.241	90.995	複数の削片を使用し、辺縁の両側から加工。一般的、自然面を残す。	2 ①	いい	ア-	B	b,c	

第4表 旧石器時代第Ⅰ文化層 角錐状石器観察表

加工面数をみると、裏面の加工を施していない二面加工が5点、三面加工が4点である。断面は三角形が4点、台形と菱形がともに2点である。素材には分厚い剥片を用いているものが6点で、大半を占める。縁辺の加工は7点に施してあるが、残り1点にも大柄な加工はみられる。部分的ではあるが稜上の調整を施しているものも6点と大半を占める。破損状況を見ると、基部破損が3点、先端部および基部破損が3点となり、完形は2点である。そのため、6点は基部を加工しているかどうかの判別ができなかった。

ナイフ形石器（第24～25図10～21）

ナイフ形石器は、12点が出土した。その形態から、次の4種に分類した。

ア 二側縁加工の切出形（10～13）

イ 二側縁加工（14）

ウ 一側縁加工（15～19）

エ 基部加工（20・21）

10～13は二側縁加工の切出形のナイフ形石器である。不定形の剥片を素材にしている。10・13の打面は背部の先端部付近に位置する。基部には、左右両側面とも裏面からの加工がみられ、裏面からの刃溝し加工が施されている。背部には裏面および表面からの交互調整がみられ、両面に刃溝し加工を施している。刃は、10・11・13は左位に、12は右位に設定されている。いずれも刃部には、使用痕と思われる微細な不連続の剥離が見られる。

14は二側縁加工のナイフ形石器である。素材は不定形の剥片で、打面は背部の先端部付近に位置する。基部には、左右両側面とも裏面からの加工がみられ、背部には裏面および表面からの交互調整がみられる。

15～19は一側縁加工のナイフ形石器である。いずれも不定形の剥片を素材にしている。素材の縁辺を刃部にし、それと対面する背部に加工が施されている。背部の加工は、15～18は片面からののみ、19は両面からの交互調整が施されている。

20・21は、基部加工のナイフ形石器である。不定形の剥片を素材にしている。基部を作り出した加工は片面加工である。基部加工の場合、剥離剥片軸を中心にその両側面を加工したもののが一般的であるが、これは打面が、茎形をした基部の一側辺に位置している。剥片剥離軸と形態軸（基部と先端を結ぶ）の角度差は約45度である。基部の両側面に

裏からの調整が見られ、裏面からの刃溝し加工が施されている。また、鍵状の基部側縁と刃部側縁との交点は鋭角に突出し、石器全体が矢印形のような外形を呈している。両側縁上半から先端にかけては素材剥片の縁辺であるが、右側縁には微細な剥離痕が観察される。いずれも黒色の頁岩製である。

尖頭器（第25図22）

尖頭器は1点のみの出土である。不定形の剥片を素材とし、裏面には素材面を残す片面加工の尖頭器である。素材の打面は先端部付近に位置する。両側面の加工は裏面からのみである。先端部が欠損している。

台形石器（第25図23）

台形石器は1点のみの出土である。日東系の黒曜石を素材とし、二側縁を加工、素材の刃部はやや斜刃である。基部には厚みが減ずる加工が施されている。

石錐（第25図24）

石錐は1点のみの出土である。錐としては小型であるが、凹形に加工された辺によって尖る小さな先端部が形成されているため、石錐とした。石材はにぶい光沢をもつ桑ノ木津留系の黒曜石である。

スクレイパー（第26～28図25～33）

スクレイパーは7点出土している。接合資料（25～27）の25は自然面を除去した剥片で、裏側からの細かい調整剥離がみられる。

28・29は、分厚い不定形の剥片を用いた円形搔器である。30は一側縁だけに、31は先端部にのみ加工が施されている。32は、薄めの不定形剥片を用い、弧状の刃部を形成している。33は縦長の剥片の両側縁に連続的な加工によって刃部を形成している。先端部は剥片の縁辺であるが、微細剥離が観察できる。

二次加工剥片（第28図34～38）

34～38は二次加工剥片である。34と35は割れ、37と38は折れによる接合資料である。

敲石（第29図39～42）

39～42は敲石である。39はずっしづとした砂岩製、40は細かい調整に適した大きさで尾鈴酸性凝灰岩製である。41・42は細長い砂岩製で、中間で折れている。側面にはつきりしない磨痕（ナレ面）が観察される。

43～45は亞石器とした。全体にはつきりしない磨

痕があり、いくつかの凹面が観察される。

石核（第31～35図59～72）

石核は14点出土したが、13点を図示した。51は同一母岩3の項で述べる。59はP1から出土した。打面転移を頻繁に行い、剥片剥離している。規則性はほとんどない。60・61は、節理面で真っ二つになつた亜円礫が素材と思われる。平らな節理面の縁辺を時計回りに移動しながら、求心状に剥片剥離を行つてゐる。剥離される剥片は不定形である。石材は表面が暗灰色に風化している。節理が発達したホルンフェルスである。62は分割した礫の分割面を打面とし、周縁をぐるりと回りながら剥片を剥離している。剥離される剥片は不定形であり、石核は円錐状を呈している。63は打面転移を繰り返して剥片剥離をした石核である。上面奥からの剥離の後、この作業面を打面に転移して剥片剥離を行つてゐる。その後、正面の2縁辺を打面として剥片剥離を行い、最後に下面の2縁辺を打面として剥片剥離を行つてゐる。サイコロを向こう側に転がすように3度の打面転移が行われたことが窺える。64は上面右側から大きめの剥片を剥離した後、この面に打面が転移している。上面のほぼ全周の縁辺を打面として小形の剥片を剥離した後、さらに左側面に打面を転移して剥片剥離を行つてゐる。裏面から右側面にかけては、打角が60～70度くらいの急斜度剥離が行われ、断面が三角形状を呈している。65は剥片を素材に、66・67・71・72は円礫を素材にしている。いずれも打面転移を頻繁に行い、剥片剥離をしている。規則性はほとんどない。68～70は円礫の自然面を除去または分割して打面をつくり、打面転移をして周縁をぐるりと回りながら同一方向から剥片を剥離している。

剥片（第37～49図73～141）

剥片は428点出土したが、接合資料や同一母岩、石材ごとの抽出により、85点を図示した。

チップ

チップは342点出土したが、石材ごとの分布状況のみを掲載した（第22～23図）。

同一母岩 3（第31図）

1・5・120の3つの接合資料と、3点の剥片を同一母岩とした。石材は暗灰色のホルンフェルスである。ホルンフェルスとした根拠は、黄褐色の粒を全体に含むことと自然面に董青石が風化したと思われる窪みが多数みられることである。

接合資料1（第31図46～51）は、剥片5点、石核1点からなる。剥離の順序は、46→47→48→49→50で、最後に51の石核が残った。打面作出後、自然面を剥離。打面転移後剥片剥離を行つてゐる。反対側も同じように縁辺部を打面転移することで求心状に剥離が行われていることが窺える。

接合資料5および12（第31図52～55）は、剥片同士の接合である。56～58は剥片で、これらは接合しない。以上13点は、その石材と出土位置が近いことから同一母岩とした。

同一母岩 2（第37図）

接合資料4と4点の剥片からなる。石材は灰色の斑模様のある暗灰色のホルンフェルスである。

接合資料4（第37図73～75）は、円礫の自然面除去のために剥離された剥片である。剥離の順序は73→75→74で、石核は見つかっていない。

76～79の剥片はいずれも接合していないが、石材が酷似しているために同一母岩とした。

接合資料（第38～39図）

接合資料10（第38図80・81）、剥離の順序は80→81）。接合資料9（第38図82・83）、剥離の順序は83→82）。接合資料15（第38図84～86）、剥離の順序は84→85→86）。接合資料12（第39図89・90）、剥離の順序は89→90）は、いずれも剥片剥離に伴う接合資料である。

103・104はアクシデントによる折れと思われる。

同一母岩 1（第41図91～95）

91～95はいずれも接合していないが、石材の特徴が酷似しているために同一母岩とした。14のナイフ形および32の石核も含めている。石材は、わずかに紫色がかっている暗灰色のホルンフェルスである。

同一母岩 25（第45図）

接合資料10（121～123）および接合資料11（124・125）は、出土位置が近く石材が酷似しているため同一母岩とした。接合状況は、いずれも割れや折れによるものである。石材はやや緑色がかかった暗灰色のホルンフェルスで、黄褐色の筋がひっかき傷のように入っている。極めて特徴のある石材だが、他に剥片やチップは見つかっていない。石材にするために剥片の状態で搬入したものかもしれない。

同一母岩 42（第47図）

4点の剥片（128～131）は、石材の特徴および出土位置が近いことから同一母岩とした。ただし、128

のみ出土位置が離れており、色調もやや明るいことから別である可能性がある。いずれも不定形の剥片である。石材は白っぽく風化した流紋岩で、新鮮な割れ面は暗灰色である。無斑晶と思われる。

剥片(第37～49図)

96～120、126・127、132～141は、剥片である。本遺跡の第I文化層で出土した剥片は428点であるが、そのうち85点を図化した(同一母岩・接合資料で掲載した分を含む)。

126は縦長の剥片で、石材は黄褐色と暗灰色が相互に層をなし、ざらついた触感に風化しているホルンフェルスである。特徴のある石材であるにもかかわらず、他に剥片やチップが見つかっていないことから、素材にするために剥片の状態で搬入したものかもしれない。96～105、108～111、114は、ほとんど風化していない頁岩、115・116、118・119は、斑模様がある頁岩である。106・107、117は風化していないホルンフェルス、112・113は斑模様のあるホルンフェルス、121～126は、流れたような模様のあるホルンフェルス、136～139はオリーブ色に風化したホルンフェルス、140・141は縞模様(流離構造)がみられ、風化しているホルンフェルスである。120は斑模様のある砂岩、127は流れたような模様のある珪質頁岩、135は尾鈴酸性凝灰岩である。

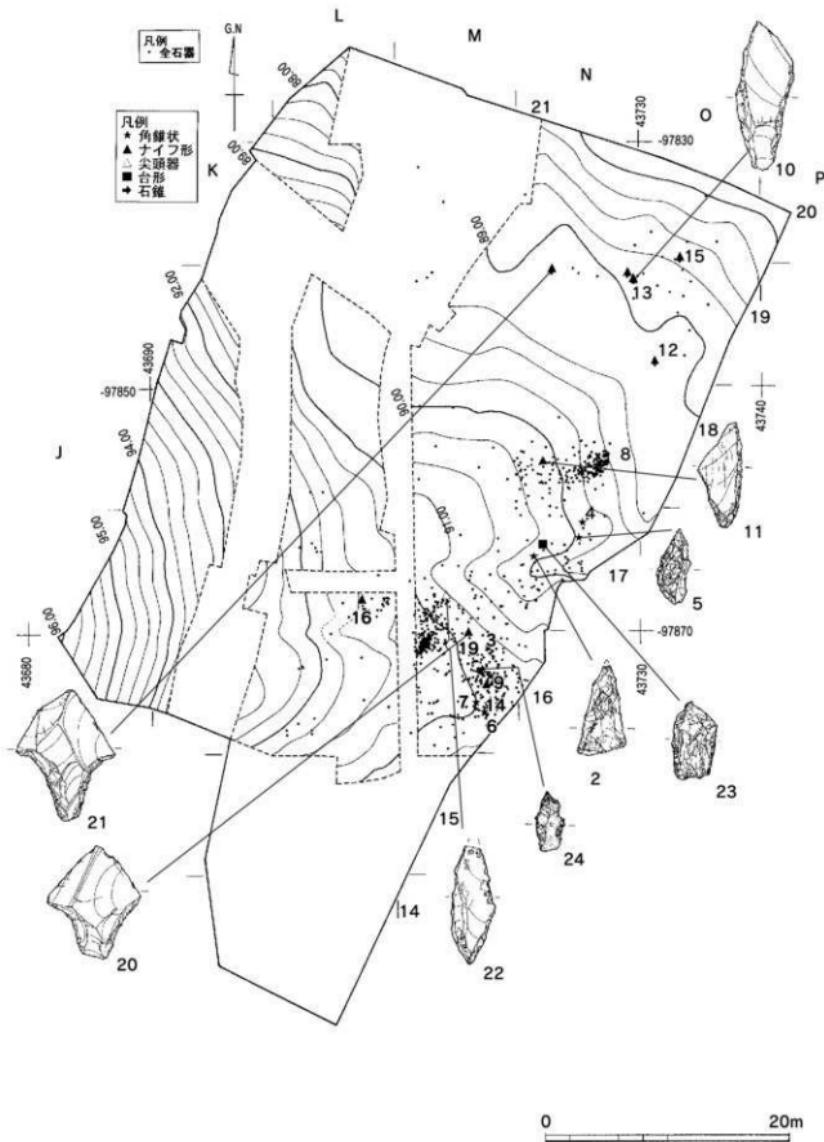
128～131、133は黄褐色に風化した流紋岩である。

(3) 小結

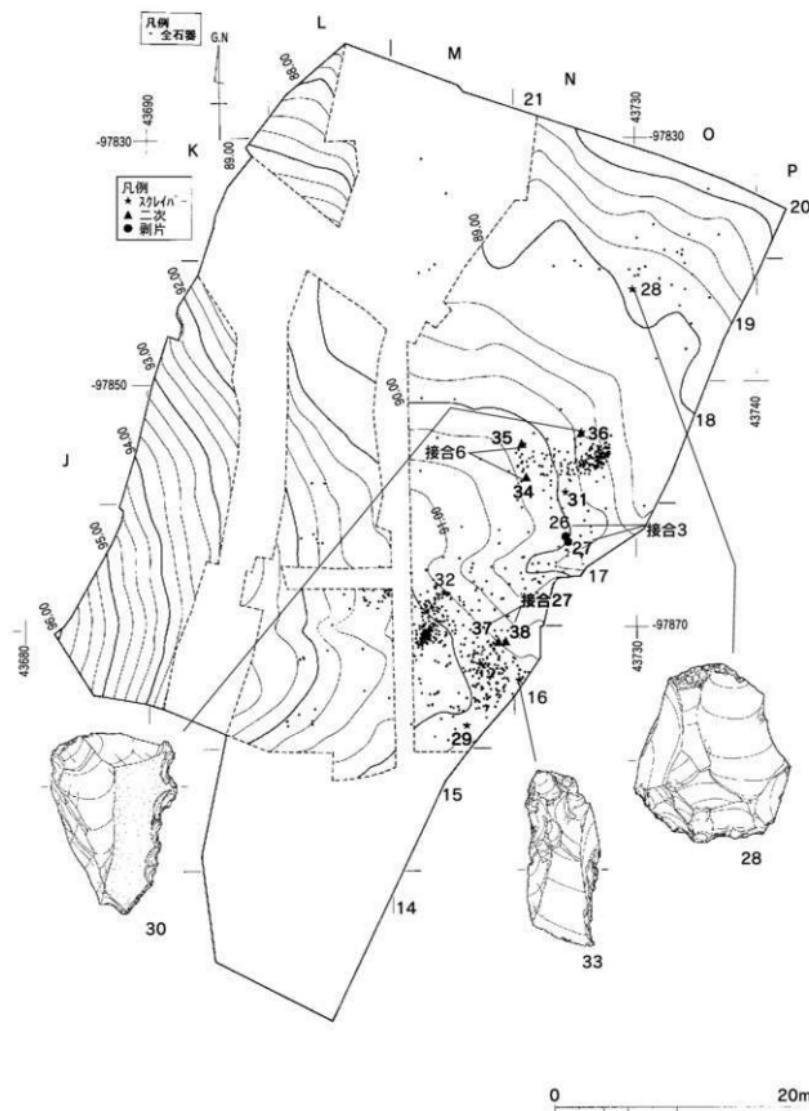
旧石器時代第I文化層は、礫群15基と頁岩・ホルンフェルス製の石器群、黒曜石の剥片・チップ群に特徴づけられる。頁岩・ホルンフェルスはともに近くの一つ瀬川流域で容易に採集され、遺跡内での加工・消費量も多い。もっとも出土数の多い黒曜石はほとんどが桑ノ木津留やえびの周辺から搬入されている。石器組成をみると、狩猟用と考えられる角錐状石器やナイフ形石器、皮をなめしたり、穿孔したと考えられるスクレイバーや石錐、これらを製作した道具である敲石と作業で生じた大量的の剥片やチップの出土などの特徴をあげられる。さらに作業場周辺の礫群も検出された。

また、すでに述べたとおり、当時、本遺跡は現在より7°C 前後も低かったと考えられ、クマザサ属を主体とした草原植物に覆われていた。クマザサなどの笹類は、寒さに強く寒冷な地域や季節でも枯れずに兔や鹿などの草食動物の食料となる。

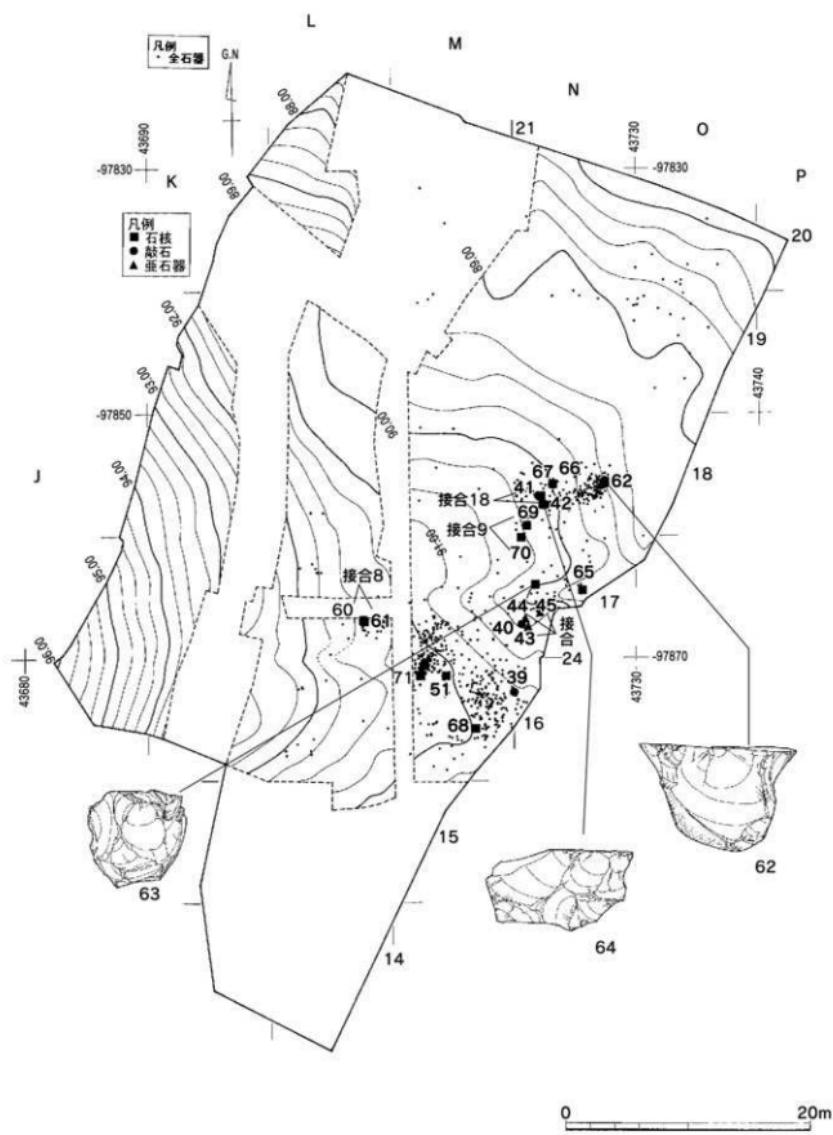
これらのことから、地元産の石材や桑ノ木津留やえびの方面から、素材としての小さめの黒曜石を得た人々が、本遺跡で短期間のキャンプをしながら狩猟を行っていたものと考えられる。



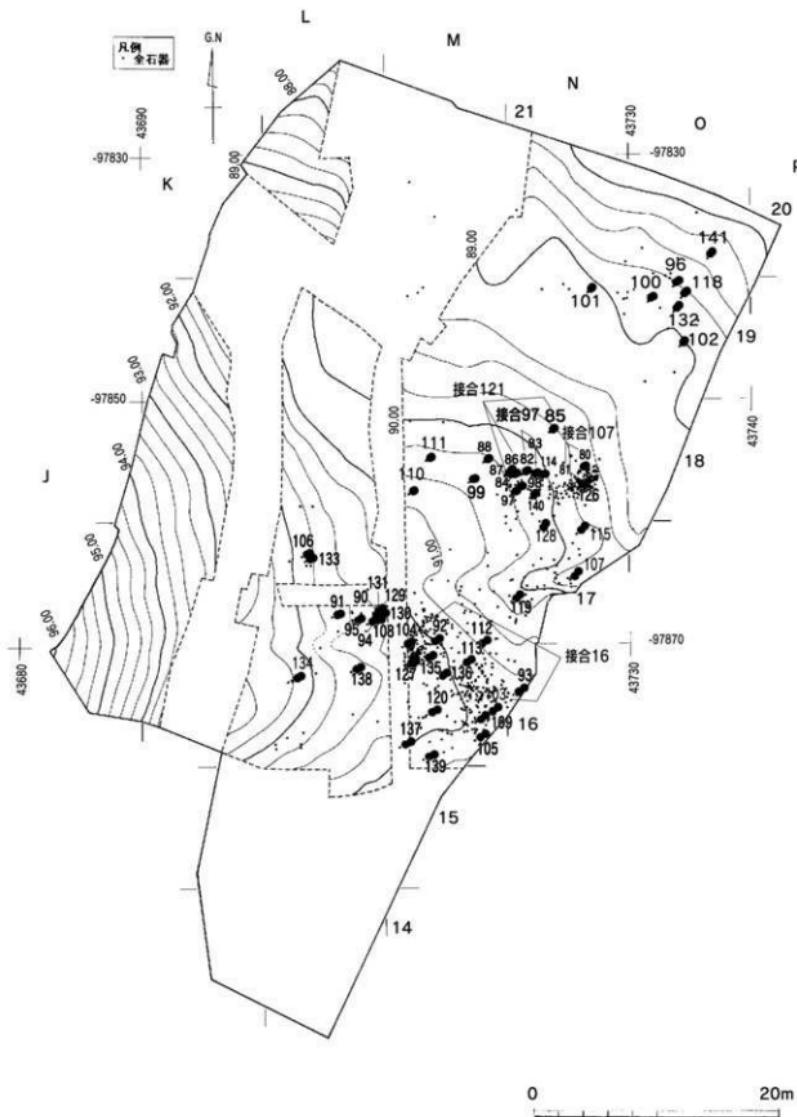
第17図 旧石器時代第Ⅰ文化層 角錐状石器・ナイフ型石器・尖頭器・台形・石錐分布図 (S = 1/400)



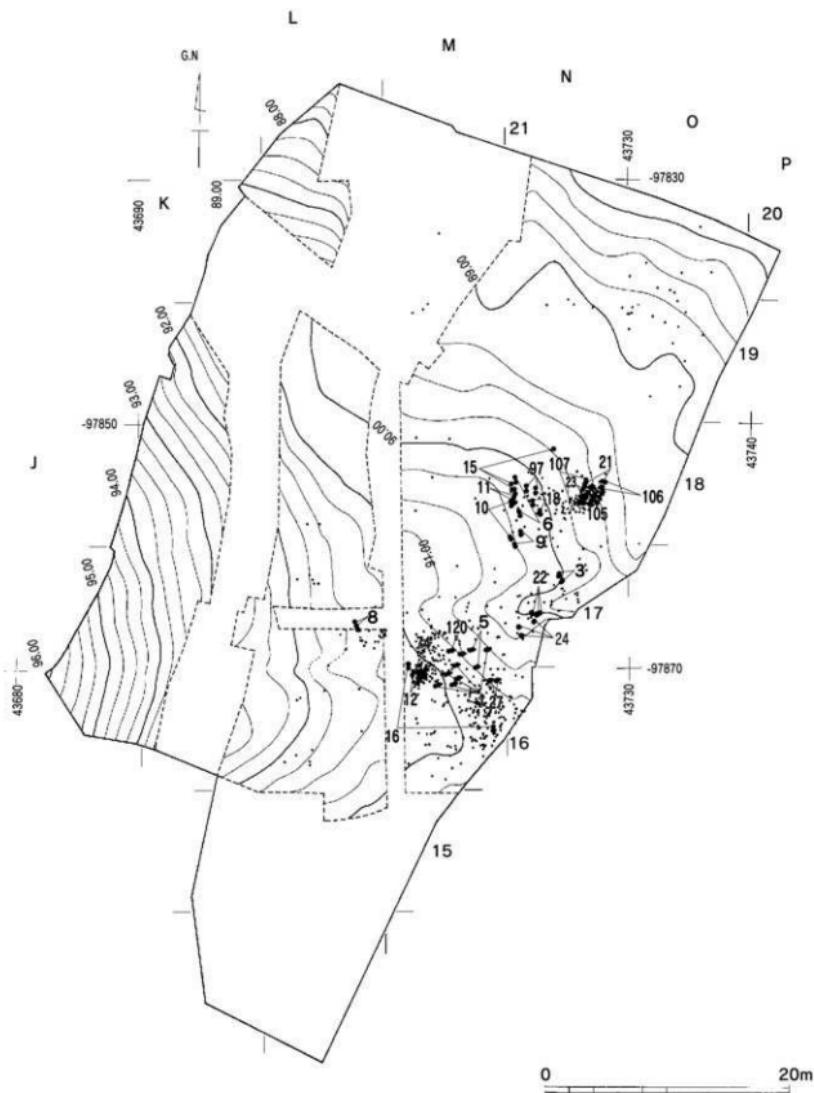
第18図 旧石器時代第I文化層 スクレイパー・二次加工剥片・剥片分布図 (S = 1/400)



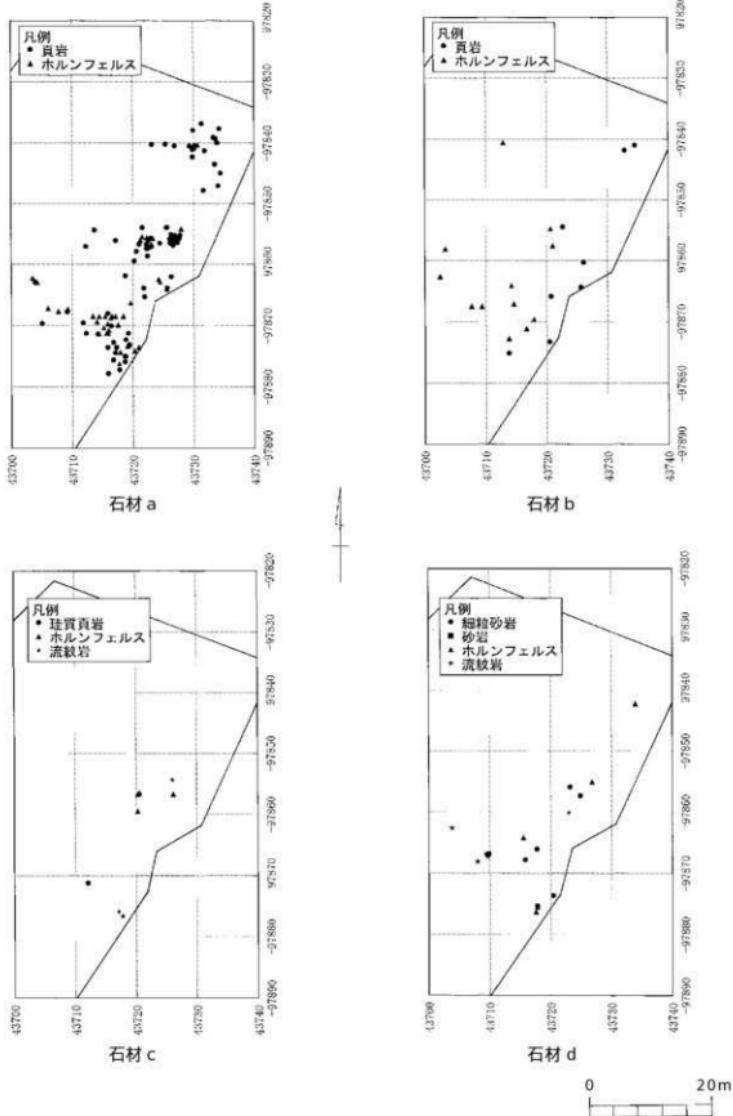
第19図 旧石器時代第1文化層 石核・敲石・亜石器分布図 (S = 1/400)



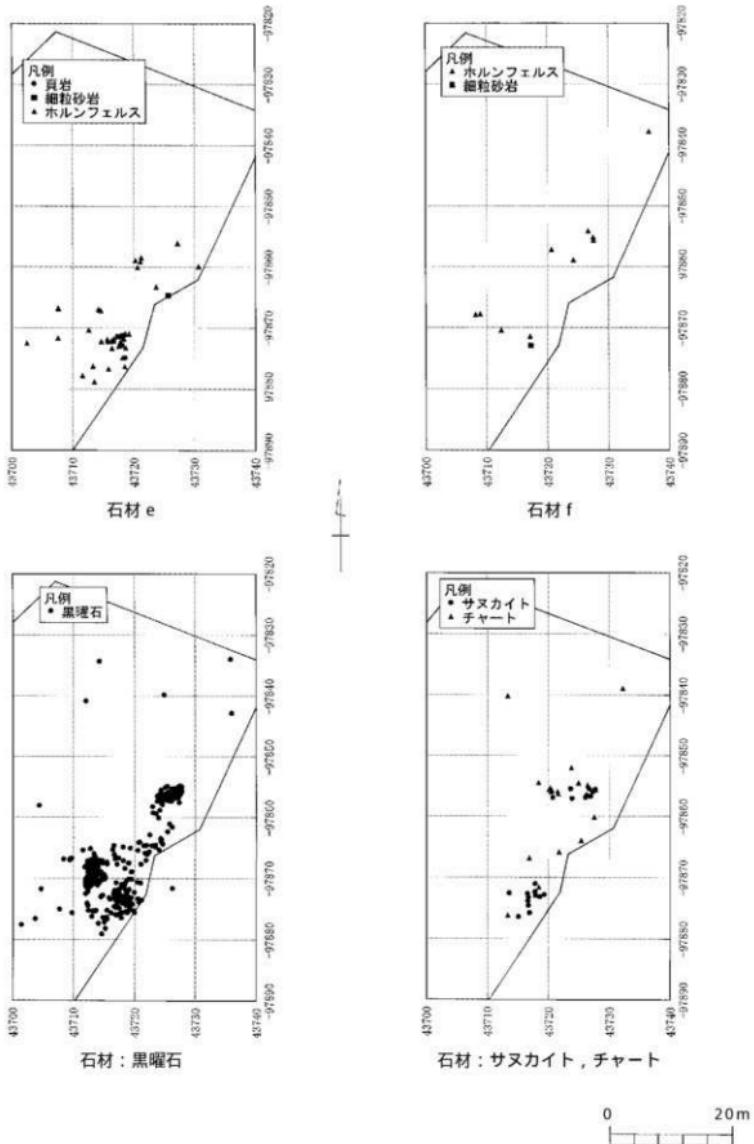
第20図 旧石器時代第Ⅰ文化層 遺物分布図 ($S = 1/400$)



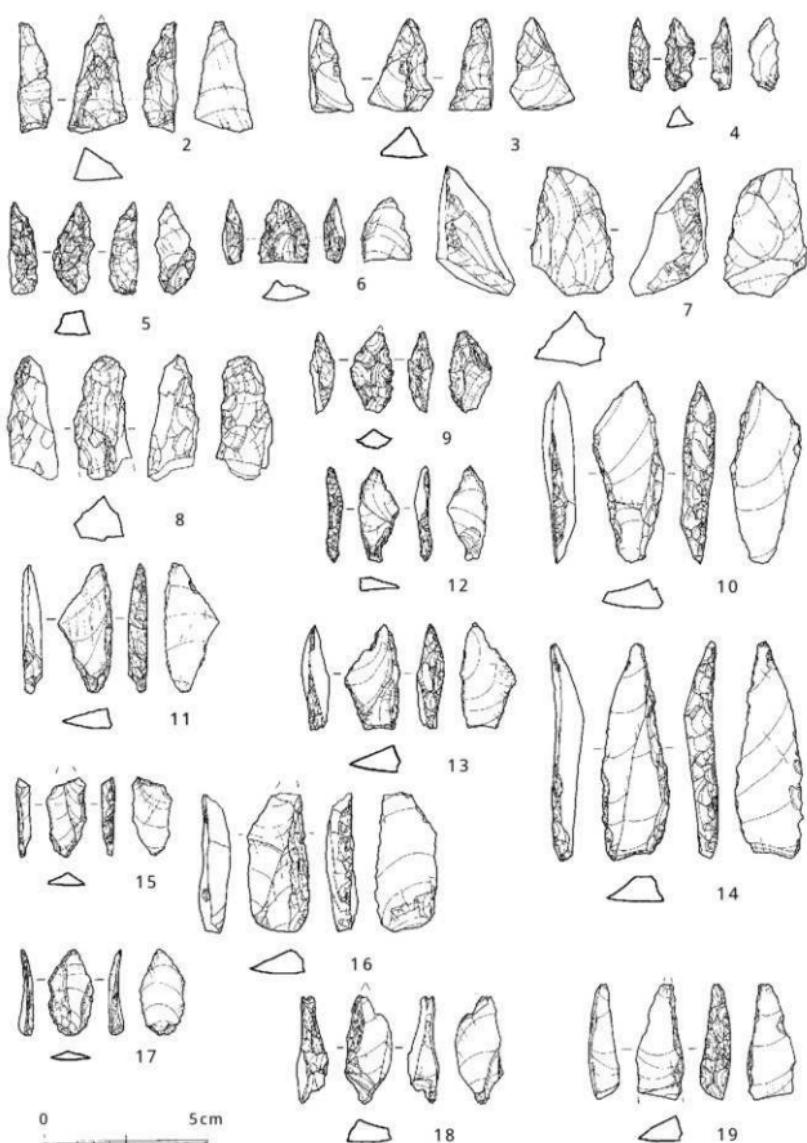
第21図 旧石器時代第Ⅰ文化層 C区接合関係図 ($S = 1/400$)



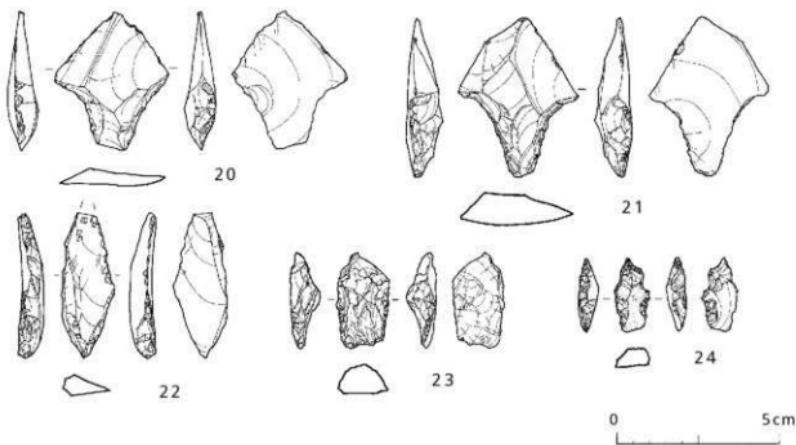
第22図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石材別分布図(1)



第23図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石材別分布図(2)



第24図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(1)【角錐状・ナイフ形】($S = 2/3$)

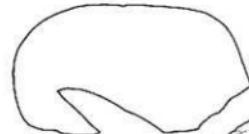
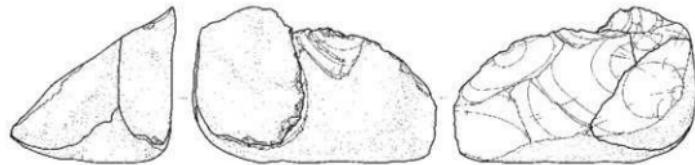
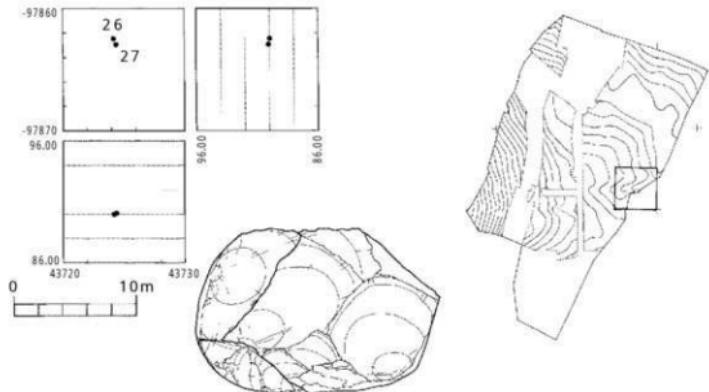


第25図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(2)【ナイフ形・尖頭器・台形・石錐】(S=2/3)

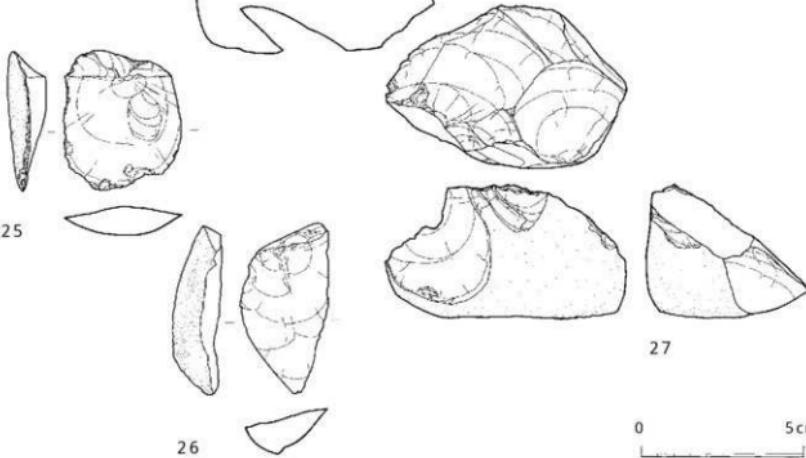
番号	注記番号	区	グリッド	層	器種	石材	石材分類	同一母岩	接觸資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル	備考
10	1424	A	N19	VII	ナイフ	頁岩	a	5		5.60	2.20	1.05	9.6	-97840.531	43729.307	88.894	
11	45	C	N18	VII	ナイフ	ホルンフェルス	a			4.00	1.70	0.55	3.6	-97856.054	43722.458	90.283	
12	1428	A	O19	VII	ナイフ	頁岩	a	5		2.85	1.25	0.50	1.3	-97847.814	43731.589	89.162	
13	1426	A	N19	VII	ナイフ	頁岩	a	9		3.20	1.70	0.85	3.9	-97841.034	43729.781	89.022	
14	190	C	M16	VII	ナイフ	ホルンフェルス	a	1		6.65	2.10	1.00		-97874.365	43717.891	90.975	
15	1475	A	O20	VII	ナイフ	頁岩	a	9		2.40	1.20	0.40	1.1	-97839.319	43733.606	88.663	
16	315	C	L17	VII	ナイフ	ホルンフェルス	b	2		4.30	1.90	0.95	8.5	-97867.410	43707.656	91.787	
17	1057	C	-	VI	ナイフ	細粒砂岩	d	33		2.65	1.35	0.45	1.0	-	-	-	
18	921	C	-	VII	ナイフ	頁岩	a			3.30	1.50	0.95	3.8	-	-	-	
19	470	C	M16	VII	ナイフ	ホルンフェルス	e	34		3.55	1.50	0.95	3.7	-97871.732	43716.715	90.956	
20	90	C	M16	VII	ナイフ	頁岩	a			4.30	3.60	0.85	8.9	-97870.056	43716.430	91.179	
21	1438	A	N19	VII	ナイフ	頁岩	a	5		4.95	3.75	1.15	12.5	-97840.235	43723.111	89.157	
22	404	C	M17	VII	尖頭器	ホルンフェルス	b			4.45	1.70	0.80	5.2	-97867.031	43714.574	90.903	
23	90	C	N17	VII	台形	黒曜石	黒e			3.00	1.60	0.90	4.3	-97862.884	43722.494	90.141	
24	350	C	M16	VII	石錐	黒曜石	黒b			2.30	1.10	0.60	1.1	-97873.110	43717.477	90.990	

* 図17と18は、調査時の不備のため出土位置不明。ただし、VIないしVII層で出土したものと考えられる。

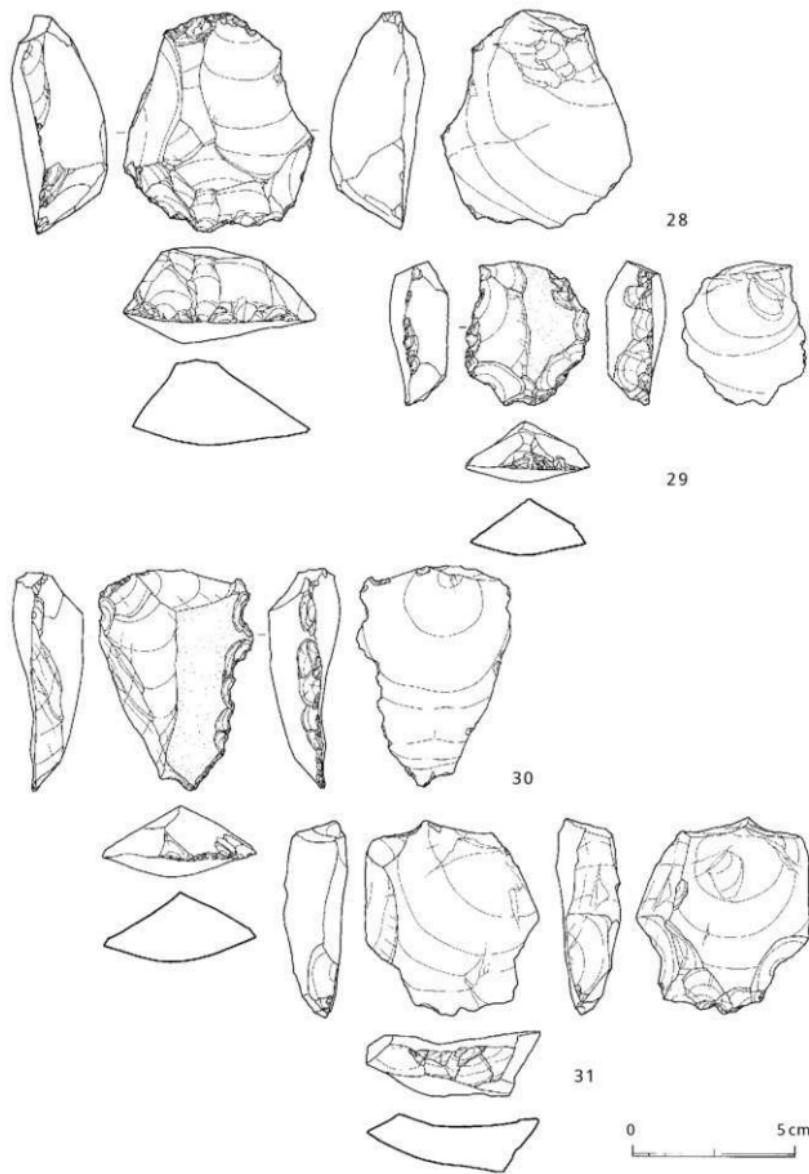
第5表 旧石器時代第Ⅰ文化層 ナイフ形・尖頭器・台形・石錐 計測表



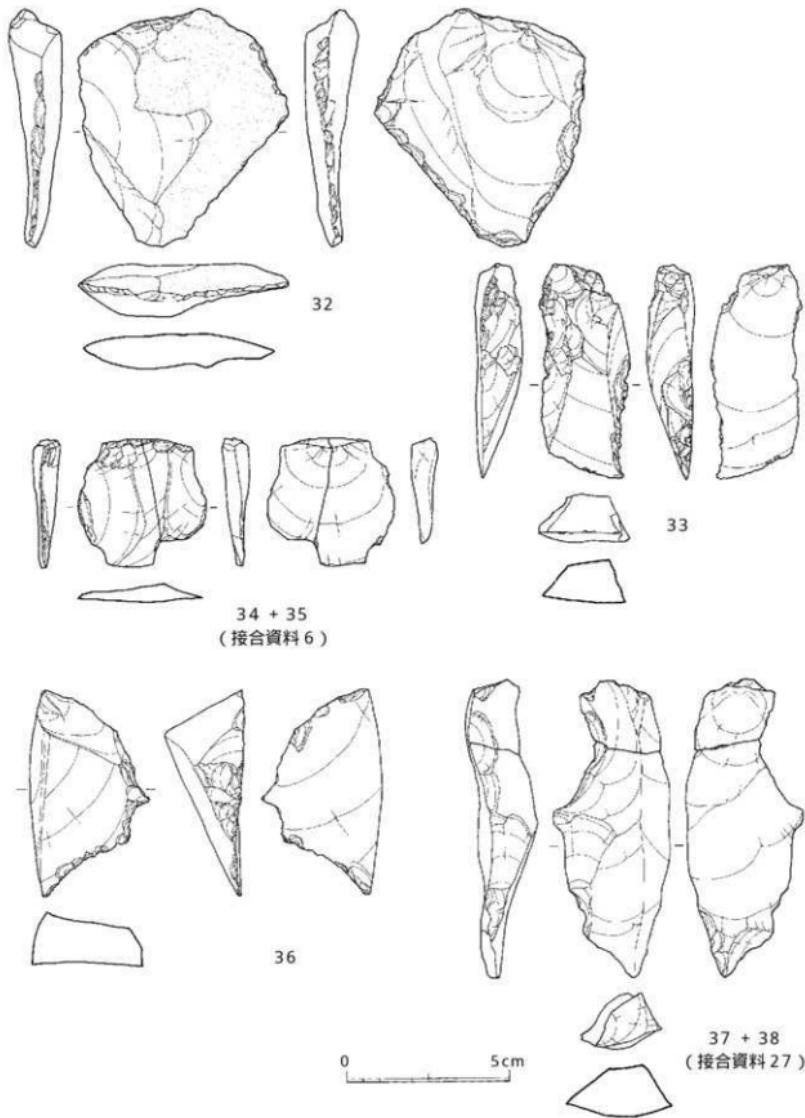
25 + 26 + 27 (接合資料3)



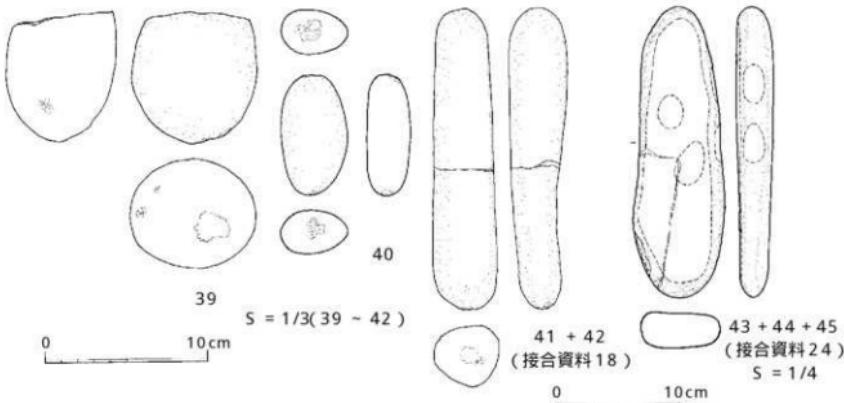
第26図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(3)【総合資料3、スクレイパー】(S = 2/3)



第27図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(4)【スクレイバー】(S = 2/3)



第28図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(5)【スクレイバー、二次加工剥片】(S = 2/3)



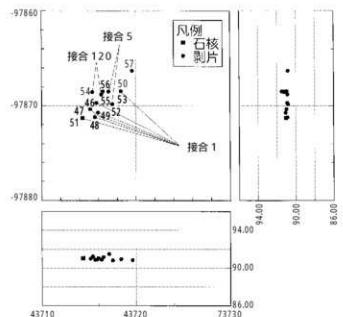
第29図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(6)【敲石・亜石器】

番号	注記番号	区	グリットド	器種	石材	石材分類	同一母岩	接合資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	國土座標X座標	國土座標Y座標	レベル	備考	
25	2	A	-	カラン	スクリーパー	ホルンフェルス	a	19	3	4.30	3.65	1.20	18.9	-	-	-	
26	89	C	N17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	19	3	5.20	2.80	1.60	17.2	-97862.456	43724.196	89.977	
27	242	C	N17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	19	3	5.00	7.40	4.10	143.6	-97862.922	43724.403	90.079	
28	1439	A	N19	VII	スクリーパー	頁岩	a	5		6.75	5.90	2.95	100.2	-97842.280	43729.847	89.025	
29	85	C	M16	VII	スクリーパー	頁岩	a			4.45	3.80	1.90	28.6	-97877.802	43715.921	90.994	
30	362	C	N18	VII	スクリーパー	頁岩	a	5		6.75	4.80	2.20	54.4	-97853.903	43725.584	90.011	
31	207	C	N18	VII	スクリーパー	ホルンフェルス	f			6.05	5.40	2.00	57.8	-97858.811	43724.200	90.198	
32	117	C	N16	VII	スクリーパー	ホルンフェルス	a	1		6.65	2.80	1.50	28.8	-97874.114	43720.282	90.890	
33	329	C	M17	VII	スクリーパー	ホルンフェルス	e			7.30	6.50	1.65	64.1	-97866.930	43714.184	90.969	
34	36	C	N18	VII	二次	ホルンフェルス	b	6	3.95	3.95	0.85	10.4	-97857.514	43720.992	90.382		
35	378	C	N18	VII	二次	ホルンフェルス	b	6	3.95	3.95	0.85	10.4	-97854.754	43720.643	90.164		
36	363	C	N18	VII	二次	頁岩	a	9		6.35	3.75	2.50	36.7	-97853.957	43725.526	90.046	
37	625	C	M16	VI	二次	ホルンフェルス	e	34	27	9.20	3.60	2.20	46.1	-97870.939	43718.595	90.904	
38	921	C	M16	VI	二次	ホルンフェルス	e	34	27	9.20	3.60	2.20	46.1	-97870.928	43719.175	91.003	
39	77	C	M16	VII	敲石	砂岩				7.95	7.60	6.60	564.4	-97872.685	43719.941	90.891	
40	209	C	N17	VII	敲石	尾鈴				7.30	4.10	2.70	114.9	-97867.149	43720.597	90.561	
41	202	C	N18	VII	敲石	砂岩		18	18.40	3.90	3.70	402.5	-97856.628	43722.025	90.216		
42	203	C	N18	VII	敲石	砂岩		18	18.40	3.90	3.70	402.5	-97857.389	43722.654	90.196		
43	125	C	N17	VII	亜石器	砂岩		24	23.65	7.50	3.10	809.3	-97867.310	43721.132	90.153		
44	126	C	N17	VII	亜石器	砂岩		24	23.65	7.50	3.10	809.3	-97866.652	43720.906	90.187		
45	128	C	N17	VII	亜石器	砂岩		24	23.65	7.50	3.10	809.3	-97866.194	43722.126	90.102		

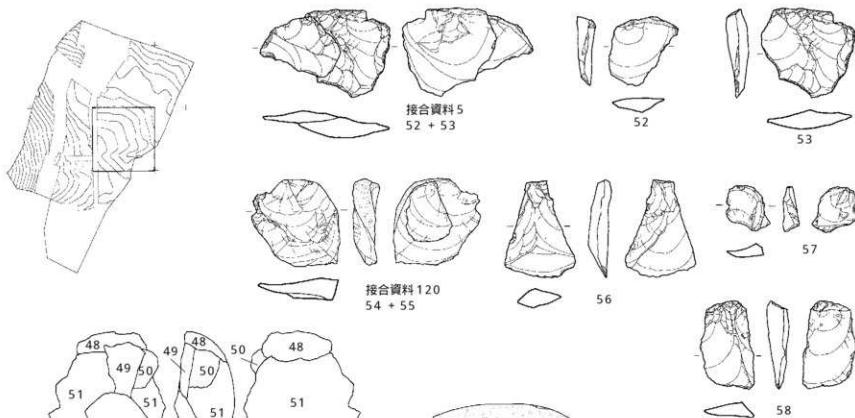
第6表 旧石器時代第Ⅰ文化層 スクレイパー・二次加工剥片・敲石・亜石器 計測表

番号	注記 番号	区	カラバ	層	器種	石材	石材 分類	同一 母岩 資料	接合 部	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	国土土標 X 座標	国土土標 Y 座標	レベル	備考
73	331	C	J17	VII	剥片	ホルンフェルス	b	2	4	4.35	4.40	2.05	43.3	-97868.615	43688.037	94.964	
74	333	C	J17	VII	剥片	ホルンフェルス	b	2	4	6.80	4.20	2.25	43.9	-97867.900	43689.264	94.708	
75	334	C	J17	VII	剥片	ホルンフェルス	b	2	4	5.10	5.85	1.70	47.5	-97867.944	43689.422	94.652	
76	1679	C	L18	V	剥片	ホルンフェルス	b	2	6	6.45	1.90	1.25	10.8	-97858.067	43703.348	92.006	
77	907	C	M17	VI	剥片	ホルンフェルス	b	2	6	4.40	4.50	1.00	16.9	-97864.108	43714.159	90.927	
78	2049	C	L17	V	剥片	ホルンフェルス	b	2	5	5.00	2.40	0.70	9.3	-97867.434	43709.351	91.725	
79	1443	A	M19	VI	剥片	ホルンフェルス	b	2	4	4.50	5.20	1.30	29.7	-97840.534	43712.887	89.028	
80	179	C	N18	VII	剥片	頁岩	a	9	107	4.20	3.60	1.25	14.7	-97856.515	43726.127	89.894	
81	173	C	N18	VII	剥片	頁岩	a	9	107	2.90	2.45	2.40	8.8	-97855.091	43726.269	89.895	
82	42	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	a	16	97	2.30	2.70	0.75	4.9	-97855.456	43721.508	90.315	
83	142	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	a	16	97	4.30	4.00	1.50	20.8	-97855.624	43722.268	90.174	
84	3	C	-	カクラン	剥片	ホルンフェルス	f	121	4.20	7.70	2.20	47.7	-	-	-	-	
85	686	C	L17	VII	剥片	ホルンフェルス	f	121	8.50	6.90	2.00	71.3	-97867.755	43708.869	91.315		
86	65	C	N18	VIII	剥片	チャート	チャート	46	15	2.65	1.30	0.70	1.4	-97855.702	43720.585	90.187	
87	155	C	N18	VIII	剥片	チャート	チャート	46	15	3.15	1.95	0.80	3.5	-97852.005	43723.737	89.991	
88	40	C	N18	VIII	剥片	チャート	チャート	46	15	2.65	2.80	1.00	7.5	-97855.327	43720.324	90.286	
89	39	C	N18	VIII	剥片	チャート	チャート	46	15	2.90	3.60	1.10	10.0	-97855.570	43720.093	90.397	
90	970	C	M18	VI	剥片	チャート	チャート	46	19	1.50	0.65	1.3	9.7	-97854.420	43718.354	90.362	
91	311	C	L17	VI	剥片	ホルンフェルス	a	1	4.90	1.70	0.90	5.3	-97867.170	43706.011	91.821		
92	98	C	M17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	1	1.65	2.40	7.50	2.6	-97869.386	43714.047	91.043		
93	316	C	N16	VII	剥片	ホルンフェルス	a	1	2.55	1.90	0.70	2.1	-97873.504	43720.936	90.890		
94	424	C	L17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	1	3.55	1.75	0.75	4.2	-97867.283	43709.240	91.344		
95	684	C	L17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	1	3.10	3.40	0.70	5.5	-97867.655	43707.695	91.357		
96	1417	A	O19	VI	剥片	頁岩	a	5	3.50	3.40	0.60	7.2	-97840.025	43733.883	88.934		
97	38	C	N18	VII	剥片	頁岩	a	5	4.10	2.30	1.20	6.8	-97856.694	43721.057	90.351		
98	138	C	N18	VII	剥片	頁岩	a	5	2.80	2.90	0.70	4.6	-97857.357	43722.187	90.231		
99	669	C	M18	VII	剥片	頁岩	a	5	3.20	2.30	0.50	3.0	-97856.083	43717.161	90.338		
100	1479	A	O19	VII	剥片	頁岩	a	5	6.75	4.30	2.15	55.7	-97841.273	43731.790	88.862		
101	1427	A	N19	VII	剥片	頁岩	a	9	1.60	2.50	0.45	1.3	-97840.497	43726.877	89.162		
102	1431	A	O19	VII	剥片	頁岩	a	9	1.80	1.40	0.35	0.7	-97844.965	43734.423	89.065		
103	372	C	M16	VII	剥片	頁岩	a	9	16	5.30	3.80	1.20	26.8	-97875.077	43718.805	91.050	
104	4	C	M17	VII	剥片	頁岩	a	9	16	5.30	3.80	1.20	26.8	-97869.603	43711.780	90.961	
105	92	C	M16	VII	剥片	頁岩	a	9	4.60	3.30	1.25	16.4	-97877.206	43717.767	90.911		
106	616	C	L17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	9	8.15	6.05	3.20	106.2	-97862.237	43703.484	91.755		
107	238	C	N17	VII	剥片	ホルンフェルス	a	19	4.65	4.30	1.65	22.7	-97864.074	43725.541	89.976		
108	687	C	L17	VII	剥片	頁岩	a	6.5	6.45	5.15	1.85	68.9	-97867.758	43709.144	91.252		
109	171	C	M16	VII	剥片	頁岩	a	2.05	3.40	0.85	6.0	-97875.749	43717.818	90.962			
110	29	C	M18	VII	剥片	頁岩	a	3.60	1.60	0.80	3.9	-97857.045	43712.229	90.594			
111	31	C	M18	VII	剥片	頁岩	a	1.65	1.40	0.45	0.8	-97854.326	43713.631	90.300			
112	262	C	M17	VII	剥片	ホルンフェルス	b	4	3.65	4.90	1.50	26.3	-97869.575	43717.915	90.843		
113	271	C	M16	VII	剥片	ホルンフェルス	b	4	2.20	2.00	0.50	1.4	-97871.105	43716.655	90.952		
114	196	C	N18	VII	剥片	頁岩	a	3.55	3.05	0.95	7.3	-97855.701	43722.907	90.146			
115	134	C	N17	VII	剥片	頁岩	b	43	3.00	4.05	1.10	12.1	-97860.304	43726.063	90.091		
116	233	C	-	VII	剥片	頁岩	b	43	4.30	1.55	0.60	2.5	-	-	-	-	
117	927	C	-	VII	剥片	ホルンフェルス	a	1	3.90	5.00	1.85	31.9	-	-	-	-	
118	1477	A	O19	VII	剥片	頁岩	b	31	4.70	3.70	1.00	10.7	-97840.950	43734.512	88.826		
119	127	C	N17	VII	剥片	頁岩	b	5	5.55	3.95	0.95	19.4	-97865.875	43720.715	90.136		
120	146	C	M16	VII	剥片	砂岩	b	5	5.00	2.70	0.75	8.0	-97875.140	43713.799	91.220		
121	1	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	c	25	10	8.20	2.70	2.25	12.2	-97856.694	43720.268	90.159	
122	60	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	c	25	10	8.20	2.70	2.25	12.2	-97856.640	43720.292	90.165	
123	117	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	c	25	10	8.20	2.70	2.25	12.2	-97859.433	43720.231	90.926	
124	2	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	c	25	11	10.50	4.40	1.85	41.8	-97856.618	43720.263	90.164	
125	119	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	c	25	11	10.50	4.40	1.85	41.8	-97856.410	43720.545	90.070	
126	154	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	c	8.90	3.60	1.45	40.8	-97856.636	43726.135	89.984			
127	371	C	M16	VII	剥片	珪質頁岩	c	30	3.25	2.80	2.00	14.6	-97871.215	43712.088	90.571		
128	234	C	N17	VII	剥片	流紋岩	d	42	6.10	5.50	1.20	42.4	-97860.059	43722.967	90.247		
129	677	C	L17	VII	剥片	流紋岩	d	42	3.45	1.70	0.95	4.1	-97867.140	43709.606	91.058		
130	678	C	L17	VII	剥片	流紋岩	d	42	3.15	1.90	0.90	3.2	-97867.273	43709.710	91.060		
131	682	C	L17	VII	剥片	流紋岩	d	42	2.40	2.00	0.80	1.7	-97866.843	43709.382	90.870		
132	1	A	O19	IX	剥片	ホルンフェルス	d	7	3.85	3.30	0.80	8.7	-97842.141	43733.903	88.447		
133	691	C	L17	VII	剥片	流紋岩	d	7	5.40	8.00	2.30	87.7	-97862.625	43703.755	91.055		
134	SII-3	C	L16	VII	剥片	ホルンフェルス	a	8.20	6.65	1.80	78.7	-97872.333	43702.705	90.440			
135	612	C	M16	VII	剥片	尾鈴酸性	g	5.40	8.25	1.85	77.9	-97870.733	43713.539	91.028			
136	12	C	M16	VII	剥片	ホルンフェルス	e	6.50	3.60	1.20	22.1	-97872.170	43714.672	91.195			
137	30	C	M16	VII	剥片	ホルンフェルス	e	6.80	5.30	1.70	48.9	-97877.776	43711.610	91.180			
138	64	C	L16	VII	剥片	ホルンフェルス	e	8.80	3.65	1.65	41.3	-97871.630	43707.564	91.090			
139	87	C	M16	VII	剥片	ホルンフェルス	e	6.80	5.15	1.50	42.0	-97878.796	43713.550	90.958			
140	59	C	N18	VII	剥片	ホルンフェルス	f	5.75	4.35	1.25	27.6	-97857.111	43720.637	90.157			
141	1471	A	O20	VII	剥片	ホルンフェルス	f	10.35	4.40	2.55	107.9	-97837.710	43736.650	88.383			

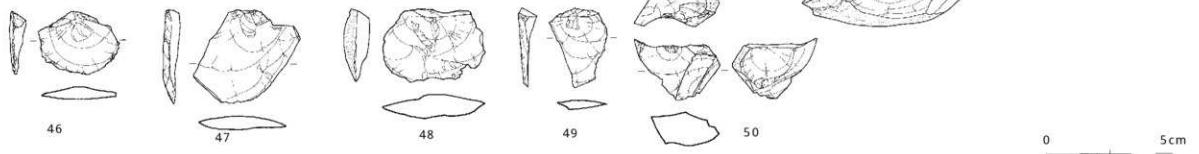
第 7 表 旧石器時代第 1 文化層 接合資料・剥片 計測表



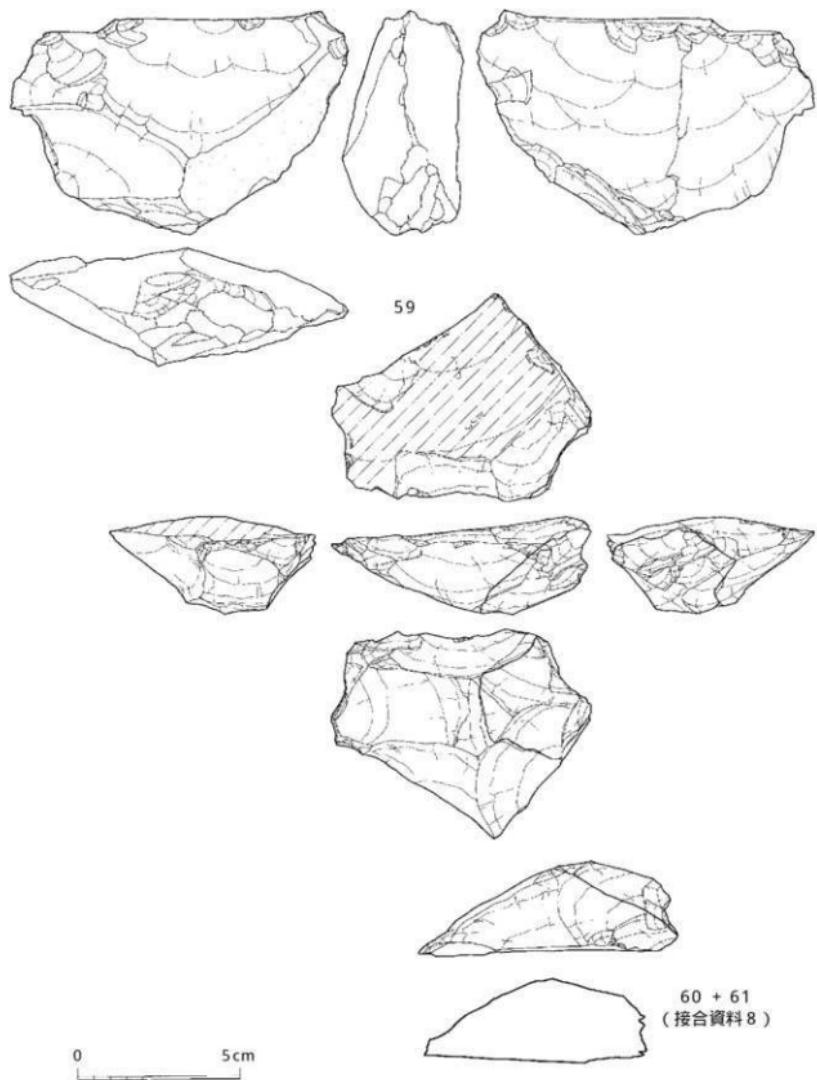
第30図 旧石器時代第Ⅰ文化層 同一母岩3分布図 (S = 1/400)



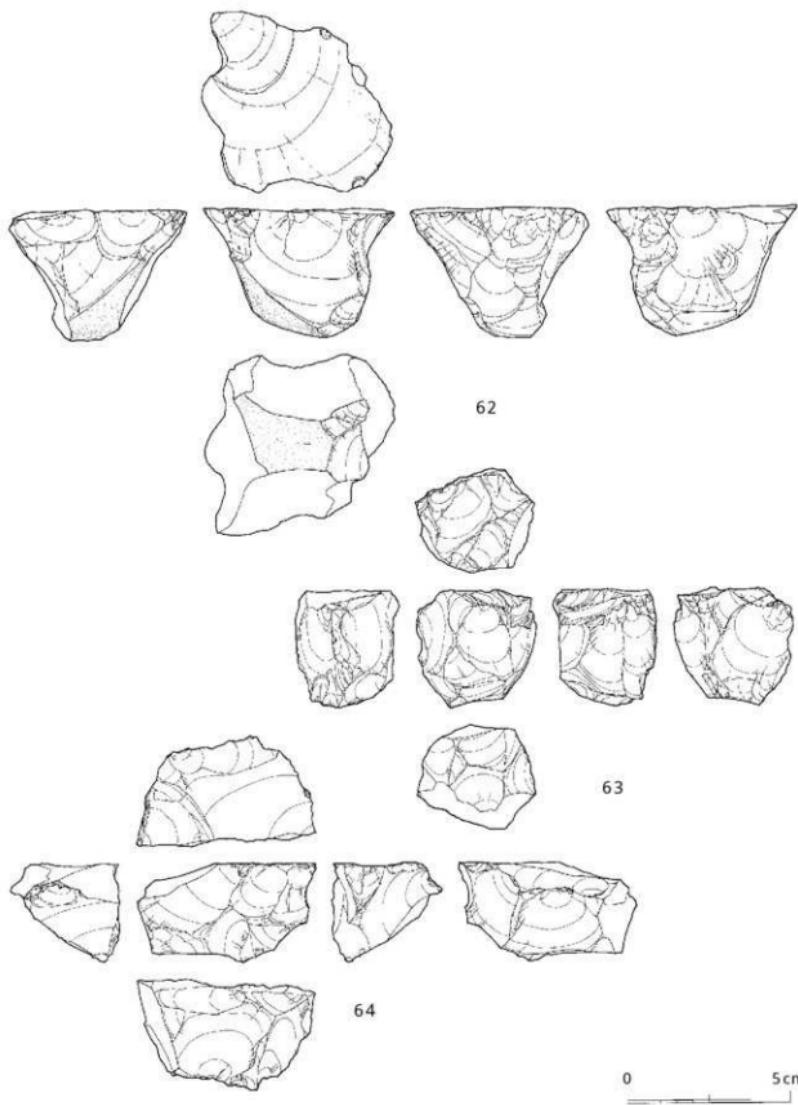
接合資料 1 46 + 47 + 48 + 49 + 50 + 51



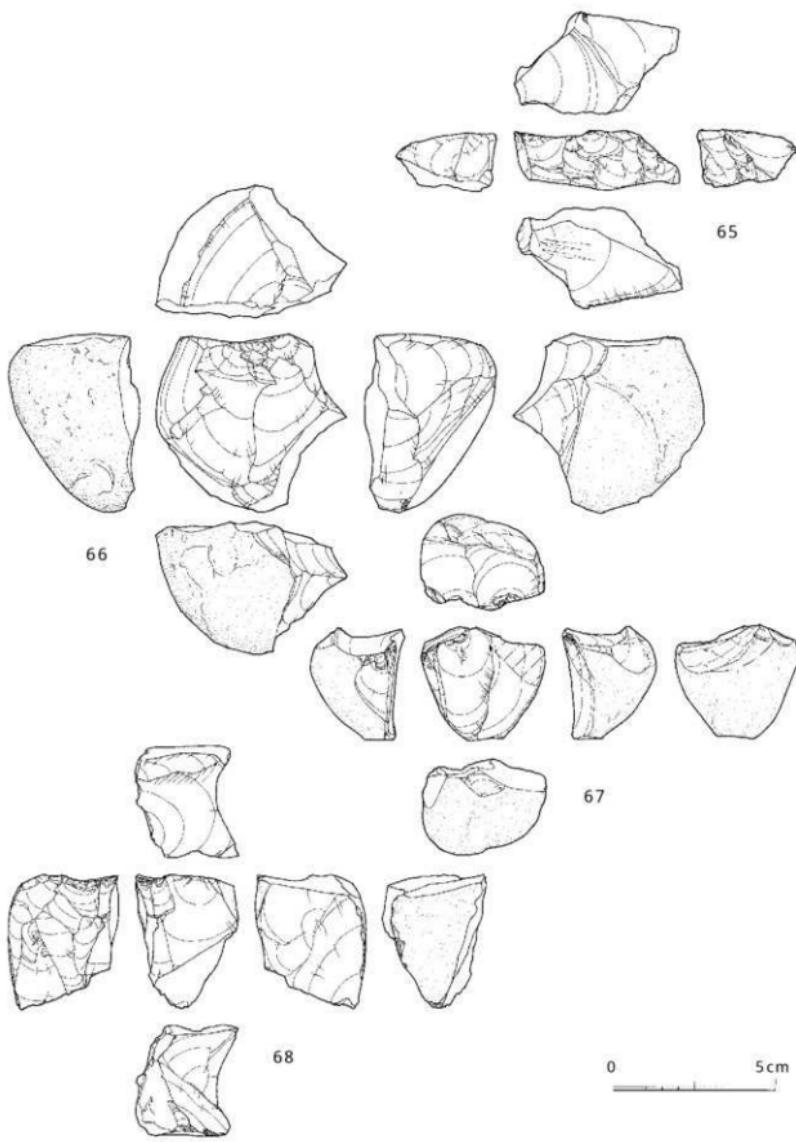
第31図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(7)【同一母岩3/接合資料1:5・120】(S=2/3)



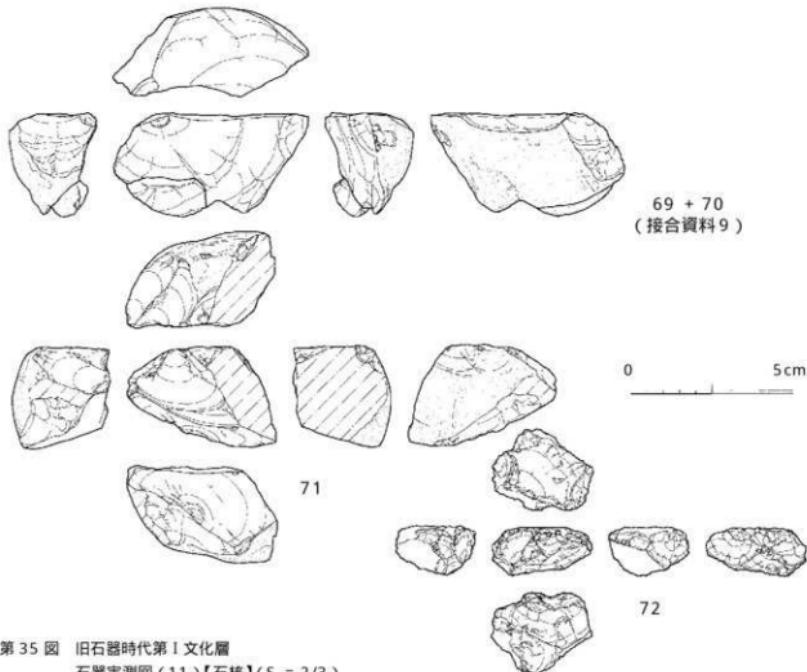
第32図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(8)【石核】(S = 2/3)



第33図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(9)【石核】(S=2/3)



第34図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(10)【石核】(S = 2/3)

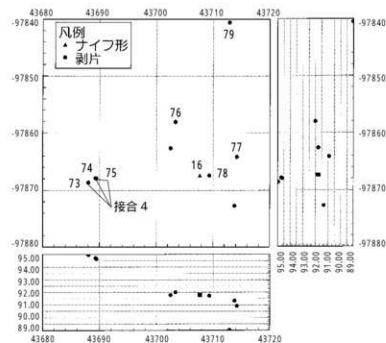


第35図 旧石器時代第Ⅰ文化層
石器実測図(11)【核石】(S = 2/3)

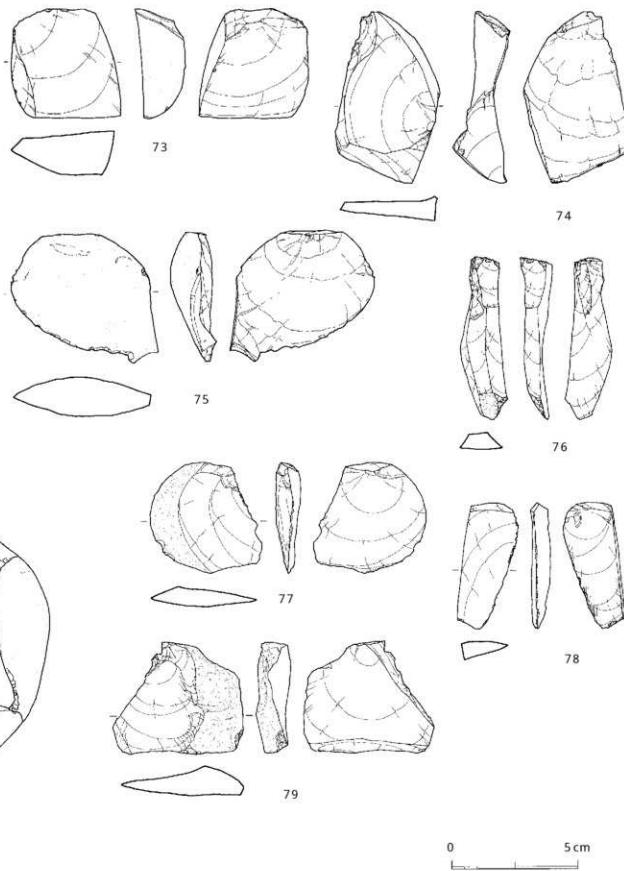
番号	注記番号	区	グリッド	層	器種	石材	石材分類	同一母岩	接合資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル	備考
46	322	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	1	2.50	3.20	0.65	4.1	-97869.678	43715.820	90.906	
47	306	C	M16	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	1	3.70	4.30	0.65	8.2	-97870.358	43715.162	90.995	
48	100	C	M16	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	1	2.90	4.10	1.00	12.1	-97871.219	43715.647	90.890	
49	131	C	M16	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	1	3.15	2.30	0.75	2.5	-97870.730	43715.998	91.077	
50	727	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	1	2.45	3.40	1.50	9.6	-97868.444	43718.392	90.955	
51	305	C	M16	VII	石核	ホンフェルス	a	3	1	5.75	6.65	3.25	116.4	-97871.292	43714.333	91.068	
52	261	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	5	2.75	2.80	0.75	3.4	-97869.843	43717.512	90.813	
53	67	C	M17	IV	剥片	ホンフェルス	a	3	5	3.55	3.75	0.85	8.4	-97868.466	43717.110	91.496	
54	262	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	120	2.25	1.90	0.40	1.1	-97868.526	43715.397	91.236	
55	260	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	120	3.40	3.50	1.05	10.1	-97868.780	43716.322	90.897	
56	260	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	3.90	2.85	0.95	6.3	-97868.459	43716.519	91.166		
57	787-2	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	a	3	1.80	1.80	0.65	1.3	-97866.301	43719.603	90.846		
58	-重3	C	M17	-重	剥片	真岩				3.50	2.15	0.90	5.6	-	-	-	M17内のベルト-真岩出土
59	P112	C	M17	P1	石核	ホンフェルス				6.80	13.50	3.60	239.6	-	-	-	M17内のP1から出土
60	60	C	L17	VII	石核	ホンフェルス	e	8	3.00	8.00	6.40	102.9	-97866.701	43707.590	91.577		
61	427	C	L17	VII	剥片	ホンフェルス	e	8	3.30	3.70	1.30	15.4	-97866.847	43707.653	91.468		
62	205	C	N18	VII	石核	ホンフェルス	f			4.00	5.90	5.60	108.0	-97855.586	43727.521	90.013	
63	129	C	N17	VII	石核	真岩	a	5		3.70	3.70	3.20	48.2	-97863.901	43721.745	90.374	
64	139	C	N18	VII	石核	真岩	a	5		3.10	5.55	3.40	50.0	-97857.397	43722.427	90.208	
65	240	C	N17	VII	石核	真岩	b	32		1.85	5.10	3.10	24.7	-97864.379	43725.601	89.985	
66	201	C	N18	VII	石核	ホンフェルス	a	16		5.50	5.90	4.10	127.1	-97855.704	43723.246	90.103	
67	46	C	N18	VII	石核	真岩	a			3.50	3.80	2.90	40.5	-97856.687	43722.251	90.258	
68	159	C	M16	VII	石核	真岩	a	5		4.20	3.25	3.45	40.0	-97875.626	43716.751	91.010	
69	35	C	N18	VII	剥片	ホンフェルス	e	9	1.20	2.40	1.20	2.3	-97859.074	43721.067	90.441		
70	136	C	N17	VII	石核	ホンフェルス	e	9	3.20	6.05	2.75	46.9	-97860.030	43720.597	90.470		
71	372	C	M16	VII	石核	真岩	a	5		3.10	4.60	3.00	43.6	-97871.274	43712.246	90.700	
72	10	C	M17	VII	石核	黒曜石	黒e			1.50	3.10	2.46	10.9	-	-	-	

* 図72は、調査時の不備のため出土位置不明。ただし、#層面で出土したものと考えられる。

第8表 旧石器時代第Ⅰ文化層 石核・剥片 計測表

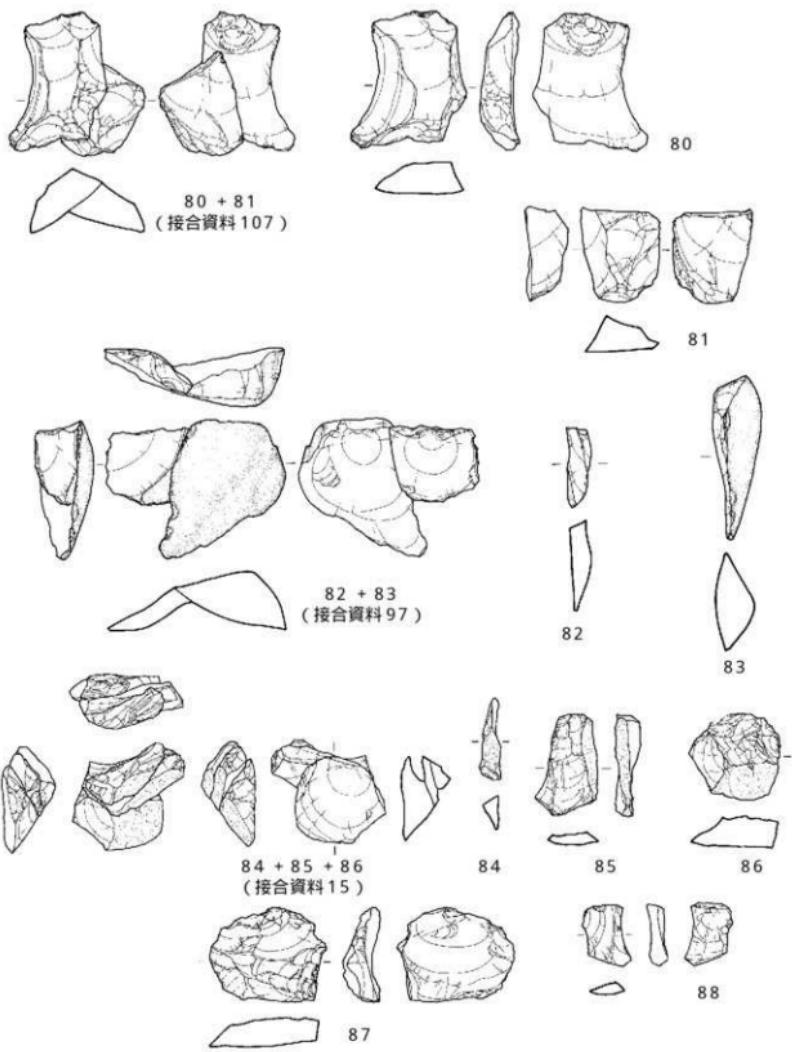


第36図 旧石器時代第Ⅰ文化層
同一母岩2分布図
(S = 1/400)

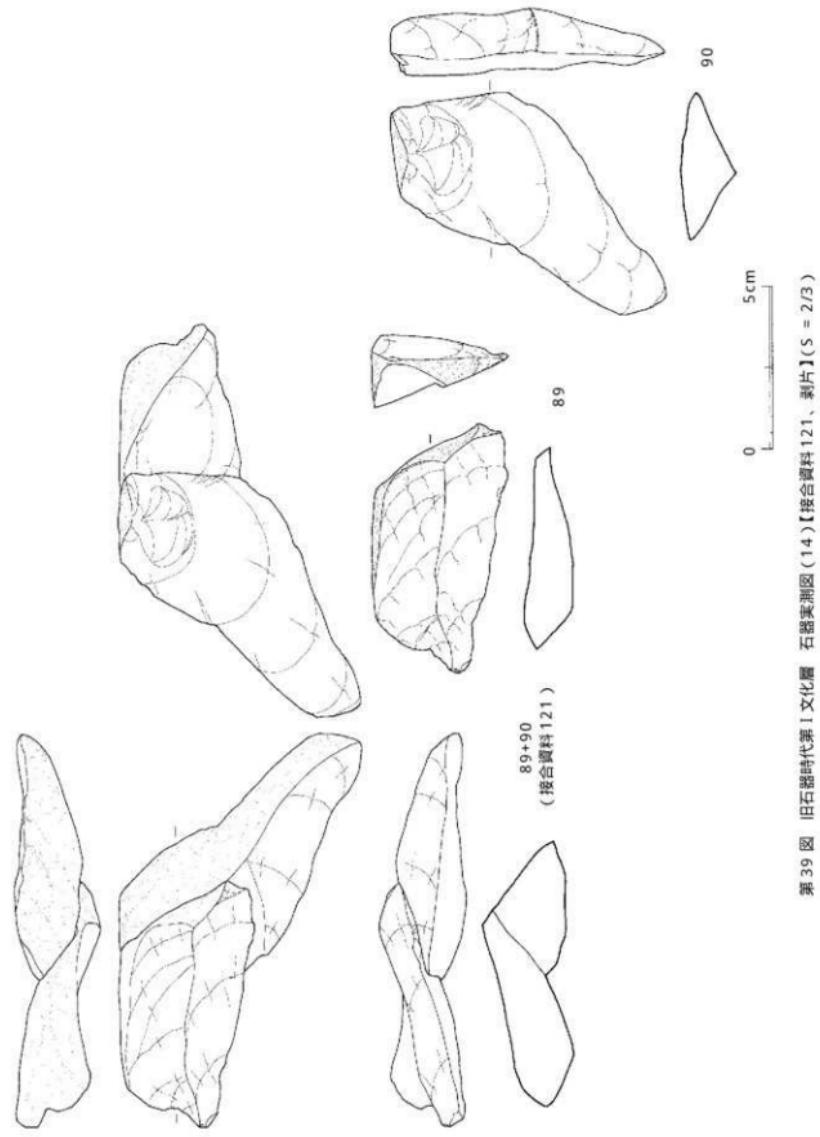


接合資料4
73 + 74 + 75
剥離順
73 → 75 → 74

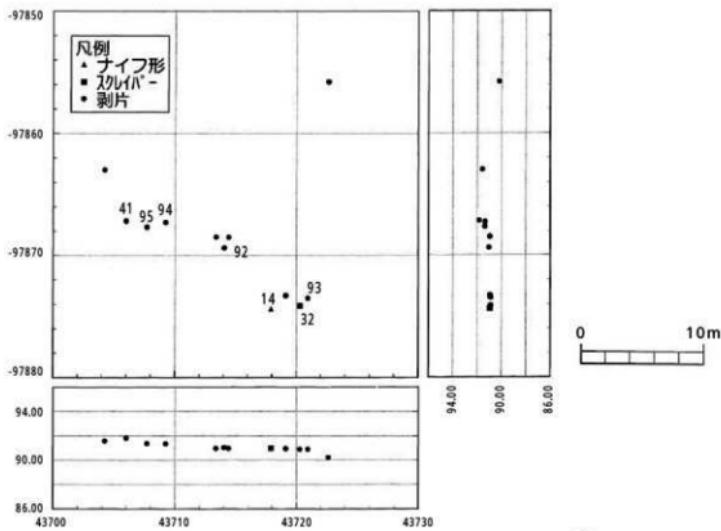
第37図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(12)【同一母岩2/接合資料4】(S = 2/3)



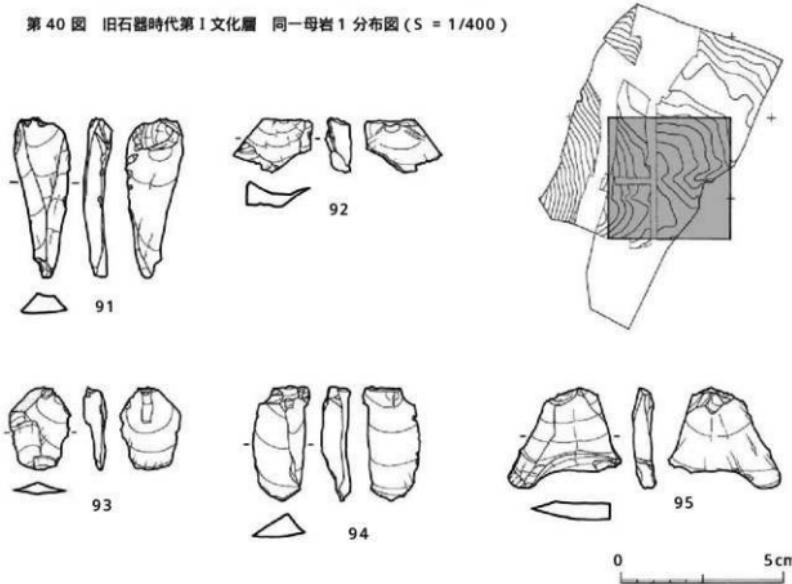
第38図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(13)【接合資料】



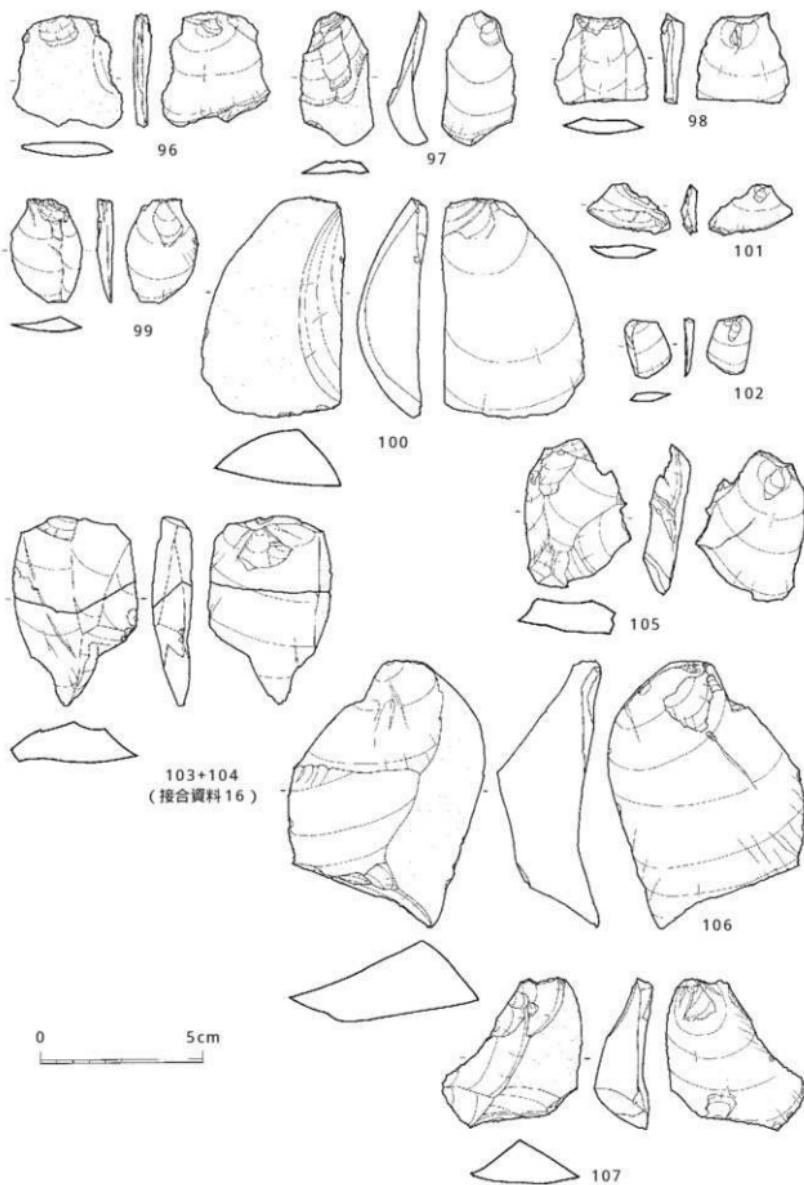
第39圖 旧石器時代第1文化層 石器實測圖 (14)【接合資料121、剥片】(S = 2/3)



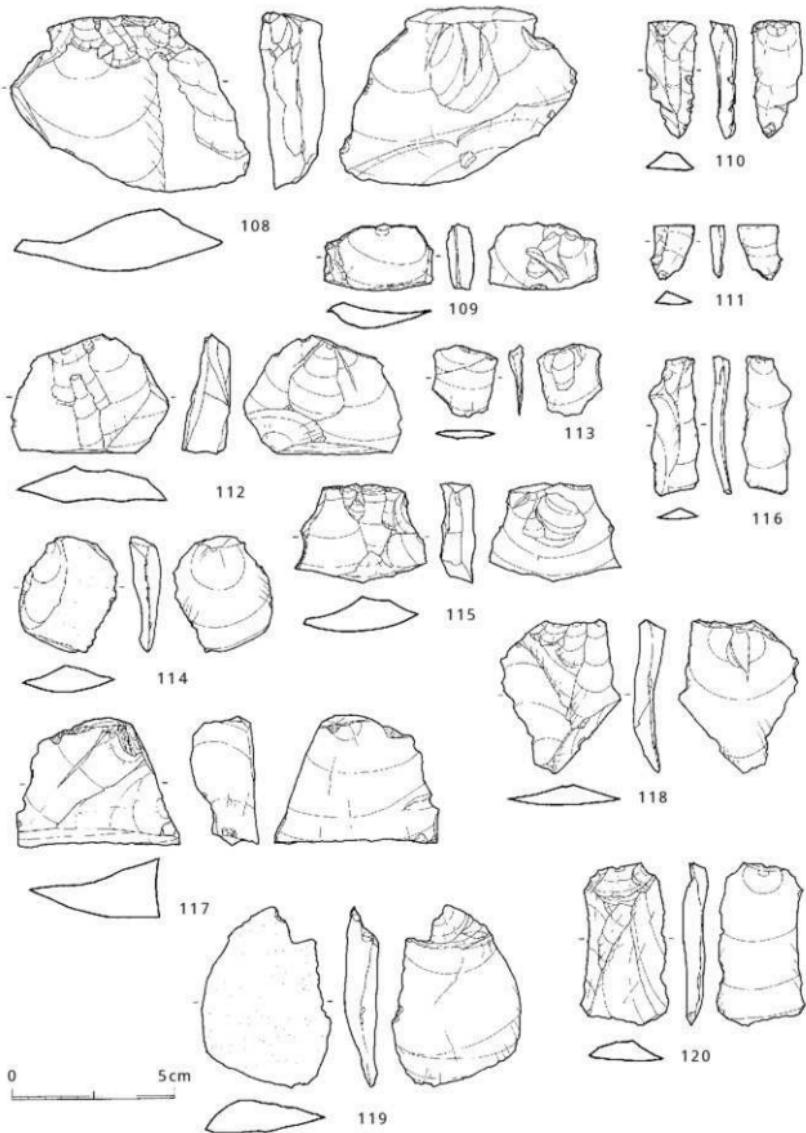
第40図 旧石器時代第Ⅰ文化層 同一母岩1分布図 ($S = 1/400$)



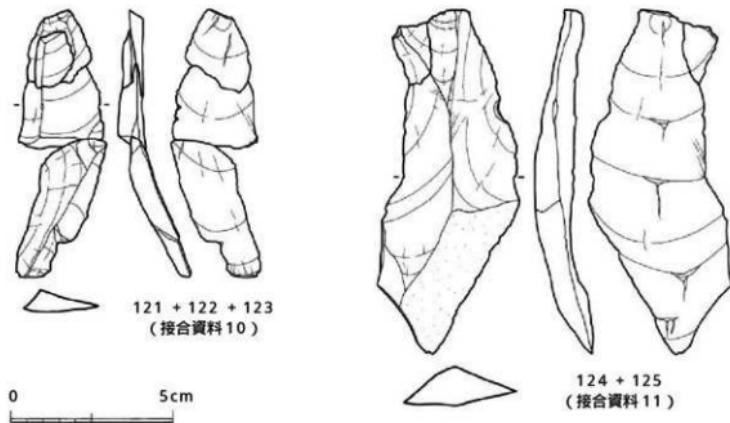
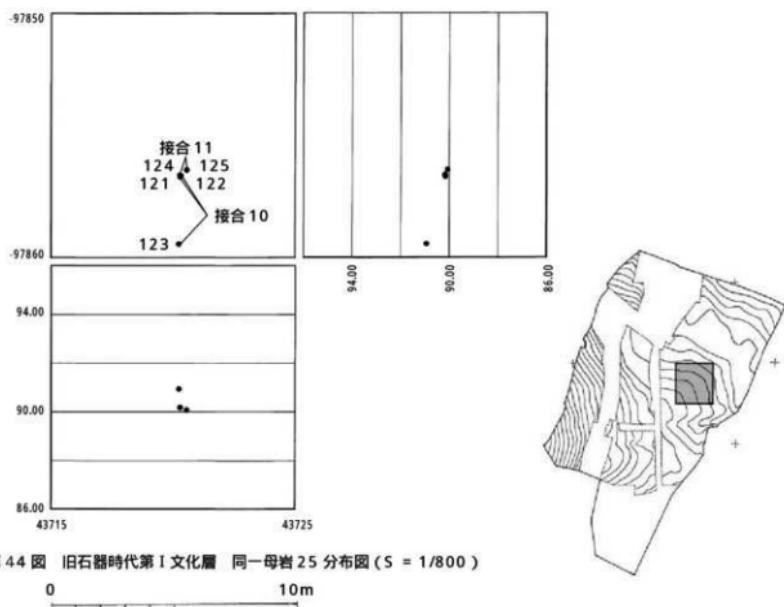
第41図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(15)【同一母岩1】($S = 2/3$)



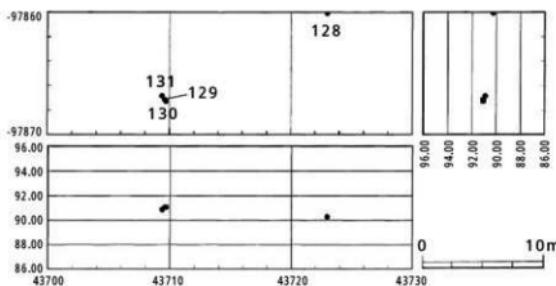
第42図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(16)【剥片】(S=2/3)



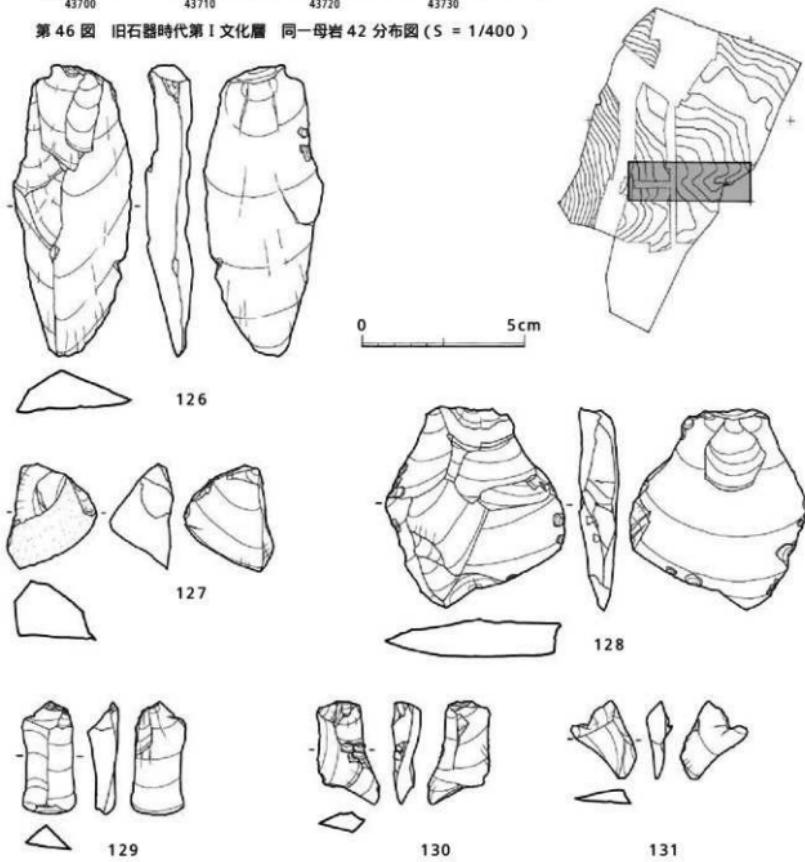
第43図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(17)【剥片】(S = 2/3)



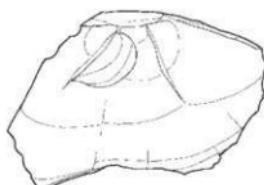
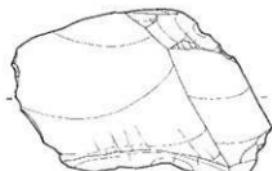
第 45 圖 旧石器時代第 I 文化層 石器実測図 (18)【同一母岩 25】(S = 2/3)



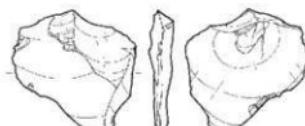
第46図 旧石器時代第Ⅰ文化層 同一母岩42分布図 ($S = 1/400$)



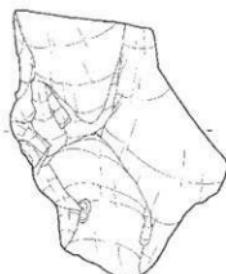
第47図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(19)【同一母岩42】($S = 2/3$)



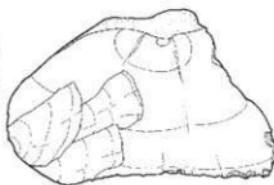
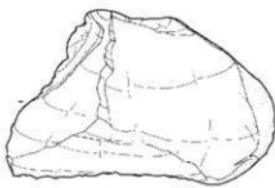
132



133



134

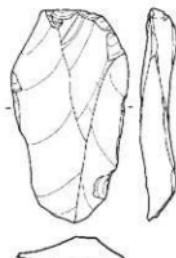


135

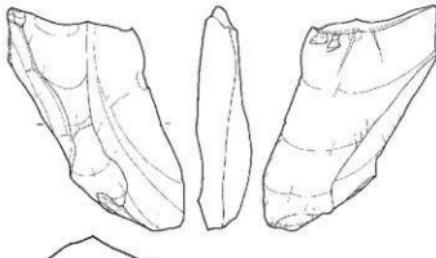
0

5 cm

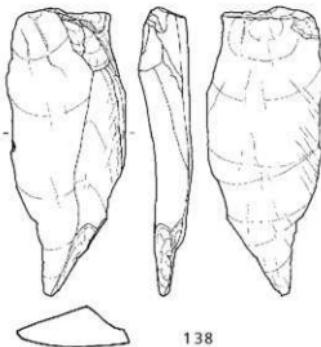
第48図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(20)【剥片】(S=2/3)



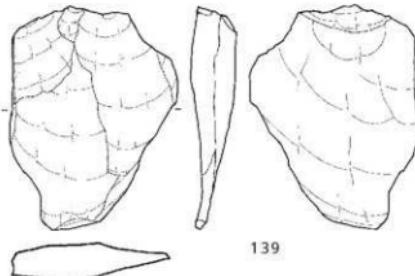
136



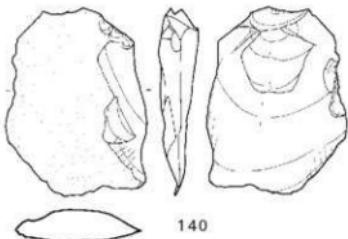
137



138

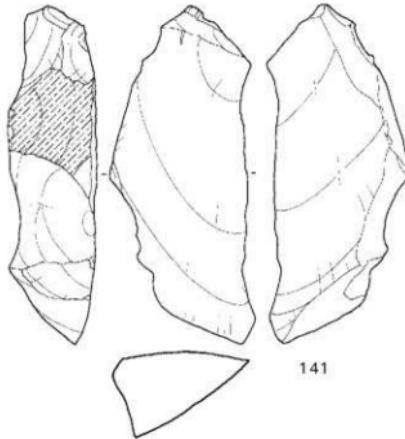


139



140

0
5cm



141

第49図 旧石器時代第Ⅰ文化層 石器実測図(21)【剥片】($S = 2/3$)

2 後期旧石器時代第Ⅱ文化層

(1) 概要

① 当時の環境

霧島小林軽石(Kr-kb)降灰前後の、第Ⅱ文化層当時は、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)が繁茂しており、周辺にブナ属などの落葉広葉樹が分布していたのではないかと推定される。第Ⅰ文化層當時に比べるとやや温暖になりつつある頃である。

なお、古環境(植物珪酸体)分析の結果は、第V章に掲載した。

※ 引用文献

古環境研究所、2002、「自然科学分析調査報告書」。

杉山真二、1997、「人類をとりまく植生と環境」(宮崎県史 通史編 原始・古代 I & 宮崎県)

地形をみると、AT降灰直後の第Ⅰ文化層當時とほぼ同じように西側から北東にかけて傾斜するとともに、襞状の尾根によって分断される起伏のある地形であったと考えられる。第Ⅱ文化層は Kr-kb 降灰後と思われるが、基本土層第VI a 層中の Kr-kb ブロックの密度が、傾斜地下方や谷部で高いことから Kr-kb の二次堆積が流れ込んできた可能性が高い。その後は、縄文時代早期の時期には襞状の起伏はみられなくなっている。

② 調査の概要

第Ⅱ文化層の遺物は、A・C区のみでB区の急傾斜地からは出土しなかった。遺構については、A～C区で散礫が検出されたが、礫群と呼べるほどの密集した状況は見いだせなかった。C区では西側を中心に土坑2基とピット状遺構が検出された。これらの遺物・遺構は、いずれも Kr-kb 降灰前の生活動面か二次堆積中のものと思われる。

また、B区北東部からは2基の陥し穴状遺構が検出された。この2基は、前述の遺物・遺構の検出面より上位から掘り込まれており、Kr-kb 降灰後の遺構と思われる。

(2) 遺構・遺物とその分布

① 散礫・土坑・ピット状遺構・陥し穴状遺構

A区西側で散礫が検出された。この辺りのVI層(Kr-kb を含む)堆積状況は極めて悪く、Kr-kb 粒と思われる黒褐色土ブロックがわずかに認められる程度である。さらに北側に下るにつれて湿地帯となつてあり、湧水・雨水などで土層の確認は困難であった。第Ⅰ文化層との区別が困難であるが、埋土中に Kr-kb 粒と思われる黒褐色ブロックが含まれている。

れ、細石核及び細石刃が出土したので、第Ⅱ文化層の遺構とした。

B区では、北側と南側で散礫を検出した。いずれもごく少量である上に、地形の状況から上からの流れ込みである可能性が高い。

C区では、調査区南端を除き、ほぼ全域で散礫が検出された。また、ピット状遺構が認められたが、いずれも立ちあがりがはっきりせず、自然の産みや樹痕の可能性もある。

土坑2基は、いずれもC区西側の緩斜面上(第50図中、尾根 b)で検出され、1m程しか離れていない。周辺には散礫がみられた。

SC 2 (第55図)

長径84cm、短径40cm、深さ15cmである。2つ切り合っているように見えるが、はっきりしなかった。検出面から約5cm程掘り下げたところで、角錐状石器1点(第65図143)が出土した。

SC 3 (第55図)

これも2つの土坑が切り合っているようだが、はっきりせず、埋土上部はつながっている。遺物は出土していない。自然の産みに Kr-kb を含む黒褐色土が流れ込んだものかもしれない。

陥し穴状遺構1 (第56図)

B区北側のやや傾斜がゆるやかになり始めたところで検出した。長径114cm、短径105cmのほぼ円形。検出面からの深さは130cmを超える。二段掘りになっており、底は平らである。底から15～50cmの間で、クイ痕と思われる3条の軟質土層(23層と24層を含む)を確認した。3条とも東西にやや傾いているが、底部ではみられなかった。23層と24層がクイ痕とすれば、17層以下の土を埋めて、クイを固定した可能性もある。

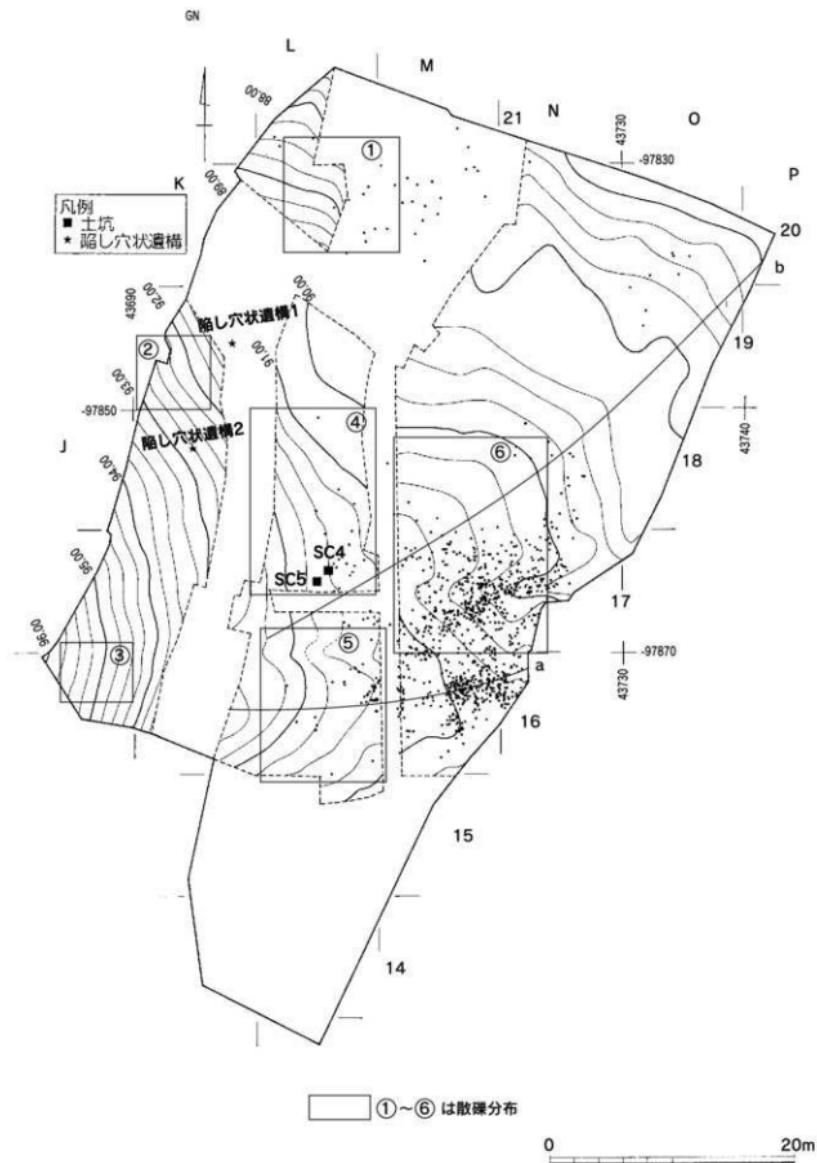
* 陥し穴状遺構の埋土最上部(1層)から埋土底部(22層)及びクイ内(23層、24層)について、植物珪酸体分析を行った。その結果、ほとんどの層からミヤコザサ節型が多量に検出された。陥し穴の埋土の堆積当時は、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)などのササ類を主体として、キビ族、ウシクサ族(チガヤ属など)、ネザサ節なども生育する草原的な環境であったと推定される。この結果は、同時に分析したベルトのV b 層もしくはVI b 層と類似している上に、埋土のほとんどに Kr-kb 起源の粒子が含まれている。これらのことから本遺構は Kr-kb の堆積前後頃に埋没した可能性が考えられる。

なお、本遺構では陥し穴のカモフラージュなどに利用された植物の検出が期待されたが、今回の分析ではこれを示唆するような結果は得られなかった。

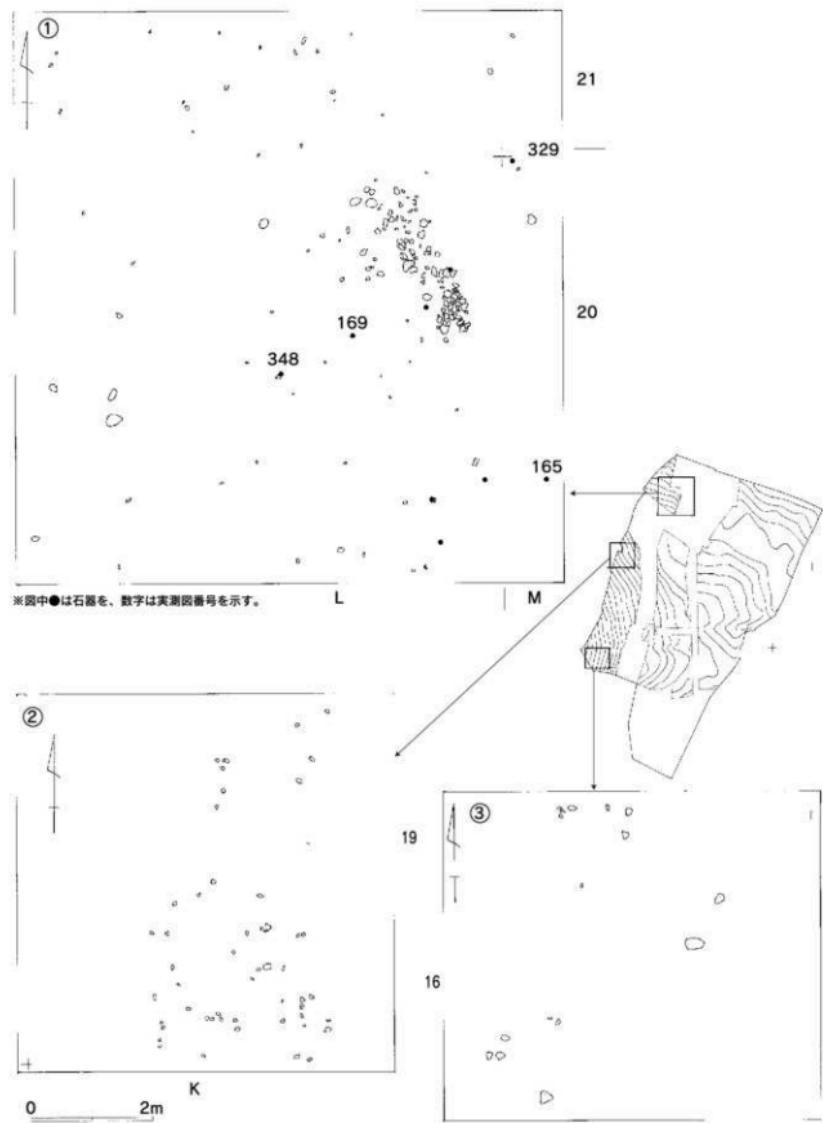
※ 1 植物珪酸体分析及びテフラ同定については、「自然科学分析調査報告書(古環境研究所)」から引用した。

陥し穴状遺構2（第56図）

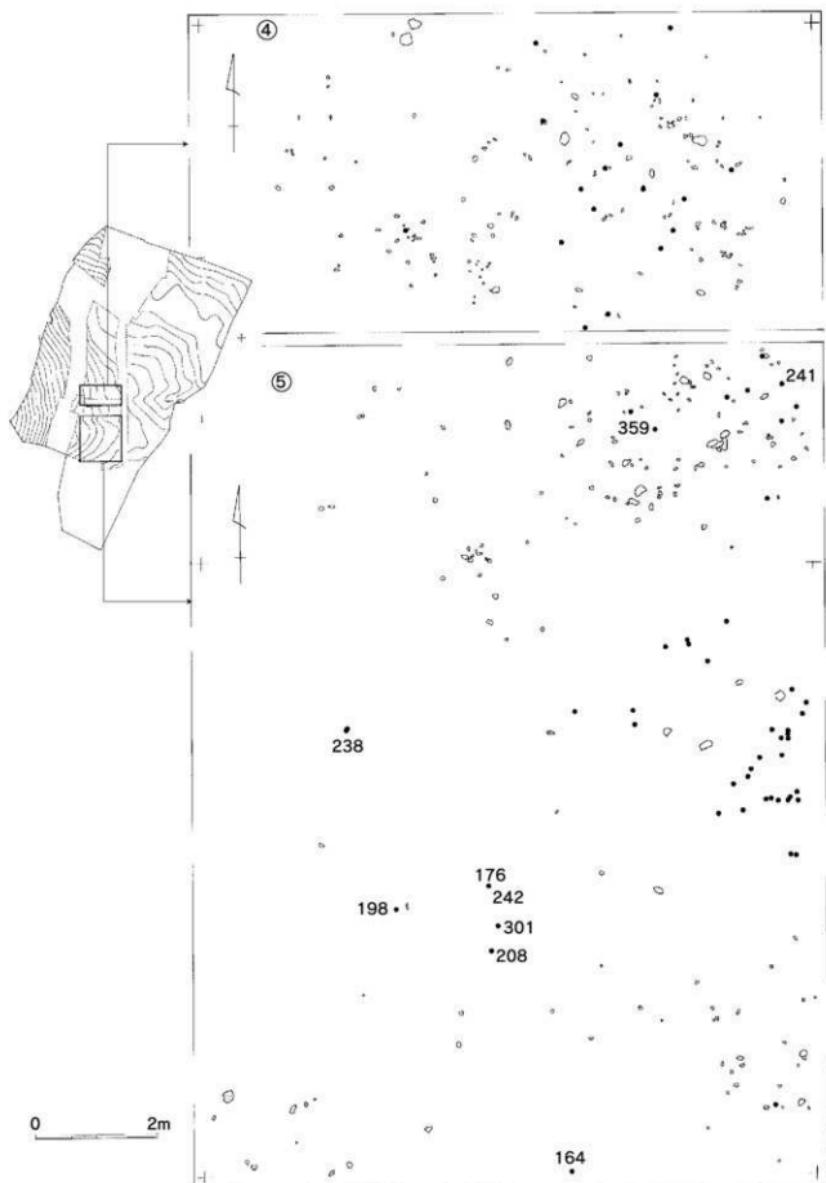
陥し穴状遺構1から南に約9mの位置で検出した。長径 154cm、短径 144cm のほぼ円形で、検出面からの深さは約 1m である。クイ痕は確認できなかった。埋土のほとんどから Kr-kb 起源の粒子が含まれていた。陥し穴状遺構1とほぼ同時期に埋没したものと考えられる。



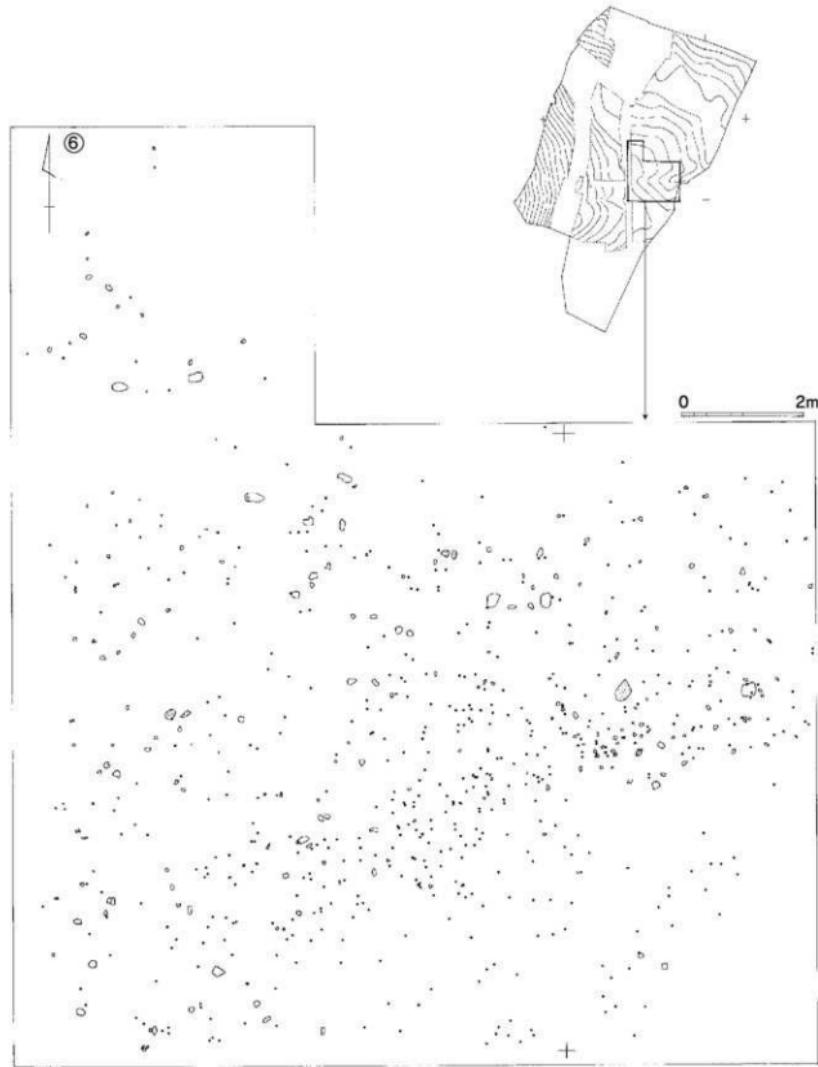
第50図 旧石器時代第Ⅱ文化層 遺構・石器分布図 ($S = 1/400$)



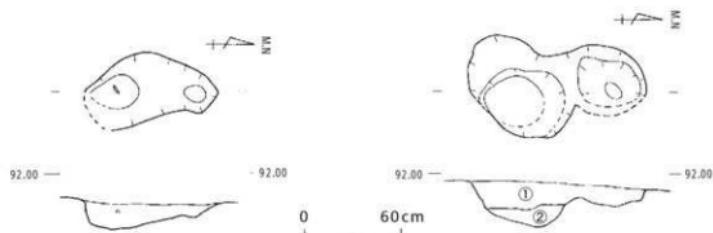
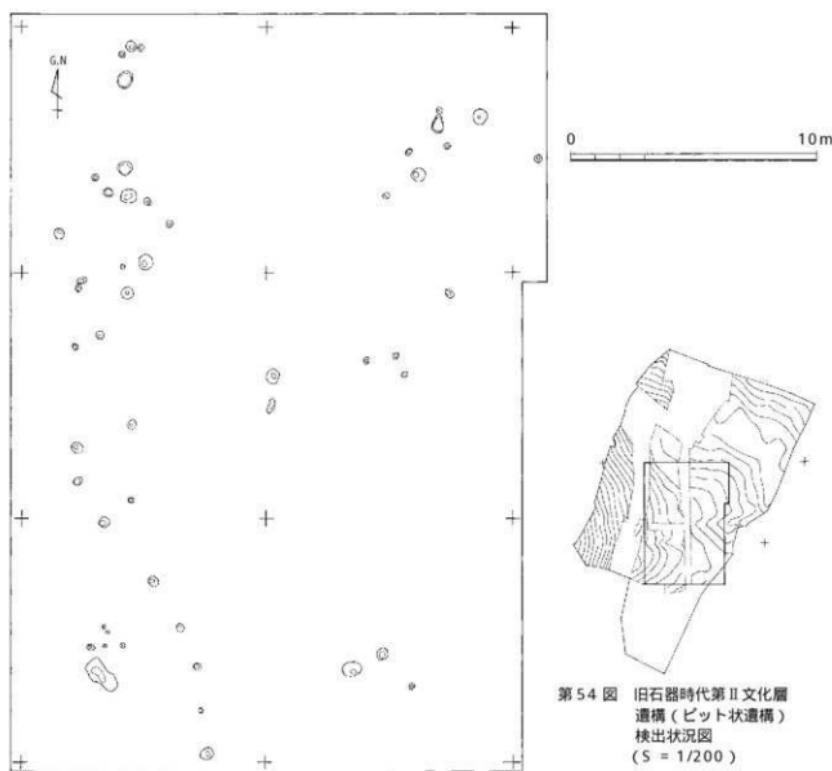
第51図 旧石器時代第II文化層 散縦①・②・③ ($S = 1/80$)



第52図 旧石器時代第Ⅱ文化層(2) 散縦④・⑤ ($S = 1/80$)



第53図 旧石器時代第II文化層 散縦⑥ (S = 1/80)

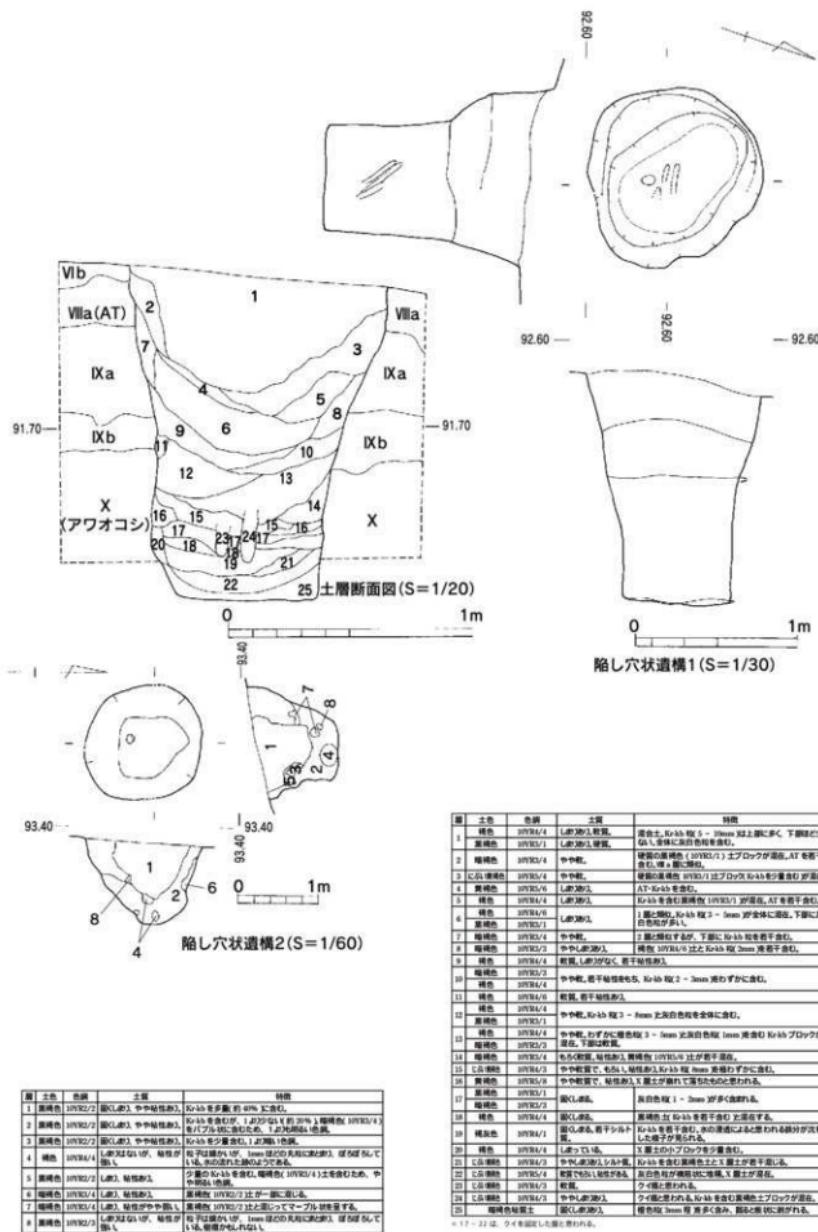


埋土 暗褐色(10YR3/3) 固く綿まっている。粘性なし。
微細な白い粒とオレンジの粒(径1~3mm)を含む。
黒褐色のブロックを多量に含む。検出面から5cm程
掘り下がったところで、角錐状石器1点が出土した。

埋土 ① 暗褐色(10YR4/4) 固く綿まっている。粘性なし。
Kr-kbのオレンジ粒を多量に含む。微細な白い粒を
多量に含む。

② 暗褐色(10YR3/4) 固く綿まっている。粘性なし。
①に比べ、やや黒い。Kr-kbのオレンジ粒を含むが、
①ほど多くはない。微細な白い粒を多量に含む。

第55図 旧石器時代第II文化層 遺構実測図(1)【土坑】(S = 1/30)



第 56 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 遺構実測図(2)【陷し穴状遺構】

② 出土遺物

旧石器時代第Ⅱ文化層からは、第9表のとおり、合計1003点の石器が出土した。器種ごとにみると、角錐状やナイフ形といった定型的な器種は11種106点で、全体の10%である。角錐状石器・ナイフ形石器と細石刃・細石核を同じ文化層に入れたが、厳密には分かれる可能性もある。石材ごとにみると、11種類に分類でき、最も多かったのが黒曜石で全体の56%である。次にホルンフェルスの22%、頁岩の9%と続く。黒曜石は桑ノ木津留系が49%、腰

岳系が14%、日東系と上牛鼻系がそれぞれ11%と12%である。いずれも剥片・チップの割合が高いことから、黒曜石・ホルンフェルス・頁岩の3石材が本遺跡の搬入・消費の中心になっていたものと考える。

角錐状石器（第65図142～155）

角錐状石器は、14点が出土した。形態等での分類はしていないが、特性を7項目設定し、第10表の観察表にそれぞれ記号で記した。特性については、P23に掲載してある。

区 器種	石材	頁岩	ホルン フェルス	砂質ホルン フェルス	流紋岩	珪質 頁岩	細粒 砂岩	砂岩	尾鈴 酸性岩	黒曜石	チャートサスカイト	その他	計
A	角錐状石器	3	3		2		2			4			14
	ナイフ形石器	5	2		2								9
	尖頭器			1									1
	石錐	2											2
	スクレイバー		6										6
B	二次加工剥片	5	4		1	1				2			13
	石核	5	10		1	1							17
	細石核	1						1		16			18
C	細石刃	3								16	1	1	21
	敲石						4						4
	礫器		1										1
C	剥片	64	196	1	5	1	4	11	1	213	17	7	1 521
	チップ						5	1		308	29	22	9 374
	原石		2										2
計		88	224	2	10	3	12	17	1	559	47	30	10 1003

第9表 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器組成表

番号	注 番号	区	グ リ ット	層	石材	石材 分類	同一 母岩	接 合 部 材	長 さ cm	幅 cm	厚 さ cm	重 量 g	国土標 X座標	国土標 Y座標	レベル	備考	小分類				
																	加 工 面 数	断 面 形 式	接 合 部 材	機 械 加 工	
142 1488	A - VI	頁岩	a		4.60	1.70	1.15	6.0	-	-	-	-				縫辺加工は一部のみ。大柄な加工で基部の厚みを減している。	1 ①	あ ア I B a			
143 SC4	C L17 VI	頁岩	b		6.65	1.60	1.30	11.8	-97863.550	43705.900	91.760					縫かな縫辺加工がほぼ全周。	1 ①	あ ア II B b			
144 355	C N17 VI	熱ソルト	e		6.35	1.75	1.25	13.9	-97868.106	43721.299	90.914					大柄な加工で基部の厚みを減じている。	1 ①	あ ア I A a			
145 696	C N17 VI	頁岩	a	22	4.80	2.00	1.50	11.9	-97864.169	43724.061	90.459					縫辺加工は片側ともう片側の途まである。失敗品か?	1 ①	あ ア II B,b,c			
146 971	C N18 VI	熱ソルト	b	14	4.50	2.80	2.00	23.8	-97851.323	43722.046	90.692					未製品と思われる。	1 ②	あ イ II A b			
147 252	C M17 IV	細粒砂岩	e	[112]	6.00	1.65	1.20	10.2	-97867.690	43718.580	91.396					縫辺加工は少なし。	1 ①	あ ア I B a			
148 988	C N17 V			[112]					-97865.960	43720.050	91.133										
149 388	C M17 IV	流紋岩	c	27	4.90	1.35	1.15	5.8	-97867.700	43710.830	91.880					縫辺加工は一部のみ。	1 ①	あ ア I A b			
150 225	C N16 VI	熱ソルト			1.45	0.65	1.00	0.6	-97873.797	43720.234	91.006					失敗品か?			- - - - e		
151 1043	C N16 V	流紋岩	c	27	1.95	1.35	0.70	1.6	-97874.320	43720.030	91.315					すでに完結した後の欠損と思われる。	1 ①	あ ア - A b,c			
152 368	C N16 VI	黒曜石	黒 g		2.40	1.50	0.85	2.4	-97872.277	43721.582	90.921					薄い剥片を使用し、縫辺の両側から削り一部、自然面を残す。	2 ①	い イ I B b			
153 640	C N17 VI	黒曜石	黒 g		2.80	1.55	0.75	2.8	-97864.477	43724.486	90.402					薄い剥片を使用し、縫辺の片面削り込み、裏面には自然面を残す。	2 ①	あ ア II A b			
154 1557	C N17 V	黒曜石	黒 g		2.20	1.05	0.95	1.8	-97861.402	43721.060	90.900					全面加工。S字状に彎曲している。	2 ①	あ ア - A b,c			
155 2220	C K15 V	黒曜石	黒 e		2.45	1.05	0.90	2.1	-97884.679	43699.313	91.050					最も複雑な基部加工がなしあない。	1 ①	あ ア - B b,c			

第10表 旧石器時代第Ⅱ文化層 角錐状石器観察表

石材は黒曜石が最も多く4点で、えびの産と思われるものが3点、日東系が1点である。次に頁岩3点、ホルンフェルス3点、流紋岩2点、細粒砂岩2点となる。加工面数をみると、裏面の加工を施していない二面加工が9点と大半を占め、三面加工が3点、不明が1点である。断面は三角形が8点、台形が3点、菱形が1点、不明が1点である。素材の厚さは分厚いものが11点とほとんどを占め、1点のみ正面稜に素材剥離面が残る薄い素材を用いており、1点は不明である。縁辺の加工については未製品と思われるものと薄い剥片を用いているものを除き、10点で施されていた。厚みを減じるために思われる基部加工は5点で施され、4点が施されていなかつた。残りの4点は破損しており不明である。稜上の交互調整は6点で観察され、6点は認められず、1点は不明である。破損状況をみると、先端部欠損が5点、先端部および基部欠損が4点、完形が3点、先端部のみの出土が1点となっている。

ナイフ形石器（第65～66図156～164）

ナイフ形石器は9点が出土し、全点圓化した。その形態から、次の4種に分類した。

ア 一側縁加工(156)

イ 基部加工(157～159)

ウ 二側縁加工(160～162)

エ 二側縁加工の切出形(163～164)

156は一側縁加工のナイフ形石器である。縦長の不定形剥片を用い、素材の縁辺を刃部に、その対面を加工して背部にしている。素材の打面は基部に位置する。背部の加工は裏面からのみで、わりと大柄である。

157～159は基部加工のナイフ形石器である。不定形の剥片を素材とし、157は素材の打面が基部の一側辺に位置し、158・159は基部端部に位置している。その加工は、いずれも裏面からのみである。

160～162は二側縁加工のナイフ形石器である。素材はいずれも縦長の不定形剥片を用いているが、素材の打面は、160・161は基部に、162は先端部方向に位置している。素材の縁辺からなる刃部と、その対面（背部）と基部に加工がみられる。基部の加工は裏面からのみで、背部の加工は160が裏面からのみ、161は表面からのみ、162は両面からの交互調整が施されている。

163・164は二側縁加工の切出形のナイフ形石器である。不定形の剥片を素材にしている。素材の打

面は、163は先端部方向、164は基部である。163は素材の縁辺を刃部にし、その対面に両面からの交互調整によって背部を形成している。基部加工は裏面からのみで、やや抉りが入っている。

尖頭器（第66図165）

尖頭器は1点のみの出土である。縦長の不定形剥片を素材とし、素材の打面は基部に位置している。裏面に大きく素材面を残す片面加工の尖頭器である。一側辺の中央部より先端部に位置する部分に先端を細くするためと思われる加工が入っている。もう一方の側辺には加工は入っていない。先端部は欠損している。

石錐（第66図167・167）

石錐は2点出土したが、1つに接合した。縦長の不定形剥片を素材にし、素材の打面は先端部方向に位置している。凹形に加工された辺によって尖る小さな先端部が形成されている。石材は、緑灰色のざらついた粗い粒子と暗灰色の細かい粒子が交互に層をなしている頁岩である。

スクレイパー（第67～68図168～173）

スクレイパーは6点出土した。168・169は横長の不定形剥片を素材とし、刃部は剥片剥離軸に対して直交する。168は一側辺に、169は二側辺に刃部を形成している。170～173は石刃を素材とし、剥片剥離軸に対してほぼ平行に刃部を形成する。刃部形成の加工は、170が裏面から、171～173が表面から施されている。172は下部のみ残存し、上部は欠損している。

二次加工剥片（第68～69図174～186）

174～186は二次加工剥片である。174と175は側辺の加工をした際に折れたものと思われる。180と181は節理面で折れている。178と179は割れによる接合資料である。177は基部加工を施すナイフ形石器の製作途中の可能性がある。

同一母岩 21:接合資料45(第71図187～197)

剥片11点、石核1点の接合資料からなる。灰色の斑模様のある褐色の頁岩である。分割した砾を素材に、同じ方向から剥片(187～190)を剥出した後、打面を転移して剥片(191)を剥出している。その後、先に剥片を剥離した作業面を打面とし、縁辺を打撃しながら左回りに剥片(192～196)を剥出している。最後に円錐形の石核(197)が残った。なお、188と189、および192と193、194と195は、それぞれ剥離した際に割れたものと思われる。

また、187は、角錐状石器の作りかけのような裏面からの加工痕があるが、188 + 189から剥離する前の加工のため、角錐状石器の未製品ではないと判断した。

同一母岩 18 : 接合資料 39 (第73図198 ~ 207)

剥片 10 点、石核 1 点の接合資料からなる。平らな節理面を上下にもつ直方体の礫を素材にしている。自然面を除去した後、打面転移して数枚の剥片(198, 207)を剥出。その後、打面を転移して平らな節理面を打面とし、端から順番にほぼ同サイズの剥片(200 ~ 206)を剥離している。なお、207は裏面にあり、接合図には入れていない。

接合資料 50 (第75図209 ~ 213)

剥片 4 点、石核 1 点からなる。剥離の順序は、209 → 210 → 211 → 212 で、最後に 213 の石核が残った。拳大の礫の自然面を剥離して打面を作出し、打面転移後剥片剥離(209, 210)を行っている。その後、さらに打面を転移して 211 を剥離、再度最初の打面に戻って 212 を剥離したものである。石材は暗灰色でやや風化しているホルンフェルスである。

同一母岩 17 (第77図214 ~ 224)

剥片 9 点、石核 2 点からなる。石材は明るい黄褐色のホルンフェルスで、粉をふいたような風化の様相を呈している。これらの石器は、全く接合しなかつたが、石材が酷似しており、傾斜地上方から流れ落ちたような出土状況であったことから同一母岩とした。

剥片(216 ~ 224)は、いずれも縦長不定型剥片である。2 点の石核(214, 215)をこれららの縦長不定形剥片を剥出した石核である。214は、自然礫から打面作出などを行わずに剥片を剥離しており、打面が 2か所、両面剥離である。215は厚めの剥片を用い、打面は単設、同一方向に剥片剥離を繰り返している。

同一母岩 39 : 接合資料 108・109 (第79図)

108・109の2つの接合資料と剥片(234)からなる。これらは互いに接合していないが、石材の特徴と出土位置が極めて近いことから同一母岩とした。

接合資料 108(225 ~ 230)は剥片 5 点・石核 1 点からなり、その剥離順は、a(229 → 226 → 227 → 228) b(225)で、a と b の順序は不明である。最後に石核(230)が残った。石核は、扁平な礫を素材に、

自然面を剥ぎ取るようにして不定形の剥片を剥出している。両面で剥出が行われている。

接合資料 109(231 ~ 233)は剥片 3 点からなり、その剥離順は、231 → 232 → 233 である。231・232を剥離した後、ほぼ 90° 打角を傾けて 233 を剥離している。

石核(第71 ~ 85図235 ~ 248)

石核は 17 点出土し、16 点図化した。

235 は分厚い剥片を素材とし、大きめの不定形剥片や小型の縦長剥片を剥離している。打面転移を繰り返し、断面が三角形状を呈している。236 は分割礫を素材とし、自然面を除去した後、その面を打面として剥片を剥離することを繰り返し、不定形の剥片を剥出している。剥片剥離は片面のみである。237 は円礫の自然面を数回除去して打面をつくり、打面転移をして周縁をぐるりと回りながら同一方向から縦長の剥片を剥離している。238 は、自然面を除去した際の剥片である。239 は剥片を素材としている。裏面下半は素材の裏面であり、リングの観察から左側縁に打点があったと考えられる。上面手前の平坦面の形成時期は不明だが、この面を打面として正面縁辺から 1 石刃を剥離している。その後、素材剥片の剥離軸に対してほぼ垂直に折断している。この折断面を打面に転移して、さらに小石刃を剥離していることがうかがえる。237 ~ 239 の石材は褐色細粒を含む黒色のホルンフェルスである。240 は円礫を分割した面を打面として、同一方向から不定形の剥片を繰り返し剥離している。241 は剥片の 1 つである。242 は扁平な礫を分割した後、自然面を打面に転移し、周縁を移動しながら不定形の剥片を剥離している。石材は薄い層が重なり合った緑灰色の珪質頁岩である。243 は分厚い剥片を素材にしている。裏面を打面とし、裏面の周縁を回るように打撃して不定形の剥片を剥出している。244 は分割した剥片の分割面を打面とし、周縁を回りながら不定形の剥片を剥出している。245 は剥片の 1 つである。246 は多面体の石核で、1 ~ 2 回の剥離ごとに打面転移を繰り返している。247 は 1 ~ 2 回の剥離ごとに表裏をひっくり返しながら剥離作業を進めた剥片素材の石核である。248 は円礫を素材とし、自然面を打面としながら転移を繰り返して剥片を剥出している。ほとんど規則性はない。

細石核(第86図249 ~ 265)

細石核は 18 点出土し、全点図化した。石材は 16

点が黒曜石、砂岩が1点、頁岩が1点である。黒曜石は、えびの産と思われるものが11点で大半を占め、次に桑ノ木津留系が4点、日東系が1点である。

249は、いわゆる珪原型細石核で、石材は砂岩である。分割した円盤の分割面を打面に転移し、石核の長軸の両端で細石刃が剥離されている。250は、いわゆる船野型細石核のプランクである。厚めの剥片を素材とし、主要剥離面を打面として周囲に加工を施している。やや扁平な円錐状を呈している。

251～266は、いずれも極めて小型の細石核である。251・259・260は石核の上からと横から細石刃の剥離が行われている。252～255は裏面に自然面を残す。256・266は細石刃の剥離が石核の周囲をめぐる円錐状を呈している。257・262は1～2本の細石刃が剥離されているが、二面に自然面が残されており、プランクとみなされる。258は細石刃の剥離が石核の周囲をめぐる円錐状を呈しているが、底辺でも細石刃の剥離が行われている。261は石核の周囲をめぐる剥片剥離で調整し、円錐状を呈しているプランクである。263は、厚めの剥片を素材とし、素材の表面を打面に転移して細石刃を剥離している。264・265は剥片を素材とし、表面の一端から細石刃を剥離している。

細石刃（第86図267～287）

267～287は細石刃である。いずれもほぼ同じ大きさで、小形の細石刃ばかりである。石材ごとに分類して掲載した。267～280は桑ノ木津留系の黒曜石で13点出土した。280はえびの系の、281・282は腰岳系の、283は姫島系の黒曜石である。284～287は頁岩製である。

接合資料（第87～88図288～299）

接合資料5(288～290)は剥片2点と石核1点からなる。剥離の順序は288→299で、最後に石核(290)が残った。288の打点は残っていないが、剥離後に割れ落ちたものと思われる。石核(290)は大形の剥片を素材とし、裏面から求心状に剥片を剥出している。

接合資料35(291～293)は剥片3点からなる。側辺を加工するために剥片(291)を剥離した際に、292と293が折れたものと思われる。

接合資料41は剥片2点からなり、剥片製作時に剥離した剥片同士の接合である。

接合資料33(296～299)は剥片4点からなる。大

形の剥片を2分割し、その1つである297はその後に裏面からの打撃により数点の剥片を剥出している。分割したもう1つの剥片の裏面から打撃して剥離したのが296で、671はその際に折れたものと思われる。

敲石・磨石（第89図300～303）

300・302・303は棒状の、301は円形の敲石である。いずれも砂岩製で、300は半折れしている。302・303は両端に溝痕がある。301にははっきりしない磨面も観察され、磨石との複合石器と考えられる。

礫器（第89図304）

304は礫器である。大形の円盤の自然面を除去した際の剥片を素材とし、刃部は横一側辺と下部にある。下部の加工は素材の主要剥離面から、側辺の加工は自然面から行われている。

同一母岩 13（第91図309～313）

309～313は剥片5点と接合資料(237・238)からなる。石材と出土位置が近いことから同一母岩とした。石材は暗灰色の頁岩である。

同一母岩 14（第93図314～317）

7点の剥片(314～317を含む)と146の角錐状石器からなる。石材は乳白色の斑模様の入る濃い黄土色をしたホルンフェルスである。

剥片（第89～99図305～366）

305～366は剥片である。剥片は521点出土したが、接合資料や同一母岩、石材ごとの抽出により、120点を図示した(同一母岩・接合資料で掲載した分を含む)。

319・320、322～324はほとんど風化していない頁岩、325～329、331、333は斑模様のある頁岩、337は流れたような模様のある頁岩である。

321はほとんど風化していないホルンフェルス、330は斑模様のあるホルンフェルス、339・340は流れたような模様のあるホルンフェルス、341は黄褐色に風化しているホルンフェルス、347・348、354、364～366は縞模様があり風化しているホルンフェルス、349～353、355～363はオリーブ色や灰色に風化しているホルンフェルスである。

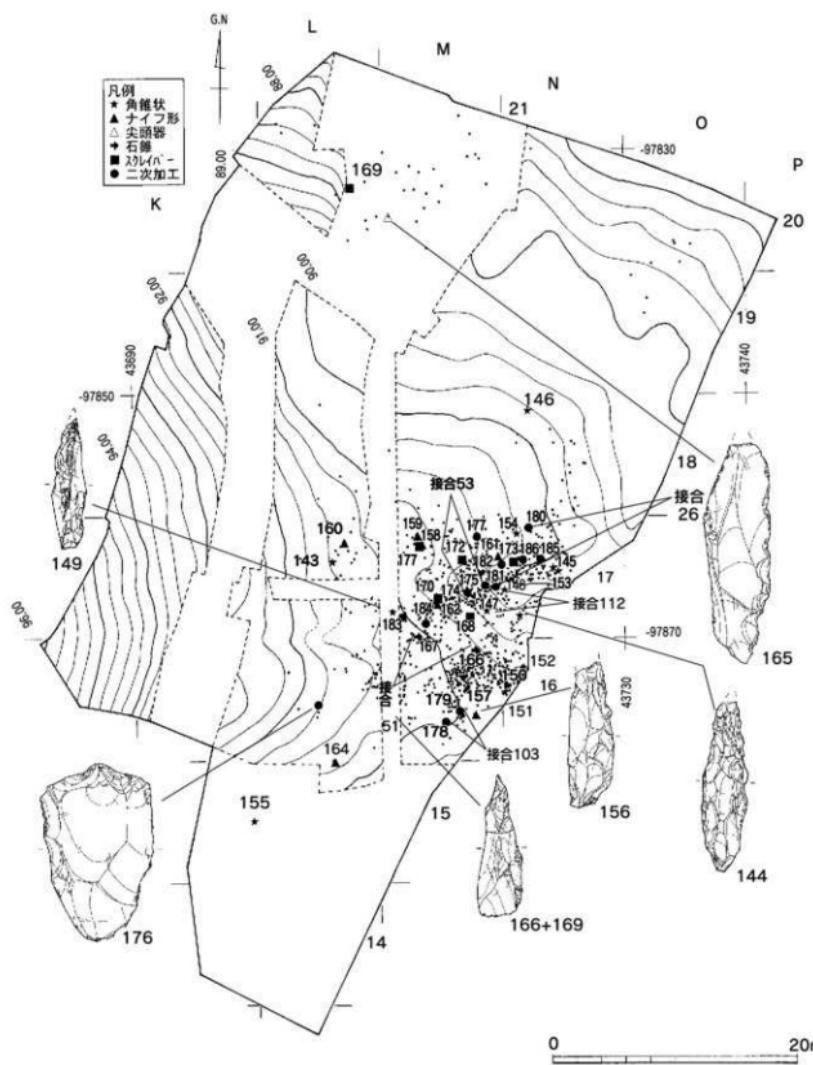
332は珪質頁岩、334～336、338は流れたような模様のある流紋岩である。342は細粒砂岩、343～346は砂岩である。

352と353は、直接接合する部分がないため接合していないが、同じ剥片が折れたものと思われる。

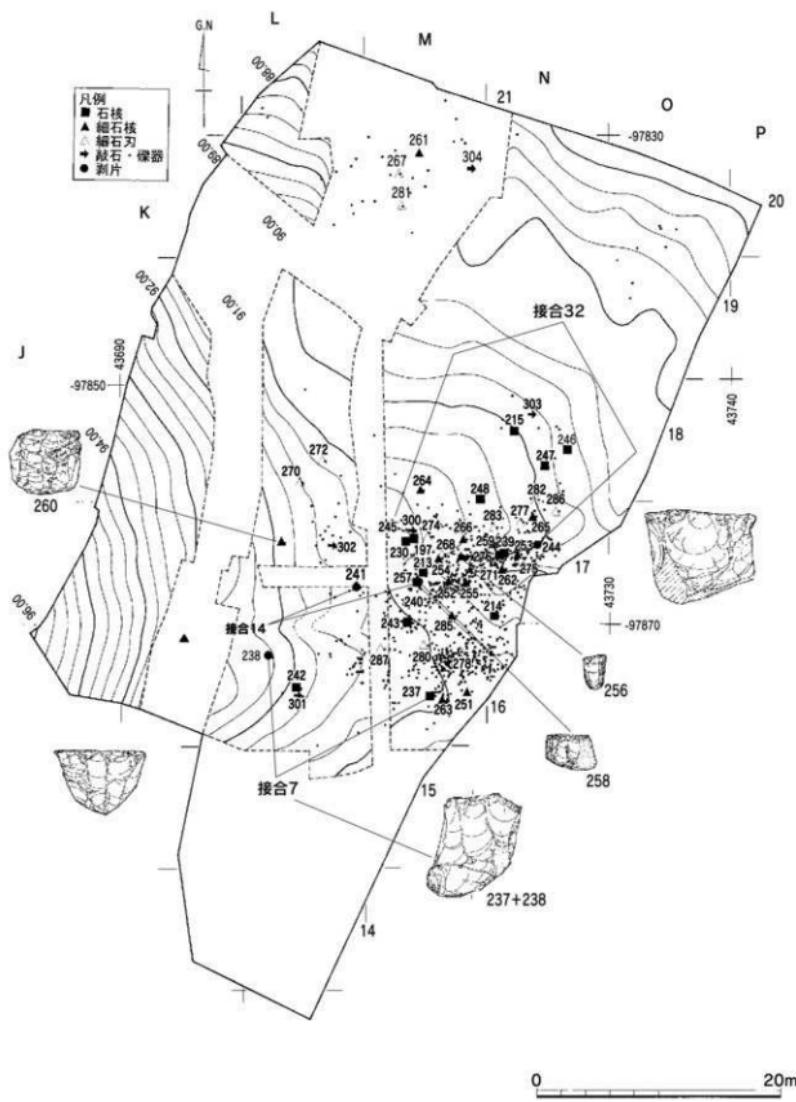
(3) 小結

旧石器時代第Ⅱ文化層は、散礫と頁岩・ホルンフェルス製の石器群、黒曜石製の細石核・細石刃・剥片・チップ群に特徴づけられる。ただし、急傾斜で起伏のある地形上、出土層の区別が困難で明確に分けることができなかったが、頁岩・ホルンフェルスを中心石材とする文化層と黒曜石を中心石材とする文化層は分けられるのではないかと考えている。また、陥し穴状遺構が2基検出され、本遺

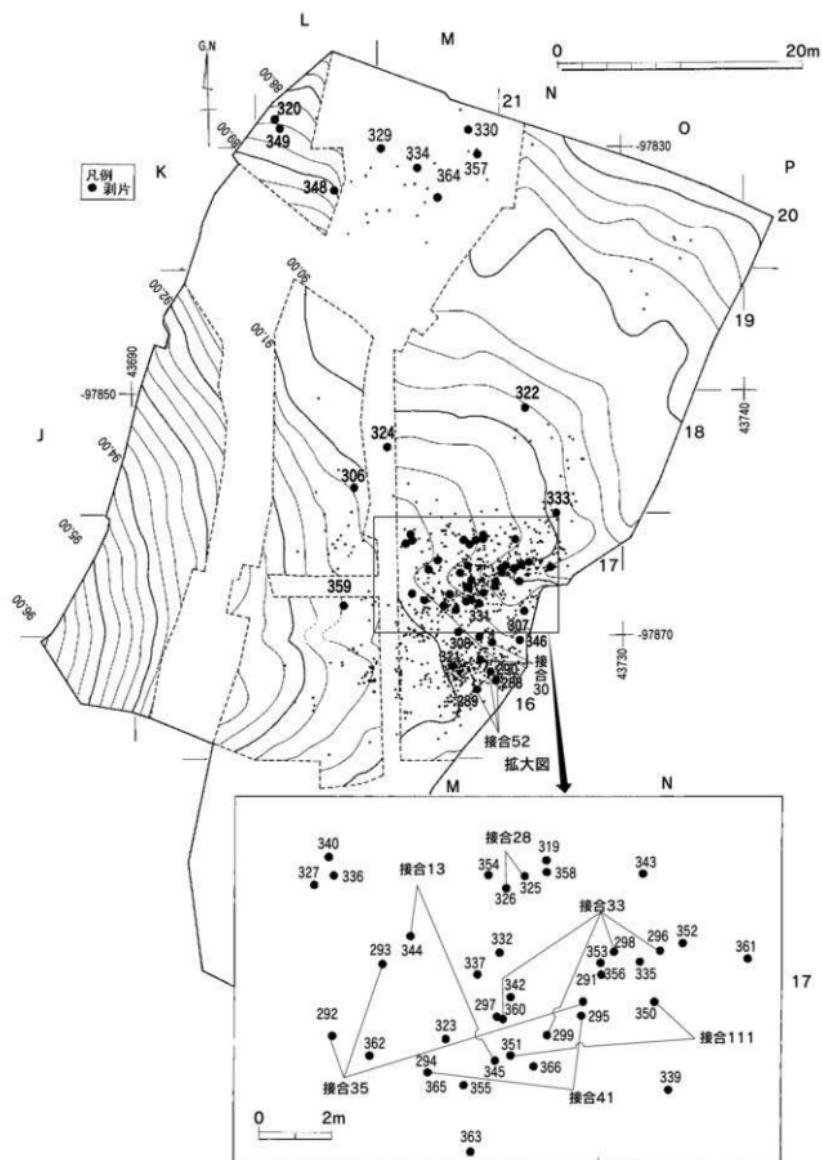
跡のB区とC区との境目のやや勾配が緩やかになってきた辺りが狩り場であったのかもしれない。これらの時期差については、明確な判断基準を示すことができないが、古い方から頁岩・ホルンフェルスを中心の文化層→黒曜石を中心の文化層→陥し穴状遺構検出の文化層の順になると思われる。いずれの時期でも、石器組成を見る限り、本遺跡は短期のベースキャンプ的な性格の場であったと推定できる。



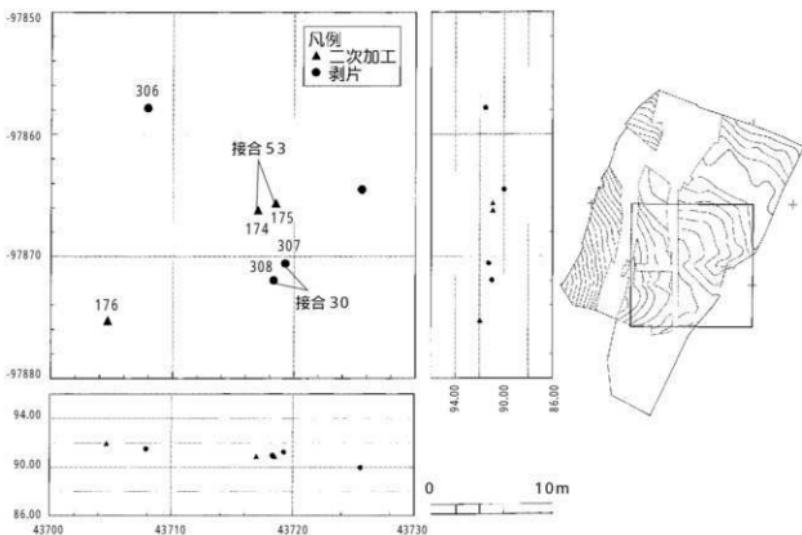
第57図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器分布図 ($S = 1/400$)



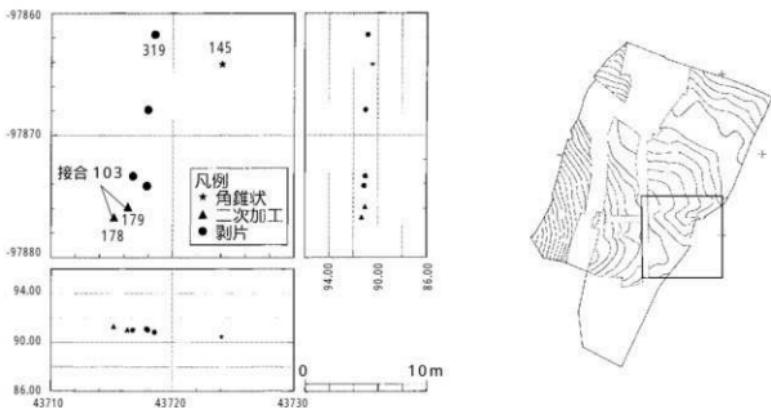
第58図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器分布図 (S = 1/400)



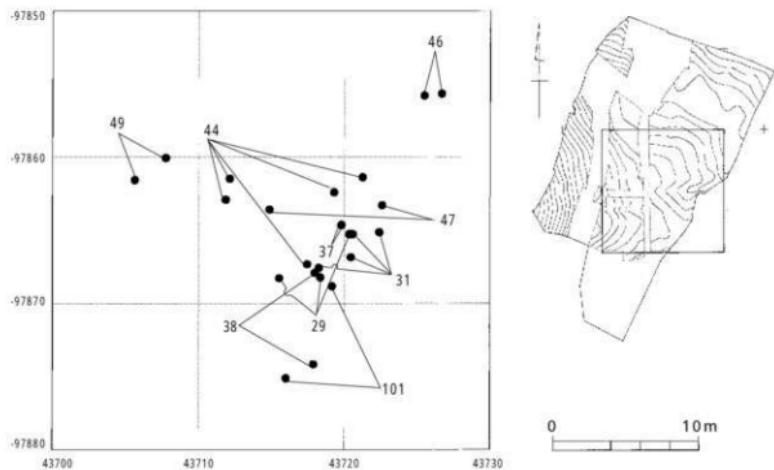
第59図 旧石器時代第Ⅱ文化層 遺物分布図【剥片】(S = 1/400)



第60図 旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩20 分布図 ($S = 1/400$)

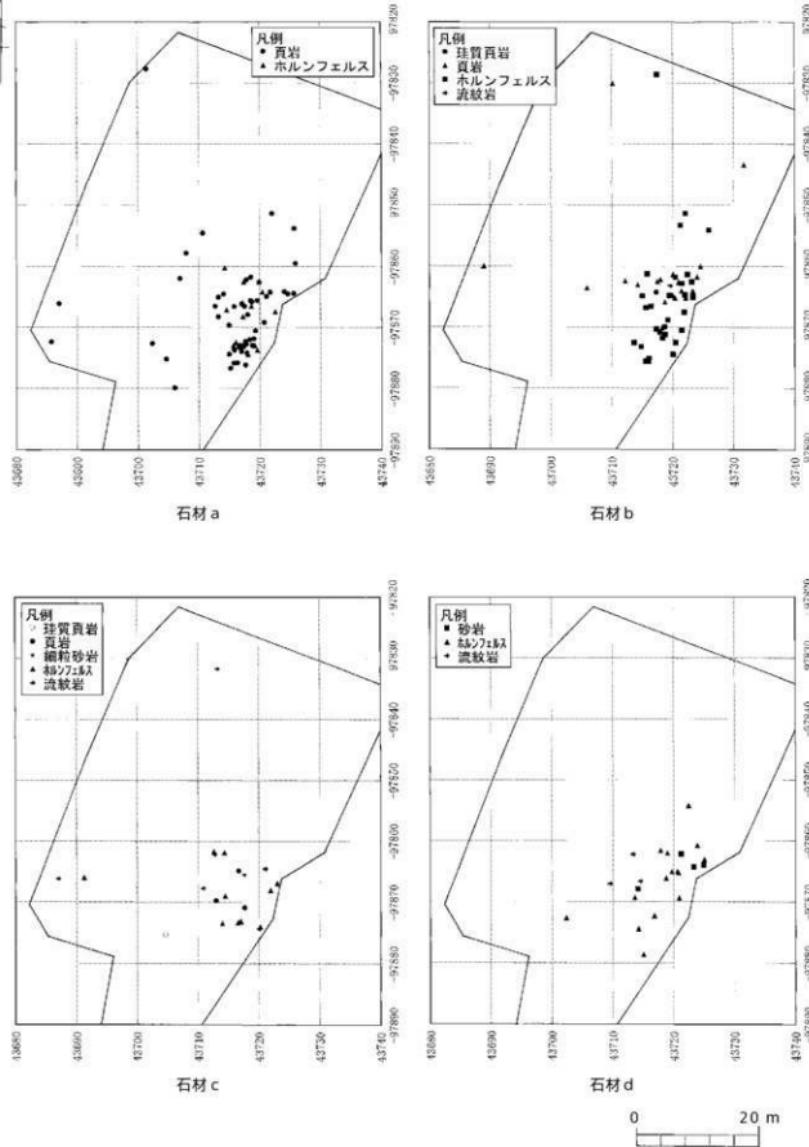


第61図 旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩22 分布図 ($S = 1/400$)

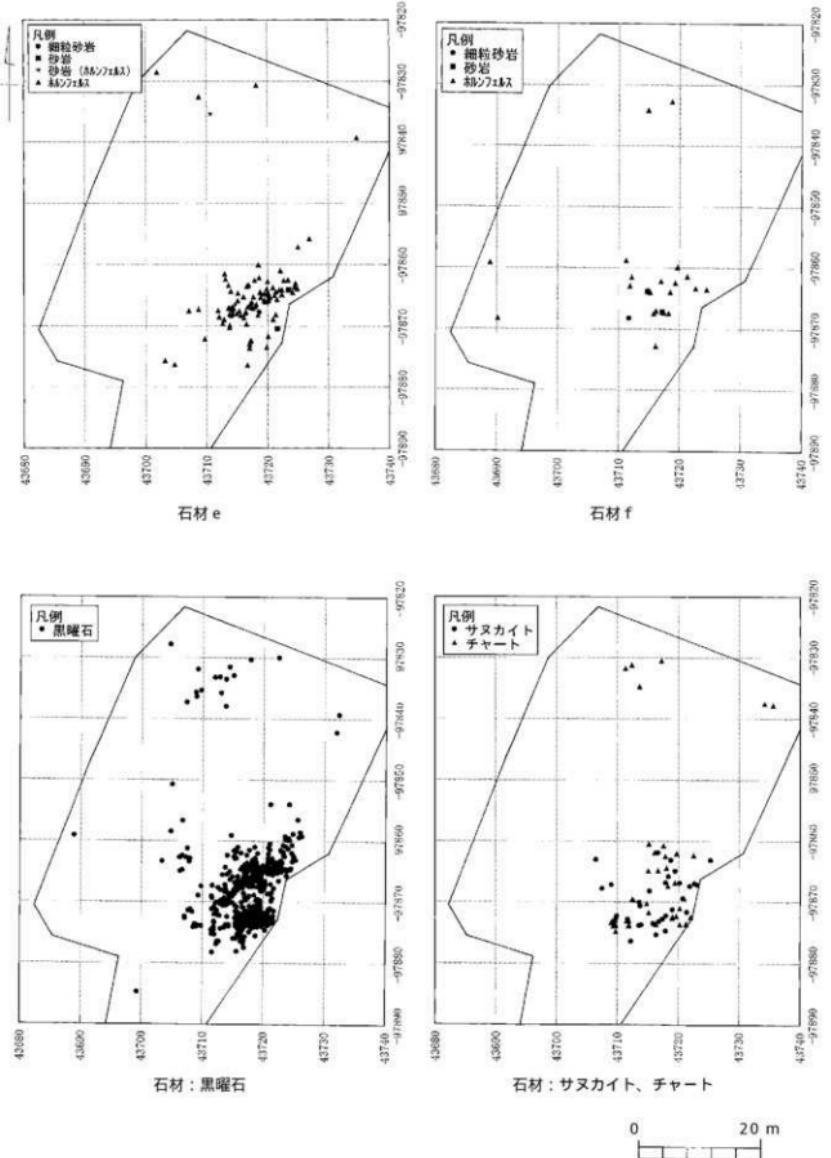


* 図中の番号は接合資料番号を示す。

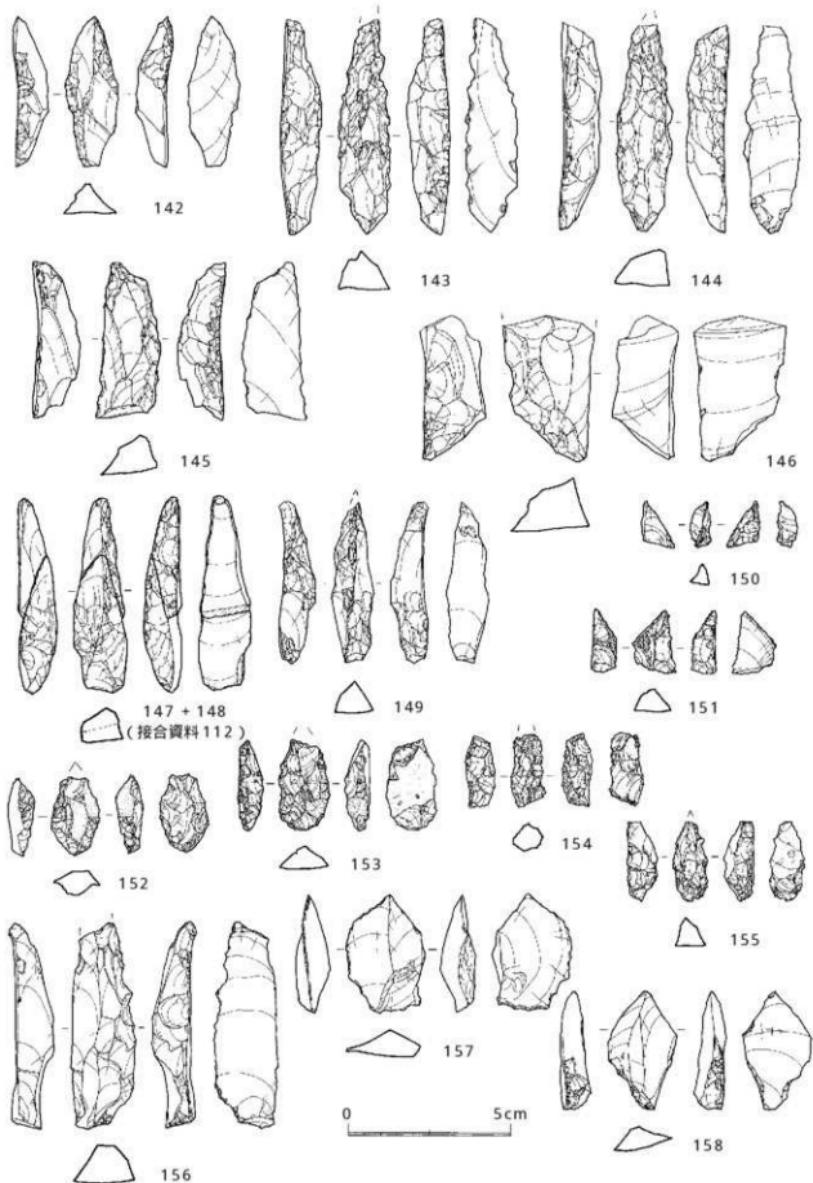
第 62 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 固化資料以外の接合関係図



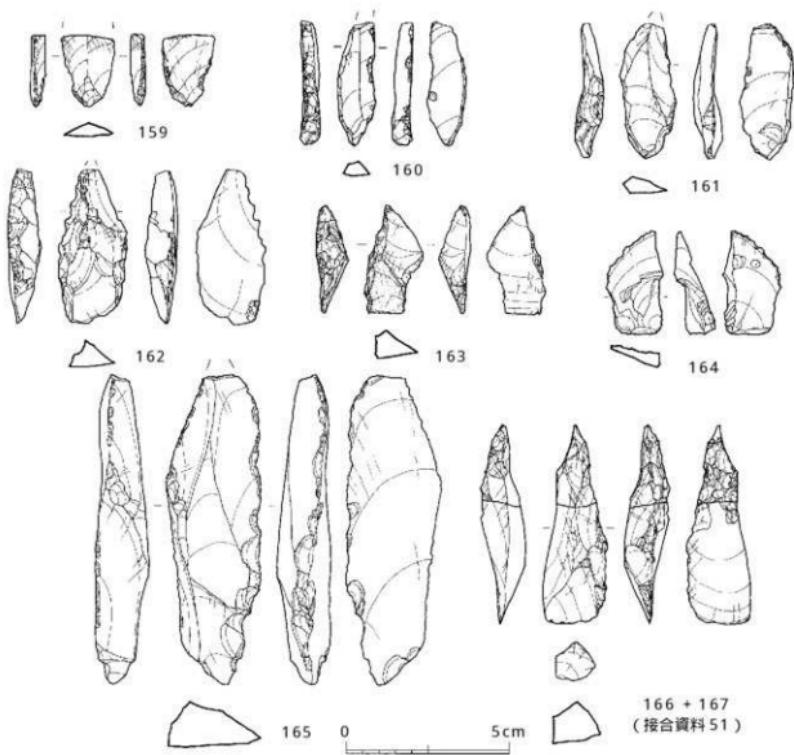
第63図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石材別分布図(1)



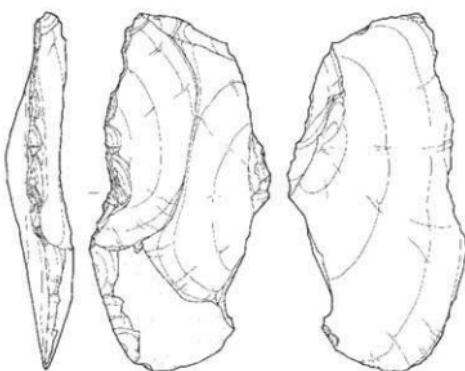
第 64 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石材別分布図(2)



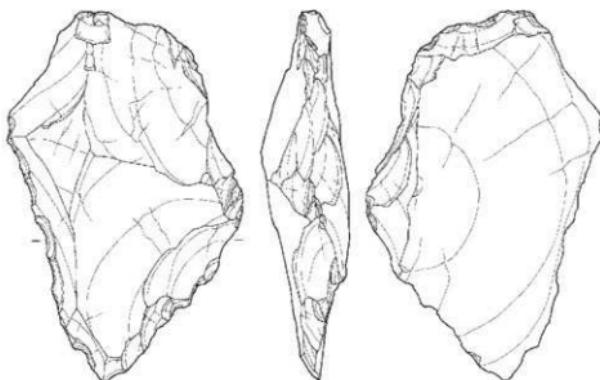
第65図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(1)【角錐状・ナイフ形】($S = 2/3$)



第 66 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(2)【ナイフ形・尖頭器・石錐】(S = 2/3)



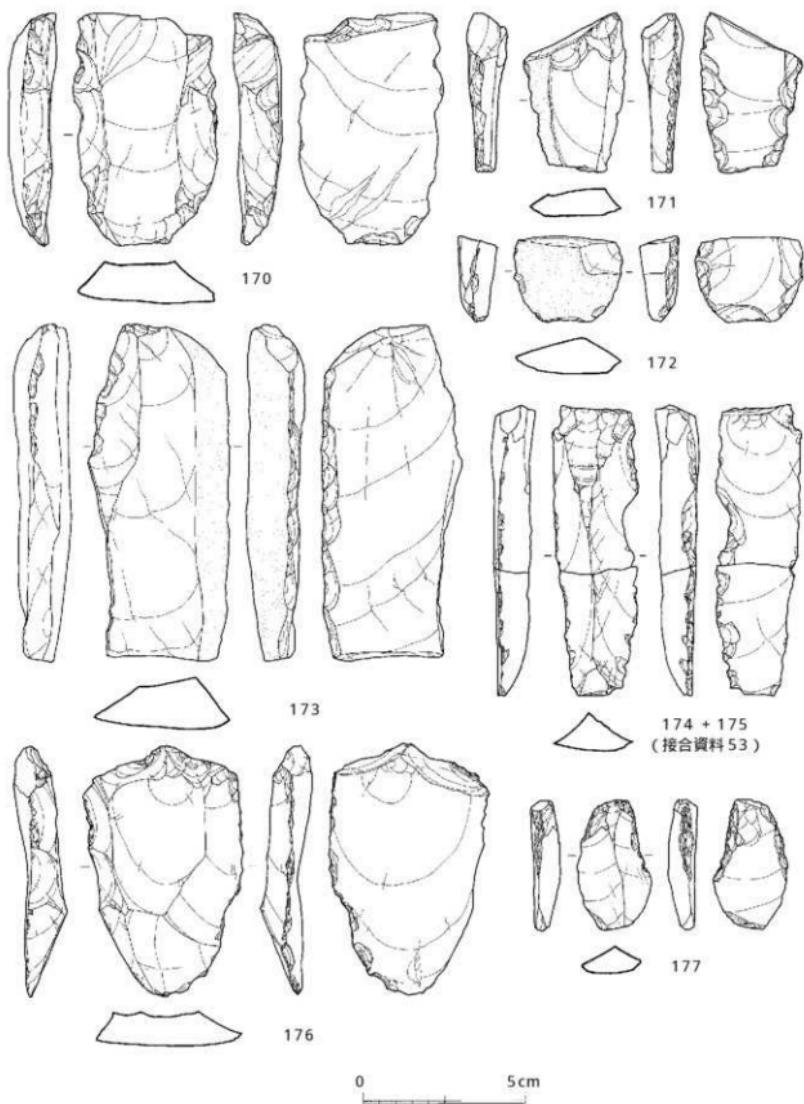
168



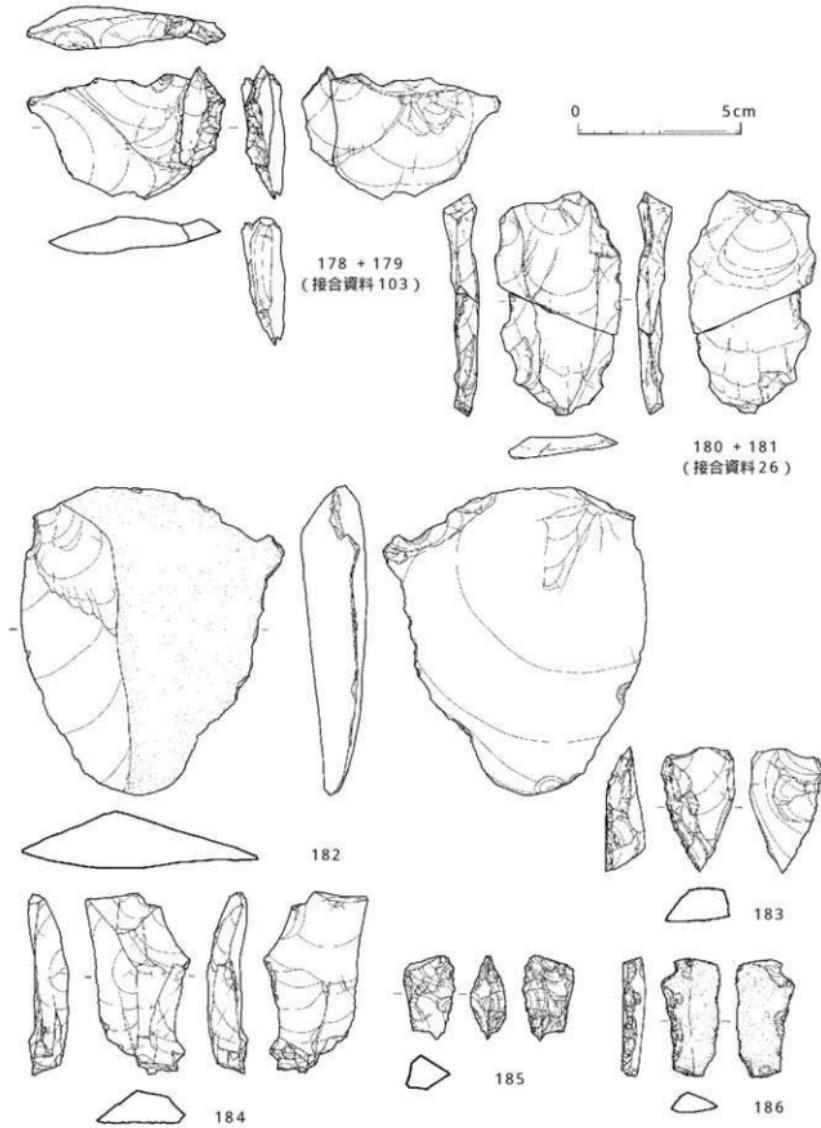
169



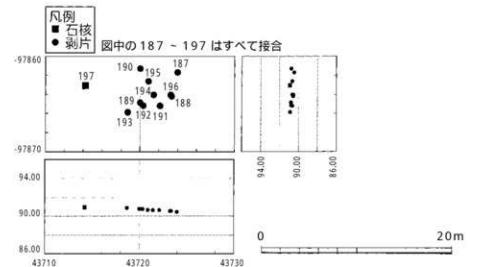
第 67 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(3)【スクレイバー】($S = 2/3$)



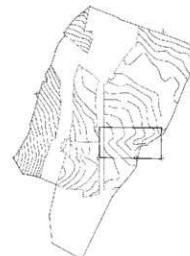
第 68 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(4)【スクレイバー・二次加工剥片】(S = 2/3)



第 69 圖 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(5)【二次加工剥片】($S = 2/3$)

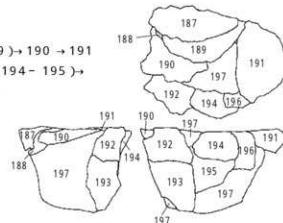


第70図 旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩21/接合資料45
分布図 ($S = 1/400$)

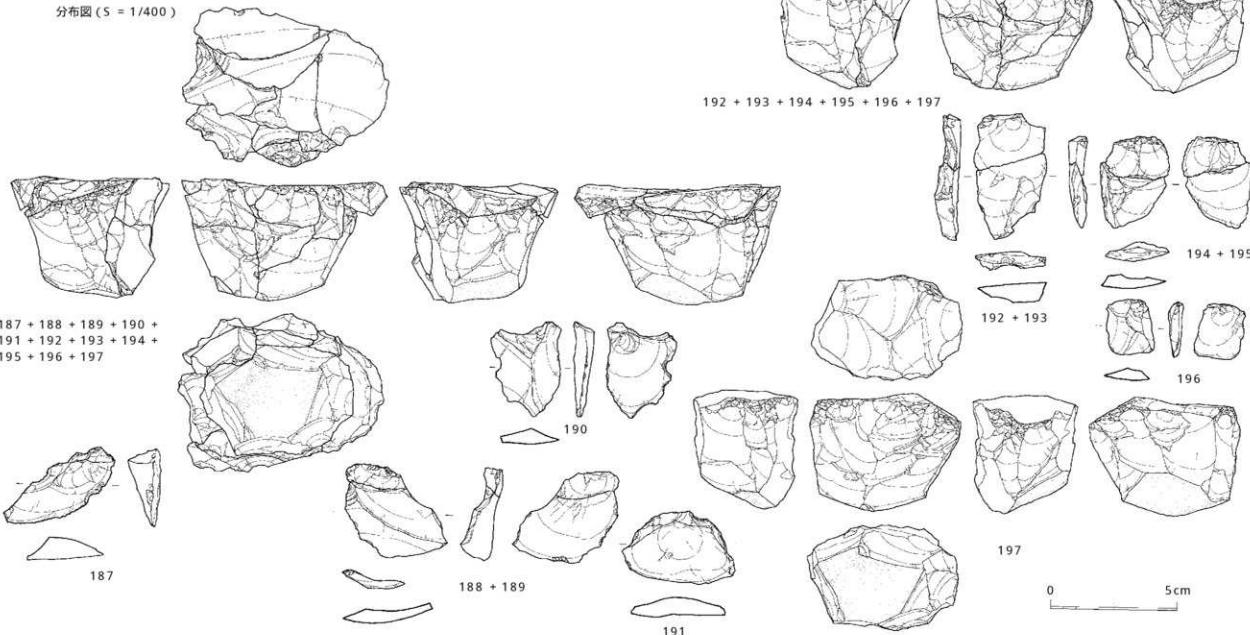


三

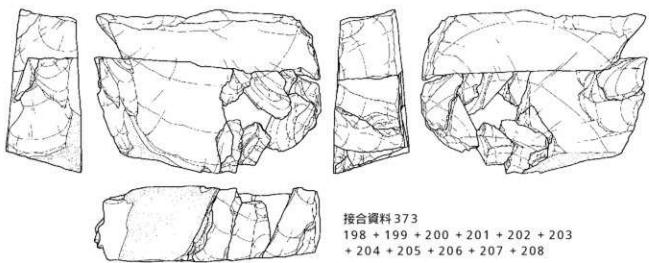
187 → (188 - 189) → 190 → 191
→ (192 - 193) → (194 - 195) →
196 → 197(石核)



182 + 183 + 184 + 185 + 186 + 187



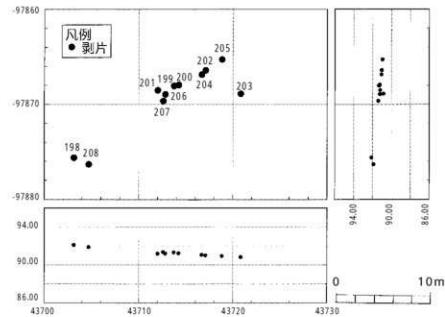
第 71 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(6)【同一母岩 21 / 接合資料 45】(5 = 2/3)



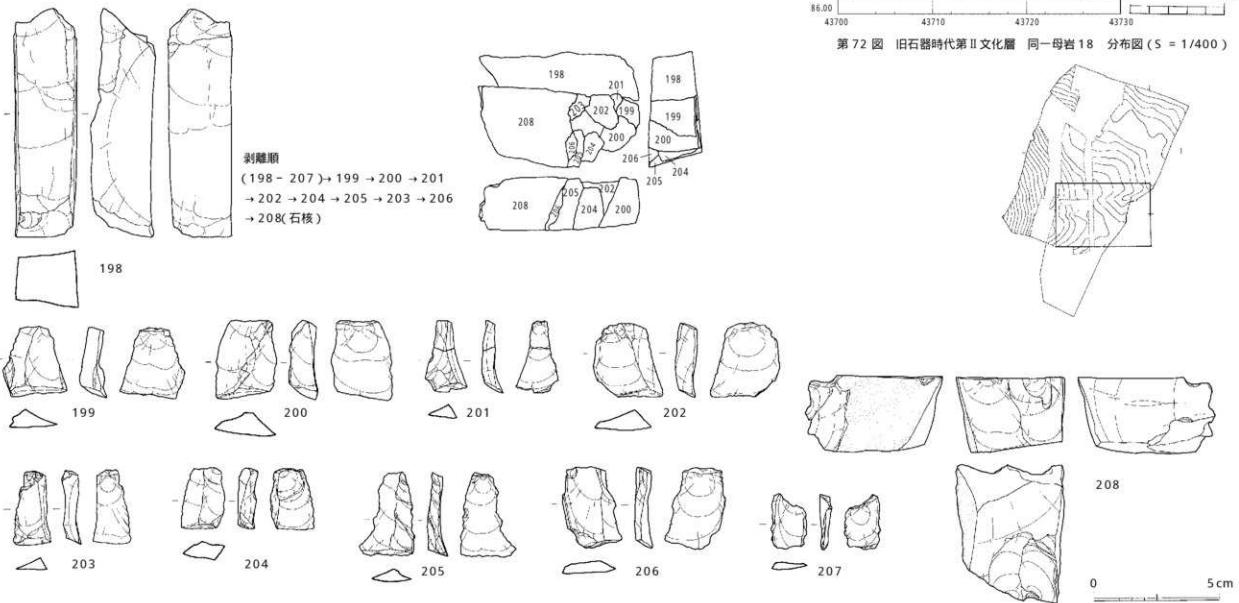
接合資料 373

198 + 199 + 200 + 201 + 202 + 203

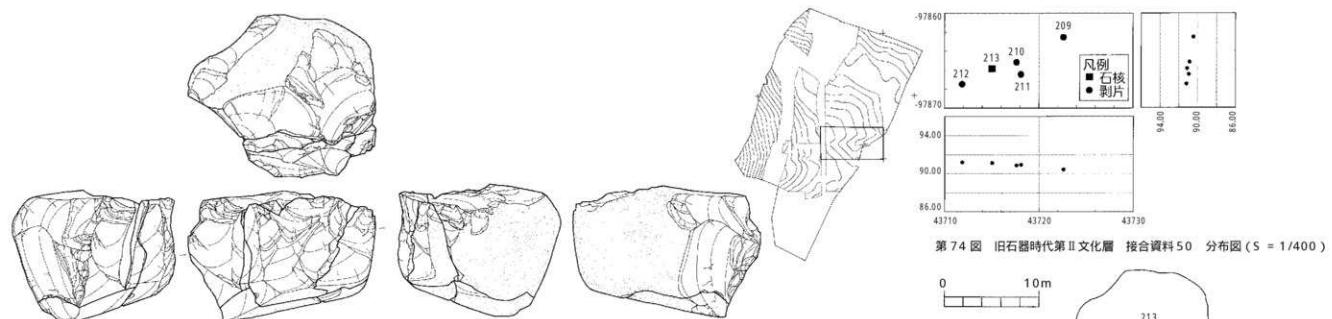
+ 204 + 205 + 206 + 207 + 208



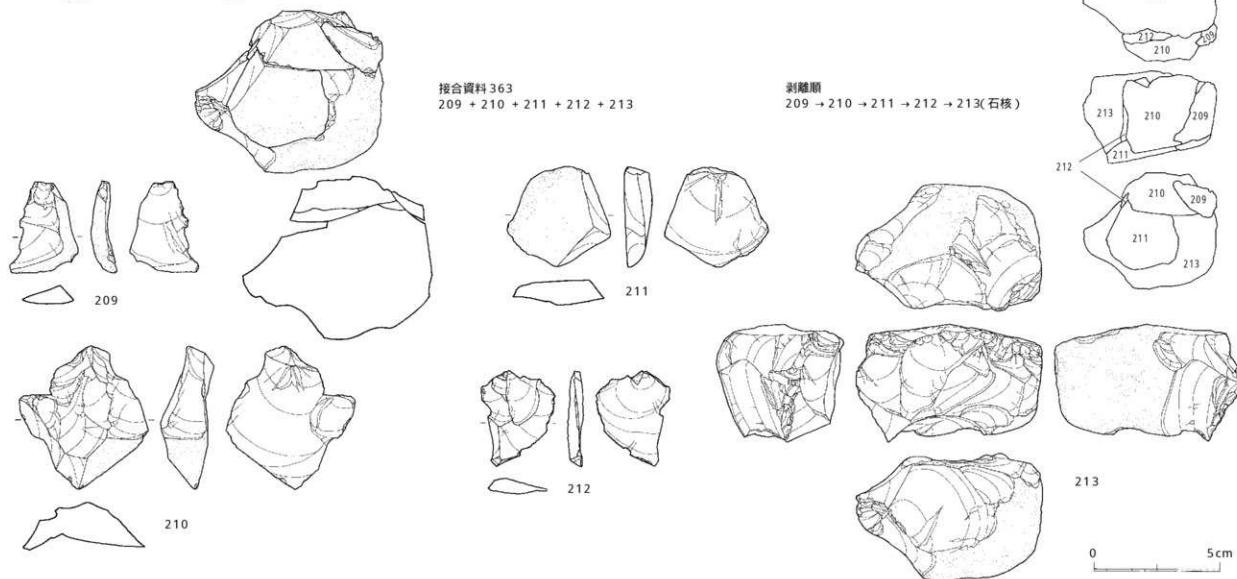
第 72 図 旧石器時代第 II 文化層 同一母岩 18 分布図 ($S = 1/400$)



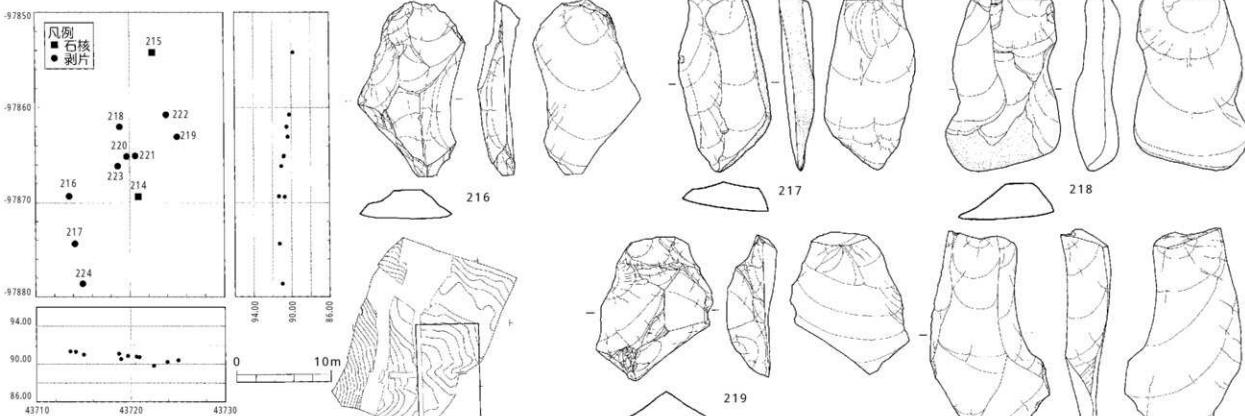
第73図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(7)【同一母岩18/接合資料39】(S=2/3)



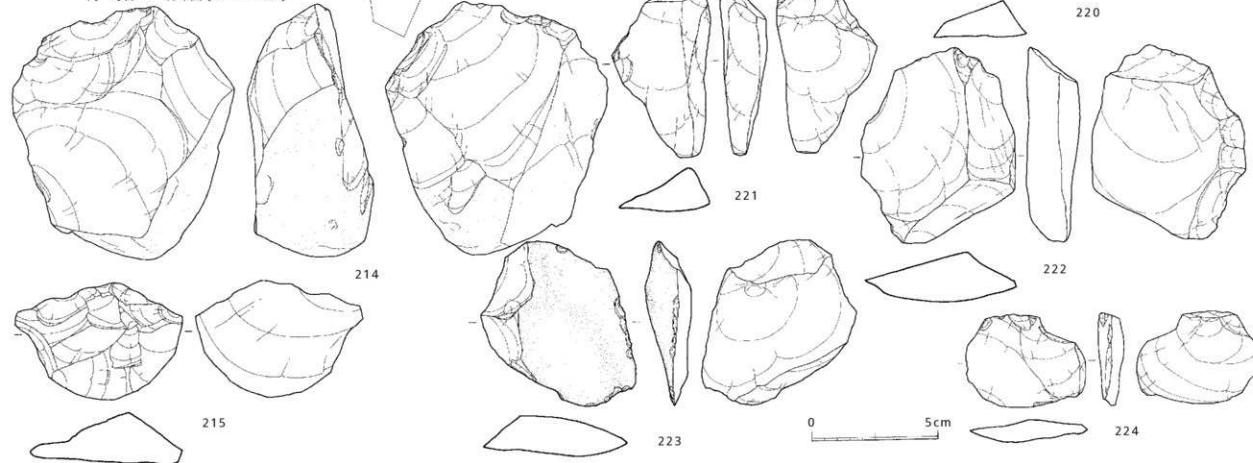
第 74 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 接合資料 50 分布図 ($S = 1/400$)



第 75 図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図 (8)【接合資料 50】($S = 2/3$)

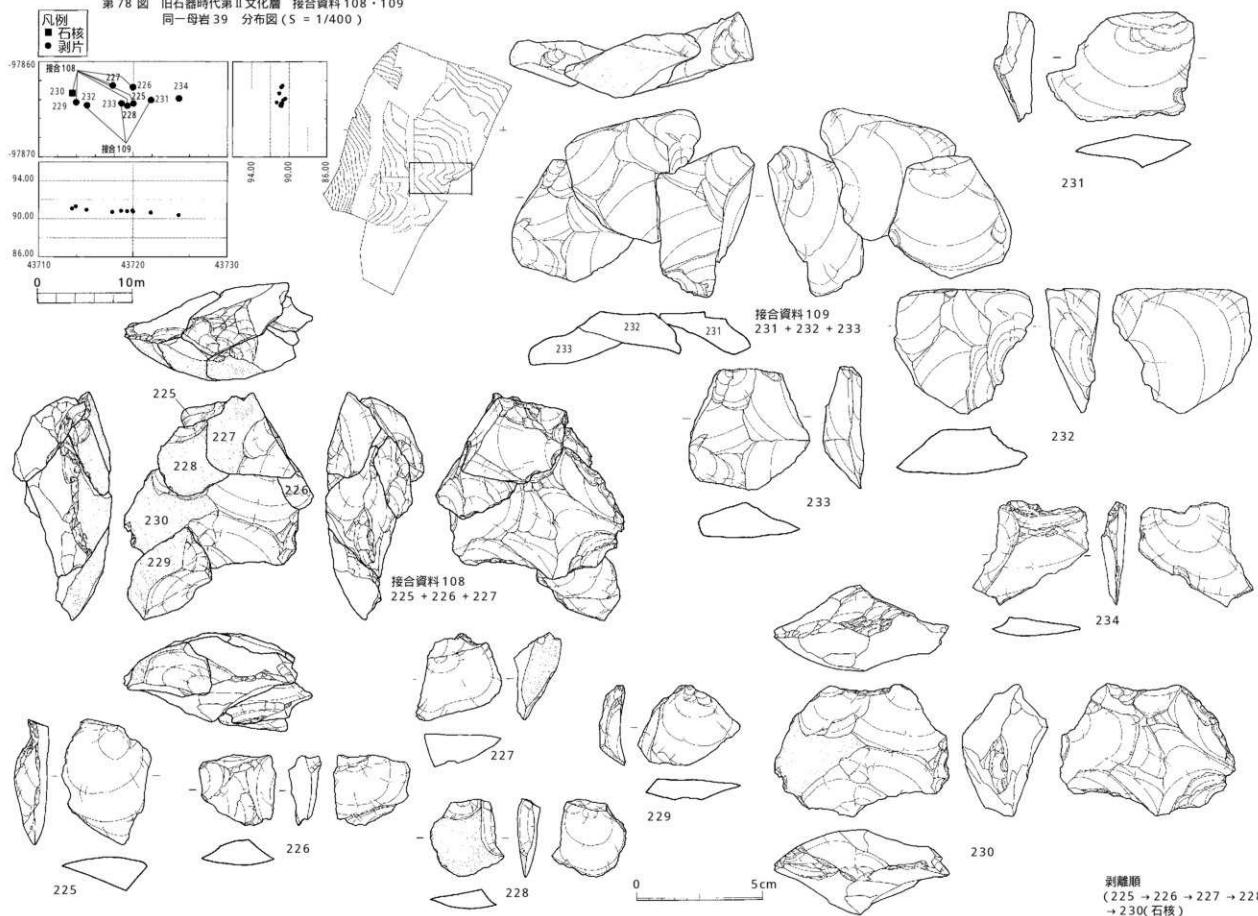


第76図 旧石器時代第Ⅱ文化層
同一母岩17 分布図 ($S = 1/4000$)



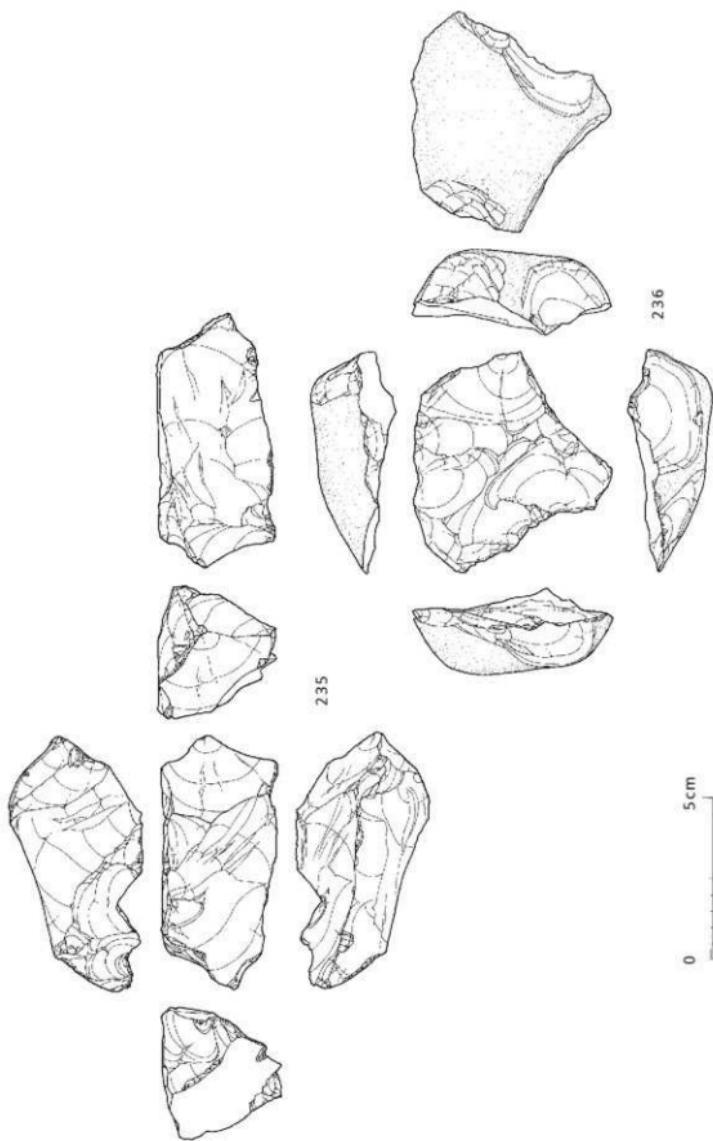
第77図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(9)【同一母岩17】($S = 2/3$)

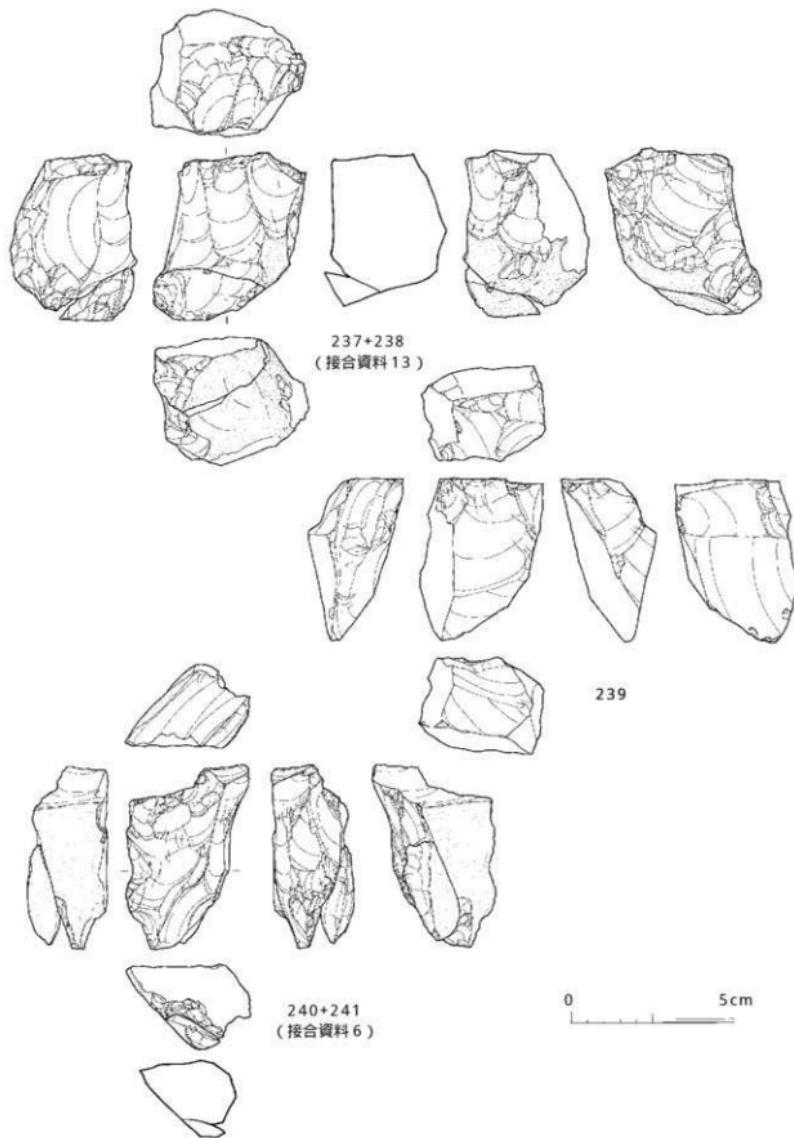
第78図 旧石器時代第II文化層 接合資料108・109
同一母岩39 分布図 ($S = 1/400$)



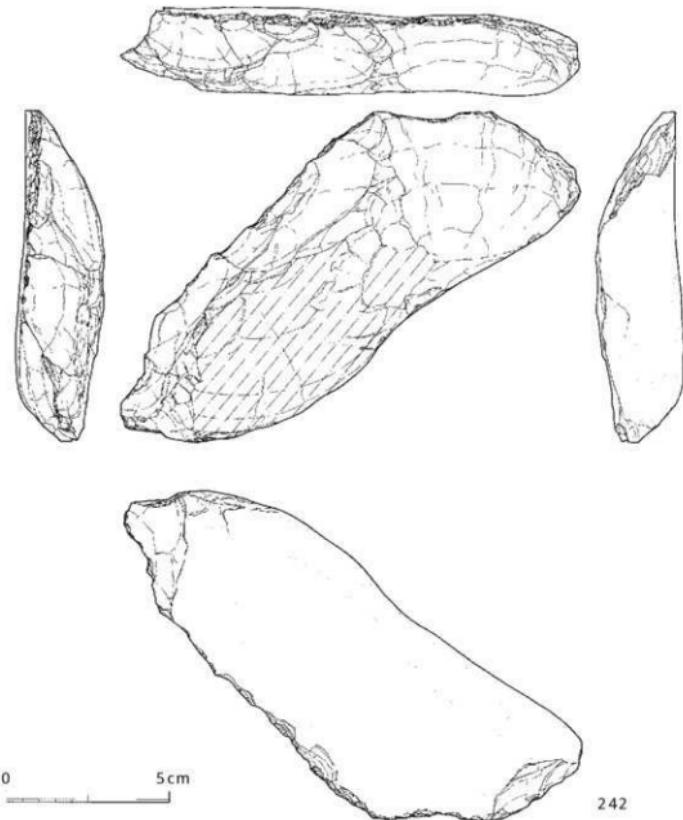
第79図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(10)【同一母岩39/接合資料108・109】($S = 2/3$)

第80圖 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器實測圖(11)【石核】($S = 2/3$)



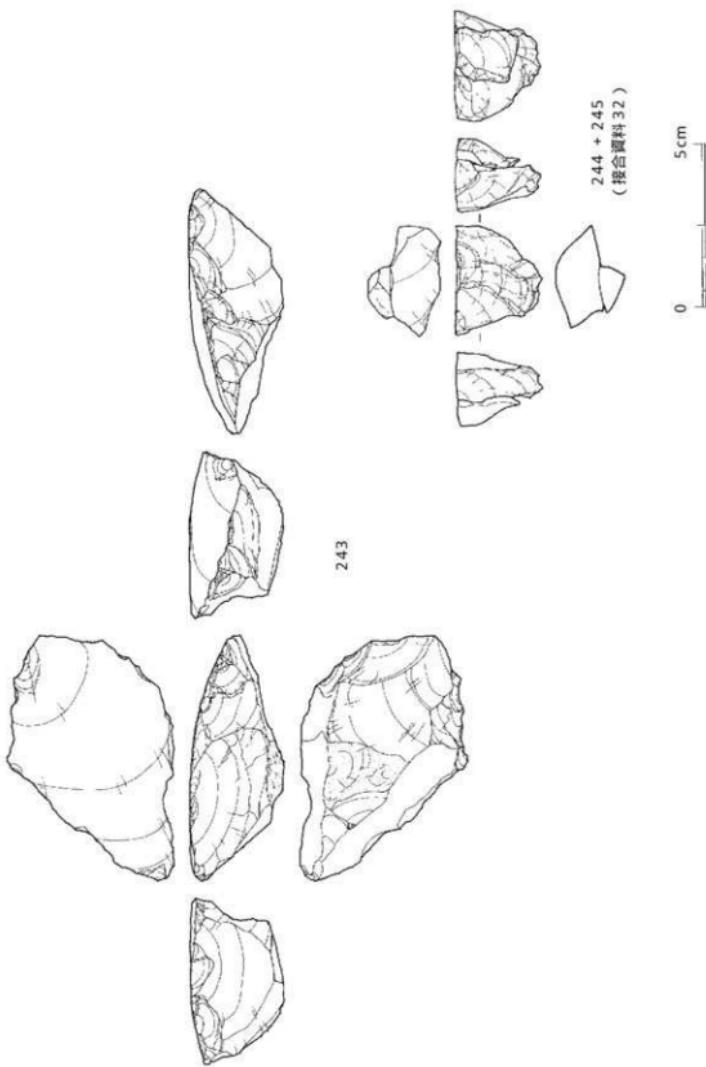


第81図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(12)【石核】(S=2/3)

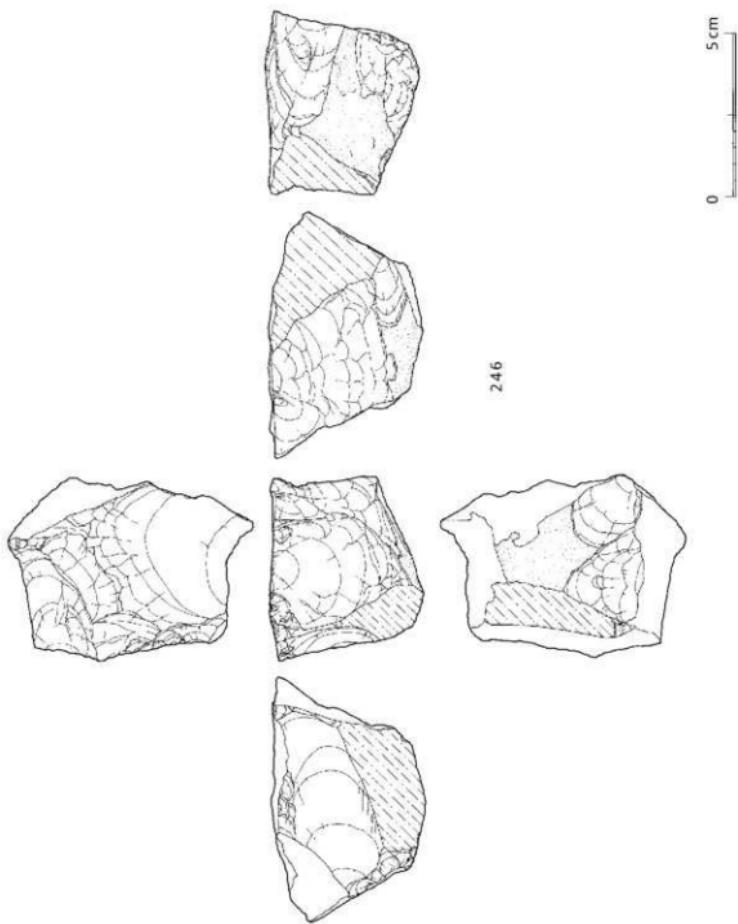


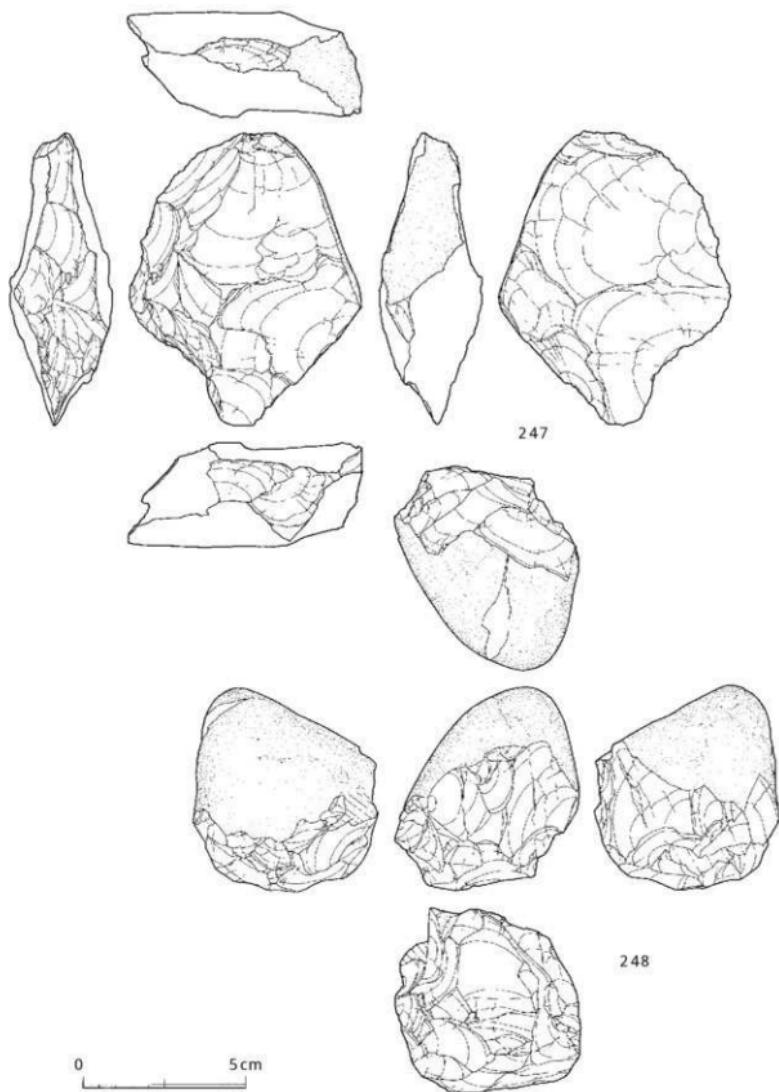
第82図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(13)【石核】(S=2/3)

第83圖 旧石器時代第1文化層 石器實測圖(14)【石核】(S = 2/3)



第84圖 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(15)【石核】(S = 2/3)



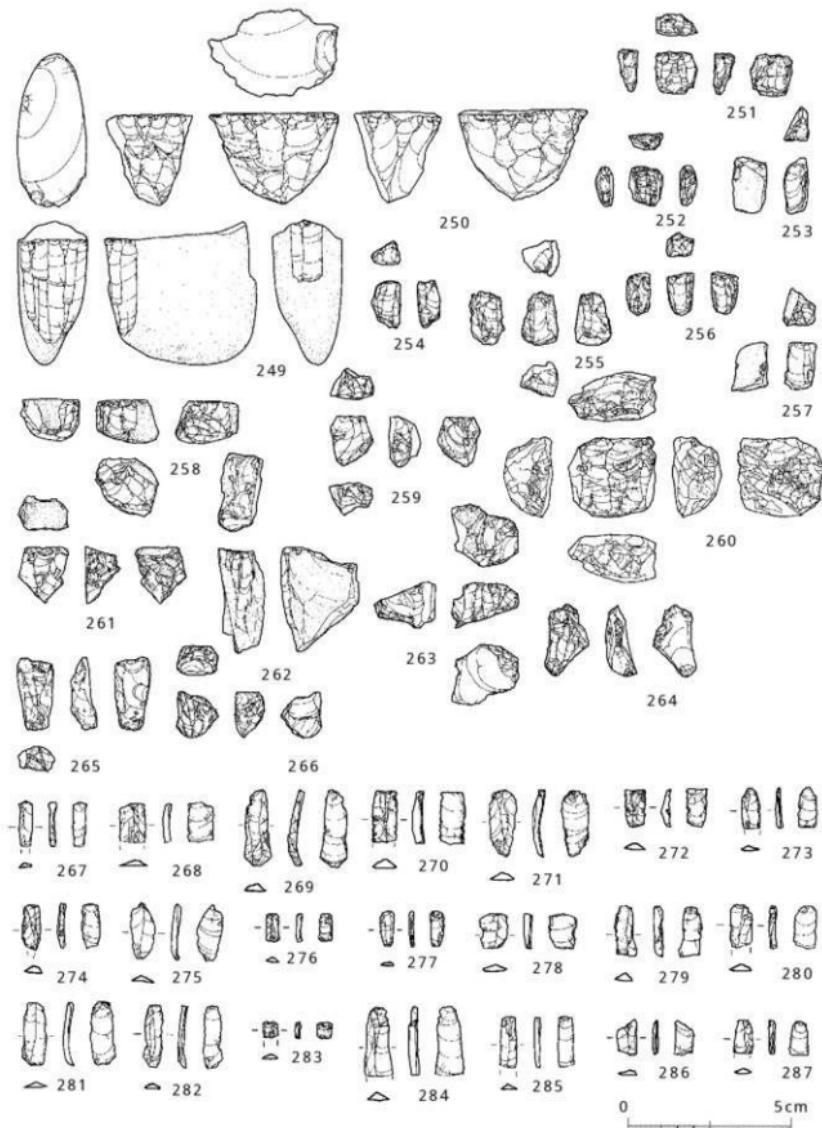


第85図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(16)【石核】(S = 2/3)

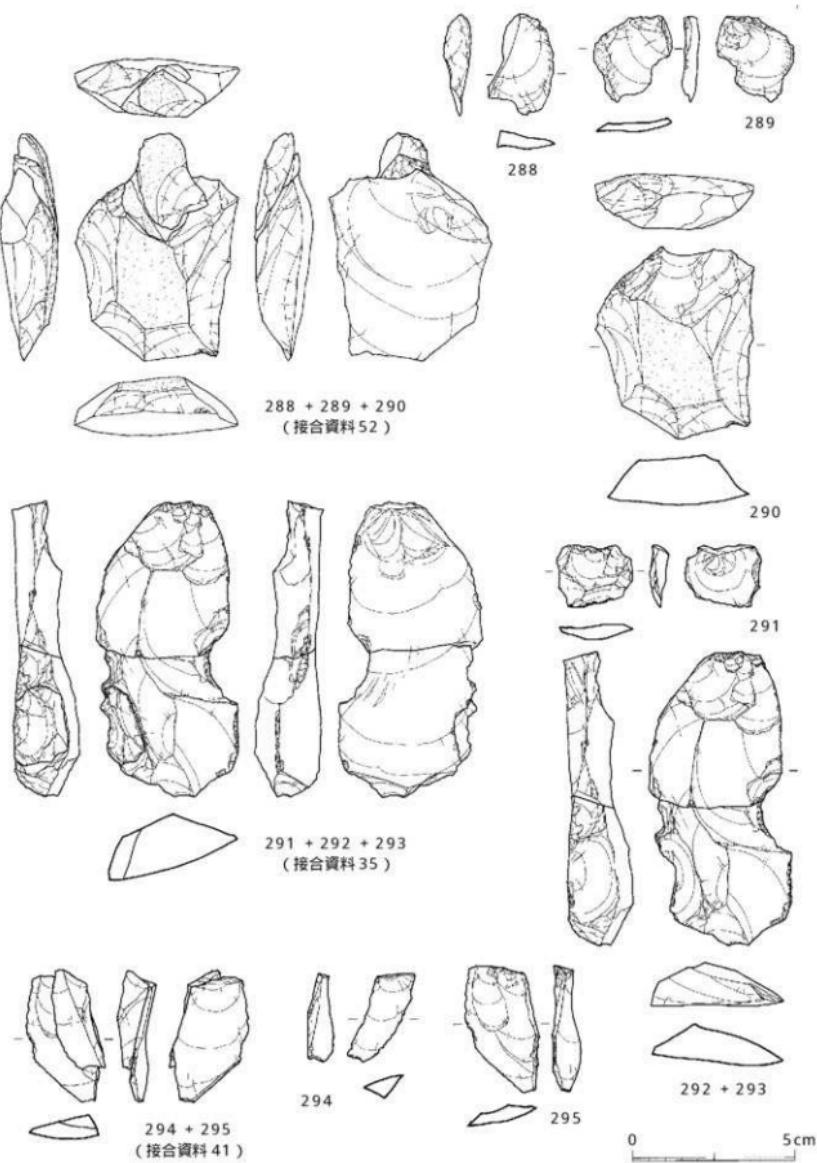
番号	注記 番号	区	ルート	層	層種	石材	石材 分類	同一 母岩	接合 資料	高さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	国土地標 X座標	国土地標 Y座標	レベル	備考
168	285	C	M17	VI	スクリーパー	ホルンフェルス	a			11.05	5.60	2.15	106.4	-97868.176	43717.212	91.085	
169	1454	A	L20	VI	スクリーパー	ホルンフェルス				11.40	7.30	2.70	160.8	-97832.927	43707.514	88.748	
170	844	C	M17	VI	スクリーパー	ホルンフェルス				7.15	4.50	1.50	55.7	-97866.630	43714.563	91.10	
171	831	C	M17	VI	スクリーパー	ホルンフェルス	e			4.90	3.20	1.30	17.9	-97862.351	43713.055	91.157	
172	103	C	M17	VI	スクリーパー	ホルンフェルス	e			2.65	3.35	1.20	11.1	-97863.453	43716.565	91.027	
173	766	C	N17	VI	スクリーパー	ホルンフェルス	e			10.35	4.35	1.80	93.4	-97863.672	43720.828	90.652	
174	840	C	M17	VI	二次	頁岩	a	20	53	8.95	2.70	1.40	31.4	-97866.165	43717.001	90.924	
175	852	C	M17	VI	二次	頁岩	a	20	53	8.95	2.70	1.40	31.4	-97865.576	43718.481	90.933	
176	925	C	L16	VI	二次	頁岩	a	20	7.70	4.95	1.65	52.8	-97875.236	43704.666	91.990		
177	306	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	d			4.00	2.30	0.90	7.7	-97861.598	43717.814	90.826	
178	62	C	M16	VI	二次	頁岩	a	22	103	3.90	1.30	21.7	97.876.700	43715.160	91.351		
179	132	C	M16	VI	二次	頁岩	a	22	103	3.10	1.40	0.90	2.7	-97875.835	43716.308	90.068	
180	762	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	c			2.65	6.85	3.90	105.224	-97860.910	43722.099	90.643	
181	849	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e			2.65	6.85	3.90	105.224	-97865.690	43719.346	90.876	
182	310	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e			9.50	8.15	2.05	123.4	-97863.888	43719.832	90.761	
183	740	C	M17	VI	二次	砂鉄岩	f			3.80	2.25	1.20	9.4	-97868.152	43711.647	91.146	
184	275	C	M17	VI	二次	珪質頁岩				5.60	3.20	1.20	17.6	-97868.680	43713.350	91.295	
185	588	C	N17	VI	二次	巖石	b			2.55	1.60	1.10	3.1	-97863.491	43723.037	90.597	
186	665	C	N17	VI	二次	巖石	b			3.60	1.80	0.70	4.1	-97863.500	43721.593	90.507	
187	761	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	3.10	4.40	1.30	8.6	-97861.705	43723.364	90.453	
188	585	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	3.70	4.20	1.60	8.6	-97864.186	43723.340	90.553	
189	674	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	3.70	4.20	1.60	8.6	-97864.858	43720.005	90.791	
190	668	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	3.80	2.80	0.80	6.4	-97861.299	43720.021	90.755	
191	775	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	2.90	4.50	0.80	11.1	-97865.197	43722.109	90.646	
192	772	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	5.00	2.90	1.10	11.6	-97865.168	43720.343	90.760	
193	931	C	M17	VI	二次	巖石	b	21	45	5.00	2.90	1.10	11.6	-97865.868	43718.685	90.882	
194	591	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	3.60	2.80	0.70	6.5	-97864.019	43721.430	90.644	
195	665	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	3.60	2.80	0.70	6.5	-97862.634	43720.883	90.657	
196	586	C	N17	VI	二次	巖石	b	21	45	2.20	1.95	0.55	2.5	-97864.051	43723.246	90.547	
197	826	C	M17	VI	二次	巖石	b	21	45	4.75	6.10	4.20	140.5	-97863.059	43714.214	90.927	
198	439	C	L16	VI	二次	巖石	e	18	39	9.15	2.50	2.60	94.5	-97875.609	43703.139	92.113	
199	741	C	M17	VI	二次	巖石	e	18	39	2.80	2.80	1.10	5.7	-97868.929	43712.812	91.216	
200	735	C	M17	VI	二次	巖石	e	18	39	3.15	2.40	1.10	9.4	-97867.950	43714.230	91.239	
201	477	C	M17	VI	二次	巖石	e	18	39	2.85	1.70	0.80	2.0	-97868.500	43712.007	91.194	
202	897	C	M17	VI	二次	巖石	e	18	39	3.00	2.80	0.85	6.7	-97866.410	43717.102	91.021	
203	358	C	N17	VI	二次	巖石	e	18	39	2.90	1.50	0.70	2.8	-97868.870	43720.836	90.844	
204	729	C	M17	VI	二次	巖石	e	18	39	2.40	1.75	0.75	4.0	-97866.863	43716.689	91.076	
205	850	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	3.35	2.20	0.80	3.5	-97865.275	43718.844	90.944	
206	279	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	3.20	2.30	0.70	5.2	-97868.042	43713.726	91.335	
207	273	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	2.20	1.45	0.50	1.2	-97869.630	43712.596	91.372	
208	935	C	L16	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	4.00	4.50	1.00	102.2	-97876.302	43704.705	91.881	
209	662	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	2.70	1.05	1.05	6.4	-97862.521	43722.999	90.452	
210	853	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	5.70	5.15	2.15	36.4	-97865.169	43717.625	90.877	
211	836	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	3.95	4.15	1.10	20.7	-97866.442	43718.096	90.944	
212	739	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	39	3.80	2.95	0.65	5.7	-97867.463	43711.866	91.201	
213	902	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	18	40	4.70	7.45	5.10	231.4	-97865.841	43715.027	91.135	
214	965	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	10.05	8.90	5.00	455.2	-97869.340	43720.907	90.720		
215	178	C	N18	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	4.70	6.70	2.10	45.6	-97854.209	43722.431	89.825		
216	270	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	7.00	4.30	1.70	35.4	-97869.303	43713.583	91.334		
217	860	C	M16	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	7.00	3.70	1.35	35.2	-97874.365	43714.183	91.283		
218	187	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	7.25	4.65	1.90	55.4	-97862.018	43718.959	90.505		
219	649	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	5.70	4.70	2.05	36.8	-97863.036	43725.042	90.386		
220	883	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	8.35	4.70	1.90	53.0	-97865.009	43719.680	90.829		
221	677	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	6.55	4.00	1.80	37.6	-97865.033	43720.597	90.787		
222	133	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	d	17	7.75	6.20	2.20	94.5	-97860.746	43723.889	90.219		
223	2013	C	M17	V	二次	ホルンフェルス	d	17	6.50	6.20	1.80	61.9	-97866.116	43718.748	91.086		
224	963	C	M16	V	二次	ホルンフェルス	d	17	3.70	4.80	1.00	16.4	-97878.599	43715.011	90.987		
225	672	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	5.00	3.40	1.40	19.9	-97864.405	43720.003	90.761	
226	2004	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	2.80	3.05	1.30	10.4	-97862.670	43719.955	90.869	
227	918	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	3.45	3.45	1.85	15.7	-97862.513	43718.808	90.723	
228	302	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	3.10	2.95	0.90	7.1	-97864.648	43719.371	90.814	
229	2011	C	M17	V	二次	ホルンフェルス	e	39	108	3.20	4.10	1.05	11.8	-97864.268	43713.948	91.321	
230	824	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	5.25	7.00	3.40	91.6	-97863.209	43713.559	91.075	
231	685	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	4.95	5.90	1.60	29.8	-97864.037	43721.867	90.662	
232	720	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	5.00	5.50	2.15	58.5	-97864.591	43715.096	90.948	
233	299	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	4.80	4.80	1.60	38.1	-97864.389	43718.746	90.841	
234	642	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	e	39	108	4.15	4.60	0.95	12.4	-97863.865	43724.848	90.410	
235	1058	C	-	VI	二次	巖石	b	32		3.70	7.90	4.05	100.9	-	-	-	-
236	62	B	J17	VI	二次	巖石	a			6.20	6.85	2.65	78.8	-97866.144	43687.011	95.383	
237	580	C	M16	VI	二次	巖石	a	13	7	4.85	4.50	3.90	98.3	-97875.872	43715.717	91.112	
238	S11-2	C	L16	VI	二次	巖石	a	13	7	3.45	2.50	1.10	7.8	-97872.670	43702.335	90.500	
239	683	C	N17	VI	二次	巖石	a			5.05	3.85	3.00	48.5	-97864.203	43721.665	90.612	
240	843	C	M17	VI	二次	巖石	d	6	14	5.65	3.85	2.50	37.0	-97866.633	43714.507	91.099	
241	675	C	L17	VI	二次	巖石	d	6	14	3.05	1.70	1.10	2.9	-97867.051	43709.332	91.063	
242	925-1	C	L16	VI	二次	巖石	c			10.20	14.20	2.70	306.2	-97875.236	43704.666	91.990	
243	284	C	M17	VI	二次	ホルンフェルス	e			2.90	6.40	5.20	102.0	-97869.899	43713.745	91.316	
244	645	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	e	32	190	1.70	0.90	2.7	-	-97863.533	43724.419	90.368	
245	771	C	N17	VI	二次	ホルンフェルス	e	32	2.70	3.49	1.55	14.5	-97864.375	43721.327	90.603		
246	954	C	N18	VI	二次	ホルンフェルス	e			4.80	5.65	7.60	213.8	-97855.684	43726.822	90.098	
247	952	C	N18	VI	二次	ホルンフェルス	e			9.							

番号	注記番号	区	クリオ	層	器種	石材	石材分類	同一母岩資料	接合資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル	備考	
249	カラシ	B	-	カラシ	縄石核	砂岩				4.45	2.20	4.70	62.2	-	-	-	畦原型縄石核	
250	333	B	J16	IV	縄石核	頁岩	a			2.80	4.00	2.70	27.7	-97872.410	43685.750	95.809	船野型縄石核(ブランク)	
251	246	C	M16	V	縄石核	黒曜石	黒g			1.30	1.30	0.65	1.2	-97875.520	43718.740	91.317		
252	2063	C	M17	V	縄石核	黒曜石	黒b			1.20	1.05	0.50	0.8	-97866.528	43717.131	91.216		
253	130	C	N17	VII	縄石核	黒曜石	黒g			1.75	0.80	1.05	1.6	-97864.325	43722.792	90.357		
254	102	C	M17	VI	縄石核	黒曜石	黒g			1.40	0.90	0.70	1.0	-97864.663	43716.283	91.029		
255	426	C	M17	VI	縄石核	黒曜石	黒b			1.65	1.10	1.15	2.0	-97866.592	43718.533	90.843		
256	713	C	M17	VI	縄石核	黒曜石	黒b			1.30	0.85	0.80	0.9	-97864.481	43718.119	90.762		
257	904	C	M17	VI	縄石核	黒曜石	黒g			1.50	0.95	1.10	1.4	-97866.340	43714.539	91.008		
258	264	C	M17	VI	縄石核	黒曜石	黒g			1.30	1.90	1.90	5.4	-97869.313	43717.429	91.126	船野型縄石核	
259	601	C	N17	VI	縄石核	黒曜石	黒g			1.55	1.35	1.00	1.8	-97863.432	43720.745	90.665		
260	927	C	L17	VI	縄石核	黒曜石	黒e			2.45	2.70	1.50	11.0	-97863.317	43703.335	91.977		
261	468	A	M20	IV	縄石核	黒曜石	黒g			1.75	1.55	1.05	2.3	-97831.470	43714.400	88.986		
262	2085	C	N17	V	縄石核	黒曜石	黒g			3.25	1.40	2.40	9.7	-97865.529	43721.517	90.784		
263	158	C	M16	VII	縄石核	黒曜石	黒g			1.40	2.10	1.90	3.3	-97876.134	43716.698	90.960		
264	2166	C	M18	V	縄石核	黒曜石	黒g			2.20	1.35	1.00	1.9	-97859.057	43714.744	91.144		
265	657	C	N17	VI	縄石核	黒曜石	黒b			2.25	1.20	0.80	1.5	-97861.203	43724.022	90.327		
266	718	C	M17	VI	縄石核	黒曜石	黒g			1.40	1.30	1.00	1.5	-97863.072	43718.320	90.785		
267	578	A	M20	IV	縄石刃	黒曜石	黒b			1.40	0.40	0.20	0.1	-97833.120	43712.760	87.896		
268	127	C	M17	IV	縄石刃	黒曜石	黒b			1.25	0.85	0.20	0.2	-97864.320	43716.550	91.401		
269	S15-2	C	-	V	縄石刃	黒曜石	黒b			2.40	0.80	0.50	0.5	-	-	-		
270	16	C	L18	V	縄石刃	黒曜石	黒b			1.60	0.75	0.40	0.4	-97858.430	43704.810	92.106		
271	1647	C	N17	V	縄石刃	黒曜石	黒b			2.05	0.85	0.40	0.4	-97865.086	43720.750	90.976		
272	1682	C	L18	V	縄石刃	黒曜石	黒b			1.15	0.60	0.30	0.1	-97856.616	43706.649	91.498		
273	1962	C	K14	V	縄石刃	黒曜石	黒b			1.25	0.55	0.20	0.1	-97893.524	43699.588	91.324		
274	64	C	M17	VI	縄石刃	黒曜石	黒b			1.40	0.50	0.25	0.1	-97862.873	43715.375	91.157		
275	584	C	N17	VI	縄石刃	黒曜石	黒b			1.70	0.80	0.30	0.2	-97864.595	43723.158	90.551		
276	593	C	N17	VI	縄石刃	黒曜石	黒b			0.80	0.40	0.20	0.1	-97864.432	43721.100	90.650		
277	611	C	N17	VI	縄石刃	黒曜石	黒b			1.10	0.40	0.15	0.1	-97861.665	43722.964	90.624		
278	347	C	M16	VII	縄石刃	黒曜石	黒b			1.05	0.90	0.25	0.2	-97872.301	43718.318	90.949		
279	366	C	-	VII	縄石刃	黒曜石	黒b			1.50	0.65	0.30	0.2	-	-	-		
280	40	C	M16	VI	縄石刃	チャート	黒d			1.35	0.70	0.25	0.2	-97871.704	43715.096	91.292		
281	1470	A	M20	VI	縄石刃	黒曜石	黒a			1.95	0.75	0.30	0.3	-97835.747	43712.984	88.694		
282	32	C	N18	VII	縄石刃	黒曜石	黒a			1.90	0.60	0.30	0.1	-97859.867	43724.220	90.228		
283	1556	C	N17	V	縄石刃	黒曜石	黒g			0.50	0.45	0.15	0.1	-97862.100	43720.807	91.013		
284	26	A	-	カラシ	縄石刃	頁岩				2.10	0.90	0.30	0.5	-	-	-		
285	462	C	M17	VI	縄石刃	サヌカイト	黒b			1.55	0.50	0.20	0.2	-97868.172	43715.210	91.023		
286	654	C	N17	VI	縄石刃	頁岩				1.05	0.60	0.15	0.1	-97860.785	43725.883	90.288		
287	1	C	M16	VII	縄石刃	頁岩				1.00	0.55	0.20	0.1	-97871.993	43711.561	91.303		
288	4	C	M16	VI	剥片	カルシフェルス	a	41	52	3.10	2.10	0.85	3.3	-97873.696	43719.566	91.187		
289	16	C	M16	VI	剥片	カルシフェルス	a	41	52	2.65	2.45	0.50	2.2	-97874.396	43718.020	91.162		
290	630	C	M16	VI	剥片	カルシフェルス	a	41	52	5.95	4.90	1.70	51.6	-97872.972	43719.153	90.963		
291	885	C	M17	VI	剥片	頁岩	a			35	1.90	2.40	0.60	2.5	-97865.580	43719.559	90.848	
292	282	C	M17	VI	剥片	頁岩	a			35	9.10	4.40	2.05	63.4	-97866.529	43712.679	91.363	
293	820	C	M17	VI	剥片	頁岩	a			35	9.10	4.40	2.05	63.4	-97864.569	43714.046	91.167	
294	453	C	M17	VI	剥片	カルシフェルス	e			41	2.80	2.10	0.80	2.2	-97867.521	43715.299	91.173	
295	884	C	M17	VI	剥片	カルシフェルス	e			41	3.90	2.30	0.90	4.8	-97865.969	43719.515	90.862	
296	683-1	C	N17	VI	剥片	カルシフェルス	a			33	3.90	4.80	1.00	17.4	-97864.208	43721.663	90.612	
297	896	C	M17	VI	剥片	カルシフェルス	a			33	5.75	7.90	2.40	98.6	-97866.001	43717.192	90.989	
298	671	C	N17	VI	剥片	カルシフェルス	a			33	5.90	7.65	2.35	95.2	-97864.238	43720.403	90.612	
299	892	C	M17	VI	剥片	カルシフェルス	a			33	5.90	7.65	2.35	95.2	-97866.502	43718.577	90.795	
300	922	C	M17	VI	敲石	砂岩				9.05	3.85	3.15	110.0	-97862.412	43714.094	90.959		
301	926	C	L16	VI	敲石	砂岩				9.10	8.20	3.90	405.6	-97875.894	43704.813	91.923		
302	962	C	L17	VI	敲石	砂岩				10.80	4.35	2.25	138.7	-97863.678	43707.533	91.510		
303	984	C	N18	VI	敲石	砂岩				12.70	4.90	3.65	339.0	-97852.859	43723.899	89.892		
304	1451	A	M20	VI	礫器	カルシフェルス	f			9.00	7.90	2.50	228.7	-97832.732	43718.737	88.794		

第13表 旧石器時代第Ⅱ文化層 縄石核・縄石刃・接合資料・敲石・礫器 計測表

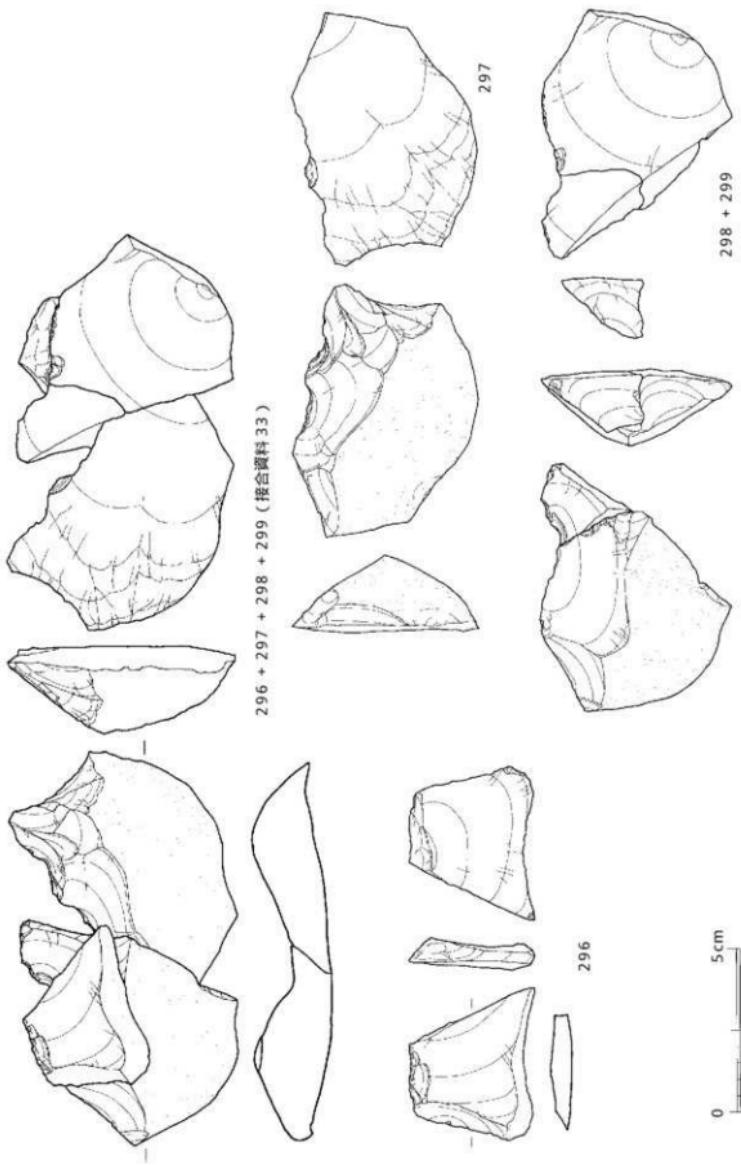


第86図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(17)【細石核・細石刃】(S = 2/3)

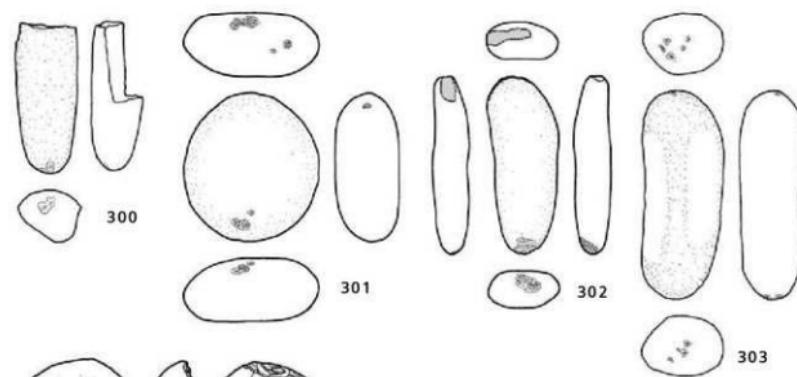


第87図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(18)【接合資料52・35・41、剥片】(S = 2/3)

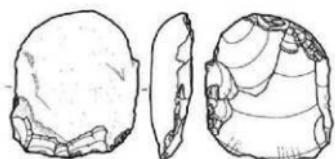
第 88 圖 旧石器時代第 II 文化層 石器測圖 (19)【接合資料 33、剥片】(S = 2/3)



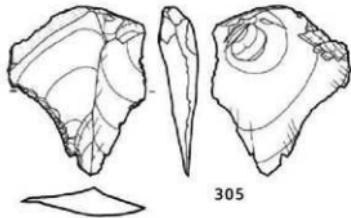
296 + 297 + 298 + 299 (接合資料 33)



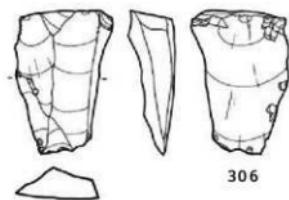
0 5cm



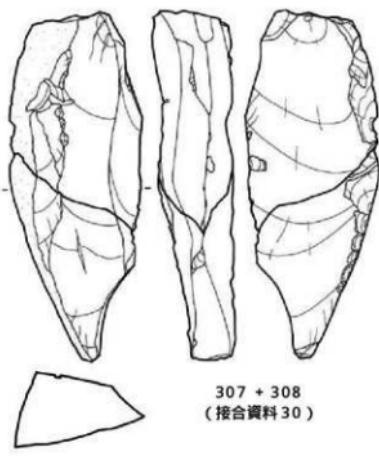
304



305



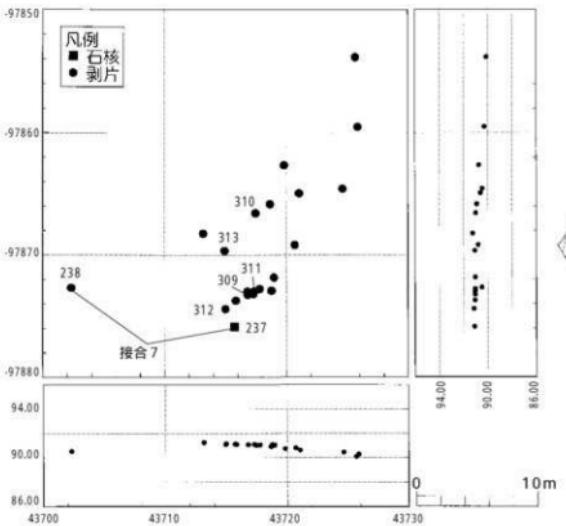
306



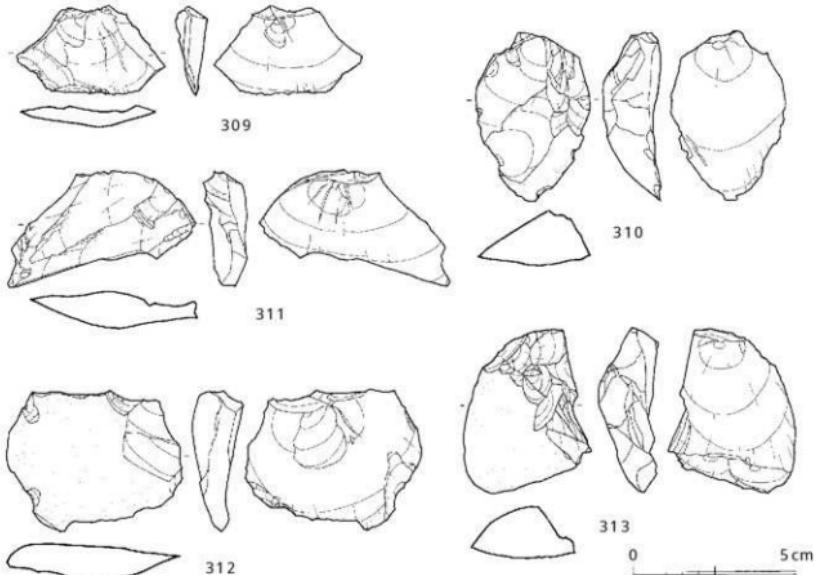
307 + 308
(接合資料 30)

0 5cm

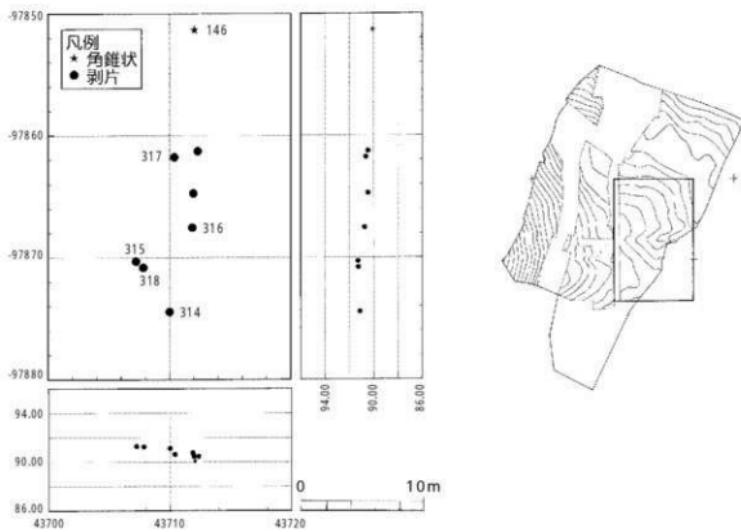
第89図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(20) 砕石・磨石・礫器【300～304(S=1/3)】**305～308(S=2/3)**】



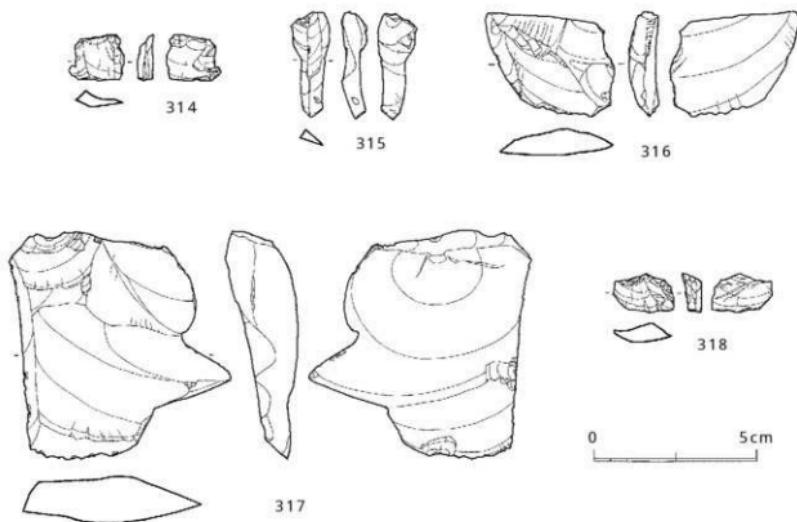
第90図 旧石器時代第II文化層 同一母岩13 分布図 $S = 1/400$



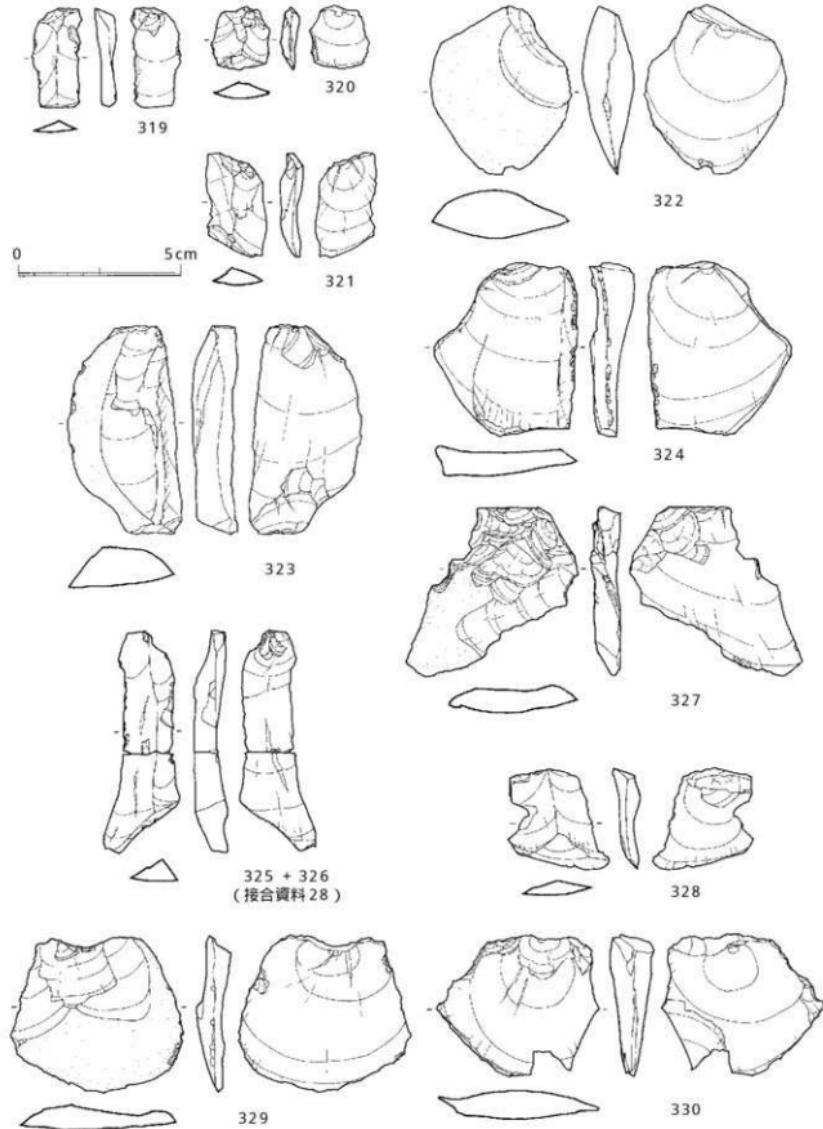
第91図 旧石器時代第II文化層 石器実測図 21【同一母岩13】 $S = 2/3$



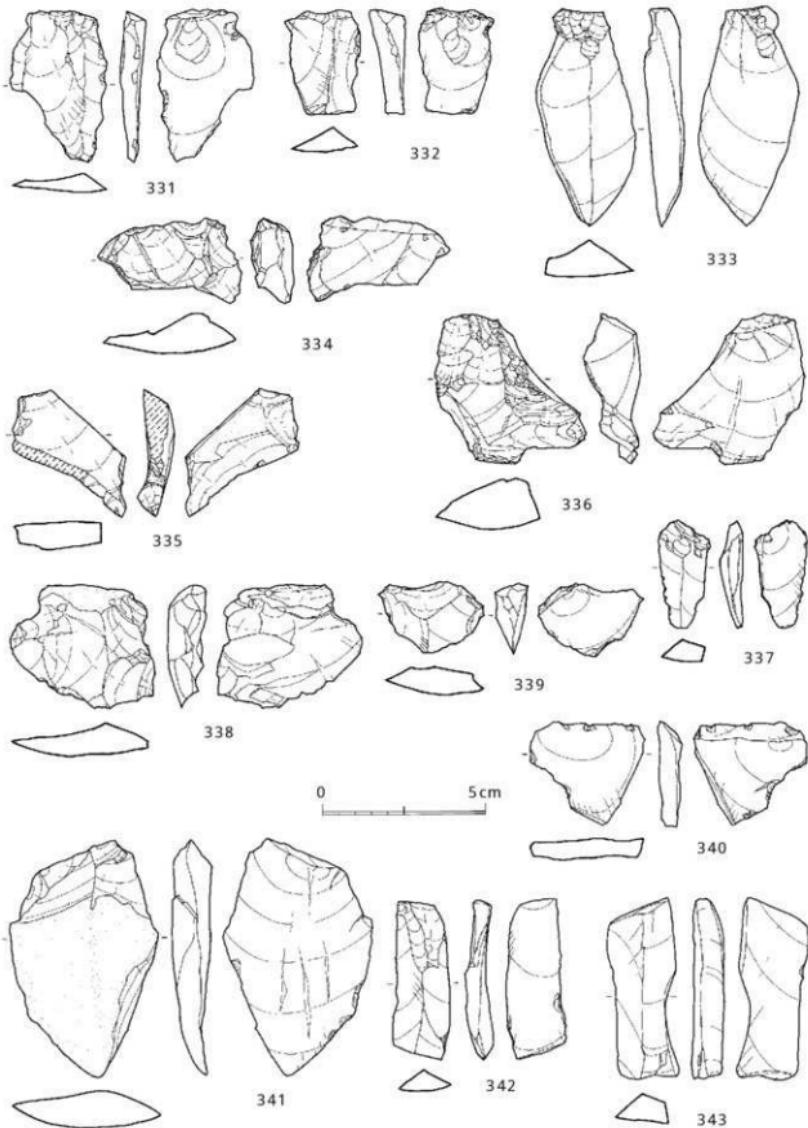
第92図 旧石器時代第Ⅱ文化層 同一母岩14 分布図 ($S = 1/400$)



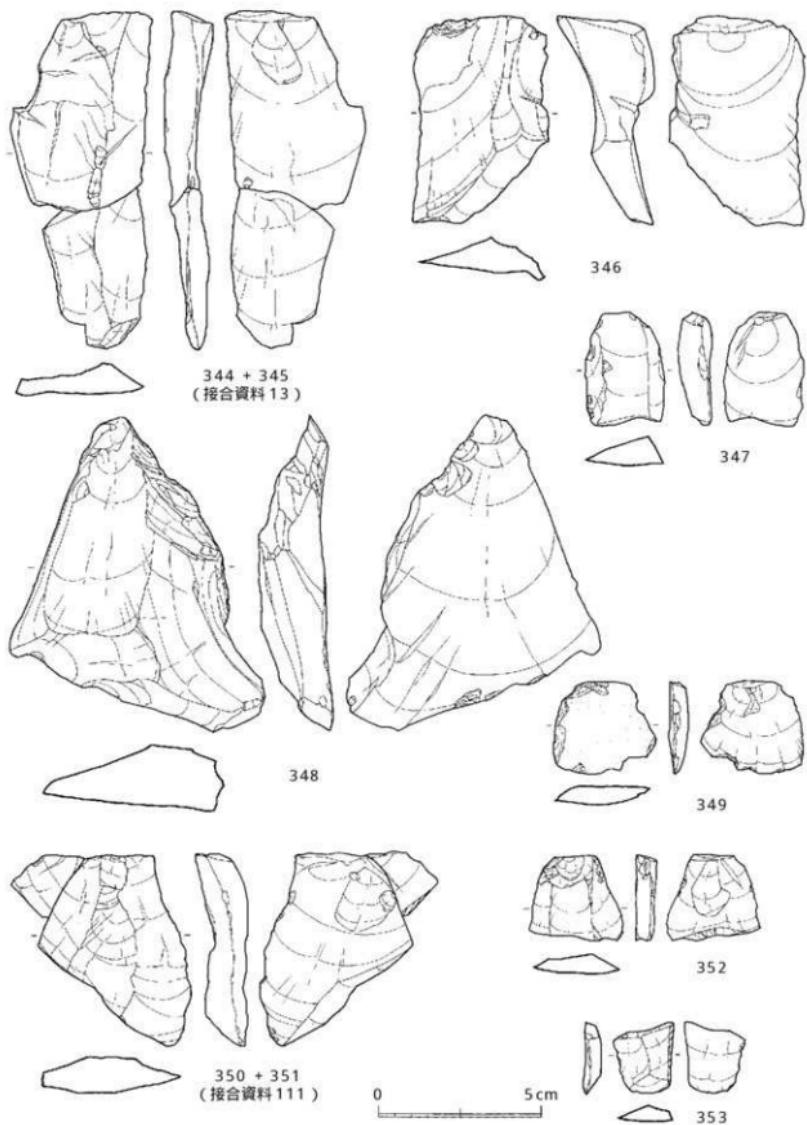
第93図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図 (22) 同一母岩14 ($S = 2/3$)



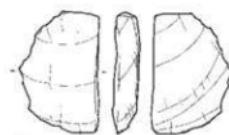
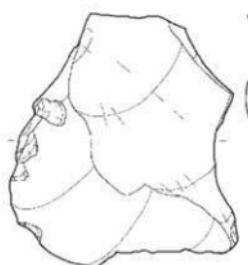
第94図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(23)【剥片】(S = 2/3)



第95図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(24)【剥片】(S = 2/3)



第96図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(25)【剥片】(S=2/3)



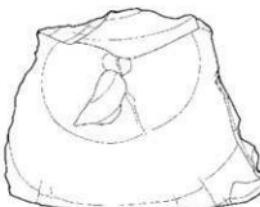
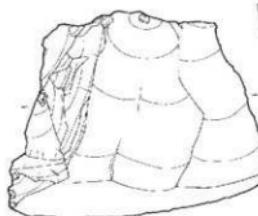
355



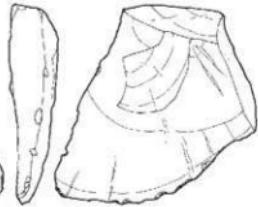
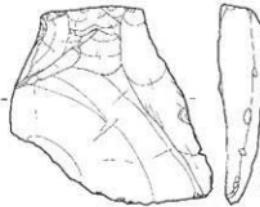
354



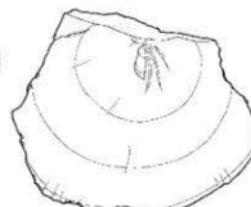
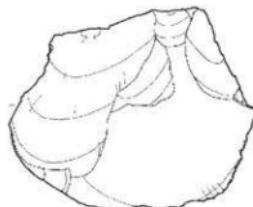
356



357



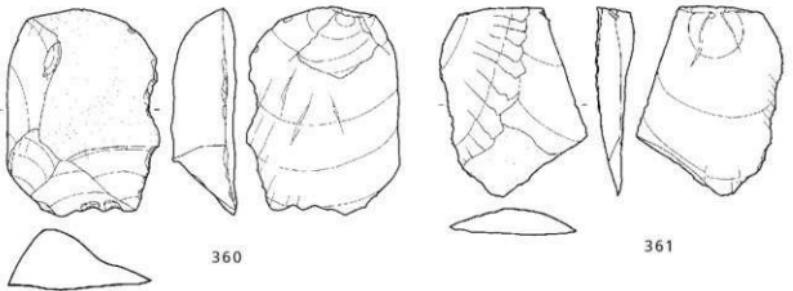
358



359

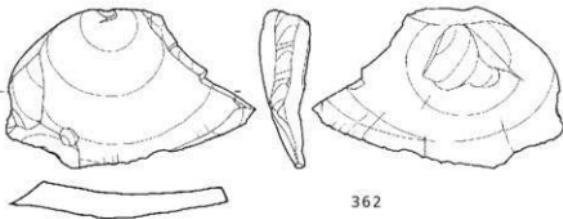
0 5 cm

第97圖 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(26)【剥片】(S = 2/3)

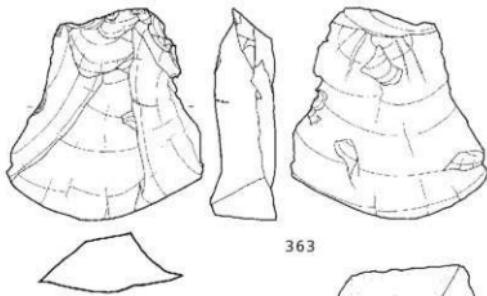


360

361

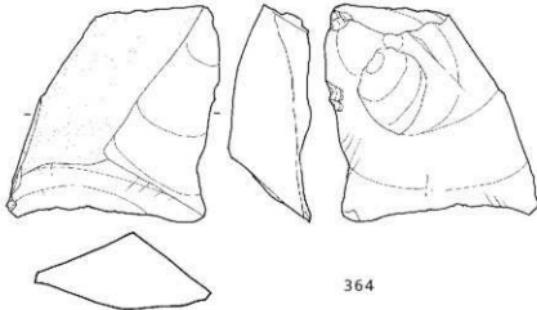


362



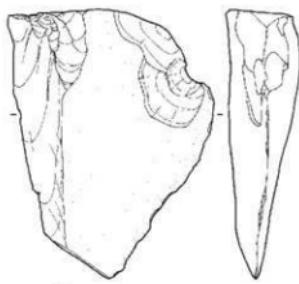
363

0 5 cm



364

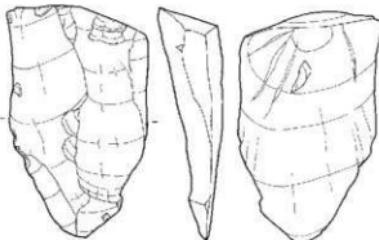
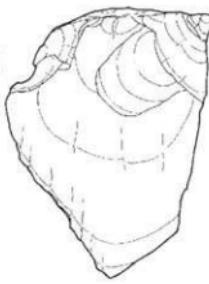
第98図 旧石器時代第II文化層 石器実測図(27)【剥片】(S = 2/3)



0

5cm

365



366



第99図 旧石器時代第Ⅱ文化層 石器実測図(28)【剥片】(S=2/3)

番号	注記 番号	区	クサ ー	層	器種	石材	石材 分類	同一 母岩	摺合 資料	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	国土座標 X 座標	国土座標 Y 座標	レベル	備考
305	1501	A	-	カラ	剥片	頁岩	a	20	5.15	4.20	1.11	16.4	-	-	-	-	
306	1680	C	L18	V	剥片	頁岩	a	20	4.40	2.85	1.45	16.0	-97857.837	43707.923	91.531		
307	1275	C	M16	V	剥片	頁岩	a	20	30	10.70	4.10	2.40	106.2	-97870.570	43719.270	91.272	
308	627	C	M16	V	剥片	頁岩	a	20	30	10.70	4.10	2.40	106.2	-97871.965	43718.318	90.976	
309	135	C	M16	V	剥片	頁岩	a	13	2.75	4.60	1.00	8.3	-97872.987	43716.783	91.073		
310	728	C	M17	V	剥片	頁岩	a	13	5.15	3.50	1.75	26.1	-97866.565	43717.478	90.984		
311	634	C	M16	V	剥片	頁岩	a	13	3.60	5.80	1.35	18.1	-97872.779	43717.781	91.057		
312	867	C	M16	V	剥片	頁岩	a	13	4.30	5.35	1.60	29.6	-97874.413	43714.978	91.156		
313	743	C	M17	V	剥片	頁岩	a	13	5.05	3.95	1.60	30.1	-97869.655	43714.927	91.072		
314	1	C	N16	V	剥片	ホンフェルス	b	14	1.40	1.70	0.50	1.1	-97874.456	43720.000	91.137		
315	76	C	M16	V	剥片	ホンフェルス	b	14	3.25	1.20	0.80	1.9	-97870.301	43717.243	91.307		
316	351	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	b	14	3.20	4.00	0.90	10.6	-97867.525	43721.863	90.751		
317	765	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	b	14	5.80	6.30	2.25	78.2	-97861.765	43720.400	90.639		
318	77	C	M16	V	剥片	ホンフェルス	b	14	1.20	1.85	0.60	1.3	-97870.807	43717.828	91.273		
319	339	C	M17	V	剥片	頁岩	a	22	3.05	1.60	0.65	2.4	-97861.743	43718.534	90.842		
320	1404	A	L21	V	剥片	頁岩	a		1.90	1.80	0.60	1.7	-97827.691	43701.445	88.829		
321	109	C	M16	V	剥片	ホンフェルス	a						-97872.456	43716.033	91.104		
322	972	C	N18	V	剥片	頁岩	a		5.15	4.40	1.60	32.4	-97851.347	43721.998	90.083		
323	812	C	M17	V	剥片	頁岩	a		6.40	3.50	1.40	33.5	-97866.606	43715.793	91.123		
324	986	C	M18	V	剥片	頁岩	a		5.30	4.35	1.40	26.8	-97854.516	43710.657	90.717		
325	307	C	M17	V	剥片	頁岩	b		28	6.80	2.35	1.00	9.8	-97862.175	43717.939	90.785	
326	337	C	M17	V	剥片	頁岩	b		28	6.80	2.35	1.00	9.8	-97862.503	43717.435	90.801	
327	833	C	M17	V	剥片	頁岩	b	23	5.20	5.30	0.90	19.9	-97862.418	43712.164	91.263		
328	4-2	B	J18	V	剥片	頁岩	b	31	3.10	3.10	0.85	5.3	-97859.928	43688.922	94.906		
329	1450	A	M20	V	剥片	頁岩	b	31	4.80	5.29	1.05	18.8	-97830.102	43710.176	88.374		
330	1405	A	M21	V	剥片	ホンフェルス	b	4.40	5.00	1.35	22.5	-97828.639	43717.380	88.280			
331	89	C	M16	V	剥片	頁岩	b		4.70	3.00	0.80	8.3	-97870.119	43718.218	91.143		
332	287	C	M17	V	剥片	珪質頁岩	b		3.20	2.30	1.10	6.2	-97864.260	43717.258	90.894		
333	979	C	N18	V	剥片	頁岩	b		6.70	3.05	1.10	21.1	-97859.990	43724.552	90.163	径 1mm 程の小孔を含む	
334	891	A	M20	V	剥片	流紋岩	c	27	2.65	4.40	1.25	15.8	-97831.720	43713.160	88.925		
335	770	C	N17	V	剥片	流紋岩	c	27	3.85	3.45	1.15	10.0	-97864.505	43721.111	90.641		
336	832	C	M17	V	剥片	流紋岩	c	27	4.60	4.70	1.75	23.5	-97862.163	43712.701	91.152		
337	719	C	M17	V	剥片	頁岩	c		3.00	0.75	1.60	3.1	-97864.846	43716.651	90.898		
338	6-1	B	J17	V	剥片	流紋岩	c		3.80	4.45	1.20	18.1	-97866.144	43687.911	95.383		
339	314	C	N17	VII	剥片	ホンフェルス	c	29	2.20	3.30	1.00	5.3	-97868.012	43721.913	90.886		
340	834	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	c		3.20	3.55	0.75	7.3	-97861.658	43712.560	91.071		
341	1054	C	L14	V	剥片	ホンフェルス	d	17	7.25	4.60	1.30	35.3	-97892.260	43704.400	-		
342	854	C	M17	V	剥片	鈑粒砂岩	c		4.85	1.80	0.85	5.9	-97865.464	43717.567	90.952		
343	764	C	N17	V	剥片	砂岩	d		5.55	2.20	1.10	13.9	-97862.111	43721.187	90.548		
344	821	C	M17	V	剥片	砂岩	f	13	10.30	4.40	1.25	48.6	-97863.811	43714.807	91.036		
345	253	C	M17	VII	剥片	砂岩	f	13	10.30	4.40	1.25	48.6	-97867.197	43717.148	90.788		
346	628	C	N16	V	剥片	砂岩	e		6.40	4.15	3.00	48.3	-97870.389	43721.551	90.897		
347	2	B	-	V	剥片	ホンフェルス	f	26	3.50	2.40	1.05	9.0	-	-	-		
348	1455	A	L20	V	剥片	ホンフェルス			9.65	7.80	1.75	114.0	-97833.537	43706.324	88.952		
349	1464	A	L21	V	剥片	ホンフェルス			2.85	3.15	0.60	5.9	-97828.454	43701.860	88.726		
350	855	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	e	111	5.90	5.50	1.60	37.8	-97865.588	43721.514	90.537		
351	254	C	M17	VII	剥片	ホンフェルス	e		111	5.90	5.50	1.60	37.8	-97867.054	43717.577	90.789	
352	767	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	e		2.60	2.90	0.70	5.4	-97864.002	43722.289	90.599		
353	598	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	e		2.20	1.90	0.55	2.1	-97864.537	43720.036	90.728		
354	291	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	f	26	7.80	7.10	2.00	76.5	-97862.142	43716.938	90.955		
355	731	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	e		3.70	2.50	0.90	7.4	-97867.877	43716.290	91.116		
356	675	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	e		2.40	3.05	0.95	7.0	-97864.855	43720.060	90.793		
357	1452	A	M20	V	剥片	ホンフェルス	e		6.30	8.00	1.90	89.1	-97830.618	43718.135	88.516		
358	308	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	e		6.10	6.20	1.50	50.2	-97862.067	43718.547	90.774		
359	314	C	L17	V	剥片	ホンフェルス	e		6.25	7.60	1.77	63.6	-97867.476	43707.042	91.739		
360	895	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	e		6.35	4.70	2.10	60.0	-97866.062	43717.363	90.919		
361	697	C	N17	V	剥片	ホンフェルス	e		5.80	4.50	1.20	24.6	-97864.427	43724.072	90.500		
362	845	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	e		4.90	6.70	1.60	38.4	-97867.067	43713.701	91.084		
363	919	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	e		6.50	6.05	2.00	72.2	-97869.681	43716.484	91.083		
364	1446	A	M20	V	剥片	ホンフェルス	f		6.65	6.60	2.60	90.8	-97834.155	43714.838	88.540		
365	453-1	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	f		8.30	7.30	2.30	95.6	-97867.521	43715.299	91.173		
366	724	C	M17	V	剥片	ホンフェルス	f		6.10	4.40	2.05	48.8	-97867.356	43718.214	90.900		

第 14 表 旧石器時代第Ⅱ文化層 接合資料・剥片 計測表

4. 縄文時代早期の遺構と遺物

(1) 概要

縄文時代早期の遺構として、集石遺構 9 基、炉穴 1 基、土坑 5 基を検出した。遺物としては、土器片 877 点(第 16 表)、石器 3,780 点(第 18 表)が出土した。

(2) 遺構・遺物とその分布

① 集石遺構・散礫

集石遺構は、A 区から 1 基、C 区から 8 基の計 9 基が検出された。A 区の空白部分は削平されていたため、削平前にはこの部分にも広がっていたものと考えられる。南西から北に向かって下る斜面上に集石遺構が検出されたが、起伏に関係なく、南北につながるように作られている。これらの集石遺構の東側(下方)に散礫及び土器の密集地が検出された。

SI16 (第 107 図)

長径 1.5m、短径 1.2m の円形に近い集石遺構である。明確な掘り込みは確認できなかった。部分的に炭化物粒を含み、集石の下ほど多い。大小さまざまな礫が密集している。

SI17 (第 107 図)

直径 0.8m の円形の集石遺構である。明確な掘り込みは確認できなかった。集石の中心部が空洞になっているのが特徴である。

SI18 (第 107 図)

長径 1.25m、短径 1m の円形に近い集石遺構である。浅い掘り込みが認められるが、底部近くの礫は配石されている様子は見られない。中心近くの礫はかなり熱を受けたと思われるのに対し、中心をはずれるとそれほど赤化していない。上部の礫は全体的に赤化している。角礫を数多く用いている。

SI19 (第 107 図)

長径 1.3m、短径 1m の集石遺構であるが、ほとんどの礫は周辺に流れている、形状をわずかにとどめるだけである。ほとんどの礫が赤化している。

SI20 (第 108 図)

長径 1.6m、短径 1.2m の集石遺構で、明確な掘り込みは見られない。砂岩を中心であるが、尾鈴山酸性岩も数点混じっている。

SI21 (第 108 図)

長径 0.45m、短径 0.4m と本遺跡の集石遺構としてはもっとも小さい。砂岩を中心としているが、上部の礫は周囲に流されている。下部に、20 ~ 40cm 大

の砂岩を使用した配石が見られた。

SI22 (第 108 図)

長径 1.2m、短径 1m の標準的な集石遺構である。破損した礫が多く、それほど密ではない。下部ほど赤化礫が多くなっている。砂岩が中心であるが、尾鈴山酸性岩も混じっている。掘り込みは見られない。

SI23 (第 108 図)

長径 1.55m、短径 1.25m の浅い掘り込みをもつ集石遺構である。集石内からチャートなどの剥片が数点出土している。

SI24 (第 108 図)

長径 1.8m、短径 1.5m とかなり大きめの集石遺構である。明確な掘り込みは見られなかつたが、円礫や角礫が使われており、そのほとんどが赤化している。集石内から、剥片(第 133 図 486 など)が数点検出された。

※ 通常、直径 1m 前後の範囲に礫が密集する「集石遺構」と比較して、相対的に広範囲に分布し、一見したところでは、構造的な特徴を把握しがたい粗密様々な礫の分布をここでは「散礫」と呼んでおく。従来、この種の礫の分布状況は「礫群」と呼ばれてることもあったが、後期旧石器時代の同呼称との混乱を避ける意味で、上記の呼称を探りたい。

「東九州自動車道(都農~西都間)間連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」宮崎県埋蔵文化財センター 2003 p85

② 炉穴(第 109 図)

炉穴は長径 2.04m、炉部の短径 0.66m、足場の短径 0.87m で、丸みをもつ形状である。炉部の周辺を焼土が巡り、火を焚いた跡と認められる。削平されたためか、ブリッジは見られなかった。磨石と思われる遺物(第 139 図 526)が、炉部より 1 点出土した(第 109 図、網掛け部分は焼土ブロック)。

③ 土坑

土坑は A 区から 3 基、C 区から 2 基の計 5 基が検出された(第 101 図)。

SC 4 (第 109 図)

平面形は長軸 0.98m、短軸 0.58m のほぼ橿円形を呈し、底面までの深さは 0.18m である。埋土は黒褐色、暗褐色を呈する。

SC 5 (第 109 図)

平面形は長軸 0.83m、短軸 0.32m の長橿円形を呈し、底面までの深さは 0.15m である。埋土は暗褐色を呈する。

SC 6 (第 109 図)

平面形は長軸 1.19m、短軸 0.75m のほぼ橿円形

を呈し、底面までの深さは 0.39m である。埋土は黒褐色を呈する。

SC 7 (第109図)

平面形は長軸 0.67m、短軸 0.56m の橢円形を呈し、底面までの深さは 0.23m である。埋土は暗褐色を呈する。

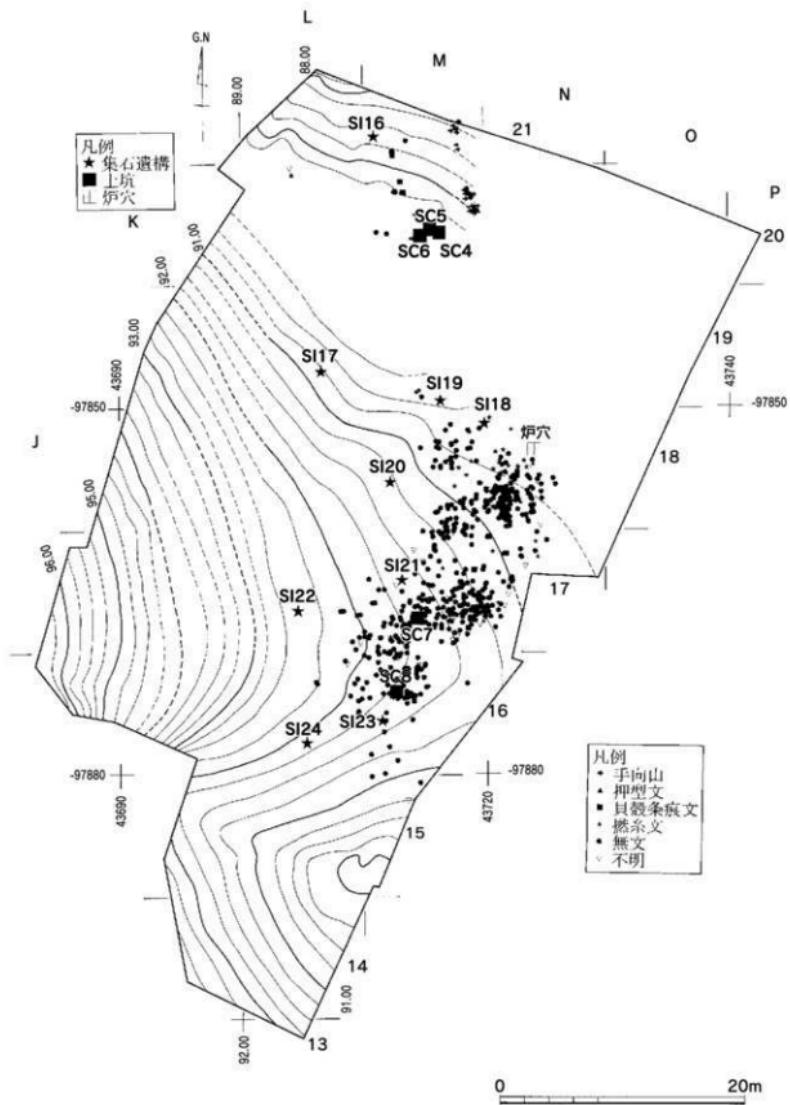
SC 8 (第109図)

平面形は長軸 1.03m、短軸 0.71m の橢円形を呈し、底面までの深さは 0.2m である。埋土は黒褐色、暗褐色を呈する。黒褐色上位から土器片（手向山式）1 点、暗褐色底部から礫 1 点が出土。

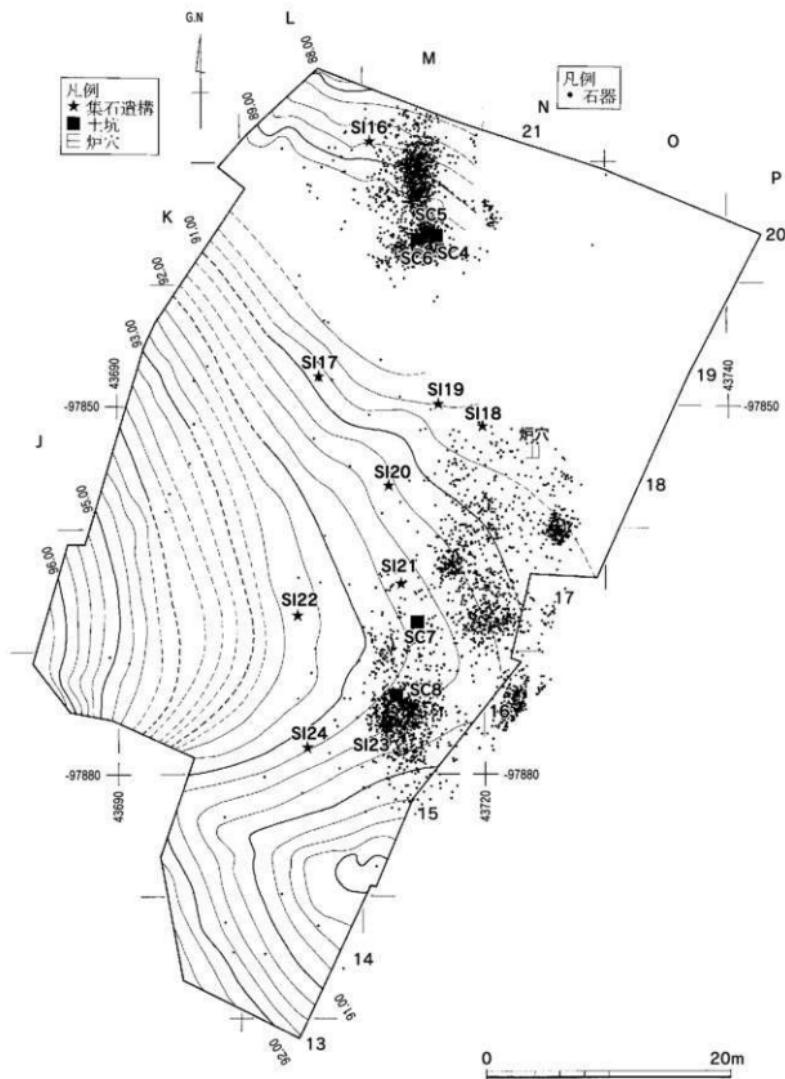
遺構番号	区	グリッド	検出面	長径 (cm)	短径 (cm)	掘込	礫数	礫形状	石材	礫被覆率	煤付	散布	炭化物	焼土	遺物	備考
SI 16	A	M21	V層	190	110	無	366	円礫 20%	砂岩、凝灰岩中心	-	-	疎	有	-	-	
SI 17	C	L19	V層	90	80	無	39	円礫 18%	凝灰岩中心	85%	15%	疎	無	-	-	中心部は空洞。
SI 18	C	M18	V層	170	140	有	477	円礫 6%	凝灰岩、ホルンフェルス中心	61%	6%	密	無	-	-	鉛打込みは浅い。
SI 19	C	M19	V層	130	120	無	28	円礫 14%	砂岩、ホルンフェルス中心	100%	0%	疎	無	-	-	
SI 20	C	M18	V層	130	120	無	134	円礫 21%	砂岩、ホルンフェルス中心	72%	17%	疎	無	-	-	
SI 21	C	M17	V層	40	40	無	26	円礫 15%	砂岩、凝灰岩中心	-	-	疎	無	-	-	下部に配石あり。
SI 22	C	L17	V層	100	100	無	63	円礫 15%	砂岩、凝灰岩中心	-	-	疎	無	-	-	
SI 23	C	M16	V層	170	150	有	221	円礫 13%	砂岩、ホルンフェルス中心	81%	3%	疎	無	-	有	剥片が数点出土。
SI 24	C	L16	V層	220	170	無	64	円礫 25%	砂岩、ホルンフェルス中心	64%	0%	疎	無	-	有	剥片が数点出土。

※「礫形状」は、円礫の割合のみを大まかに示す。
※「礫被覆率」は、被熱している礫の割合のみを示す。

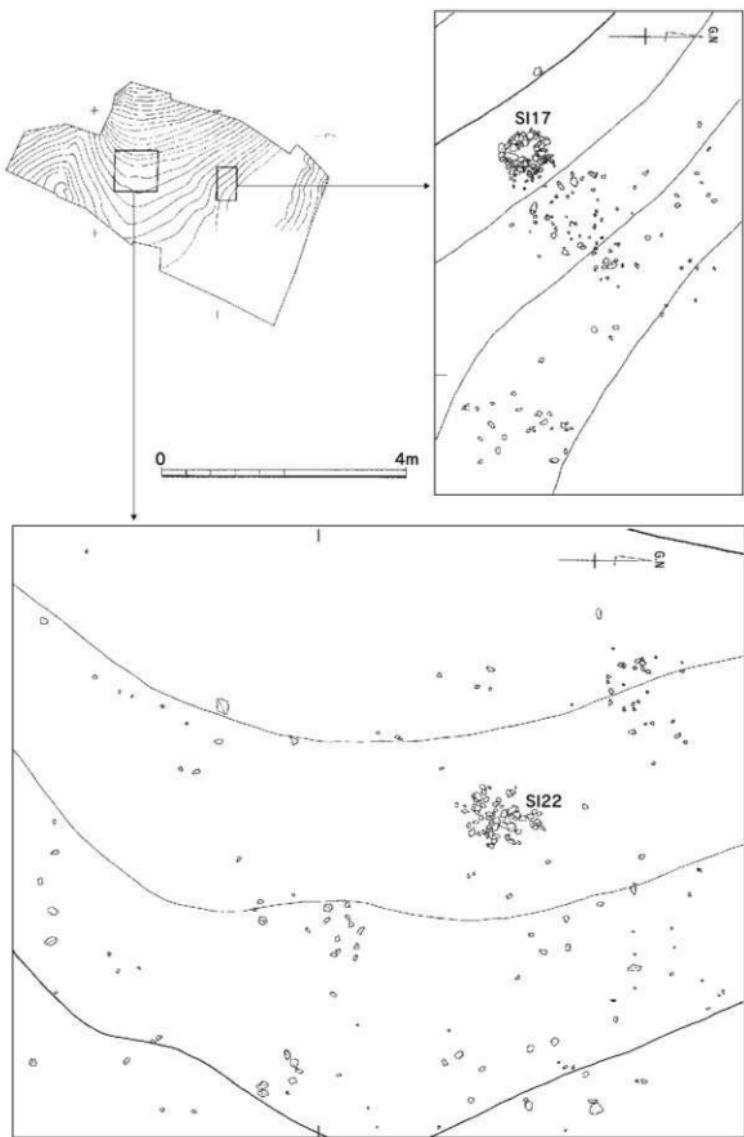
第 15 表 繩文時代早期 集石遺構一覧表



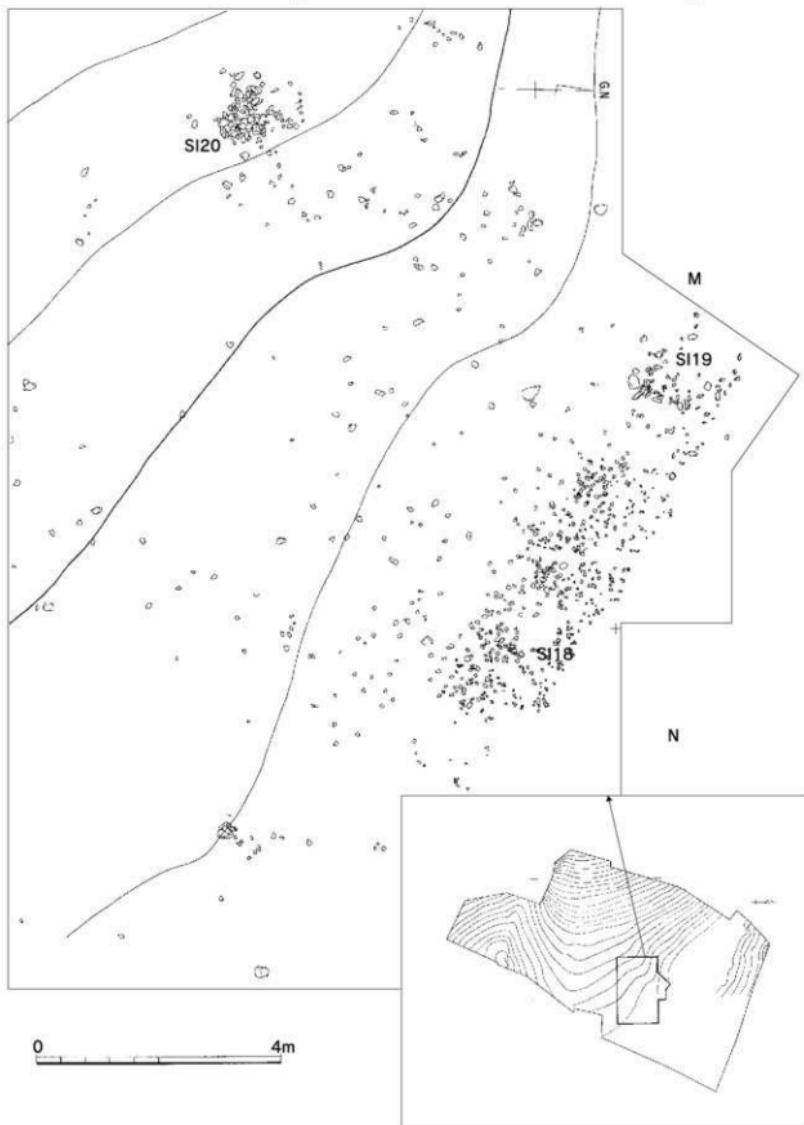
第100図 縄文時代早期 遺構・土器分布図 (S = 1/400)



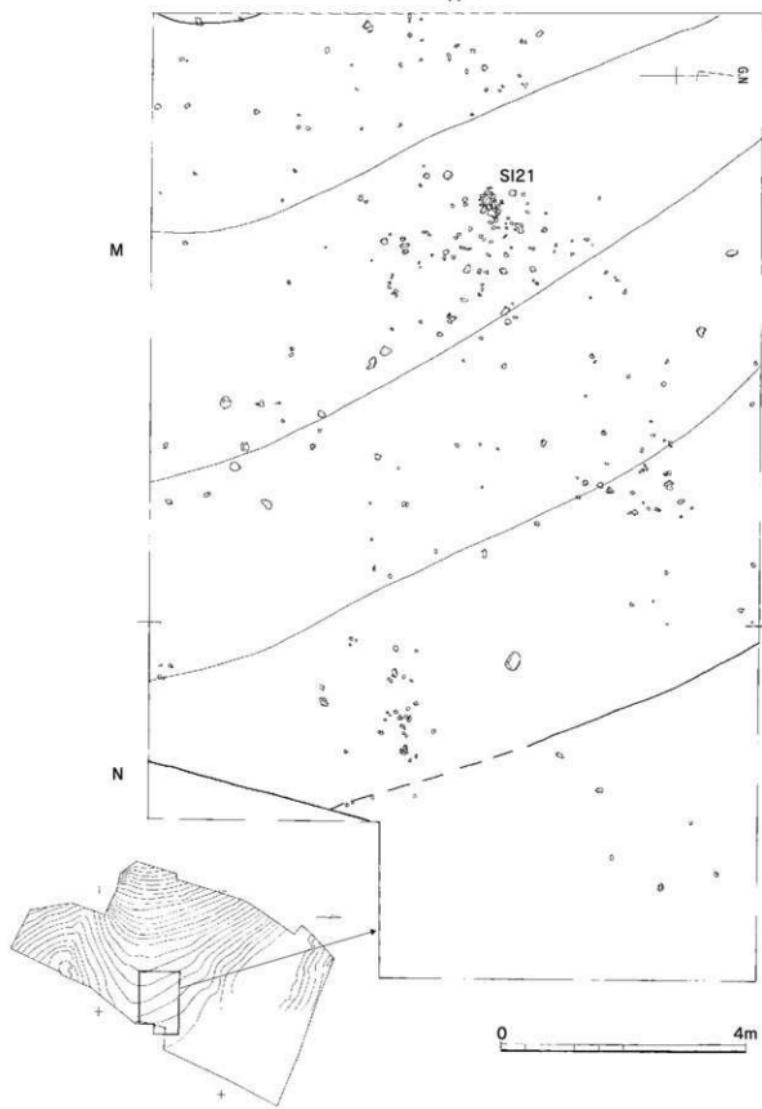
第101図 縄文時代早期 遺構・石器分布図 ($S = 1/400$)



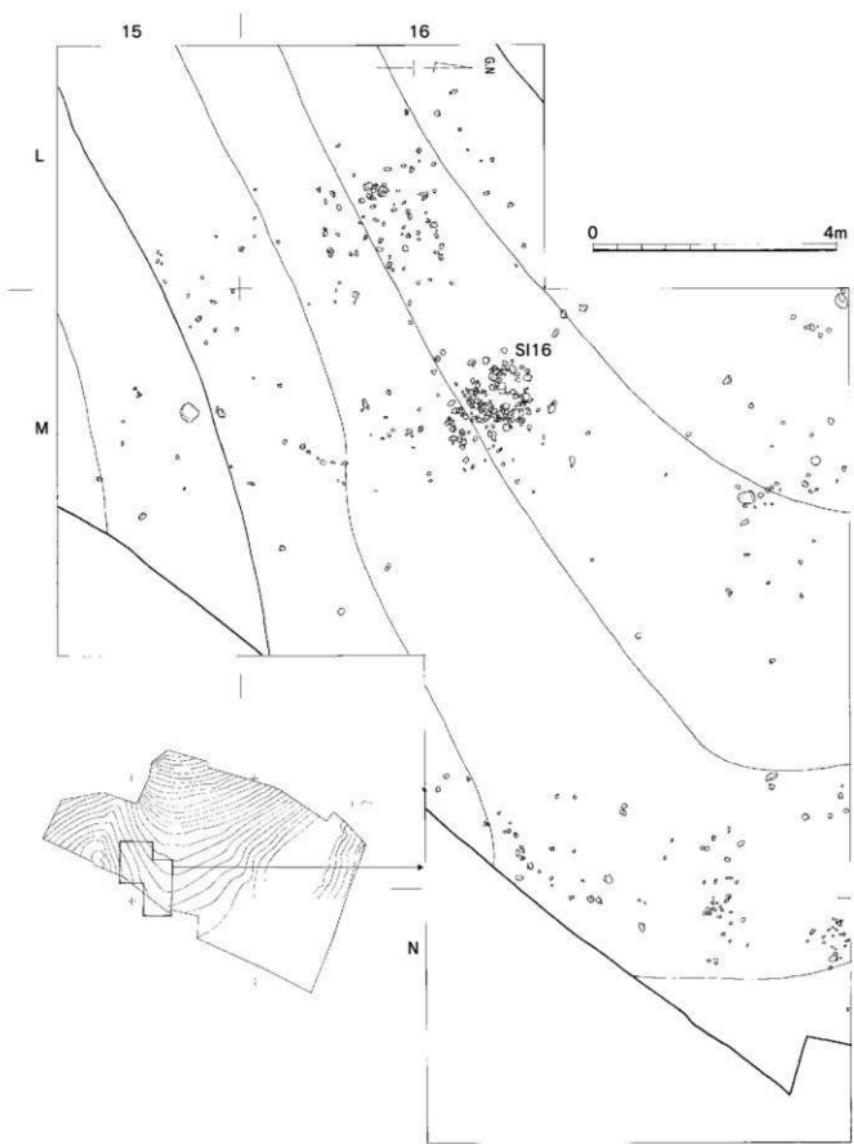
第102図 繩文時代早期 集石遺構・散石棲出状況図(1)(S=1/80)



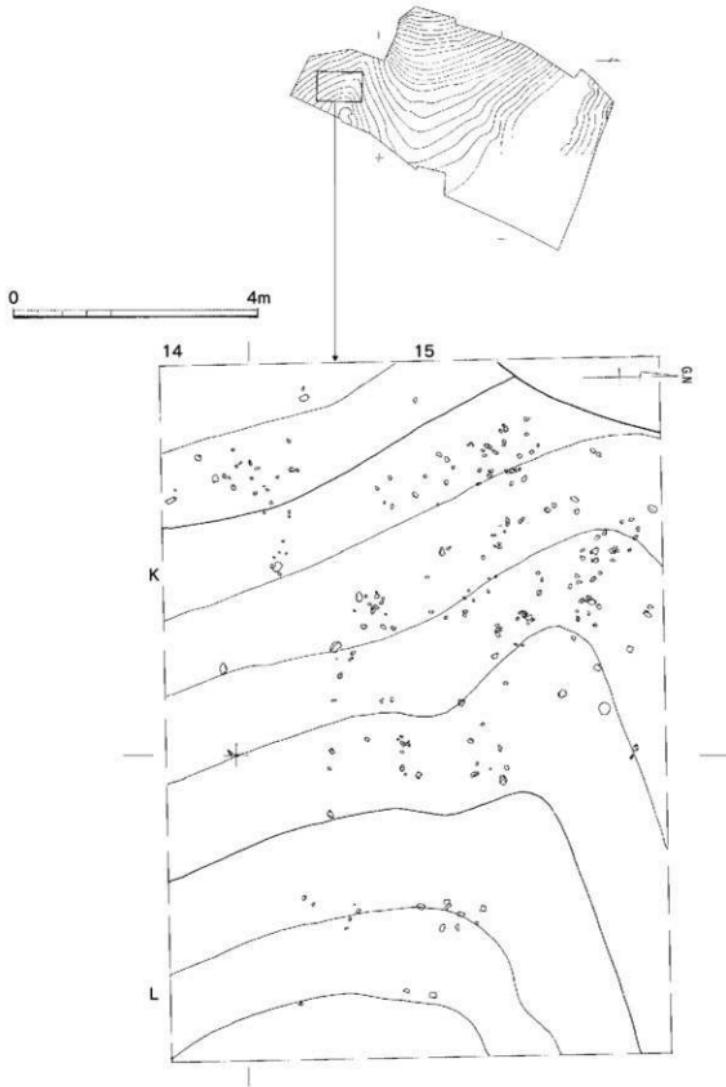
第103図 繡文時代早期 集石遺構・散石検出状況図(2)(5=1/80)



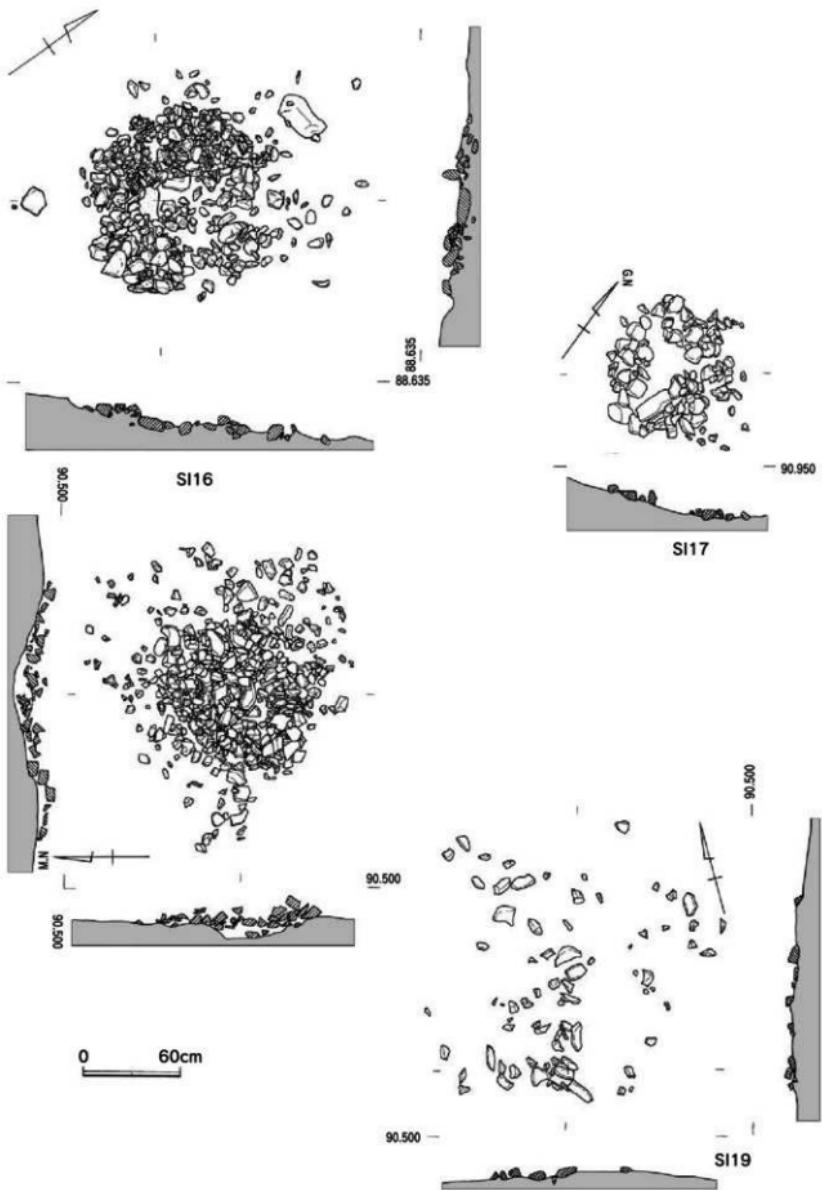
第104図 縄文時代早期 集石遺構・散礫棲出状況図(3)(S=1/80)



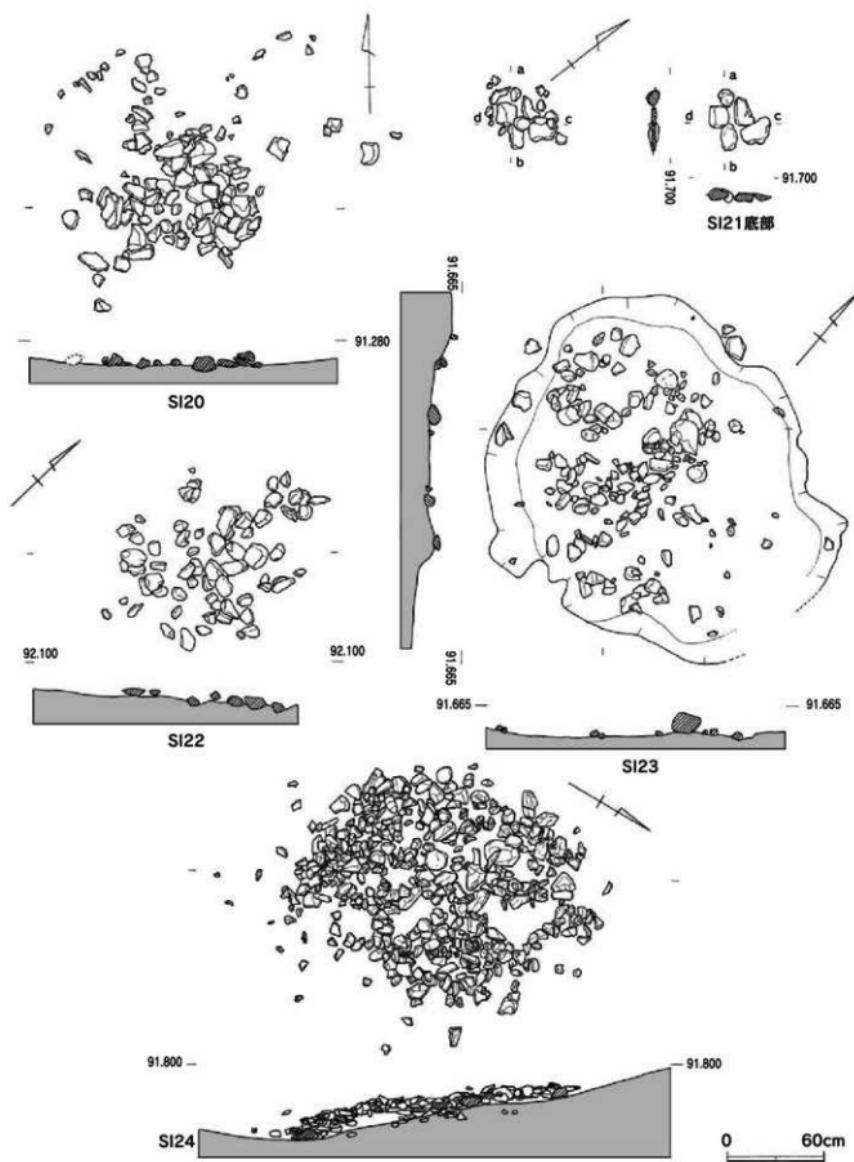
第105図 繪文時代早期 集石遺構・散石検出状況図(4)(5 = 1/80)



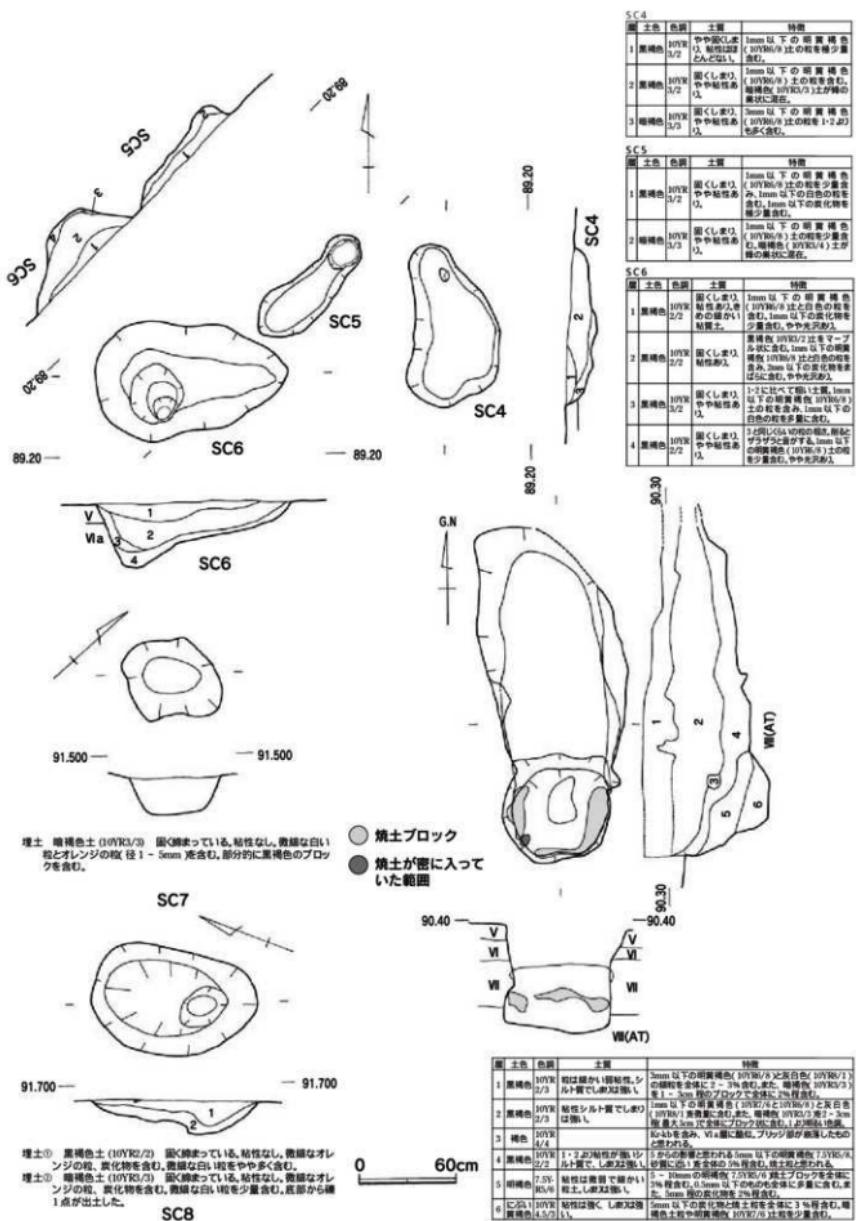
第106図 縄文時代早期 集石遺構・散石棲出状況図(5)(S=1/80)



第107図 縄文時代早期 遺構実測図(1)集石遺構 ($S = 1/30$)



第108図 繩文時代早期 遺構実測図(2)集石遺構($S = 1/30$)



第109図 縄文時代早期 遺構実測図(3)【土坑・炉穴】(S=1/30)

④ 出土遺物

土器 (第115~117図)

縄文時代早期に位置づけられる土器が出土した。本書に掲載した遺物はほとんどが破片であるため器形については不明確である。ここでは、文様による分類の根拠を示し、若干の説明を加える。(詳細は第17表 土器観察表を参照)

分類は、以下のとおりである。なお、A類の前平式は、E区のみで出土した。

A類 有文貝殻条痕、前平式、早期前葉

B1類 手向山式、沈線文、早期後葉

B2類 手向山式、(変形)山形押型文、早期後葉

C類 ポジティブ押型文、早期中葉~後葉

D類 貝殻条痕文、早期

E類 撫糸文、早期

F類 無文(繊維入りは早期)

(繊維なしは草創期もあり得る)

地区別

	破片 総数	口縁部 破片数	口縁部 個体数	胴部 破片数	底部 破片数
A区	B1類 28	6	1	22	0
	B2類 11	0	0	11	0
	C類 8	0	0	8	0
	D類 6	2	1	4	0
	F類 17	3	3	13	1
	計 70	11	5	58	1
C区	B2類 2	0	0	2	0
	E類 71	5	1	66	0
	F類 661	68	10	590	3
	計 734	73	11	658	3
E区	A類 73	4	1	63	6
	計 73	4	1	63	6
	総計 877	88	17	779	10

分類別

	破片 総数	口縁部 破片数	口縁部 個体数	胴部 破片数	底部 破片数
A類	73	4	1	63	6
B1類	28	6	1	22	0
B2類	13	0	0	13	0
C類	8	0	0	8	0
D類	6	2	1	4	0
E類	71	5	1	66	0
F類	678	71	13	603	4
総計	877	88	17	779	10

* 1×1cm以下の破片は数えていない。

* 口縁部個体数は、口縁部識別により算出した。

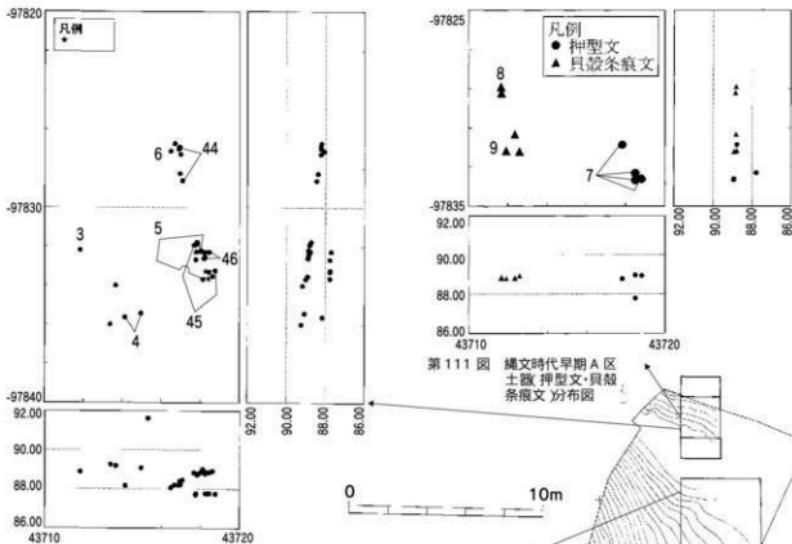
第16表 縄文時代早期 土器出土量

E類(15~19)は、撫糸文土器である。撫糸文土器はC区に集中して出土し、おそらくすべて同一個体と思われる。胎土には繊維が混入している。器壁が薄く、焼成は良好である。16·17は胴部破片である。

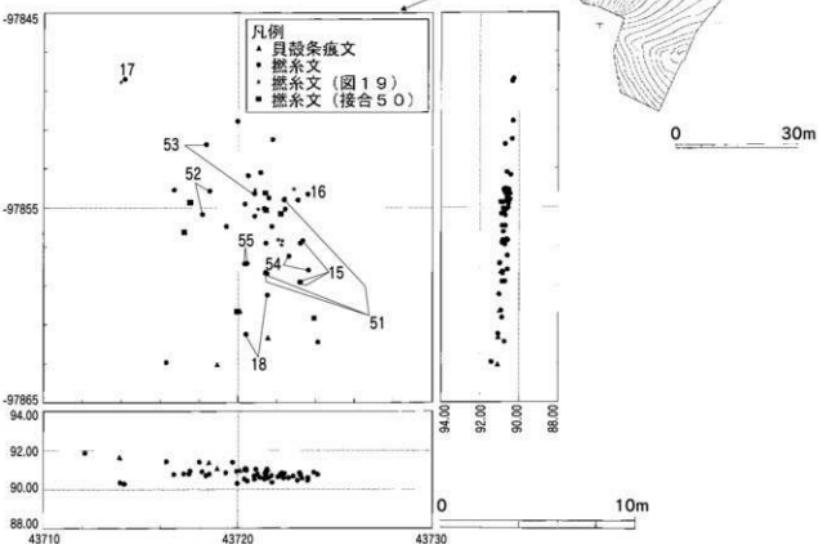
F類(11~14、20~39)は、無文土器である。胎土には繊維が混入している。20と21、23と24はそれぞれ同一個体である。胴部ははらず外傾しながら直行する器形である。口縁部から底部まで残存しており、底部形態は尖底である。23の口縁部には、縦方向の沈線状調整痕が認められる。

報告書 番号	出土 場所	分類	種類	部位	文様及び調整		焼成	出土	備考	高麗 番号	型式	メモ	
					外側	内面							
1 A区 B1 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	内面上位に山形押型文 内面下位にナデ	明黄褐	灰褐色 模様 流紋	良好	2mm以下の黒色光沢の 赤色植物粒、6mm以下の赤 色植物粒を含む。	外側にス ス付着	1	手向山式		
2 A区 一括 B1 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	内面上位に山形押型文 内面下位にナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	3mm以下の褐色の粒と 1.5mm以下の黒色光沢、 灰白色の植物粒を含む。	内面にス ス付着 内面に模 様	2	手向山式		
3 A区 B2 深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	浅黄	浅黄	良好	4.5mm以下の灰白粒を少 量含む。			3	手向山式		
4 A区 B2 深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	良好	1mm以下の黒色粒をわ ずかに含む。			4	手向山式		
5 A区 B2 深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の黒色粒、光 沢粒をわずかに含む。			5	手向山式		
6 A区 B2 深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の黒色粒を含む。			6	手向山式		
7 A区 C 深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の光沢粒を含む。			7	押型文		
8 A区 D 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	褐	褐	良好	1mm以下の光沢粒を含む。			8	異様条幅文		
9 A区 D 深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	明褐 にぶい	明褐 にぶい	良好	9mm以下の黒色光沢、3mm以下 の白褐色。光沢粒をわずかに含む。			9	異様条幅文		
10 A区 カラシ D 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	上位に山形押型文 下位に貝殻条文	明褐	褐	良好	2mmの大さな不透明な岩片、教 室で透明な光沢粒をすこし含む。 スス付着			10	押型文、 異様条幅文	
11 A区 F 深鉢	底部	ナデ	ナデ	浅黄	にぶい 黄褐	良好	1mmの大さな黒色光沢粒と1mm 以下の黒色粒を少量含む。			12	無文		
12 A区 カラシ F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	にぶい 褐	明褐	良好	1mmの大さな黒色光沢粒と1mm 以下の黒色粒を少量含む。			13	無文		
13 A区 SGI F 深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐	褐	良好	2mm以下の砂粒をわずかに含む。			14	無文		
14 A区 カラシ F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	2mmの大さな黄褐色の岩片、1mm 以下の光沢粒、黒色粒を含む。			15	無文		
15 C区 E 深鉢	口縁部	燃条文のあひナデ	燃条文のあひナデ	明赤褐	にぶい 黄褐	良好	2mm以下の茶褐色、灰 褐色の砂粒を少量含む。			16	燃条文		
16 C区 E 深鉢	口縁部	斜方(左)の燃条文	斜方(右)の燃条文	褐	褐	良好	1.5mm以下の灰白粒を少量、 透明白色透明白色を含む。			17	燃条文		
17 C区 E 深鉢	口縁部	斜方(左)の燃条文	斜方(右)の燃条文	明赤褐 にぶい	明赤褐 にぶい	良好	2mm以下の茶褐色の粒を少 量含む。			18	燃条文	同一個体	
18 C区 E 深鉢	胴部	燃条文	ナデ	黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の黒色粒を少 量含む。			19	燃条文		
19 C区 E 深鉢	口縁部	斜方(左)の燃条文	斜方(右)の燃条文	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	2mm以下の茶褐色多角に含む。 1mm以下の白褐色、黒色粒を少 量含む。			20	燃条文		
20 C区 F 深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	0.5mm以下の茶褐色、黄褐色、 黄褐色透明白色透明白色を含む。			21	燃条文		
21 C区 F 深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい 赤褐	にぶい 赤褐	良好	1mmの大さな岩片の岩片をわ ずかに含む。			22	燃条文		
22 C区 F 深鉢	口縁部	丁寧なナデ	ナデ	明赤褐 にぶい	明赤褐 にぶい	良好	微細な黒色透明白色の岩片を 岩片を含む。		黒変 青変	20	無文		
23 C区 F 深鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文	明褐 にぶい	明褐 にぶい	良好	1mm以下の黒色光沢の植物 粒、4mm以下の砂粒を含む。		黒変 青変	21	無文		
24 C区 F 深鉢	胴部	横方向の工具痕	横・斜方向の工具痕 底部	褐	褐	良好	3.5mm以下の黒褐色の粒、 2.5mm以下の茶褐色の粒、 2mm以下の白褐色の粒を含む。			22	無文	同一個体	
25 C区 F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	明褐 にぶい	明褐 にぶい	良好	2mmの大さな茶褐色透明白色 透明白色の岩片、戰継で透明な光沢粒を 含む。			23	無文		
26 C区 F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	1mm以下の茶褐色光沢の植物 粒、6mm以下の赤色植物粒を含む。			24	無文		
27 C区 F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	褐	褐	良好	2mmの大さな明褐色の岩片、光 沢粒を含む。			25	無文		
28 C区 F 深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	赤褐 黒褐	赤褐 黒褐	良好	微細な黒色透明白色の植物粒、3mm 以下の赤褐色の植物粒を含む。			26	無文		
29 C区 F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	赤褐 にぶい	赤褐 にぶい	良好	3mm - 5mmの明褐色の岩 片、微細な茶褐色を含む。			27	無文		
30 C区 F 深鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	にぶい 褐	にぶい 褐	良好	1mmの大さな暗赤褐色の岩片、光 沢粒を少しあげて含む。			28	無文		
31 C区 F 深鉢	胴部	丁寧なナデ	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の茶褐色、光 沢粒を少しあげて含む。			29	無文		
32 C区 F 深鉢	胴部	ナデ	ぬけだ	明褐	明褐	良好	1mm以下の茶褐色を含む。			30	無文		
33 C区 F 深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐	褐	良好	1mm以下の茶褐色、光 沢粒を少しあげて含む。			31	無文		
34 C区 F 深鉢	胴部	ナデ	ナデ	褐	褐	良好	1mm以下の茶褐色を含む。			32	無文		
35 C区 F 深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の茶褐色を含む。			33	無文		
36 C区 F 深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の茶褐色を含む。			34	無文		
37 C区 F 深鉢	胴部	ナデ	ナデ	にぶい 黄褐	にぶい 黄褐	良好	1mm以下の茶褐色を含む。			35	無文		
38 C区 F 深鉢	底部	丁寧なナデ	ナデ	明赤褐 褐	にぶい 黄褐	良好	微細な茶褐色の岩片、黄褐色 透明白色の植物粒を含む。		底尖	36	無文		
39 C区 F 深鉢	底部	丁寧なナデ	ナデ	浅黄	にぶい 黄褐	良好	3mm以下の茶褐色、黄褐色 透明白色の植物粒を含む。			37	無文		

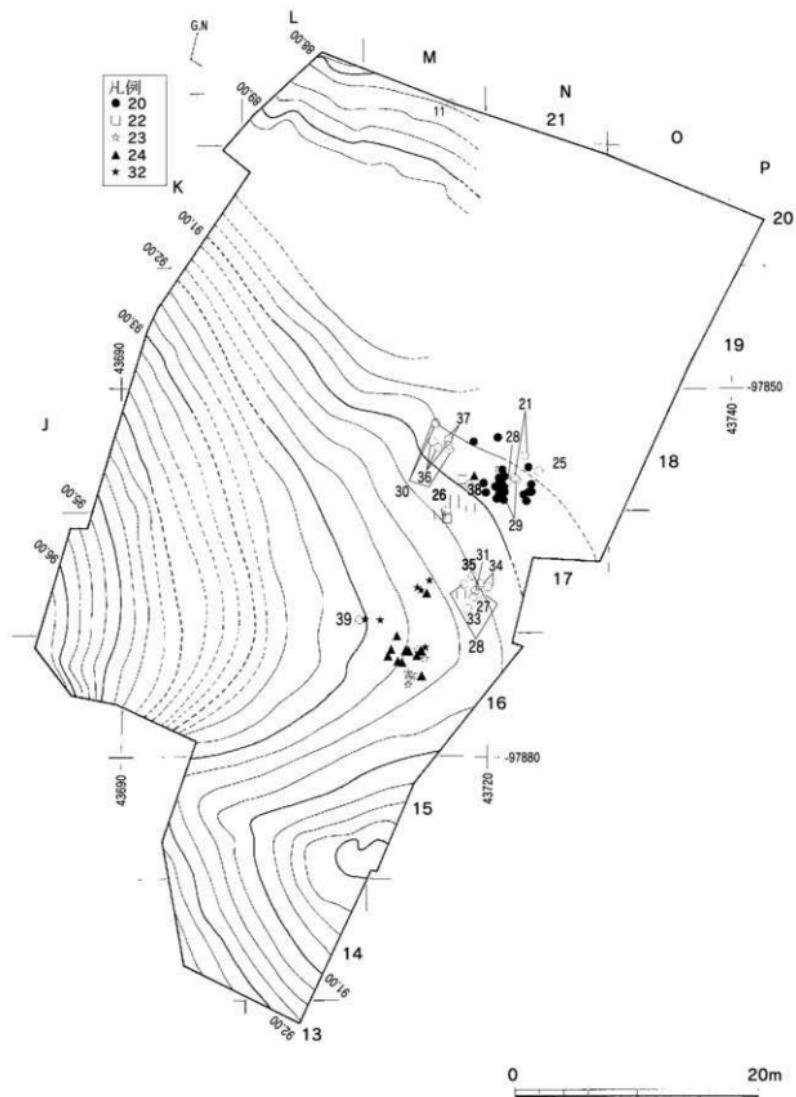
第 17 表 繩文時代早期土器観察表



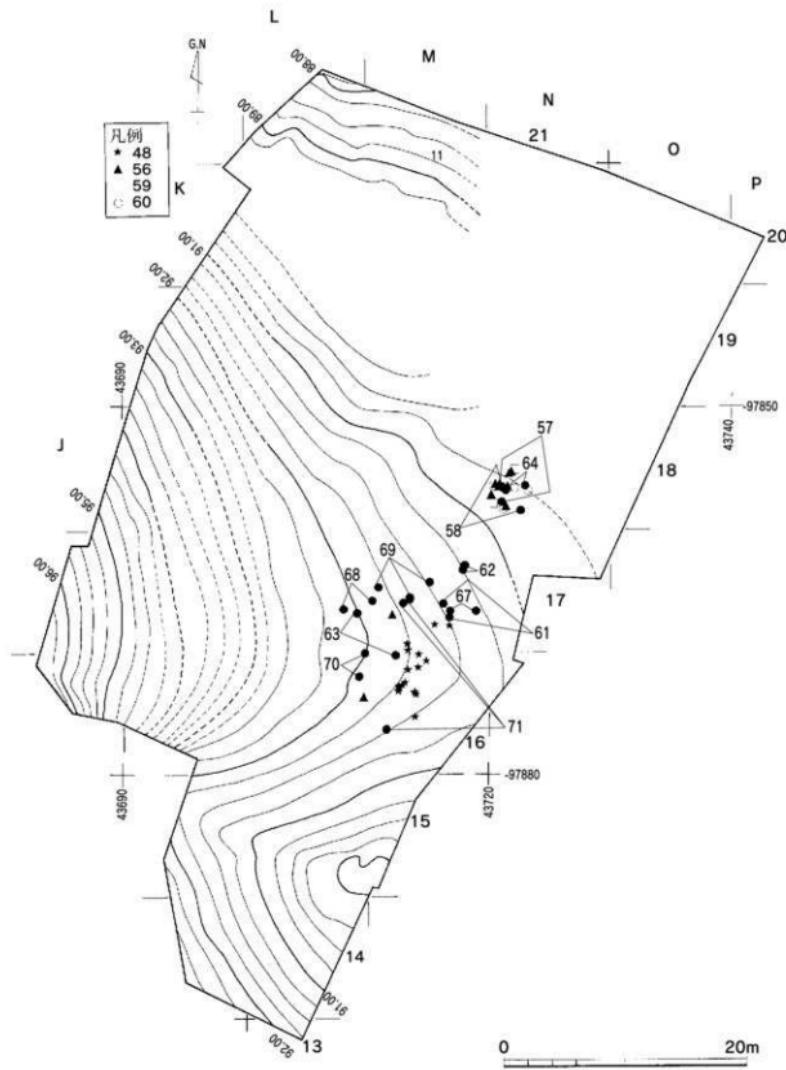
第110図 縄文時代早期A区 土器(手向山)分布図



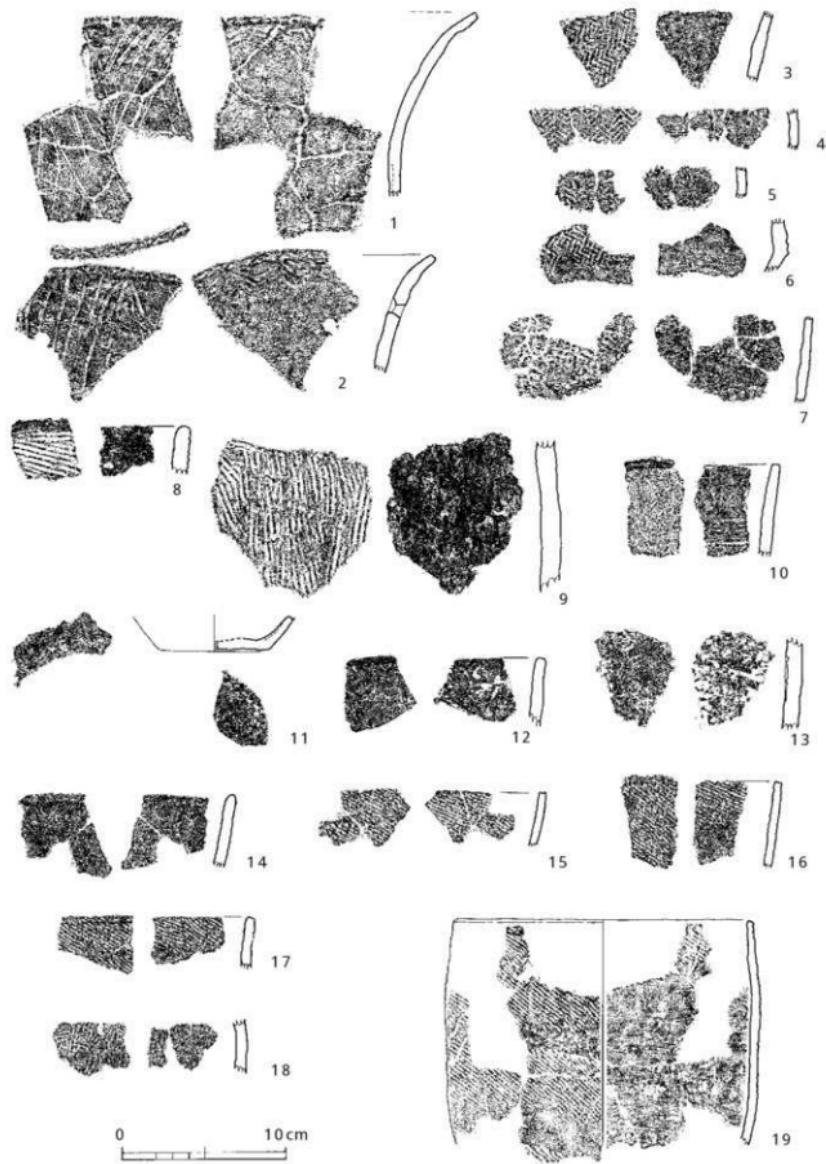
第112図 縄文時代早期C区 土器(貝殻条痕文・燃系文)分布図



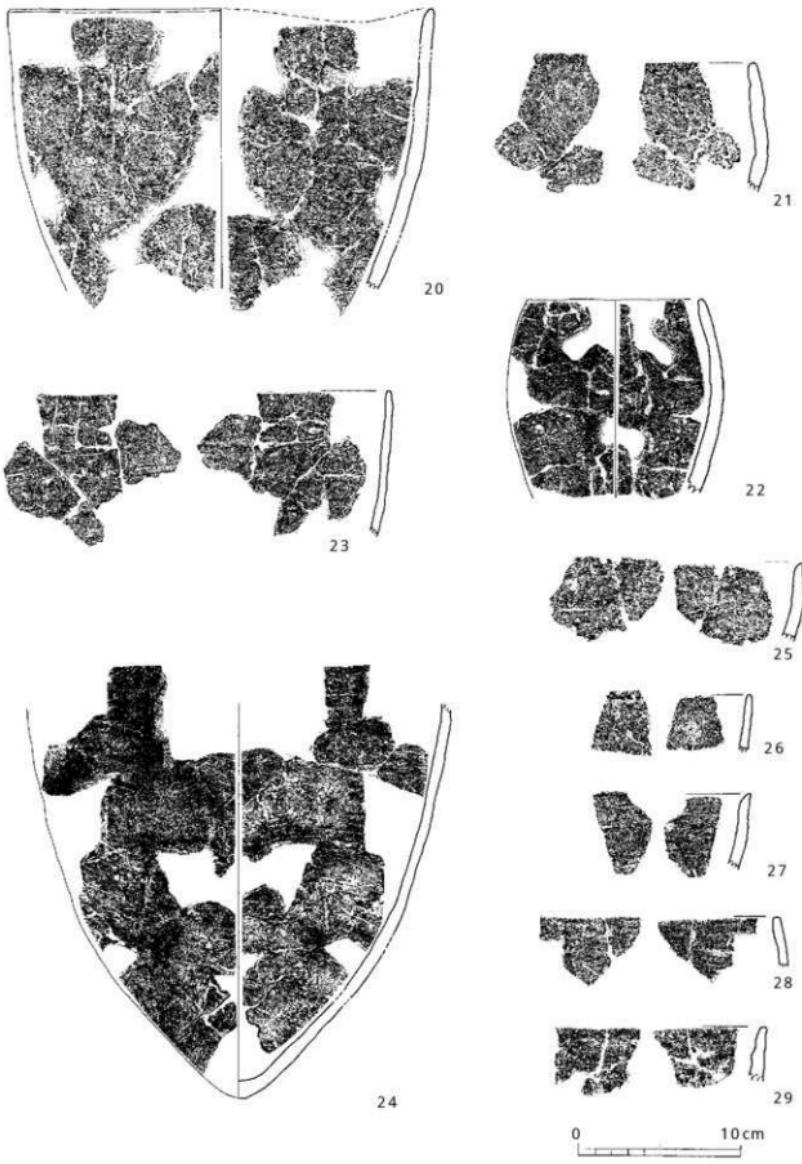
第113図 縄文時代早期 土器(無文土器の図化資料)分布図 (S = 1/400)



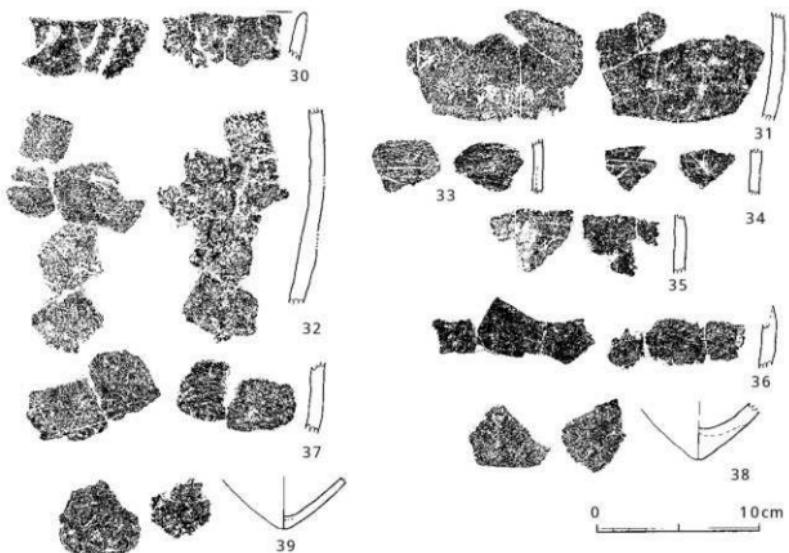
第114図 縄文時代早期 土器（無文土器の図化資料以外）分布図 ($S = 1/400$)



第115図 縄文時代早期 土器実測図(1)



第116図 縄文時代早期 土器実測図(2)



第117図 繩文時代早期 土器実測図(3)

石器

縄文時代早期からは、第18表のとおり、合計3,780点の石器が出土した。器種ごとにみると、石鎌やスクレイバーといった定型的な器種は9種144点で、全体の3.8%となり、ほとんどが剥片(37%)・チップ(59%)である。定型的な器種9種の中では、石鎌の割合が77%、次が石核の11%となり、石鎌が大半を占める。

石材ごとにみると、11種類に分類でき、最も多かったのがチャートで全体の70%を占める。次に黒曜石の18%、サスカイトとホルンフェルスがそれぞれ3%、姫島系(安山岩か黒曜石)が2%と続き、そのほとんどがチャートと黒曜石である。チャートと黒曜石は、いずれも剥片・チップの割合が高いことからみても、本遺跡の搬入・消費の中心になっていたものと考える。なお、チャートと黒曜石および石鎌の石材との関係については、石鎌の項で述べる。

石鎌(第128~130図)

石鎌の総数は110点である。その中で106点を図示した。

石鎌の分類^{*}は、大分類(石材)→中分類(重量)→小分類(各部位の形態)とした。

* この分類は、「本山町埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 松ノ木遺跡 V」高知県長岡郡本山町教育委員会 2000 p192~194を参考にした。

石鎌の製品と剥片・チップの石材

石鎌の石材はチャートが最も多く83点で、全体の69%を占める。次に黒曜石が23点で21%となる。

チャートは色別に7種類に分類した。しかし、剥片やチップになると同一原石から剥出していても、部分で色が異なる。そこで、後述の分析や剥片・

チップの分布状況等では、Ba、c、dをチャート、Bb、eをチャ黒、Bf、gをチャ赤・白とまとめた。黒曜石は産地別に分類し、腰岳系、桑ノ木津留系、針尾系、姫島系の4種類がみられた。

細分された石材分類でみると、最も多いチャートが全体の40%を占め、次にチャ黒の30%、黒B桑ノ木津留系黒曜石が15%と続く。これらの割合は剥片・チップの場合とほぼ同じである。

どの種類も、製品と同じ石材が出土した周辺で、剥片・チップも出土している。しかし、チャートの赤褐色は製品が完形で1点のみだが、剥片・チップは1点も出土していない。また、黒曜石の針尾系は製品で3点出土しているが、剥片・チップは1点のみである(この1点も製品が破損したものの可能性がある)。赤褐色のチャートおよび針尾系の黒曜石製の石鎌は、製品を搬入したものと思われる。

その他の石材の石鎌については、製品および剥片・チップの分布状況から、本遺跡にて加工・調整が行われた可能性が高いと考える。

なお、A区とC区間での接合例はなかった。

本遺跡の石鎌の特性

各部位の形態別にみてみると、ただし、その破損状況によって判別できなかつた場合は、数に入れていらない。

まず、基部形態で最も多いのは凹基で、判別できた91点中の40点45%を占める。次に逆U字状基が25点27%、浅い凹基21点23%、平基5点5%である。

脚部形態で最も多いのは幅広のもので、判別できた87点中の49点57%を占める。次に先端部の尖るもののが23点27%、明確な脚部を作出しないものが10点11%である。

区	石材	頁岩	ホルンフェルス	流紋岩	珪質頁岩	鈍粒砂岩	砂岩	黒曜石	チャート	サスカイト	姫島系	水晶	その他	計
石鎌				2				23	83	1	2			111
スクレイバー		1	1											2
二次加工剥片	2	2												4
石核	2	6			1		2	5						16
A ・ 鮫石						4								4
B ・ 磨石												1	1	
C ・ 台石		1				1								2
硬器	1													1
斧状石器	3													3
剥片	32	96	3	3	8	5	203	986	38	24	4	3		1405
チップ	5	2			3	1	443	1591	72	50	44	20		2231
計	44	109	6	3	12	11	671	2665	111	76	48	24		3780

第18表 縄文時代早期 石器組成表

* 姫島系とは、姫島産の安山岩または黒曜石を指す。

側縁形態で最も多いのは直線的なもので、判別できた 82 点中の 42 点 52% を占める。次に外湾するものが 32 点 37%、先端部は細いが基部はふくらんでいるものが 6 点 8% である。

断面形態で最も多いのは凸レンズ状のもので、判別できた 81 点中の 35 点 44% を占める。次に扁平なものが 32 点 40%、三角形のものが 13 点 15% である。

破損状況を見ると、最も多かったのが完形で 25 点 22% で、脚部のみの 24 点 22% とほとんど同数である。次に先端部欠損の 18 点 16%、片脚部欠損 17 点 15%、先端部及び片脚部欠損の 8 点 7% と続く。基部のみの欠損や半折、両脚部欠損の点数は少ない。

大分類

A 群：黒曜石

- a 腰岳系 b 桑ノ木津留系
- c 針尾系 d 姫島系

B 群：チャート

- a 乳白色 b 濃緑色
- c 淡緑色 d 灰青色～淡青色
- e 暗灰色～黒色 f 赤褐色
- g 白色

(a～d は同一の可能性あり)

C 群：安山岩（姫島系）

D 群：サヌカイト

E 群：流紋岩

中分類

I 群：0.3g 以下。または長さか幅が 1cm 未満。

II 群：0.4g 以上、1.6g 以下。または長さか幅が 1cm 以上、2cm 未満。

III 群：1.7g 以上。または長さか幅が 2cm 以上。

小分類（第 118 図）

基部：1 凹基 2 浅い凹基

3 逆 U 字状基 4 平基

脚部：①先端部の尖るもの

②幅広のもの ③長脚

④円脚 ⑤左右非対称のもの

⑥明確な脚部を作出しないもの

側縁部：ア 直線的なもの

イ 内湾するもの

ウ 外湾するもの

エ 先端部は細いが基部はふくらんでいるもの

オ 縦長で平行な部位があるもの

断面：A 扁平 B 凸レンズ状

C 三角形 D 菱形

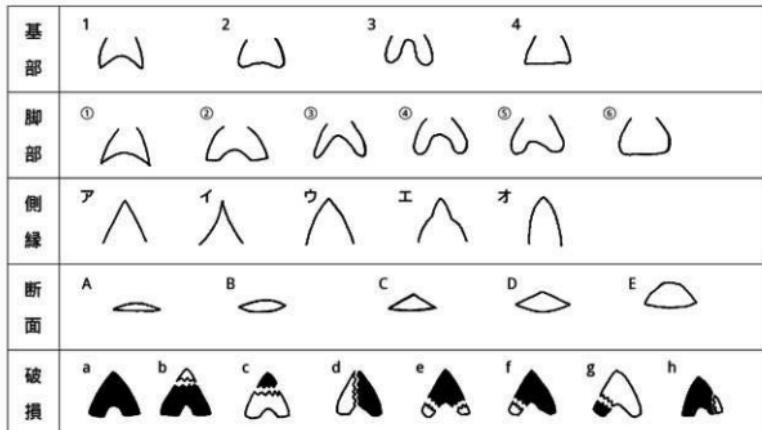
E 山形で厚い

破損：a 完形 b 先端部欠損

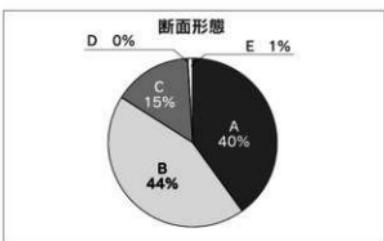
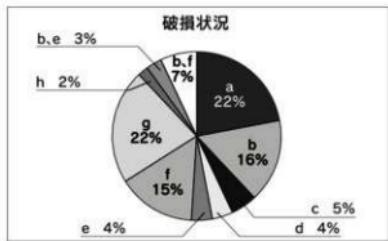
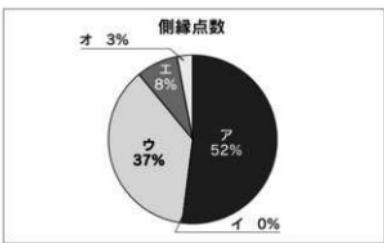
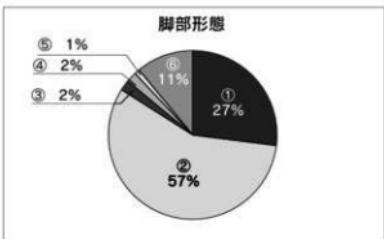
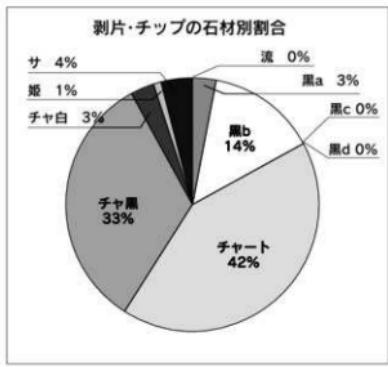
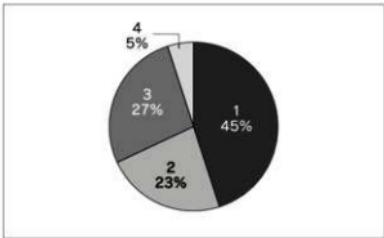
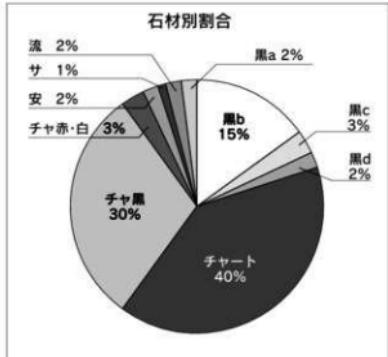
c 基部欠損 d 半折品

e 両脚部欠損 f 片脚部欠損

g 脚部のみ h 側縁欠損



第 118 図 石鎚形態模式図



第119図 石鎚の石材・特性分析図

実測 登録番号	固 定番 号	出 版番 号	区	ケリッド	層	石材	厚 さ cm	幅 cm	厚さ cm	重 さ kg	特徴	大分 類	中分 類	基部	脚部	脚部 形状	新面	破損	国土基 準標 K.座標	国土基 準標 Y.座標	レベル	
92 367	30 A	M 20 V	黒曜石	1.55	1.50	0.40	3.0	使用時破損	先端、両脚部欠損、剥落	Aa	II	1	-	ウ	C	b.e.	-97836540	43714,500	89.267			
93 368	386 A	M 21 IV	黒曜石	1.45	1.35	0.35	0.5	块形状、側縫組み縫合状		Aa	II	3	⑦	ウ	B	e.f.	-97827,980	43712,280	88.457			
105 369	255 A	L 21 IV	黒曜石	0.65	0.80	0.20	0.1	側縫組み縫合状		Ab	I	-	-	ア	C	-	-97828,630	43709,590	88.588			
106 370	1032 A	L 20 V	黒曜石	1.00	0.80	0.30	0.2	側縫組み縫合状		Ab	I	-	-	ウ	C	-	-97833,436	43706,289	88.264			
107 371	1120 A	M 21 V	黒曜石	1.15	1.30	0.35	0.3	脚部が先端部か不明。		Ab	II	-	-	-	-	-	-97827,128	43711,311	88.161			
108 372	318 C	M 16 V	黒曜石	1.50	1.30	0.40	0.5	丁寧な調整。		Ab	II	-	-	ア	B	e.	-97877,630	43711,280	-			
109 373	137 C	N 18 VII	黒曜石	2.80	1.30	0.55	1.4	先端、両脚部欠損、剥落。		Ab	II	-	-	ア	f.	-	-97857,628	43720,581	90.328			
94 374	181 C	M 18 V	黒曜石	1.60	1.30	0.30	0.3	中央から反る。脚部先端欠損。		Ab	II	1	-	ア	A	-	-97835,250	43715,350	90.415			
95 375	1212 C	M 17 V	黒曜石	1.30	1.00	0.30	0.3	先端からの加刷で側縫が剥落。		Ab	II	1	①	ア	C	b.f.	-97861,120	43714,100	91.260			
96 376	99 C	M 18 V	黒曜石	1.95	1.50	0.40	0.8	表面に幅広、粗い加工。		Ab	II	1	②	ウ	C	b.f.	-97852,330	43715,430	90.721			
97 377	74 C	M 17 VI	黒曜石	2.25	1.65	0.45	1.3	裏面調整失敗?側縫組み調整。		Ab	II	2	①	ア	C	b.	-97869,978	43716,658	91.315			
98 378	177 C	M 18 V	黒曜石	1.50	1.30	0.35	0.3	先端部もわずかに欠損。		Ab	II	2	①	ア	C	-	-97833,900	43716,800	91.090			
99 379	1395 A	L 21 V	黒曜石	1.45	1.05	0.25	0.3	薄い小形。		Ab	II	2	⑦	ウ	A	b.f.	-97827,571	43709,160	88.210			
100 380	1389 A	L 20 V	黒曜石	2.05	1.20	3.50	0.7	粘地型?		Ab	II	2	①	オ	B	f.	-97830,599	43708,591	88.644			
101 381	1296 A	M 20 V	黒曜石	0.75	1.20	0.35	0.3	欠損もし。		Ab	II	2	⑥	-	g	-	-97830,682	43711,453	88.594			
102 382	40 C	M 18 V	黒曜石	1.25	1.20	0.45	0.5	側縫形状?		Ab	II	3	④	ウ	-	-	-97858,730	43718,490	91.074			
104 383	1402 A	L 20 VI	黒曜石	1.35	1.45	0.40	0.8	表面が剥落。		Ab	II	4	⑥	ウ	-	-	-97832,459	43708,368	88.769			
110 384	1274 C	M 16 V	黒曜石	0.90	1.45	0.25	0.4	脚部左右非対称。		Ac	II	2	①	-	A	b.	-97870,330	43719,670	91.264			
111 385	509 A	M 20 IV	黒曜石	1.70	2.10	0.40	1.2	側縫状、脚部張る。		Ac	II	3	②	エ	B	-	-	-97833,270	43710,930	89.127		
112 386	1041 A	C 18 V	黒曜石	1.60	1.75	0.40	0.7	側縫状、先端部が凹い。		Ac	II	3	②	ア	B	b.f.	-97832,878	43712,997	88.896			
119 387	87 A	M 21 IV	黒曜石	1.65	1.00	0.30	0.3	丁寧な調整。細身。		Ad	II	-	-	ウ	A	-	-97828,650	43710,610	88.669			
117 388	314 A	M 20 IV	黒曜石	2.35	1.55	0.35	0.8	側縫組み残存、先端及び片側部が丸く彫り。		Ad	II	1	①	ウ	A	-	-	-97830,969	43710,540	88.999		
120 389	724 C	M 16 V	チャート	1.25	1.15	0.25	0.2	両端に一部削り、小孔、脚部欠損しがちに大き。		Ba	I	1	-	ウ	A	-	-	-97847,470	43710,400	91.738		
122 390	765 C	M 16 V	チャート	1.75	0.95	0.40	0.6	残存部位は脚部と思われる。		Ba	II	-	-	-	g	-	-	-97875,970	43710,800	91.600		
123 391	858 C	L 16 V	チャート	1.35	0.95	0.30	0.3	残存部位は脚部と思われる。		Ba	II	-	-	-	g	-	-	-97847,060	43709,350	91.859		
121 392	1485 C	M 18 V	チャート	1.80	1.55	0.35	0.7	やや小形。		Ba	II	1	①	ア	B	-	-	-97865,539	43715,062	91.003		
124 393	1882 A	M 20 V	チャート	1.35	1.15	0.30	0.3	欠損もし。		Bb	II	1	-	-	h.c.	-	-	-97835,871	43711,193	89.151		
141 394	443 C	N 17 V	チャート	1.85	1.75	0.40	0.9	幅広。		Bb	II	-	-	ウ	A	e.	-	-97866,580	43722,700	91.021		
125 395	1328 A	M 20 V	チャート	1.90	1.80	0.35	0.5	脚部左右非対称。陥没部付着。		Bb	II	1	①	ア	A	-	-	-97883,130	43711,136	89.068		
128 396	180 C	M 16 V	チャート	2.35	2.30	0.30	1.4	やや歪む。		Bb	II	1	②	ア	B	-	-	-97856,980	43715,910	91.072		
132 397	13 C	L 19 IV	チャート	2.15	1.40	0.40	1.0	側縫欠損、基部にぐるり!挟み入り。		Bb	II	2	⑥	ウ	A	h	-	-97844,780	43709,300	90.224		
133 398	100 C	M 18 V	チャート	2.30	2.05	0.35	1.3	丁寧な調整。		Bb	II	3	②	ウ	B	-	-	-97858,160	43715,330	91.170		
134 399	95 C	L 17 IV	チャート	2.20	1.60	0.40	1.0	丁寧な調整。細身。		Bb	II	3	②	ア	B	-	-	-97868,670	43709,300	92.056		
400 400	160 C	M 18 V	チャート	80	1.85	2.15	0.40	12. 脚部が接合。		Bb	II	3	②	-	B	b.	-	-97858,880	43717,140	91.401		
401 401	65 C	M 17 VI	チャート	80	1.75	2.15	0.45	脚部が接合。		Bb	II	3	②	-	B	b.	-	-97860,874	43715,146	91.117		
402 402	1443 C	N 17 V	チャート	82	2.15	1.90	0.45	13. 脚部が接合。		Bb	II	3	②	ウ	B	a.	-	-97866,502	43720,177	91.103		
403 403	1248 C	M 17 V	チャート	82	2.15	1.90	0.45	13. 脚部が接合。		Bb	II	3	②	ウ	B	a.	-	-97865,350	43718,620	91.175		
137 404	1961 C	L 14 V	チャート	2.40	1.55	0.45	1	脚部張る。		Bb	II	3	②	エ	B	f.	-	-97881,150	43703,997	90.746		
138 405	998 A	M 20 V	チャート	1.95	1.35	0.25	0.5	裏面一部剥落。		Bb	II	3	④	エ	A	f.	-	-97835,970	43715,101	89.184		
140 406	591 A	M 20 IV	チャート	2.95	1.75	0.40	1.5	側縫組み調整。		Bb	III	-	-	ア	A	-	-	-97832,640	43711,260	89.203		
126 407	1373 C	M 17 V	チャート	2.50	2.25	0.45	1.6	先端及び片脚先端欠損。		Bb	III	1	②	ア	B	a.	-	-	-97861,700	43715,280	91.276	
408 408	1537 C	L 16 V	チャート	81	2.50	1.90	0.35	15. 先端部が接合。先端欠損。		Bb	III	1	②	ア	B	b.	-	-	-97872,189	43709,449	91.913	
409 409	373 C	M 17 V	チャート	81	2.50	1.90	0.35	15. 先端部が接合。先端欠損。		Bb	III	1	②	ア	B	b.	-	-	-97867,420	43719,730	91.245	
410 410	151 C	M 18 IV	チャート	75	4.70	3.40	0.85	11.0	脚部調整。かなり大型。脚部が接合。基部にぐるり!挟み入り。		Bb	III	2	⑥	ア	a.	-	-	-97858,790	43718,680	91.015	
411 411	1483 C	M 18 V	チャート	75	3.00	2.15	0.55	3.0	側縫欠損。基部にぐるり!挟み入り。		Bb	III	2	⑧	ア	A	a.	-	-97857,384	43716,535	90.970	
131 412	10 C	M 18 IV	チャート	3.30	2.15	0.55	3.0	側縫欠損。基部にぐるり!挟み入り。		Bb	III	2	⑧	ア	A	a.	-	-97857,570	43714,800	91.146		
139 413	451 C	N 17 V	チャート	2.80	2.65	0.50	5.4	未成品? 表凸裏凹。正三角形。		Bb	III	4	④	ウ	C	a.	-	-	-97865,880	43720,130	91.155	
145 414	1372 C	M 17 V	チャート	1.20	1.25	0.20	0.2	脚部のみ残存。		Bc	I	1	②	-	-	g.	-	-	-97861,700	43715,190	91.311	
142 415	86 C	N 18 V	チャート	1.15	1.30	0.30	0.4	脚部のみ残存。		Bc	II	1	②	-	-	g.	-	-	-97859,050	43724,200	90.740	
143 416	174 C	M 18 V	チャート	1.05	1.25	0.30	0.3	脚部のみ残存。		Bc	II	1	②	-	-	g.	-	-	-97855,010	43714,940	91.194	
144 417	450 C	N 17 V	チャート	1.55	1.75	0.30	0.7	脚部のみ残存。大型。		Bc	II	1	②	-	-	g.	-	-	-97864,970	43720,900	91.062	
146 418	195 C	M 17 V	チャート	83	2.20	1.90	0.40	12	脚部が接合。		Bc	II	1	②	ウ	A	a.	-	-	-97860,560	43713,760	91.290
419 419	182 C	M 18 IV	チャート	83	2.20	1.90	0.40	12	脚部が接合。		Bc	II	1	②	ウ	A	a.	-	-	-97858,770	43715,350	91.209
147 420	1493 C	M 18 V	チャート	2.00	1.95	0.35	0.8	完形。		Bc	II	1	②	ウ	A	a.	-	-	-97857,390	43718,555	90.937	
148 421	118 C	M 16 IV	チャート	2.60	1.60	0.50	12	一部削離し残しあり。		Bc	II	2	①	ア	B	f.	-	-	-97871,850	43714,260	91.724	
149 422	240 C	M 17 V	チャート	2.20	1.30	0.45	0.7	裏面調整せず。		Bc	II	2	①	ウ	C	d.	-	-	-97862,710	43717,550	91.361	
150 423	1203 C	M 17 V	チャート	1.75	2.30	0.30	1.1	両端部欠損。		Bc	II	3	②	ア	B	a.	-	-	-97866,150	43719,210	90.040	
152 424	1214 A	O 20 V	チャート	1.65	1.20	0.30	0.4	薄い小形。三角形。		Bc	II	4	④	ウ	A	a.	-	-	-97865,894	43734,900	88.838	
151 425	1524 C	L 17 V	チャート	3.05	2.55	0.65	4.4	側縫欠損。基部にぐるり!挟み入り。		Bc	II	4	⑥	ア	B	a.	-	-	-97869,457	43707,385	92.026	

第 19-1 表 繪文時代早期 石鎚観察表(1)

番号	注記	区	名	材	種	長さ	幅	厚さ	重さ	特徴	大分類	中分類	基部	脚部	無縫部	断面	破損	国土標準X座標	国土標準Y座標	レベル
426	35 C	N	18 V	チャート	1.10	0.80	0.25	0.2	0.2	脚部のみ残存。	Bd	I	-	-	-	g	97858.200	43742.500	90.726	
427	759 A	M	20 V	チャート	1.00	0.90	0.30	0.2	先端部のみ残存。	Bd	I	-	-	-	B c	97830.610	43712.820	88.729		
428	1311 C	M	16 V	チャート	0.95	1.00	0.30	0.2	脚部のみ残存。	Bd	I	1	①	-	g	97870.800	43711.190	91.771		
429	116 C	N	18 V	チャート	1.05	1.10	0.20	0.2	脚部のみ残存。	Bd	I	1	②	-	g	97854.850	43720.760	90.933		
430	185 C	M	18 V	チャート	1.20	0.80	0.25	0.1	半円と思われるが、先端不明。	Bd	I	3	③	ア	-	d	97854.500	43713.050	91.288	
431	888 A	M	21 V	チャート	1.10	0.95	0.50	0.4	脚部のみ残存。	Bd	II	-	-	-	g	97829.450	43713.950	88.637		
432	1255 A	M	20 V	チャート	1.15	1.05	0.30	0.3	脚部のみ残存。	Bd	II	-	-	-	g	97835.713	43713.445	89.039		
433	1215 C	M	17 V	チャート	1.15	1.50	0.30	0.5	脚部のみ残存。両側に1箇所、製作中の欠陥か。	Bd	II	1	②	-	g	97862.350	43714.970	91.350		
434	90 C	L	17 IV	チャート	2.45	1.55	0.35	0.9	錐身。素材の色を模様に利用？	Bd	II	1	②	ア	A a	97868.290	43709.750	92.053		
435	27 A	L	17 IV	チャート	1.00	2.00	0.35	0.6	わざかに反る。	Bd	II	1	②	ア	B b	-	-	-	-	
436	2193 C	M	16 V	チャート	1.55	1.45	0.30	0.4	鉛抜抜きで中央部が丸め。調査未実施？	Bd	II	1	②	ア	B f	97879.510	43712.338	90.907		
437	97 C	M	18 V	チャート	1.60	1.35	0.30	0.4	脚部左右非対称。片脚が長い。	Bd	II	1	②	ワ	A a	97852.070	43716.870	90.644		
438	2096 C	M	16 V	チャート	1.40	1.85	0.40	0.9	先端部、先端部折れ変形からの剥離か。	Bd	II	1	②	ワ	B b	97874.615	43712.905	91.490		
439	1362 A	M	21 V	チャート	2.20	1.80	0.60	1.3	未成品？	Bd	II	1	②	ワ	C f	97826.894	43711.328	87.930		
440	1564 C	N	17 V	チャート	1.40	1.05	0.30	0.3	先端からの加筆で半折。	Bd	II	3	③	エ	- d	97860.115	43713.248	90.759		
441	1090 A	M	20 V	チャート	1.80	1.90	0.45	1.1	丁寧な調整。	Bd	II	3	②	ア	B b, f	97834.591	43710.068	89.037		
442	1507 C	M	17 V	チャート	1.70	2.00	0.25	0.6	先端部が短い。	Bd	II	3	②	ワ	A a	97861.412	43715.323	91.233		
443	1490 C	M	18 V	チャート	79	1.85	1.90	0.30	1.0 脚部が接合。側縫縫合状。	Bd	II	3	②	ウ	B b	97856.665	43717.173	90.889		
444	61 C	M	18 IV	チャート	79	1.85	1.90	0.30	1.0 脚部が接合。側縫縫合状。	Bd	II	3	②	ウ	B b	97856.550	43718.370	91.016		
445	1716 C	L	16 V	チャート	2.40	2.05	0.40	1.3	側縫縫合状。平面平坦剥離？	Bd	II	3	②	ワ	C a	97874.825	43705.637	92.048		
446	246 C	M	17 V	チャート	2.40	1.70	0.40	1.9	鉛抜。脚部がわざかに張る。接頭。	Bd	II	3	②	エ	B a	97862.380	43718.870	91.317		
447	2253 B	L	20 V	チャート	2.50	1.30	0.30	0.7	錐身。脚部がわざかに張る。	Bd	II	3	②	エ	B f	97858.850	43702.243	90.207		
448	107 C	N	18 V	チャート	1.75	0.80	0.25	0.3	先端に打点があり、そこから半折。	Bd	II	3	④	ワ	- d	97859.770	43723.830	90.817		
449	990 A	L	20 V	チャート	2.40	1.80	0.55	1.9	鉛抜。調整。剥離わずかに欠損。	Bd	III	-	-	ワ	B c	97831.527	43704.003	89.302		
450	SG1 A	G	1 S G 1	チャート	2.60	2.45	0.65	2.6	側縫縫合+剥離+彎曲。表面粗厚。剥離し易い。	Bd	III	1	②	ア	C a	-	-	-	-	
451	1303 A	M	20 V	チャート	2.85	1.80	0.40	1.6	鉛抜剥離。先端部がわざかに張る。脚部左右非対称。	Bd	III	2	⑤	ア	A a	97830.219	43711.382	88.584		
452	638 A	M	21 IV	チャート	1.45	1.45	0.40	0.7	わざかに反る。	Be	II	-	-	ア	- b, e	97829.250	43712.350	88.843		
453	105 C	M	17 V	チャート	1.55	1.50	0.30	0.6	片脚が短い。	Be	II	1	①	ア	B b	97869.760	43710.190	91.999		
454	317 A	L	20 IV	チャート	2.30	1.45	0.35	0.3	側縫縫合状。	Be	II	1	①	ア	B f	97830.030	43709.470	88.843		
455	1675 C	M	16 V	チャート	1.75	1.40	0.35	0.6	脚部のみ残存。大形。	Be	II	1	②	ア	- g	97872.981	43710.663	91.855		
456	1062 C	M	19 V	チャート	1.90	1.40	0.30	0.7	先端部がわざかに欠損。粗い調整。	Be	II	2	-	ア	E c	97845.920	43713.320	90.372		
457	1083 A	M	21 V	チャート	2.90	1.90	0.35	1.4	底に少し傷。	Be	II	2	②	ア	f	97828.993	43713.805	88.468		
458	2254 B	L	20 V	チャート	1.75	1.40	0.35	0.9	鉛地型。	Be	II	2	②	オ	A b	97837.863	43702.512	90.030		
459	922 A	M	20 V	チャート	1.15	1.20	0.30	0.3	脚部のみ残存。脚形状？	Be	II	3	②	-	g	97835.101	43713.216	89.173		
460	383 C	M	16 V	チャート	1.15	1.15	0.35	0.4	脚部のみ残存。脚形状？	Be	II	3	②	-	g	97870.230	43712.230	91.837		
461	196 C	M	16 IV	チャート	1.85	2.20	0.70	2.3	脚部のか不折か不凍。裏面調整され。	Be	III	-	①	-	g	97874.270	43710.080	91.869		
462	236 C	M	16 IV	チャート	3.20	2.20	0.55	2.4	幅広。大形。	Be	III	1	②	ア	B f	97827.930	43712.180	91.704		
463	1655 C	M	18 V	チャート	87	2.45	1.90	0.45	1.5 先端部剥離からの加筆により、脚部にかけて材料に附着。	Be	III	1	②	ア	C b, f	97859.576	43717.917	91.000		
464	241 C	M	16 IV	チャート	87	2.40	1.90	0.45	1.5 棒形状？小形。	Be	III	1	②	ア	B f	97874.240	43712.550	91.694		
465	199 C	L	16 IV	チャート	2.40	1.35	0.50	1.5 棒形。両脚部先端欠損。	Be	III	1	②	ワ	B f	97874.100	43709.780	91.912			
466	1087 A	L	20 V	チャート	2.60	1.50	0.45	1.3 剥離やや彎曲。錐身。	Bf	II	2	②	ア	B a	97832.152	43708.252	88.897			
467	1180 A	M	20 V	チャート	1.30	1.25	0.50	0.7	脚部のみ残存。肉厚。	Bg	II	2	②	-	g	97835.687	43710.950	89.108		
468	396 C	L	17 V	チャート	2.25	1.65	0.65	0.8	脚部のみ残存。かぶり肉厚。	Bg	II	2	-	E g	97868.500	43708.850	92.065			
469	111 C	M	17 IV	安山岩	2.30	1.65	0.35	0.8	周縫部の先端欠損。	C	II	1	②	ワ	A f	97865.520	43717.500	91.370		
470	615 C	L	16 V	安山岩	1.75	1.10	0.30	0.3	鉛地型？小形。	C	II	3	②	ワ	A f	97871.600	43709.550	91.967		
471	803 A	N	20 SGG サイロ	チャート	2.30	1.60	0.40	1.1 脚部左右非対称。	D	II	2	②	ア	B b	97835.530	43726.630	87.530			
472	1294 C	N	16 V	波紋岩	1.85	1.60	0.35	0.6 脚部抉入部中央がわざかに凹出する。	E	II	2	②	ア	A a	97872.370	43720.360	91.227			
473	SG10 A	SG10	波紋岩	1.75	1.50	0.35	0.6 両脚部中央剥離せず、先端部反る。	E	II	4	②	ア	A a	-	-	-	-			
* 634 C	L	17 V	黒曜石	0.85	0.72	0.30	0.1 脚部剥離面山形(1212と同形)。	Ab	I	1	-	ア	C g	97867.770	43708.740	92.045				
* 1354 A	M	20 V	チャート	0.85	1.00	0.25	0.1 脚部部位は脚部と思われる。	Ba	I	-	-	ア	g	97830.659	43712.947	88.525				
* 135 A	M	21 IV	チャート	0.65	1.05	0.25	0.1 脚部のみ残存。	Bb	I	1	②	-	g	97828.660	43711.050	88.659				
* 340 C	M	17 V	チャート	0.90	0.72	0.30	0.2 脚部のみ残存。	Bc	I	-	②	-	g	97864.800	43718.750	91.212				

第 19-2 表 繩文時代早期 石縫觀察表(2)

フェルスである。

接合資料 58 (第 132 図 474 ~ 476) は剥片 2 点、石核 1 点からなる。剥離の順序は 474 → 475 で、最後に石核(476)が残った。石核(476)は円盤を素材とし、両面から剥片を剥出している。

同一母岩 36 (第 132 図)

接合資料 58・59 および 5 点の剥片は、石材と出土位置が近いことから同一母岩とした。石材は黒い筋のような縞模様の入る灰色のホルン

接合資料 59 (第 132 図 478・479) は剥片剥離による剥片の接合である。

477、480～483 はいずれも不定形の剥片であるが、接合はしていない。

スクレイバー (第 133 図 484)

スクレイバー (484) は 1 点のみの出土である。細長い剥片の末端に加工によって弧状の刃部を形成、さらに一側辺に交互調整による背部を形成している。対面する一側辺は素材の縁辺による刃部を残している。ナイフ形石器との複合石器かもしれない。石材は墨流し様の流れたような模様のある流紋岩である。

二次加工剥片 (第 133 図 485～488)

485～488 は、二次加工剥片である。

石核 (第 134～136 図 489～501)

石核は 16 点出土し、うち 13 点を図示した。

489・490 は円礫を素材とし、自然面を除去するような剥片剥離が行われている。490 はその際剥出された剥片である。491・494 は大形の円礫の自然面を残した剥片を素材とし、両面からの剥片剥離が行われている。492 は分割した礫を何度も打面転移を繰り返しながら剥片を剥離している。493 は分割した礫の自然面側から剥片を剥離、両面から大きめの不定形剥片を剥出している。495～501 は小形の剥片を素材とし、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行っている。石材は図 495～499 がチャート、500・501 がえびの系の黒曜石である。

同一母岩 45 (第 138 図)

43・56・113 の 3 つの接合資料は、石材や出土位置が近いことから同一母岩とした。石材はオリーブ色に風化しているホルンフェルスである。

接合資料 43 (第 138 図 514～520) は剥片 6 点と石核 1 点からなる。素材は、平らな節理面を上下にもつ直方体のような形状と思われる。平らな節理面の一端を打面として端から同じ方向の打撃を繰り返して剥片剥離を行っている。剥離の順序は 514 → 515 → (516～517) → 519 → 518 で、最後に石核 (520) が残った。516 と 517 は剥離した際に割れたと思われる。519 は打面を 90° 展開させて打撃を加えて剥離している。517 に打点は見いだせず、剥離した際に割れ落ちた可能性が高い。

敲石 (第 139 図 521～524)

521～524 は敲石である。石材はいずれも砂岩である。521 は両端および一側辺に潰痕、表面に凹面、一側辺に擦痕が観察される。522 は両端に、523・524 は一端と表面に潰痕がある。台石 (第 139 図 525)

525 は SI21 内から出土した台石である。顯著な凹面はみられず、数か所にわずかな擦面が観察できる。

磨石 (第 139 図 526)

526 は炉穴から出土した磨石である。一部被熱している。

斧状石器 (第 139 図 527・528)

527・528 は斧状石器とした。明確な刃部を形成しているとは言い難いが、扁平で末端が薄くなっている自然礫を用い、最小限度の加工を施して斧状を呈する石器を作り出している。ただし、最小限度の加工は、使用による剥離の可能性もある。

剥片 (第 140・141 図 530～552)

剥片は 1,405 点出土した。そのほとんどがチャート (986 点で全体の 70%) と黒曜石 (203 点で全体の 14%) である。チャートと黒曜石の剥片・チップについては、産地等の分類ごとに分布状況図を掲載した。図示したのは頁岩・ホルンフェルス等が中心である。

530～534 はほとんど風化していない頁岩、538、548 は斑模様のある頁岩である。535～537 はほとんど風化していないホルンフェルス、541～546 は斑模様のあるホルンフェルス、550 は黄褐色に風化しているホルンフェルス、551・552 はオリーブ色に風化しているホルンフェルスである。539・540 は斑模様のある流紋岩、549 は縞模様のある流紋岩である。548 は珪質頁岩、553・554 はチャートである。547 は有孔虫類の化石を見ることができる。

(3) 小結

縄文時代早期の文化層は、集石遺構 9 基と手向山式・押型文・貝殻条痕文・燃糸文・無文の土器群、頁岩製・ホルンフェルス製の石器群、黒曜石製・チャート製の石鏨と剥片・チップ群に特徴づけられる。

集石遺構は、礫数が 100 点を超える密集度の高いものと礫数が 100 未満で密集度の低いものとに分けられる。遺構の構築時期については、

SI23 および 24 内から剥片・石核・チャート等が出土していることや周囲には無文土器・燃糸文土器の分布がみられることから、縄文時代早期を考えられ、C 区で検出した SI18 ~ 24 については、出土土器を囲むように構築してあることから同一時期と思われる。一方、SI16 は C 区の集石遺構群から離れていること、SI17 は周囲に土器の分布がないことと出土土器が C 区と違うことから、時期差があると考える。

土器については、A 類から F 類まで分類したが、層位的にみてすべて縄文時代早期の土器と考えられる。の中でも A 類は前平式土器、B 類は手向山式土器、C 類は押型文土器、D 類は条痕文土器、E 類は燃糸文土器、F 類は無文土器に相当すると考えられる。出土状況をみると、F 類が全体の 70% を占める。時期については無文土器と燃糸文土器とが共存していること、尖底土器が数点出土していることから、縄文時代早期中葉と思われる。

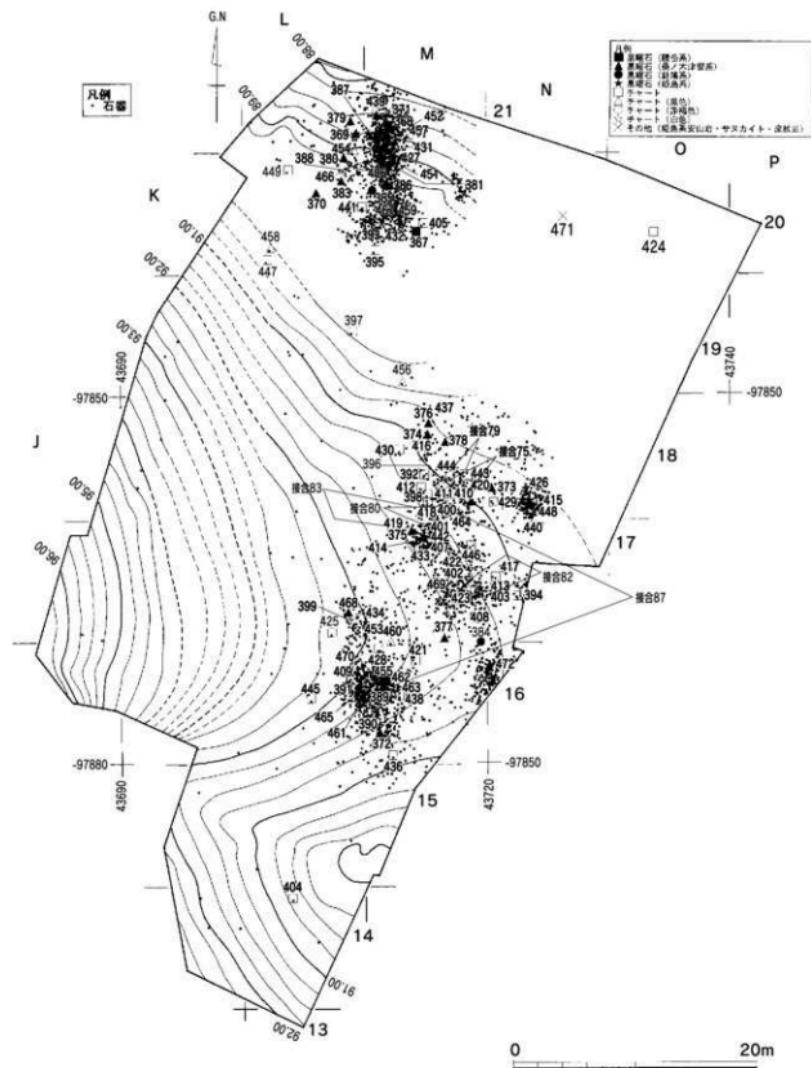
A 区で出土した土器は 46 点で、手向山式土器、押型文土器、条痕文土器などが混在している。C 区とは時期差があると思われるが、点数が少ないこともあり、明確な傾向は見いだせない。時期としては縄文時代早期後葉の可能性がある。

石器石材の分布状況については、A 区では黒曜石製が多く、C 区ではチャート製が多いことが分かる。A 区では桑ノ木津留系を中心に腰岳系、姫島系がみられる。一方、C 区では桑ノ木津留系を中心に針尾系が 1 点のみ出土した。これらのことや接合状況から、A 区と C 区とは時期差があると思われるが、詳細は不明である。

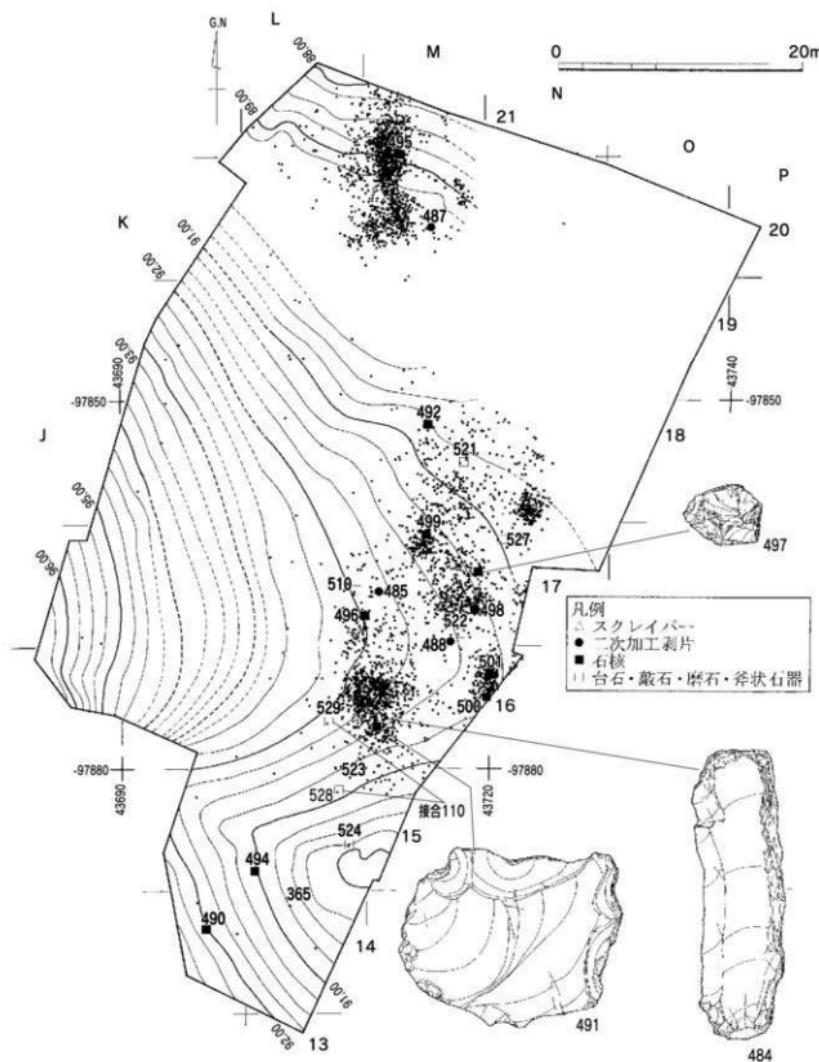
本遺跡の縄文時代早期の層では植物珪酸体の分析を実施しなかったことから、はっきりしたことは言えないが、この時期の九州南部の沿岸部では温暖化が進み、シイ属を中心とした照葉樹林が成立していたことが推定^{*}されている。本遺跡から出土した石器の内訳をみると、直接的に狩猟に関係する石器は石器であり、110 点もの出土があった。一方、植物食に関係する石器は磨石・台石であり、3 点のみの出土である。

以上のことから、本遺跡の縄文時代早期には、まだ堅果類を生産する照葉樹林は少なく、狩猟を中心とした食生活が営まれていたのではないだろうか。

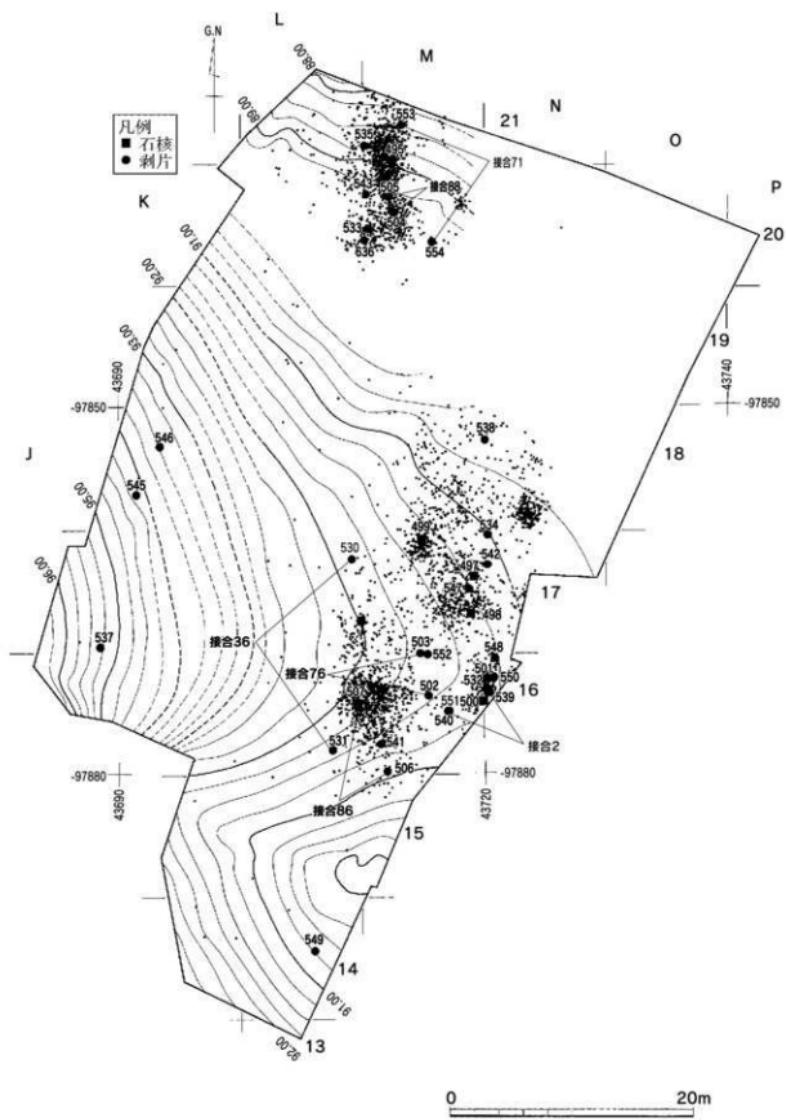
* 杉山真二「自然科学上からみた本県の諸問題」『宮崎県史 通史編 原始・古代 I』 1997 p757



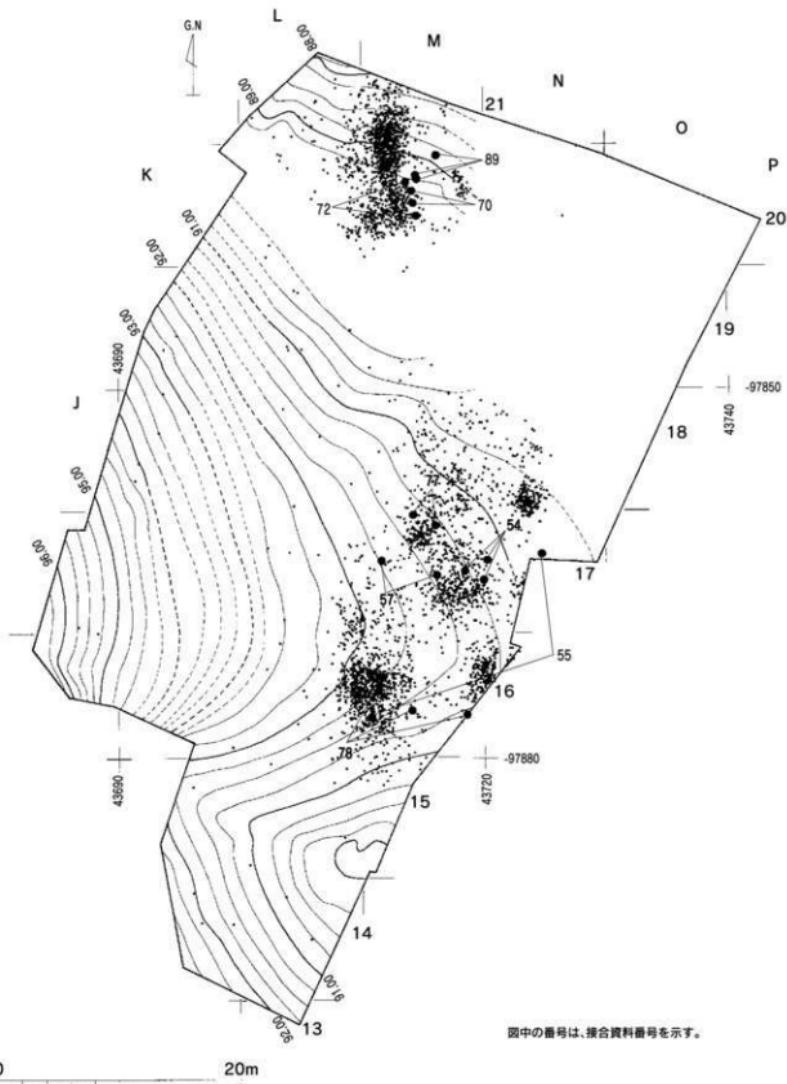
第120図 繡文時代早期 石鏸分布図(石材別)(S=1/400)



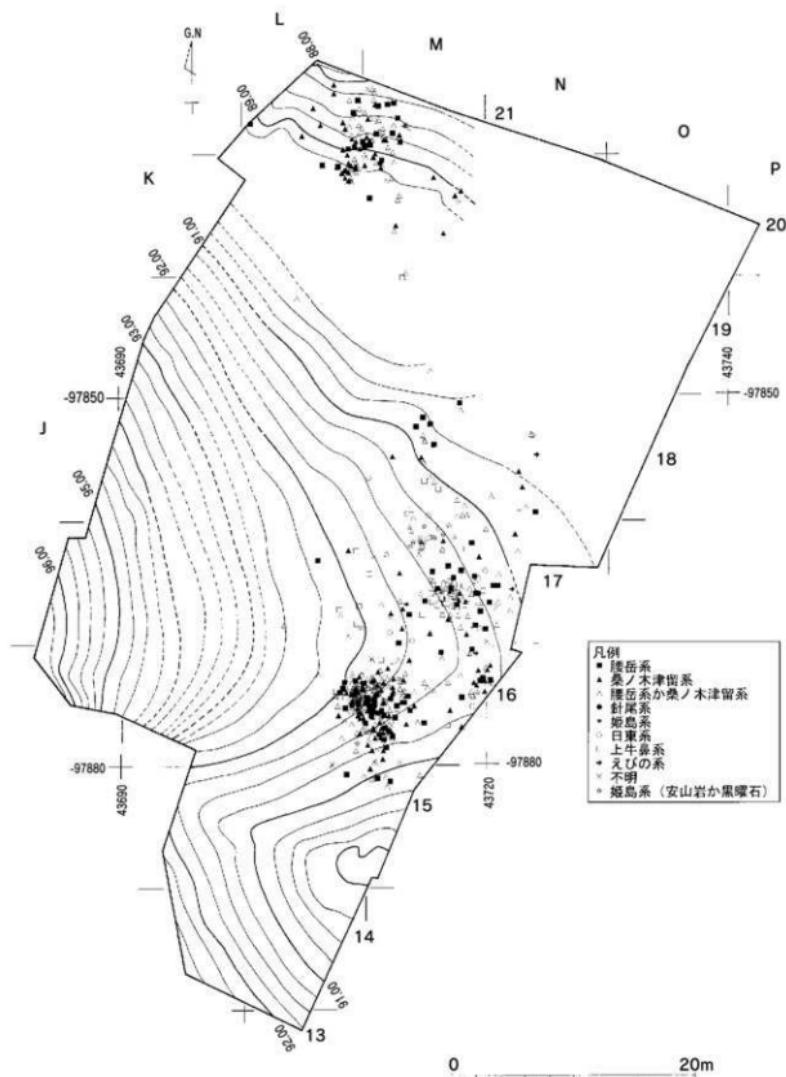
第121図 繩文時代早期 スクレイパー・二次加工剥片・石核・台石・敲石・磨石・斧状石器分布図 (S = 1/400)



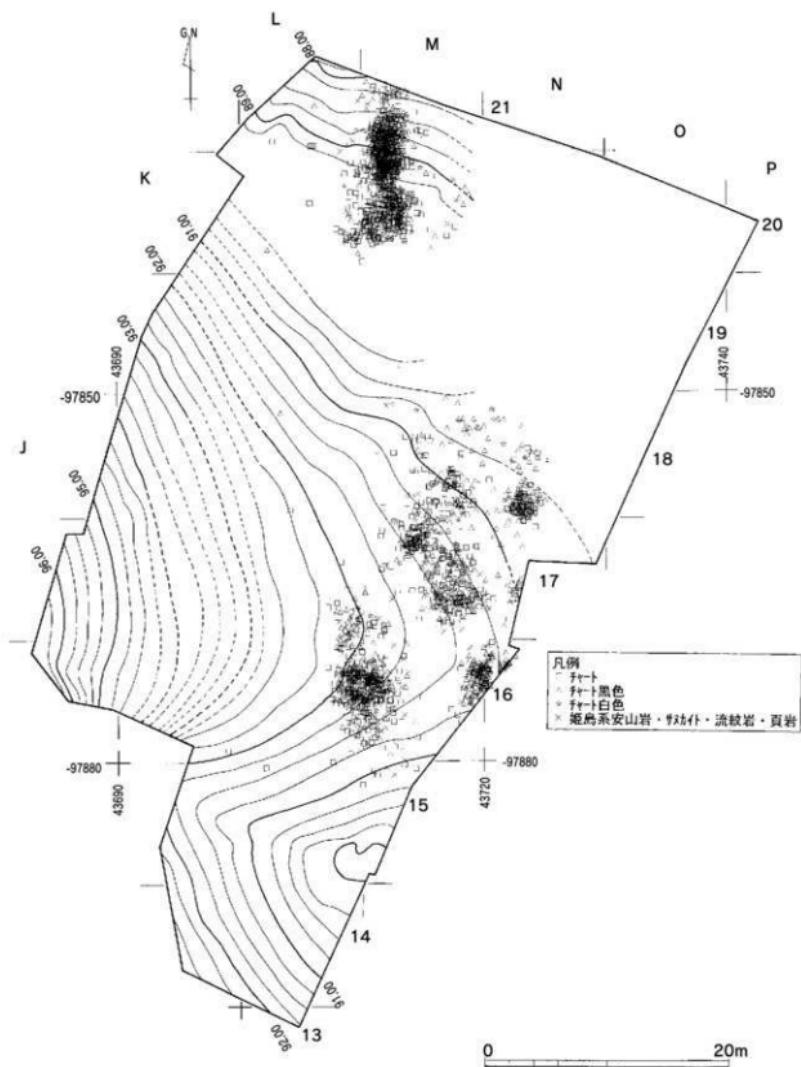
第122図 縄文時代早期 遺物分布図 (S = 1/400)



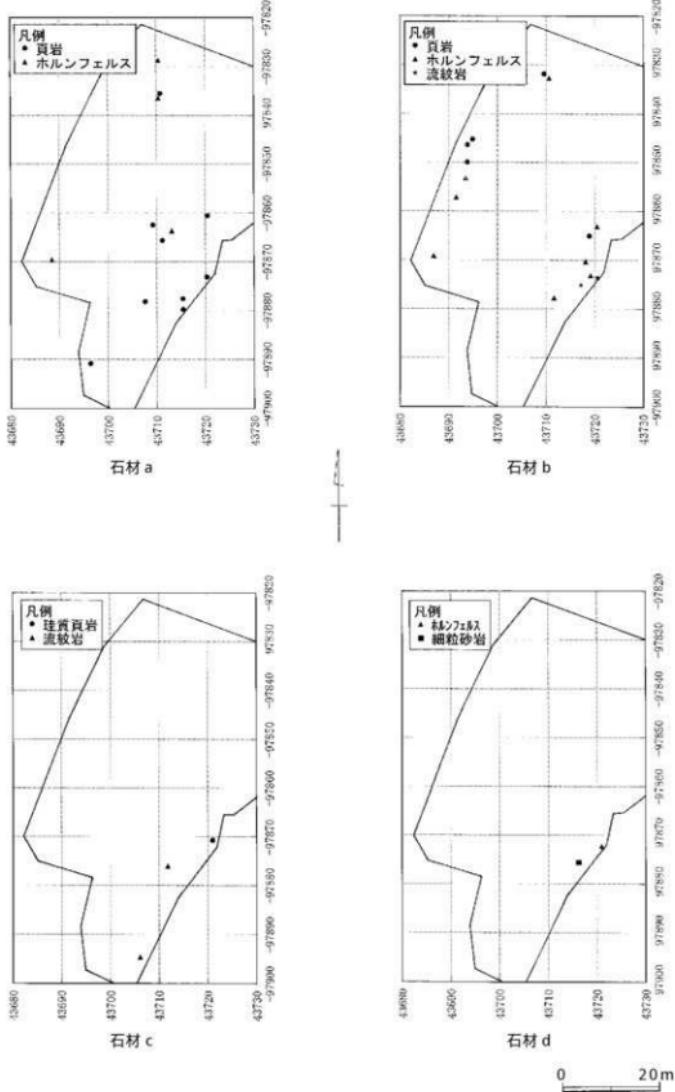
第123図 繩文時代早期 固化資料以外の接合関係図 ($S = 1/400$)



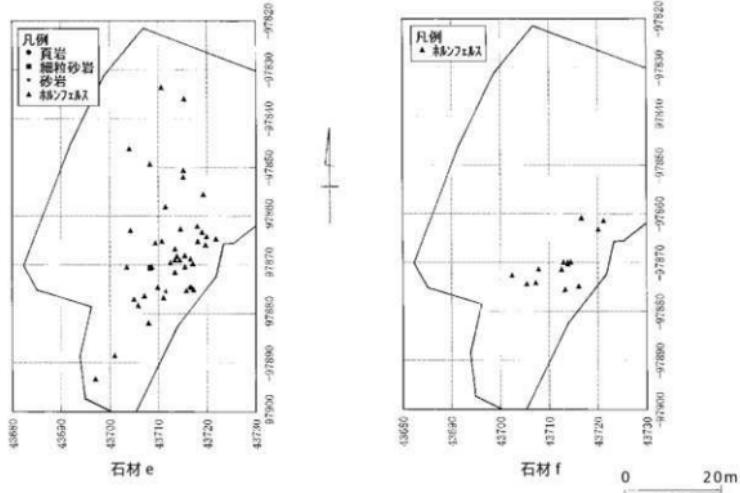
第124図 繪文時代早期 黒曜石(剥片・チップ)の産地別分布図 ($S = 1/4000$)



第125図 繩文時代早期 チャート・鎌島系安山岩・サヌカイト・流紋岩・頁岩(剥片・チップ)分布図 ($S = 1/400$)



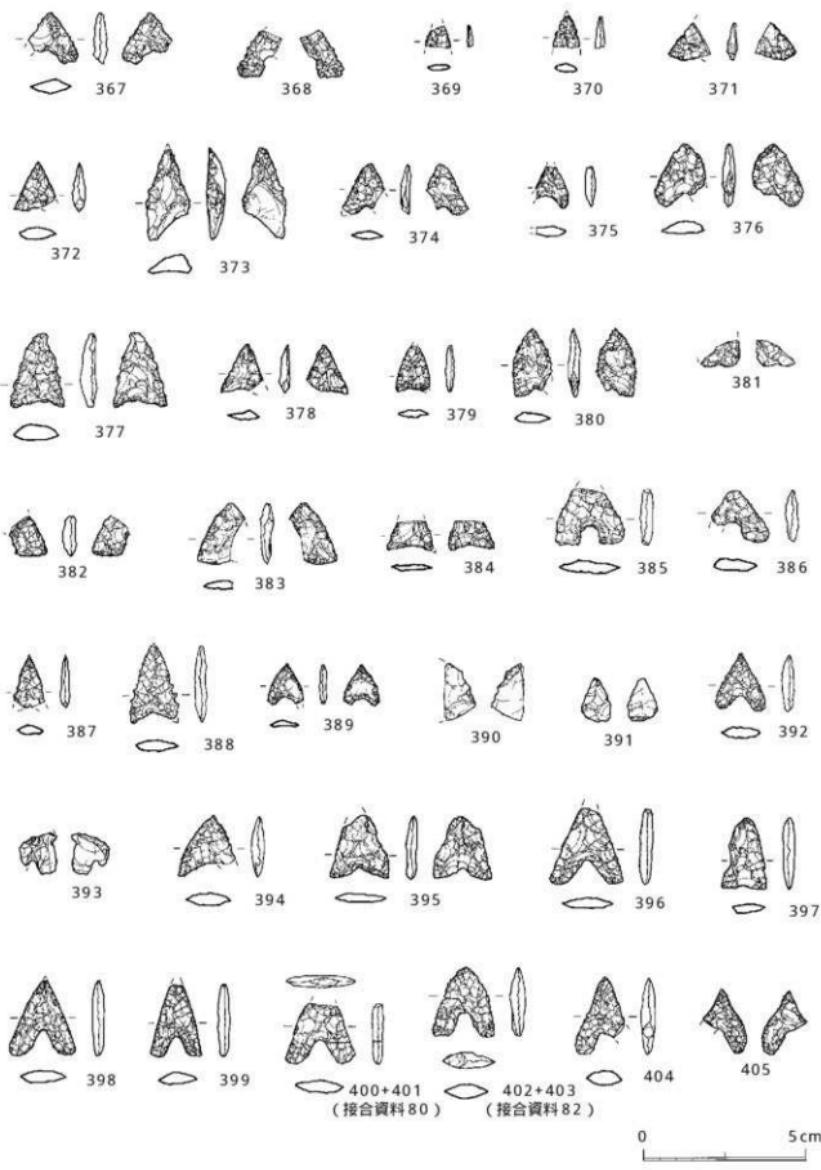
第126図 繩文時代早期 石材別分布図(1)(S=1/1,000)



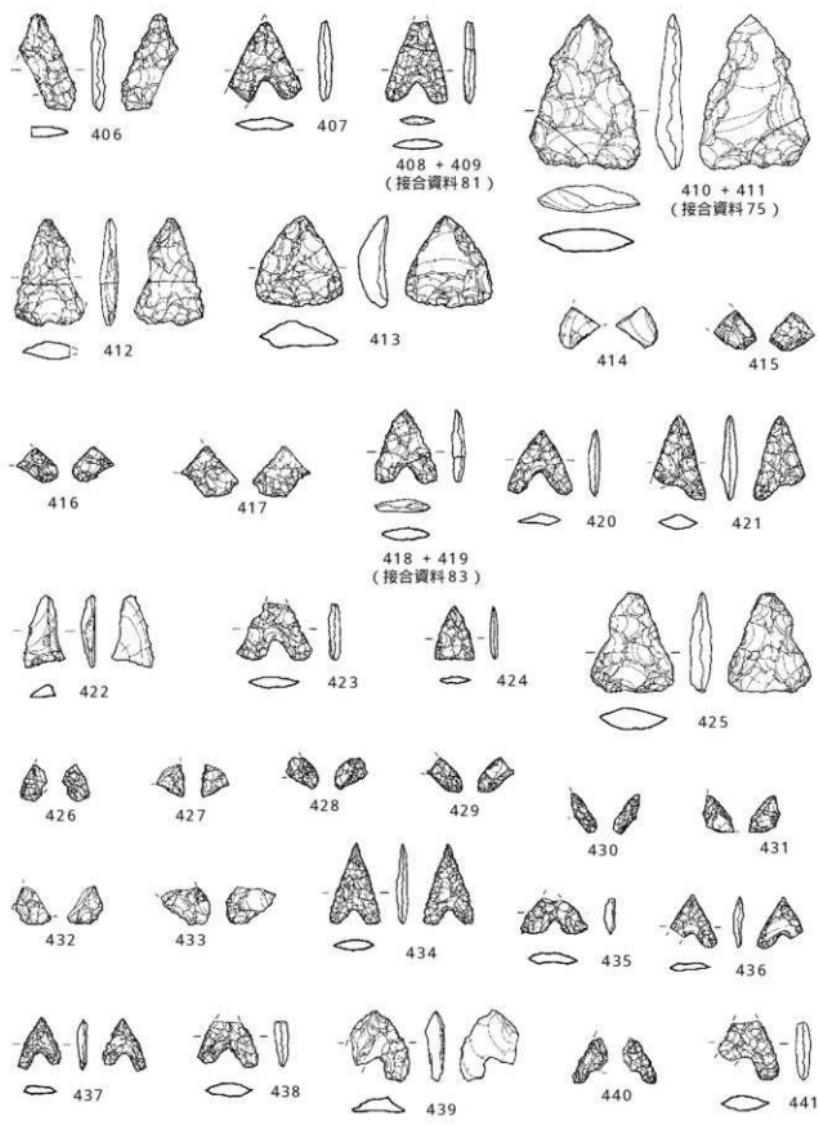
第127図 縄文時代早期 石材別分布図(2)(S=1/1,000)

番号	注記番号	区	クリック	層	器種	石材	石材分類	同一母岩	接合資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル	備考
474	2020	C	M16	V	剥片	ホルンフェルス	f	36	58	4.00	5.75	1.05	20.0	-97871.362	43712.492	91.535	
475	953	C	M17	V	剥片	ホルンフェルス	f	36	58	3.50	5.50	1.10	17.6	-97869.890	43712.900	91.795	
476	2003	C	L16	V	スクレイバー	ホルンフェルス	f	36	58	7.30	8.70	3.50	227.0	-97874.313	43705.416	92.007	
477	776	C	N17	VI	剥片	ホルンフェルス	f	36		4.85	1.90	1.20	9.8	-97863.144	43720.070	90.626	
478	134	C	M16	IV	剥片	ホルンフェルス	f	36	59	2.30	2.00	0.90	2.5	-97875.500	43713.250	91.583	
479	914	C	M16	VI	剥片	ホルンフェルス	f	36	59	3.40	3.05	0.95	8.1	-97870.328	43713.805	91.337	
480	385	C	M17	IV	剥片	ホルンフェルス	f	36		3.75	4.30	1.15	13.8	-97869.950	43713.800	91.703	
481	2016	C	M17	V	剥片	ホルンフェルス	f	36		5.30	4.75	1.45	25.3	-97869.897	43714.406	91.366	
482	63-2	C	L16	VII	剥片	ホルンフェルス	f	36		1.70	2.85	0.85	3.0	-97871.313	43707.824	91.674	
483	63-1	C	L16	VII	剥片	ホルンフェルス	f	36		4.70	4.80	1.25	19.0	-97871.313	43707.824	91.674	
484	1965	C	M16	V	スクレイバー	流紋岩	c			10.90	3.50	2.40	88.6	-97875.968	43711.777	91.427	
485	2018	C	M17	V	二次	頁岩	a			6.20	4.70	1.70	37.1	-97865.654	43711.158	91.549	
486	S15-5	C	-	V	二次	頁岩	a			3.55	2.00	0.80	5.6	-	-	-	
487	31	A	M20	V	二次	ホルンフェルス	e			10.55	4.70	3.20	158.6	-97835.830	43715.320	89.246	
488	2015	C	M17	V	二次	ホルンフェルス	e			9.80	6.80	2.25	138.6	-97869.726	43717.050	91.276	

第20表 縄文時代早期 同一母岩36・スクレイバー・二次加工剥片 計測表

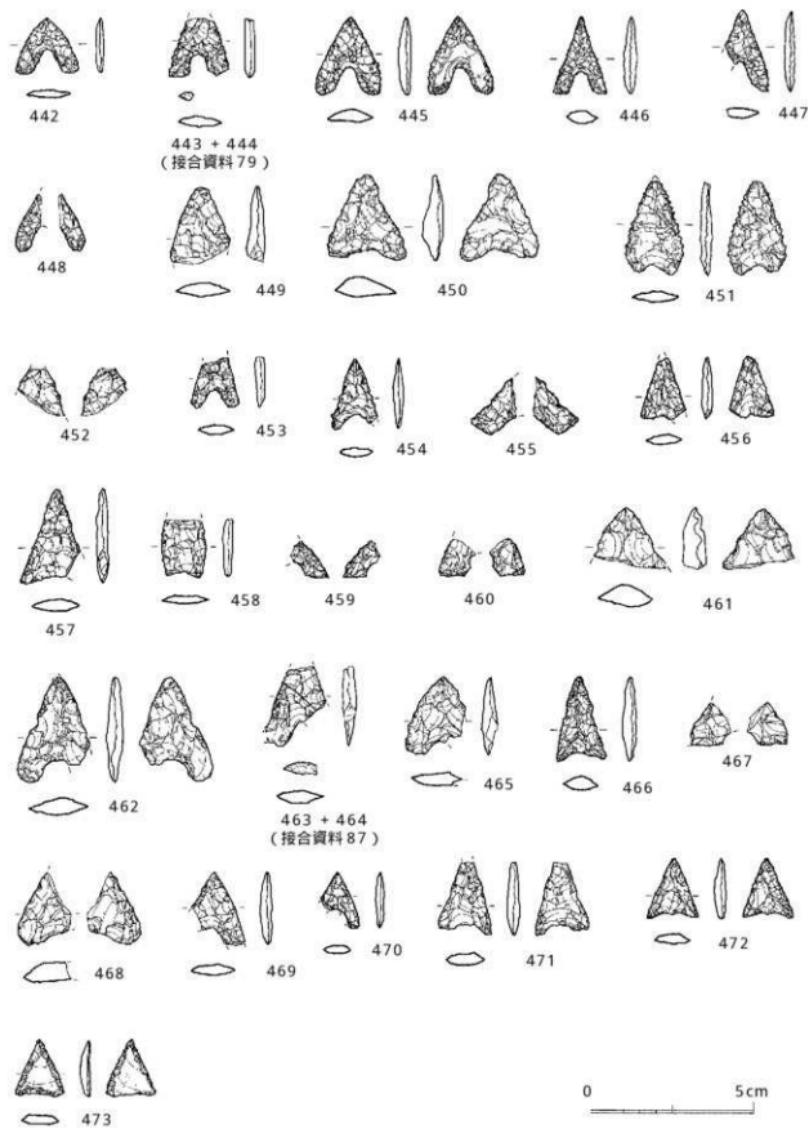


第128図 縄文時代早期 石器実測図(1)【石鏃】(S=2/3)

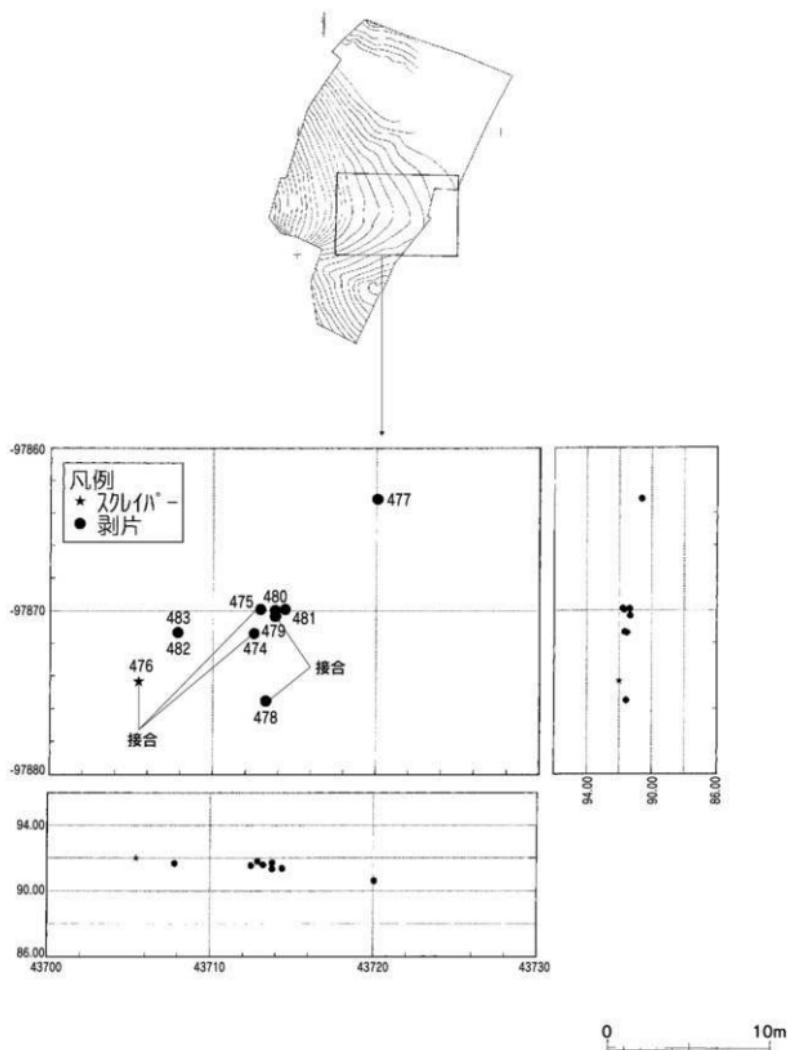


0 5cm

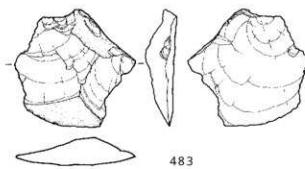
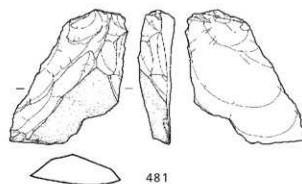
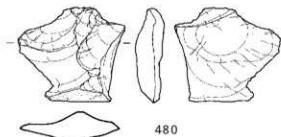
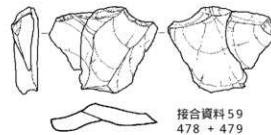
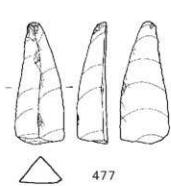
第129図 繪文時代早期 石器実測図(2)【石鏃】(5 = 2/3)



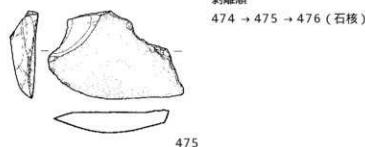
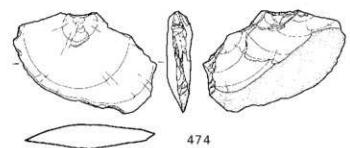
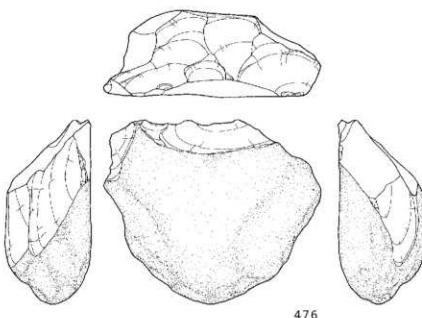
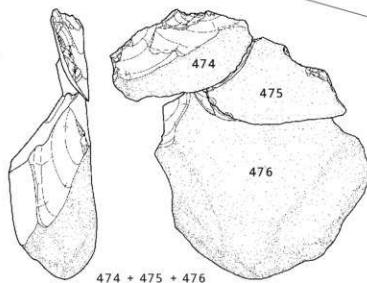
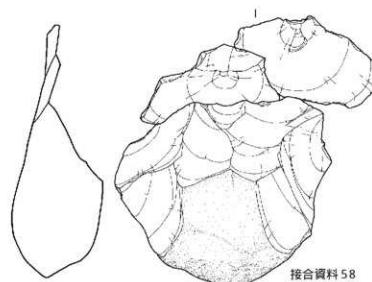
第130図 繪文時代早期 石器実測図(3)【石鏃】(S = 2/3)



第131図 織文時代早期 同一母岩36 分布図



0 5cm



第132図 繪文時代早期 石器実測図(4)【同一母岩36/接合資料58・59】(5=2/3)



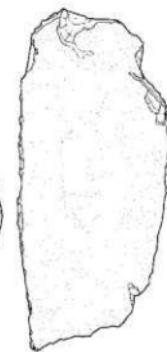
485



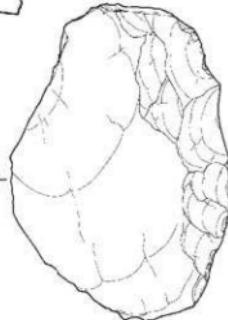
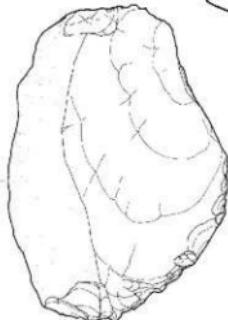
484



486



487



0

5cm

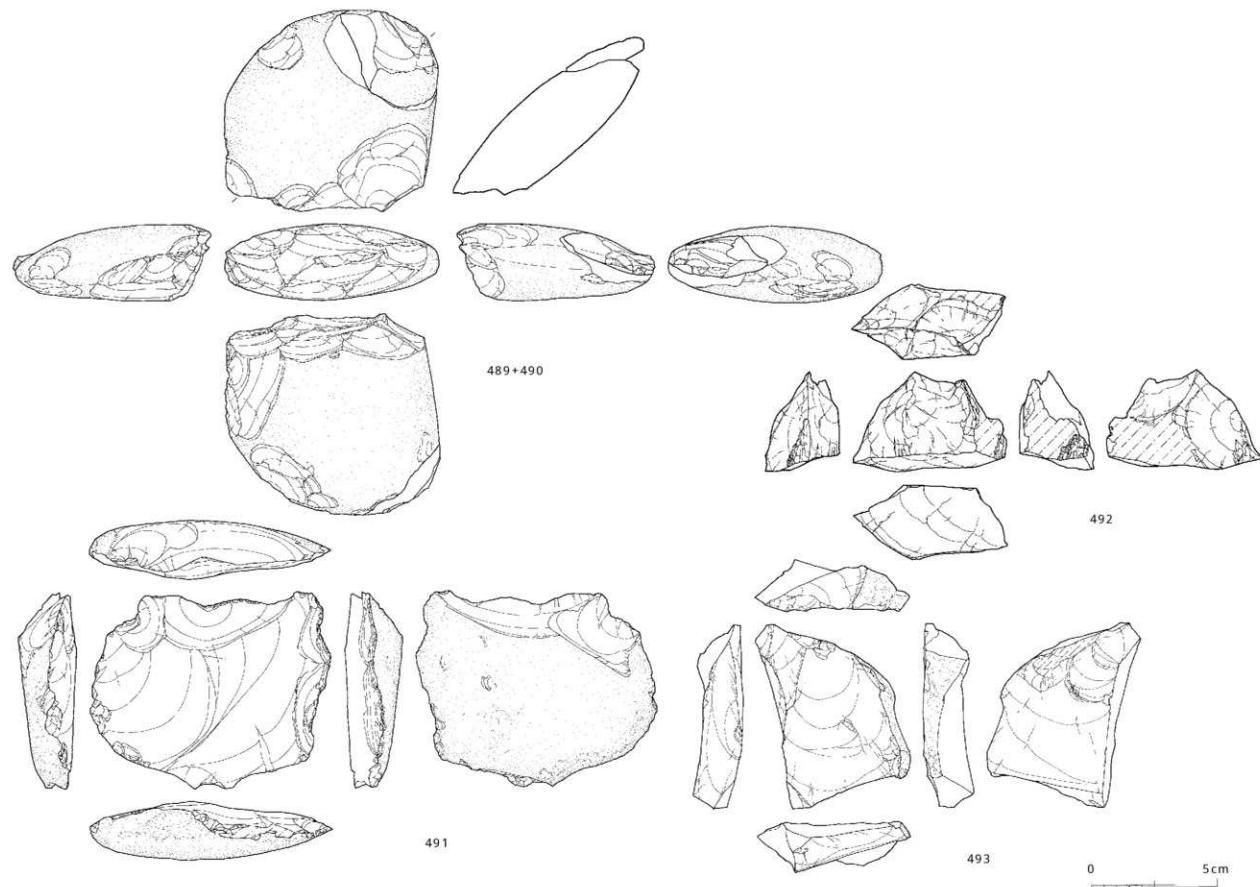


488

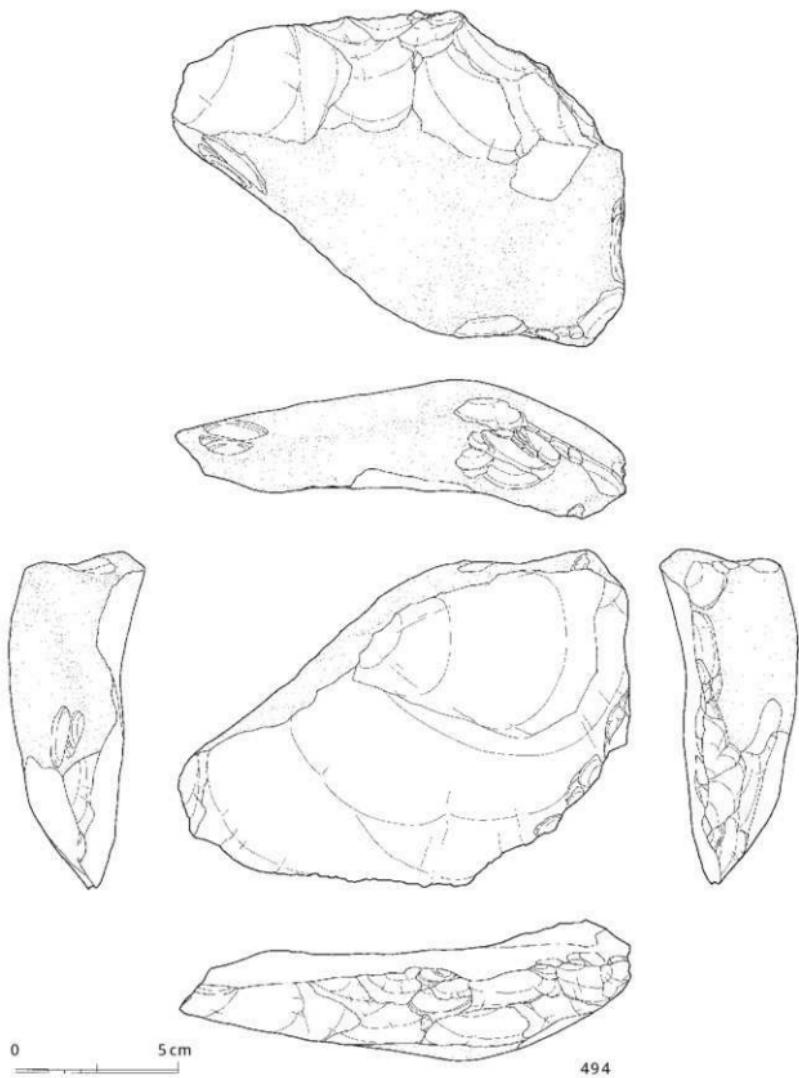
第133図 縄文時代早期 石器実測図(5)【スクレイバー・二次加工剥片】(S = 2/3)

番号	注記番号	区	クソド	層	器種	石材	石材同一分類	母岩	接合資料	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	国土座標X座標	国土座標Y座標	レベル	備考	
489	1054	C	-	V	石核	ホルンフェルス	e	15	102	3.85	3.90	1.00	13.1	-	-	-	-	
490	2176	C	K14	V	石核	ホルンフェルス	e	15	102	3.05	8.60	7.90	250.7	-97893.277	43697.029	91.164		
491	1016	C	M16	V	石核	ホルンフェルス	e	15		7.80	9.70	2.35	192.3	-97876.670	43711.040	91.439		
492	1075	C	M18	V	石核	ホルンフェルス	e			3.95	6.10	3.00	57.9	-97851.960	43715.100	90.570		
493	2261	C	-	V	石核	頁岩	a			7.35	6.20	2.00	75.5	-	-	-		
494	2178	C	L15	V	石核	ホルンフェルス	e			14.00	10.40	4.30	509.7	-97888.522	43701.004	91.159		
495	266	A	M21	V	石核	チャート				2.40	2.40	0.80	4.9	-97829.860	43712.740	88.701		
496	80	C	L17	IV	石核	チャート				1.75	3.00	0.60	3.2	-97867.600	43709.990	92.067		
497	343	C	M17	V	石核	チャート				2.40	3.00	1.20	7.5	-97864.050	43719.300	91.115		
498	391	C	M17	V	石核	チャート				3.40	3.00	1.65	10.8	-97867.100	43719.020	91.327		
499	1967	C	M17	V	石核	チャート				2.30	3.50	1.20	8.0	-97860.960	43715.002	91.202		
500	1122	C	N16	V	石核	黒曜石	黒g			2.80	2.40	1.60	7.4	-97874.260	43720.030	91.219		
501	2092	C	N16	V	石核	黒曜石	黒g			2.50	2.20	1.35	5.7	-97872.386	43720.345	91.122		
502	1747	C	M16	V	剥片	チャート	チャート		76	3.60	2.65	0.90	12.0	-97873.777	43715.529	91.506		
503	330	C	M16	IV	剥片	チャート				7.60	3.50	1.10	22.5	-97870.300	43714.850	91.720		
504	823	A	M20	V	剥片	チャート				88	1.80	2.40	0.60	1.6	-97834.130	43712.860	89.104	
505	1040	A	M20	V	剥片	チャート				88	2.00	1.60	0.50	0.7	-97832.846	43712.478	88.938	
506	2194	C	M16	V	剥片	黒曜石	黒b			86	1.70	1.30	0.30	0.4	-97879.933	43712.127	90.920	
507	189	C	L16	V	剥片	黒曜石	黒b			86	1.50	2.20	0.30	0.9	-97874.610	43709.700	91.859	
508	1991	C	M17	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	56	5.95	15.30	4.80	609.7	-97866.694	43713.358	91.519		
509	2068	C	M17	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	56	5.95	15.30	4.80	609.7	-97865.113	43710.666	91.643		
510	2069	C	L17	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	56	5.95	15.30	4.80	609.7	-97865.501	43709.338	91.676		
511	576	C	L16	VI	剥片	ホルンフェルス	e	45	113	3.25	3.35	0.95	7.5	-97870.400	43708.622	91.608		
512	267	C	M17	VI	剥片	ホルンフェルス	e	45	113	3.35	3.90	1.10	11.6	-97868.982	43714.390	91.278		
513	480	C	M17	VI	剥片	ホルンフェルス	e	45	113	3.35	3.90	1.10	11.6	-97868.778	43716.572	91.114		
514	701	C	N17	VI	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	2.70	4.25	0.95	7.6	-97864.620	43721.778	90.659		
515	1997	C	M17	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	2.95	2.20	0.70	4.2	-97868.972	43713.330	91.559		
516	2012	C	M17	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	4.40	5.00	1.80	29.8	-97868.095	43715.436	91.321		
517	2721	C	M17	VI	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	4.40	5.00	1.80	29.8	-97869.533	43712.460	91.406		
518	278	C	M17	VI	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	3.00	2.35	0.75	3.9	-97868.192	43713.761	91.319		
519	1737	C	L16	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	3.80	4.95	1.50	32.5	-97878.256	43705.785	91.651		
520	2182	C	L16	V	剥片	ホルンフェルス	e	45	43	3.50	5.90	3.25	80.3	-97877.017	43704.933	91.831		
521	1036	C	M18	V	融石	砂岩				10.40	6.20	3.60	298.3	-97855.040	43718.080	90.780		
522	2014	C	M17	V	融石	砂岩				11.70	4.60	4.35	276.9	-97869.056	43717.864	91.240		
523	2181	C	M16	V	融石	砂岩				10.10	4.80	3.40	241.5	-97878.985	43710.087	91.205		
524	2180	C	L15	V	融石	砂岩				5.20	4.30	2.80	83.1	-97886.287	43708.811	90.274		
525	C	-	S121	V	台石	砂岩				11.40	13.60	8.60	1813.7	-	-	-		
526	C	-	炉穴	V	磨石	礫岩				10.20	9.80	6.80	765.0	-	-	-		
527	2251	C	N17	V	斧状石器	ホルンフェルス	f			17.65	10.95	4.65	1142.9	-97861.360	43721.200	90.766		
528	2179	C	L15	V	斧状石器	ホルンフェルス	e			110	9.80	8.35	4.50	-97881.845	43707.921	90.975		
529	429	C	L16	VII	斧状石器	ホルンフェルス	e			110	9.80	8.35	4.50	-97876.5273	43707.064	91.666		
530	70	C	L17	IV	剥片	頁岩	a			36	5.55	1.95	0.65	8.5	-97862.520	43709.250	91.955	
531	938	C	L16	VI	剥片	頁岩	a			36	5.55	1.95	0.65	8.5	-97878.171	43707.633	91.586	
532	1042	C	N16	V	剥片	頁岩	a			6.20	2.90	1.30	18.5	-97873.170	43720.310	91.336		
533	1091	A	M20	V	剥片	頁岩	a			3.20	2.35	0.75	4.9	-97835.471	43710.787	89.122		
534	270	C	N17	IV	剥片	頁岩	a			2.50	5.85	0.85	11.4	-97860.620	43720.450	91.100		
535	628	A	M21	IV	剥片	ホルンフェルス	a			2.75	1.65	0.50	2.1	-97828.662	43710.450	88.823		
536	1330	A	M20	V	剥片	ホルンフェルス	a			2.45	2.60	1.20	4.5	-97836.408	43710.422	88.990		
537	331	B	J17	IV	剥片	ホルンフェルス	a			4.40	3.40	0.80	8.6	-97869.610	43688.495	95.356		
538	89	C	N18	IV	剥片	頁岩	a			6.20	3.20	1.60	29.7	-97852.880	43720.240	90.623		
539	1285	C	N16	V	剥片	波紋岩	b			2	3.60	3.60	0.70	9.3	-97873.560	43720.560	91.216	
540	84	C	M16	VII	剥片	波紋岩	b			2	3.60	3.60	0.70	9.3	-97875.068	43717.122	91.118	
541	319	C	M16	IV	剥片	ホルンフェルス	b	44		3.60	2.30	0.75	5.4	-97877.700	43711.600	91.429	二次加工剥片。	
542	2006	C	N17	V	剥片	ホルンフェルス	b	44		3.30	3.30	0.80	8.5	-97863.053	43720.418	90.936		
543	546	A	M20	IV	剥片	ホルンフェルス	b			2.25	2.95	0.70	3.6	-97832.640	43710.570	87.841		
544	848	A	-	V	剥片	ホルンフェルス	b			6.40	2.65	0.70	7.8	-	-	-		
545	1	B	K18	V	剥片	ホルンフェルス	b			3.00	3.95	0.95	10.0	-97857.150	43691.500	94.107		
546	3	B	K18	IV	剥片	ホルンフェルス	b			3.50	4.45	1.35	19.0	-97853.220	43693.450	93.508		
547	961	C	M17	V	剥片	頁岩	b			6.60	2.10	1.50	23.6	-97865.070	43718.900	91.235	有孔虫藻の化石化が入る。	
548	1299	C	N16	V	剥片	珪質頁岩	c	30		5.15	2.90	1.90	30.9	-97870.750	43720.990	91.174		
549	1958	C	L14	V	剥片	波紋岩	c	27		3.80	3.45	1.00	11.2	-97894.610	43706.067	90.433		
550	2199	C	N16	V	剥片	ホルンフェルス	d			6.20	5.90	1.50	45.2	-97872.325	43720.926	91.095		
551	2186	C	M16	V	剥片	ホルンフェルス	e			4.70	7.00	1.30	32.2	-97875.051	43717.236	91.216		
552	2190	C	M16	V	剥片	ホルンフェルス	e			8.50	8.15	2.90	125.5	-97870.391	43715.467	91.354		
553	290	A	M21	IV	剥片	チャート				71	4.95	2.95	1.05	17.5	-97827.001	43713.490	88.266	
554	32	A	M20	V	剥片	チャート				71	4.95	2.95	1.05	17.5	-97836.590	43715.980	89.200	

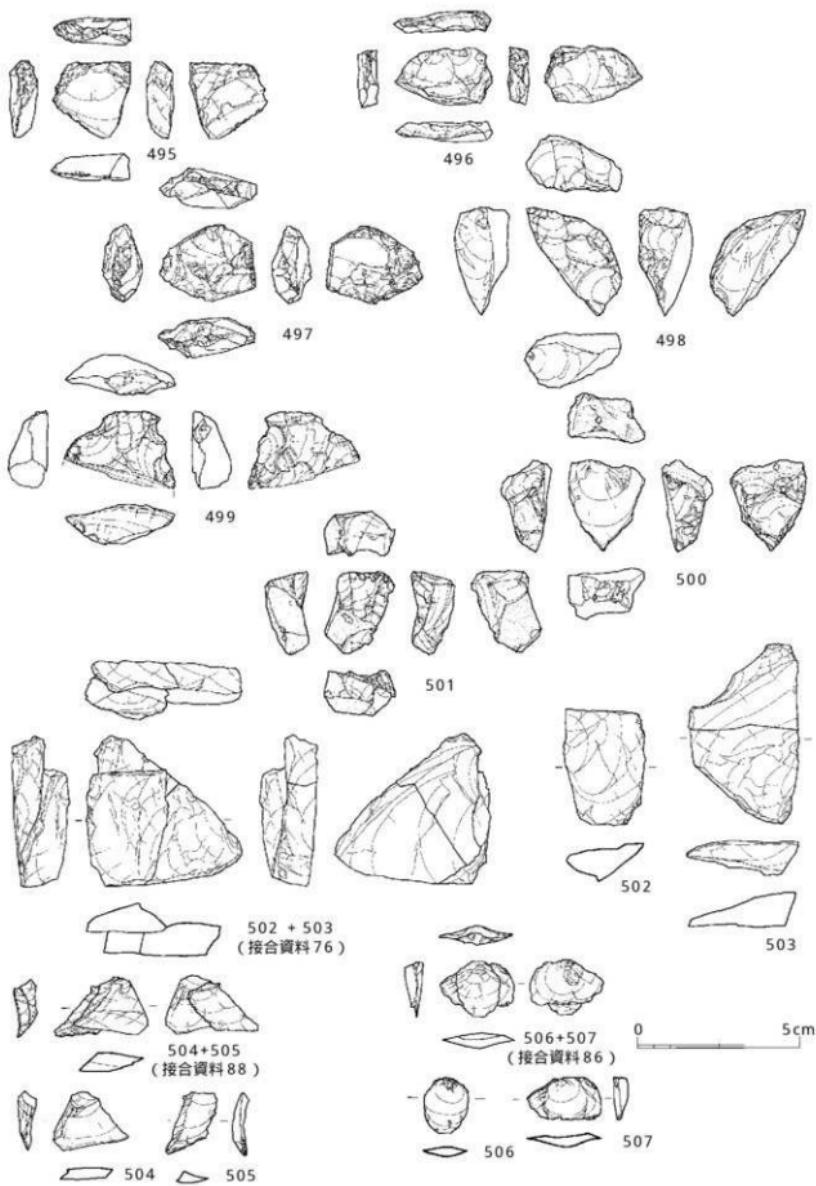
第 21 表 繪文時代早期 石核・同一母岩 45・融石・台石・磨石・斧状石器・剥片 計測表



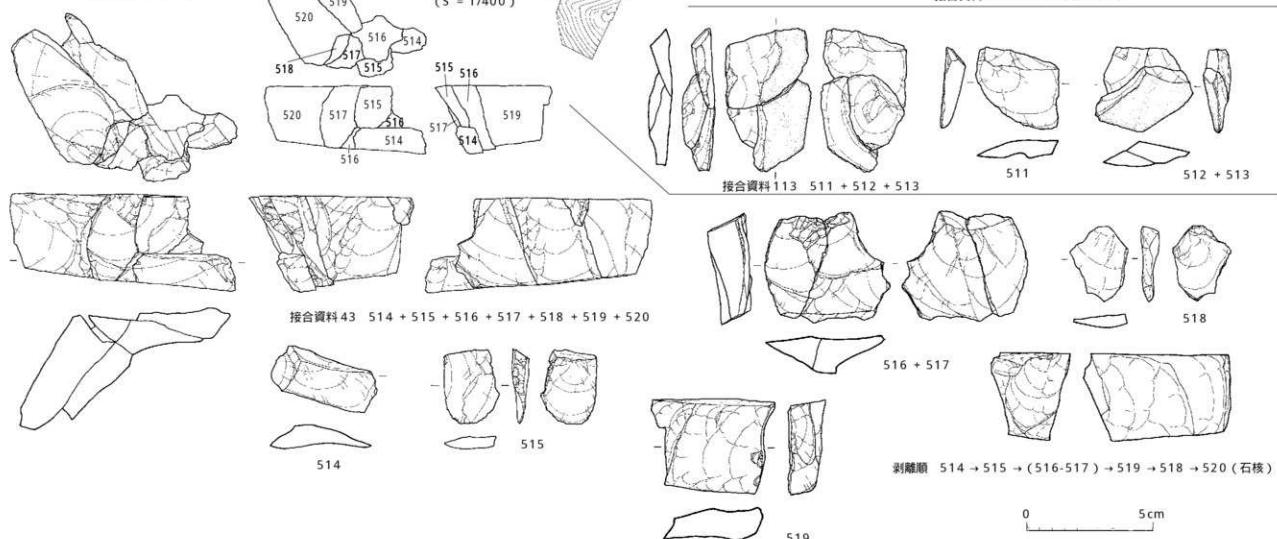
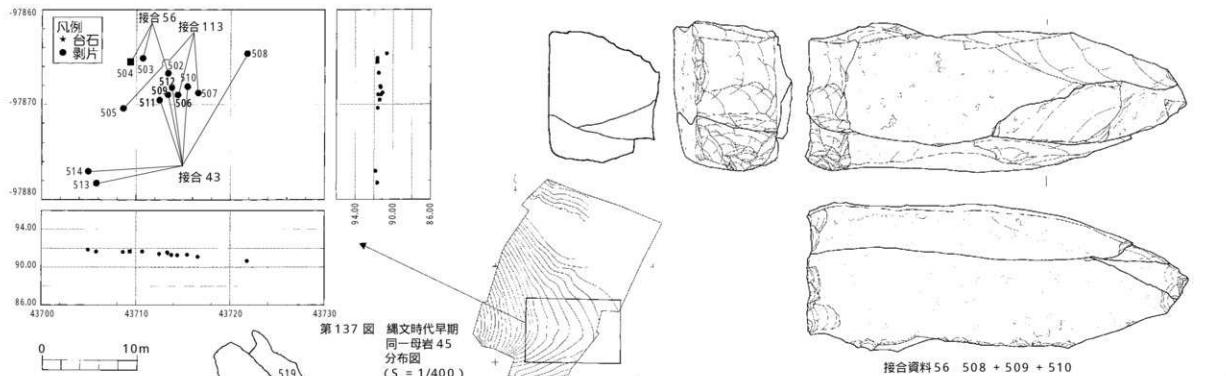
第134図 縄文時代早期 石器実測図(6)【石核】(S = 2/3)



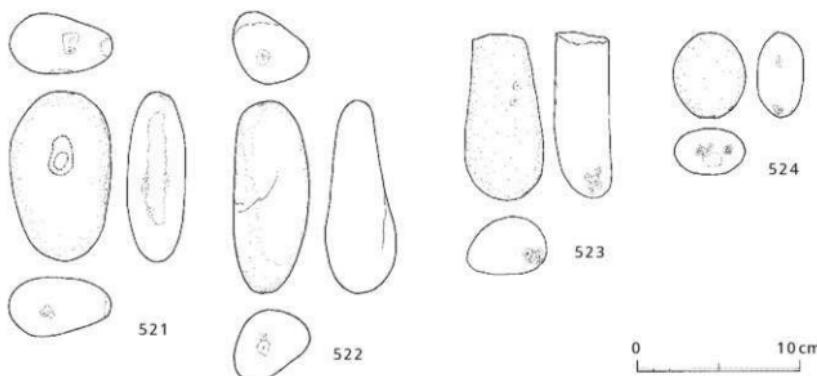
第135図 縄文時代早期 石器実測図(7)【石核】(S = 2/3)



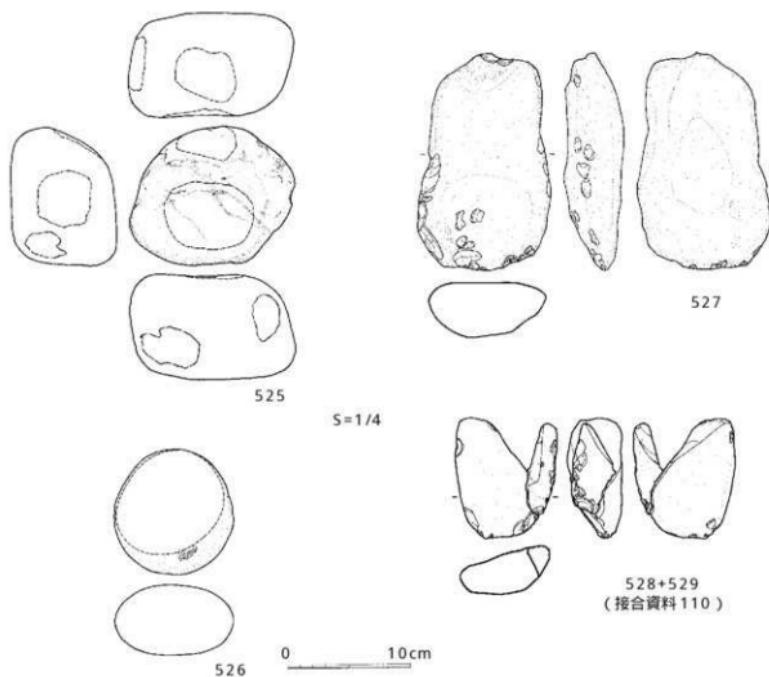
第136図 繩文時代早期 石器実測図(8)【石核・接合資料】(S = 2/3)



第138図 繩文時代早期 石器実測図(9)【同一母岩45/接合資料43・56・113】(S=2/3)

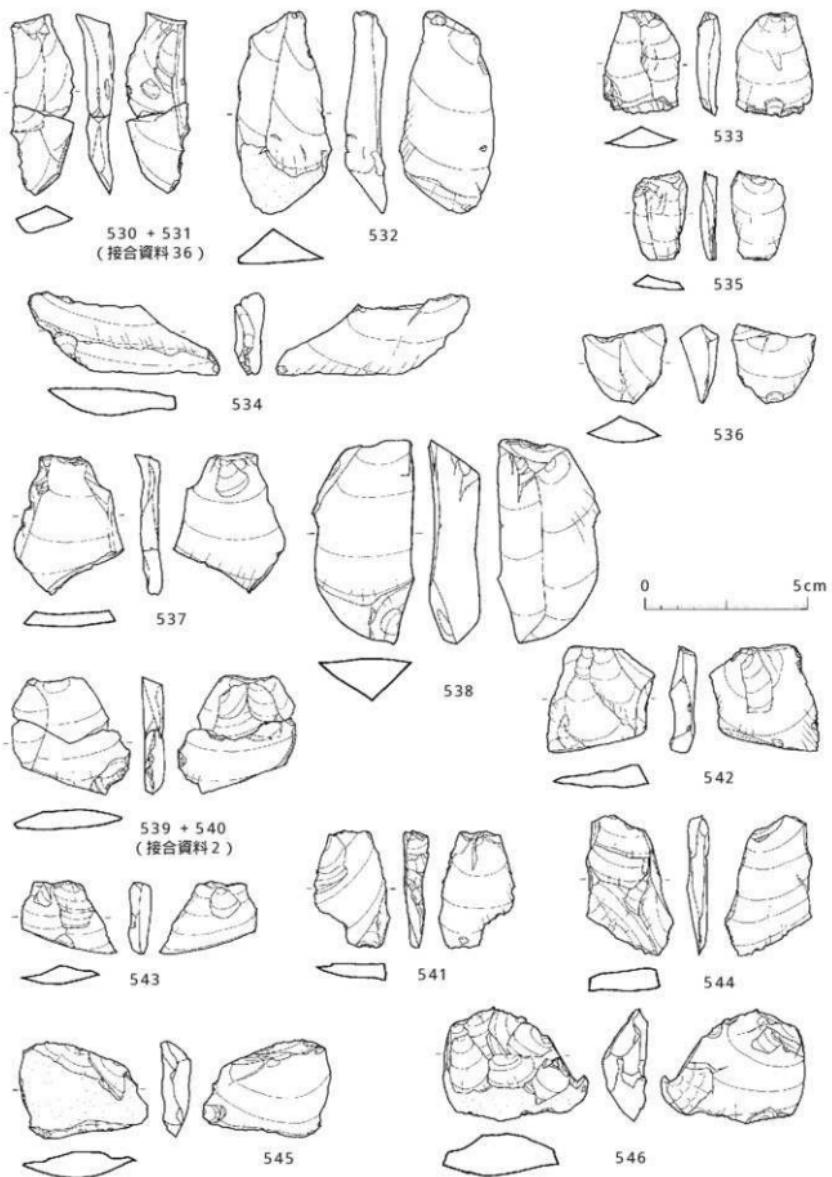


($S = 1/3$)

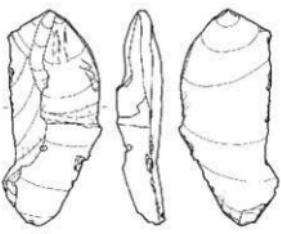


528+529
(接合資料 110)

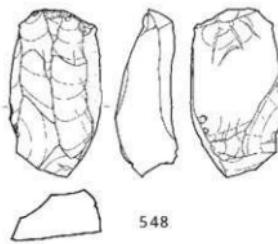
第139図 縄文時代早期 石器実測図(10)【敲石】($S = 1/3$)【台石・斧状石器・磨石】($S = 1/4$)



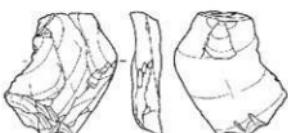
第140図 縄文時代早期 石器実測図(11)【剥片】(S = 2/3)



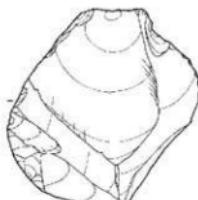
547



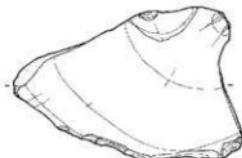
548



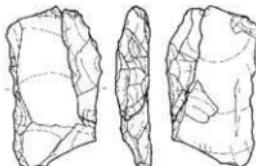
549



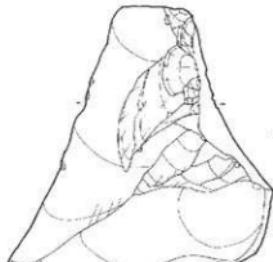
550



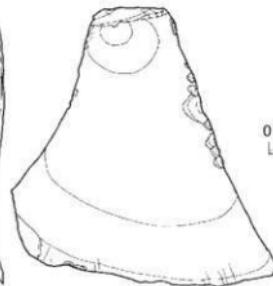
551



553



552



0

5cm

第141図 繪文時代早期 石器実測図(12)【剥片】(S=2/3)

4. 中世以降の遺構

表土を除去したところ、A区の西側の一部およびC区の大部分でK-Ahが残存(第148図)しており、A区を中心にして道路状遺構が検出され、埋土中に検出された霧島高原スコリアから中世の遺構と判断した。また、B区では時期不明の畝状遺構が検出された。その他、多数の土坑やピット状遺構が検出された(第142図)が、埋土や地元の方からの聞き取りから、第二次世界大戦中～後の軍隊野営地、ゴミ捨て穴、芋掘り穴、近代の住居に伴う掘り込みなどと判断した。

(1) 道路状遺構:(第143～146図)

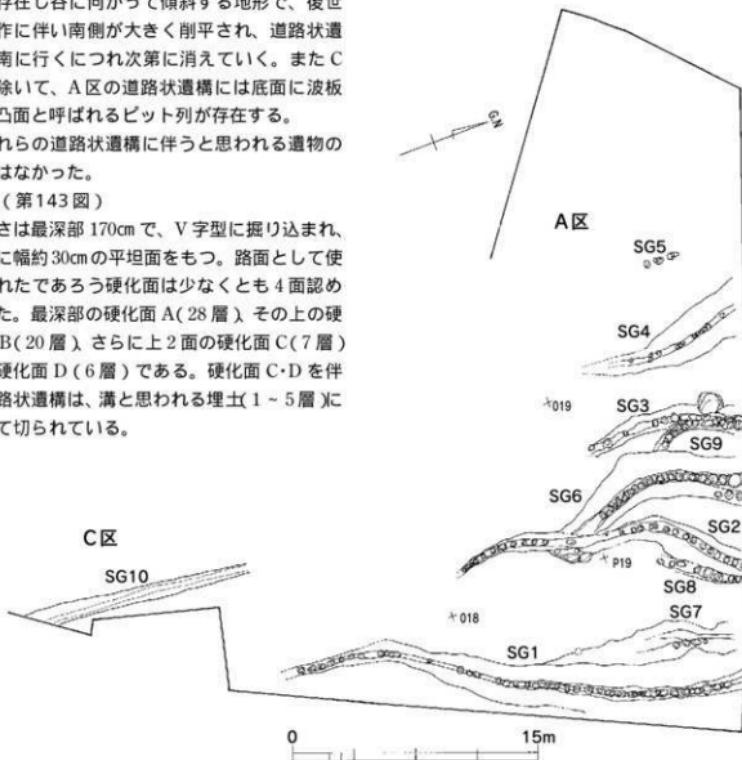
道路状遺構はA区で9条、C区で1条検出した。いずれも、西から東に延びる尾根を垂直に切り込む形で掘り込まれている。A区は北側に谷が存在し谷に向かって傾斜する地形で、後世の耕作に伴い南側が大きく削平され、道路状遺構は南に行くにつれ次第に消えていく。またC区を除いて、A区の道路状遺構には底面に波板状凹凸面と呼ばれるピット列が存在する。

これらの道路状遺構に伴うと思われる遺物の出土はなかった。

SG1(第143図)

深さは最深部170cmで、V字型に掘り込まれ、底面に幅約30cmの平坦面をもつ。路面として使用されたであろう硬化面は少なくとも4面認められた。最深部の硬化面A(28層)、その上の硬化面B(20層)さらに上2面の硬化面C(7層)及び硬化面D(6層)である。硬化面C・Dを伴う道路状遺構は、溝と思われる埋土(1～5層)によって切られている。

硬化面C及びDは土層断面でしか確認できず、硬化面Bにしても7mだけの確認となった。硬化面A下の底面には深さ3～22cm、直径約20～60cmのピット列が見られ、そのほとんどが梢円形をなす。主に中央部分は長径が路面の主軸方向に直交した梢円形や路面の主軸方向に平行して二つの円形が僅かに重なり合ったような形の凹凸がある。このピット列の縦断面図を見ると、形に係らず底面が平坦なところのピットは浅く、傾斜地のピットは深いことがわかる。傾斜地の凹凸面の断面形は階段状をなしている。ピット内には火山灰を含む硬化した土が詰まっている。その床面や側面には酸化鉄が付着している。北側のピットには小礫があり、特に6つ



第142図 道路状遺構実測図(S=1/300)

目までの凹凸には底面に平らに敷き詰められるように入っている。ピット内に小礫や火山灰など砂質の土を入れ、路面を守る補強材としたのではないだろうか。

なお、硬化面 C 及び D を切っている溝の底部から検出した炭化物の放射性炭素年代測定(C^{14})を実施したところ、曆年代で AD1400 ~ 1420 年頃 (540 ± 40 年 BP) という結果が出た。この点のみを考えれば、4 面の硬化面は、いずれも 15 世紀前葉以前の可能性がある。

また、埋土のいずれの土層からも霧島高原スコリア(10 ~ 13 世紀)が検出された。この点からすると SG1 の使用年代は、霧島高原スコリア降灰以後から 15 世紀前葉までの間に絞られてくる。硬化面それぞれの時期差については不明である。

SG2 (第144図)

2 条の道路状遺構がほんの僅かに切りあっている。ベルトでは、はっきり分からなかったが SG2 は SG8 を切っている。また SG2 は SG6 も切っており、SG8 と SG6 との切り合い関係は分からない。

SG2 は V 字型に掘り込まれ、底面に幅約 50cm の平坦面をもつ。深さは最深部 65cm。底面には深さ 2 ~ 20cm、直径約 35cm の円形や橢円形の凹凸面をもつ。土層断面から考えると硬化面は 3 面認められ、最下の硬化面 A が上記の凹凸面をもつ。最も上の硬化面 C の直上から霧島高原スコリアが検出された。調査時の所見では、この層は固くしまる粗粒の黒褐色土で、不純物は少ない上に下層にいくにしたがって粒子が大きくなっている。また、その堆積層は硬化面 C を広く覆っている。これらの状況から硬化面 C は霧島高原スコリアの降灰によって直接路面がパックされたものと考えられる。そうすると硬化面 C の使用年代は霧島高原スコリアの降灰 (10 ~ 13 世紀) 以前ということになる。

SG3 (第145図)

2 条の道路状遺構が切りあっている。断面から判断すると SG3 が SG9 に切られている。V 字型に掘り込まれ、底面に幅約 40cm の平坦面をもつ。深さは最深部 55cm。底面には深さ 5 ~ 20cm、直径約 20 ~ 50cm の円形や橢円形の凹凸面を持ち、その窪んだ部分には硬化した土が充填されている。平面・土層断面・硬化面の縦断面から

考えると SG3 は硬化面が 3 面認められ、そのうち下 2 面には上記のような凹凸面をもつ。

SG4 (第145図)

V 字型に掘り込まれ、底面に幅約 30cm の平坦面をもつ。深さは最深部約 60cm。底面には深さ約 2 ~ 6cm、直径約 40cm の円形や不整形でやや不規則な凹凸面を持ち、その窪んだ部分には硬化した土が充填されている。加えて地盤が他よりも脆弱な所に凹凸面が集中している。従って、道路造成時から凹凸面が存在したのではなく、流水や使用によりできた凹凸を補修する為にできた硬化面であろう。また、土層断面から考えると凹凸面をもつ路面に加えて、23 層と 29 層の上面を路面とする 2 面の硬化面がある。3 面の時期差は不明である。

SG5 (第142図)

後世の耕作に伴う削平により、硬化面のみの検出。硬化面は長さ約 15 ~ 20cm、幅約 15cm、深さが約 10 ~ 15cm のやや橢円形をなしている。ピット列の心々距離は約 68 ~ 80cm である。

SG6 (第144図)

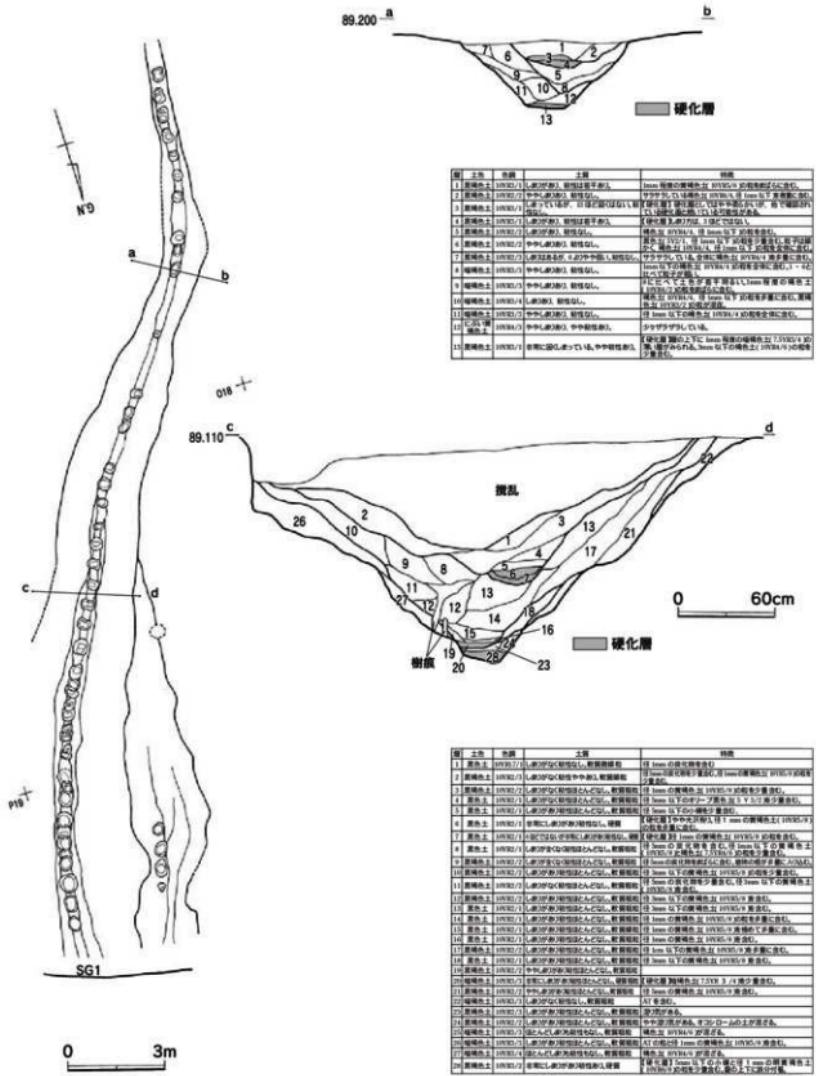
V 字型に掘り込まれ、底面に幅約 40cm の平坦面をもつ。深さは最深部 90cm を測る。土層断面から考えると硬化面は少なくとも 2 面認められるが、上の硬化面 B は断面のみの検出であり、しかも断片的であり残存状態はよくない。この硬化面 B の直上の層から霧島高原スコリアが検出された。しかし、硬化面 B 上の層の残存状態も断片的であり、年代の特定はできないと考える。

底面には深さ 5 ~ 30cm、直径 30 ~ 60cm の円形や橢円形、路面の主軸方向に平行して二つの円形が僅かに重なり合ったような形の凹凸面をもつ。また凹凸面は平面・土層断面・硬化面の縦断面から考えると中に充填された土色から 2 種類ある。この 2 種類の凹凸面はほとんど時期差はないと考えられる。

また、SG6 の東壁には深さ 4 ~ 7cm、直径約 30cm の円形の凹凸面をもつ硬化面が検出された。SG6 の埋土除去中に検出した硬化面なので、SG6 との切り合い関係は不明である。

SG7

SG1 の西側に位置し、底部から凹凸面が 4 基のみ検出された。硬化面は確認されなかった。SG1 によって切られている。



第143図 A区道路状構造(SG1)実測図:平面図($S = 1/150$)、土層断面図($S = 1/30$)

SG8（第144図）

SG8はV字型に掘り込まれ、底面に幅約40cmの平坦面をもつ。深さは最深部30cm。底面には深さ2~10cm、直径約40cmの円形や橢円形で、路面の主軸方向に平行して二つの橢円形が僅かに重なり合ったような形の凹凸面をもつ。明確な硬化面は検出されていない。

SG9（第145図）

V字型に掘り込まれ、底面に幅約40cmの平坦面をもつ。深さは最深部55cm。底面には深さ5~20cm、直径約20~50cmの円形や橢円形の凹凸面を持ち、その窪んだ部分には硬化した土が充填されている。

SG9はSG3を切っており、SG6によって切られている。

SG10

C区東端で検出された。上部はかなり削平され、最深部は約20cm、底面に幅約30cmの平坦面をもつ。底面に直径約20cmの円形や橢円形の硬化面が一部に検出された。硬化面は土質がやや光沢をもち、固く締まっている程度である。その下に凹凸面は確認できなかった。

埋土中から、わずかに霧島高原スコリアが検出された。非常に少ないため、精度は低いが、硬化面の覆土中に霧島高原スコリアの層がある可能性がある。

(2) 畦状遺構（第146図）

B区北側のK-Ah層上面で検出された。東西方に向に伸び、等高線を垂直に切る形で構築されている。埋土は、下位から黒灰色土~暗灰褐色土・

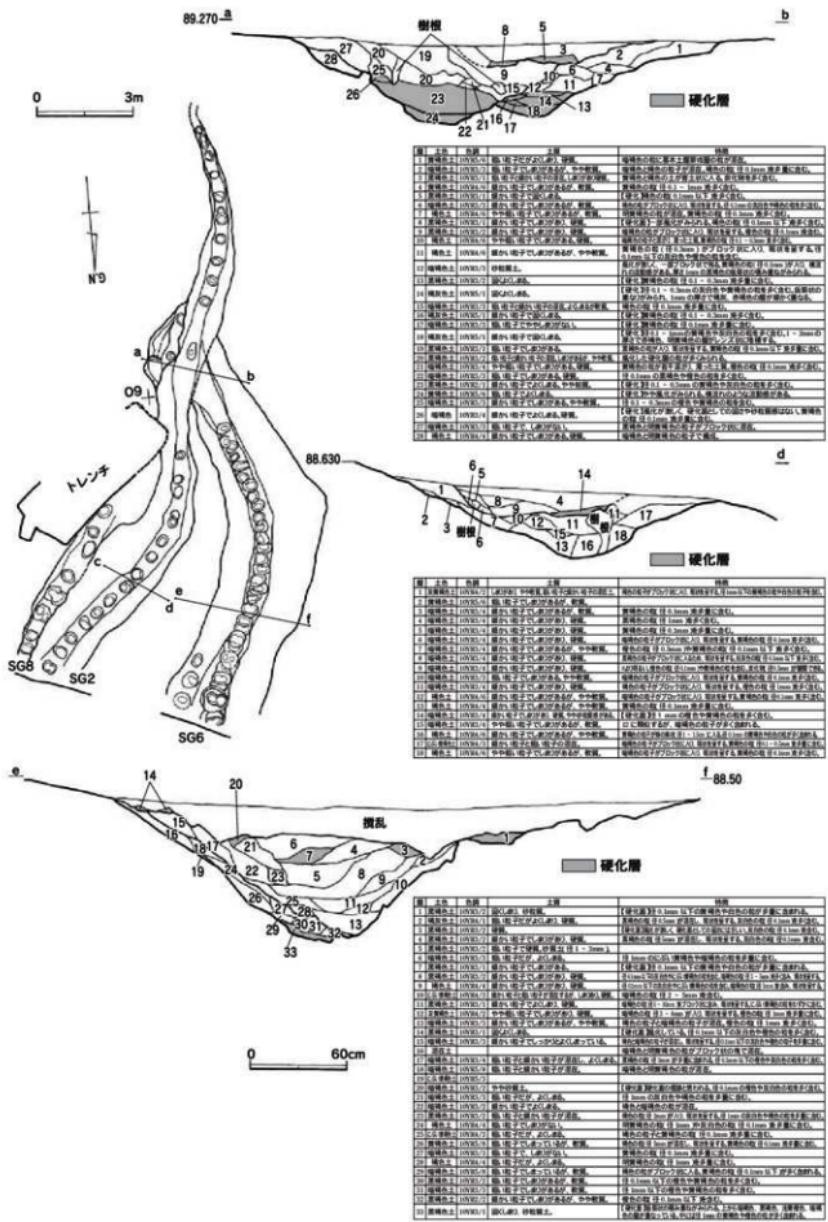
暗灰色土で特定されるテフラは検出されなかつた。そのため、時期についての推定はできなかつた。

また、植物珪酸体分析の結果、埋土の堆積当時は、メダケ属（メダケ節やネザサ節）を主体としてススキ属やチガヤ属などもみられるイネ科植生であったと考えられ、日当たりの良い比較的開かれた環境であったと推定される。なお、イネ科栽培植物に由来する植物珪酸体の検出が期待されたが、これを示唆するような結果は得られなかつた。この遺構が煙跡であったとする、根菜類やいも類などイネ科栽培植物以外の作物が栽培されていたことが示唆される。

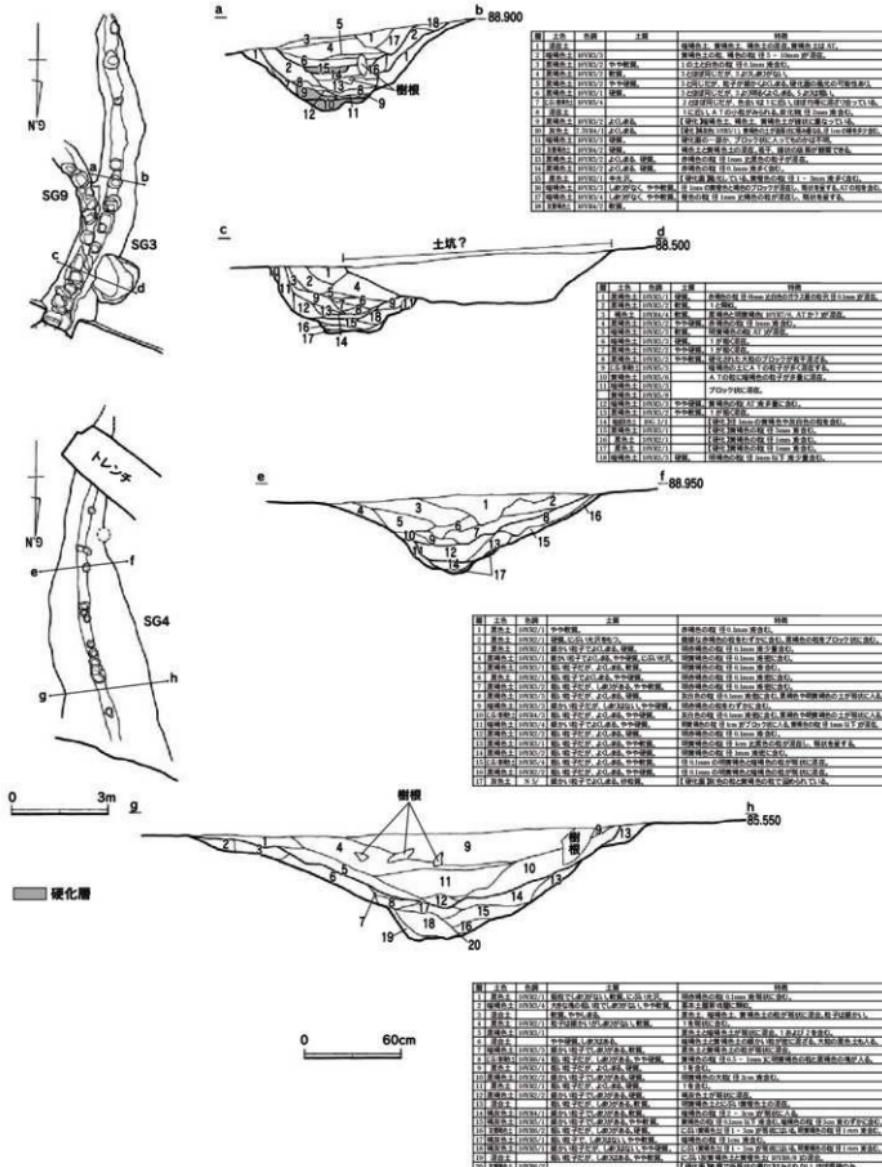
(3) 小結

本遺跡では10条の道路状遺構を検出・調査したが、これらの「道」はA区とC区との間にあつたと思われる舌状の尾根に向かって階段状に上がっている。また、隣接する音明寺第2遺跡とのつながりもみられ、尾根の上にある何かに向かって人々が往来していたと思われる。それが何なのかは推測の域をでないが、本遺跡の小字名である「音明寺」と何らかの関係があるかもしれない。なお、音明寺の由来については、残念ながら確認できていないが、町の寺院の末寺で、無住職の小さな寺と推察^{*}される。

* 宮崎県埋蔵文化財センター「宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第81集 音明寺第2遺跡」2003



第144図 A区道路状遺構実測図 (SG2・6・8): 平面図 (S = 1/150) 土層断面図 (S = 1/30)



第145図 A区道路状遺構実測図 (SG3・9・4): 平面図 (S = 1/150)、土壌断面図 (S = 1/30)